

厚木市男女共同参画市民意識調査
報告書

平成 20 年 1 月

厚木市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	3
2	調査の実施方法	3
3	調査の内容	3
4	回収結果	3
5	結果を見る上での注意事項	3
II	総括	4
	総括	5
III	調査結果	6
1	属性	7
(1)	性別(問1)	7
(2)	年代(問2)	7
(3)	職業(問3)	7
(4)	結婚の有無(問4)	8
(5)	世帯構成(問5)	8
(6)	子供の人数(問6)	8
2	男女平等意識について	9
(1)	「男女共同参画社会」ということばの認知度(問7)	9
(2)	男女の地位の平等感(問8)	10
(3)	性別による役割分担意識(問9)	19
3	家庭生活について	20
(1)	家事分担の現実(問10)	20
(2)	家事分担の理想(問11)	30
4	出産・育児について	40
(1)	少子化の理由(問12)	40
(2)	出産・育児の考え方(問13)	42
5	社会生活(仕事、地域活動)について	49
(1)	女性の理想的働き方(問14)	49
(2)	職場での男女平等(問15)	51
(3)	職場で普及している各種休業制度等(問16)	60
(4)	職場に必要な各種休業制度等(問17)	70
(5)	女性の働き方(問18)	72
(6)	社会活動への参加状況(問19)	74
(7)	地域活動への参加促進策(問20)	76
6	セクシュアル・ハラスメントやドメスティックバイオレンスについて	78
(1)	セクシュアル・ハラスメントの実態(問21)	78
(2)	セクシュアル・ハラスメントの防止対策(問22)	87
(3)	DV(ドメスティック・バイオレンス)の体験(問23)	89

(4)	D V 経験者の相談状況 (問 24)	91
(5)	D V 相談者の相談先 (問 25)	92
(6)	D V とと思われる行為 (問 26)	93
7	ワーク・ライフ・バランスと生活時間の配分について	105
(1)	ワーク・ライフ・バランスの認知度 (問 27)	105
(2)	ワーク・ライフ・バランス促進の効果 (問 28)	106
(3)	企業育児制度充実への意見 (問 29)	109
(4)	現在の生活時間の配分 (問 30)	111
(5)	希望する (理想的) 生活時間の配分 (問 31)	115
8	男女共同参画社会に関する施策について	121
(1)	行政での取り組みが必要なもの (問 32)	121
IV	調査票	124

I 調査の概要

1 調査の目的

市民の男女共同参画に対する意識や実態を把握し、今後の男女共同参画の施策展開のための基礎資料とする。

2 調査の実施方法

本調査の実施方法は以下のとおりである。

調査地域	市内全域
調査対象	住民基本台帳に記載された市内在住の20歳以上の市民
対象者数	2,000人
母集団	住民基本台帳（平成19年8月1日現在）
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送調査法（回答者は無記名）督促1回
調査期間	平成19年8月27日（月）～9月14日（金）

3 調査の内容

調査の主な内容は次のとおりである。

属性 男女平等意識について 家庭生活について 出産・育児について 社会生活（仕事、地域活動）について セクシュアル・ハラスメントやDV（ドメスティック・バイオレンス）について

ワーク・ライフ・バランスと生活時間の配分について 男女共同参画社会に関する施策について

4 回収結果

本調査の回収結果は以下のとおりである。

	発送数	総回収数	無効票数	有効回収数	有効回収率
合計	2,000	990	10	980	49.0%

$$\text{有効回収率} = \text{有効回収数} \div \text{発送数}$$

5 結果を見る上での注意事項

- (1) 回答はn（有効回収数）を基数とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入した。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 集計結果の表やグラフでは、コンピューター入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。

II 総括

総括

全体の調査結果を国の調査（「平成 19 年調査」以下「国 19 年」と略、「平成 16 年調査」以下「国 16 年」と略）、神奈川県調査（「平成 18 年調査」以下「県 18 年」と略）及び前回厚木市の調査（「平成 14 年調査」以下前回調査と略）の結果と比較して、今回調査結果の主な特徴（課題）をまとめると以下ようになる。

- (1) 男女共同参画に取り組む基本的法制度及び各種啓発活動が浸透してきているため、前回調査と比較し、調査票回収率の上昇及び「男女共同参画社会ということばの認知度」の「内容も知っている」が増加していることから判断すると、市民の男女共同参画に対する意識は少しずつではあるが高まっている。
- (2) 男女の地位の平等感において、「学校教育の場で」は最も高く、「社会通念、慣習」は最も低くなっている。なお、「学校教育の場で」や「社会通念、慣習」における平等感は、国県調査と比較した場合、厚木市は低い傾向にある。
- (3) 夫婦の家事分担の意識は、少しずつではあるが高まってきている。しかし、現実と理想の間には大きな開きがあり、現実では、依然として家庭内の家事の大半を「主に妻」が担っている。
- (4) 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」について、前回調査と比較して「そう思う」が増加しており、世代ごとに差はあるが、依然として性別による固定観念意識が残っている。
- (5) 女性にとって望ましい働き方は、「職業を持ち続けるが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る」を望む人が多く、また、実際の女性の働き方も同様の傾向にある。このことから、国の女性労働力のM字カーブ現象（女性の労働力率が出産・育児期の 30 代をピークに一時的に落ち込む現象）と厚木市も同様であるということが言える。
- (6) 「交友関係や電話で細かく監視する」や「大声でどなる」等で県 18 年に比べ「そう思う」の比率が高いことから、厚木市は、DVについて敏感な面があると言える。
- (7) 男女とも、仕事、家事・育児、その他の時間を減らし、平日や休日のスポーツ・レジャー、学習・趣味の時間をもっと増やしたいと思っている。それが現実と理想の生活時間の配分の差異となっている。
- (8) 多くの人が今後も「子育て支援」と「高齢者福祉（介護）への支援」が必要だと思っている。また、より一層の充実を望んでいる。
- (9) 企業や勤め先の働く環境をもっと改善してほしいと思っている。また、そうなるよう行政の働きかけを望んでいる。
- (10) 行政による男女共同参画に対する市民への意識啓発活動を望んでいる。

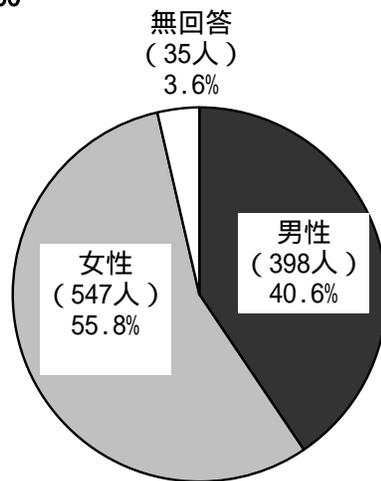
III 調查結果

1 属性

あなたご自身のことについてうかがいます。

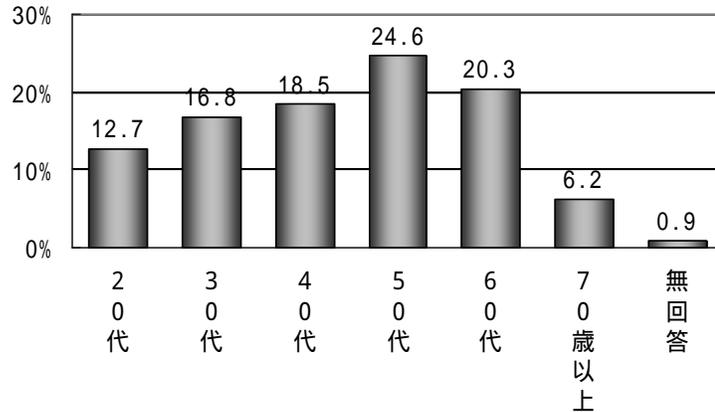
(1) 性別(問1)

n=980



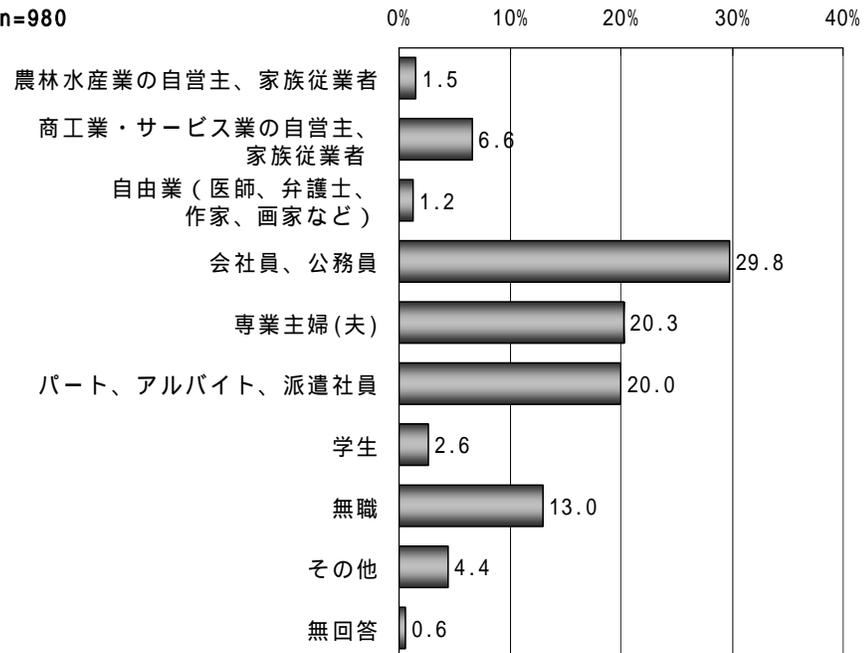
(2) 年代(問2)

n=980

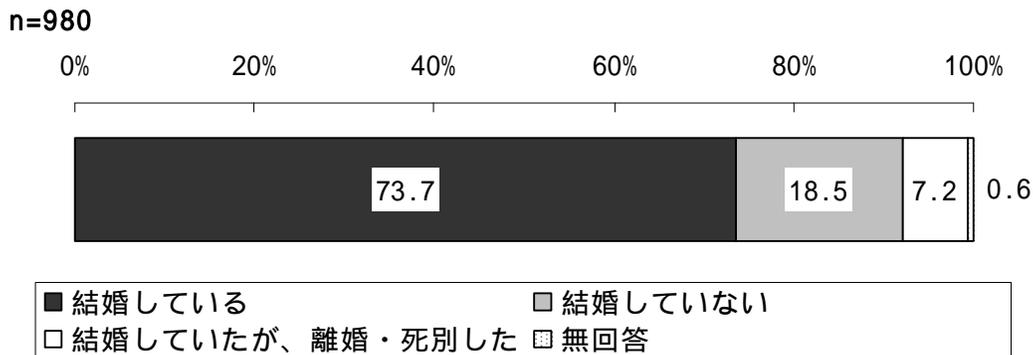


(3) 職業(問3)

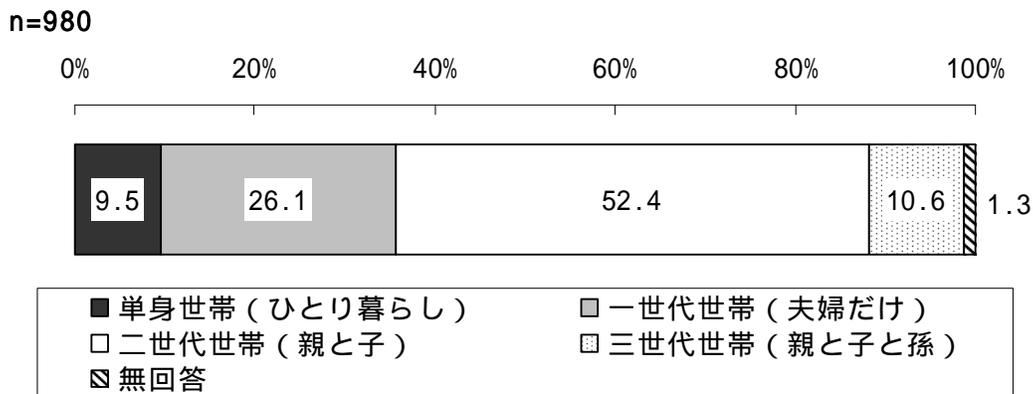
n=980



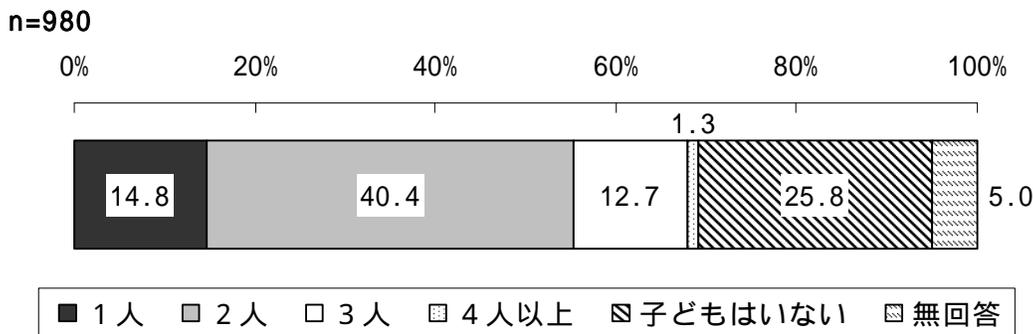
(4) 結婚の有無 (問4)



(5) 世帯構成 (問5)



(6) 子供の人数 (問6)



2 男女平等意識について

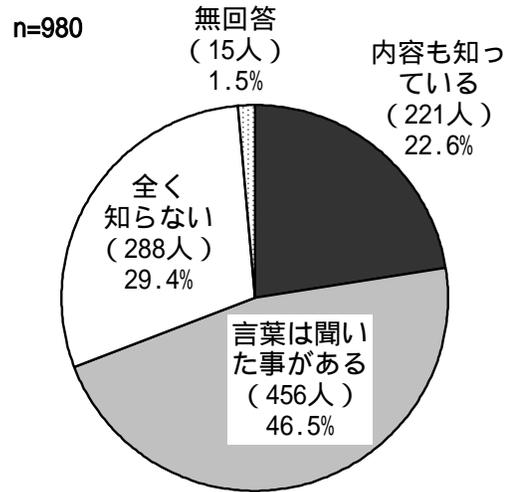
男女平等意識についてうかがいます。

(1) 「男女共同参画社会」ということばの認知度(問7)

あなたは、「男女共同参画社会」ということばを知っていますか。

「内容も知っている」22.6%、「言葉は聞いたことがある」46.5%、「全く知らない」29.4%であった。

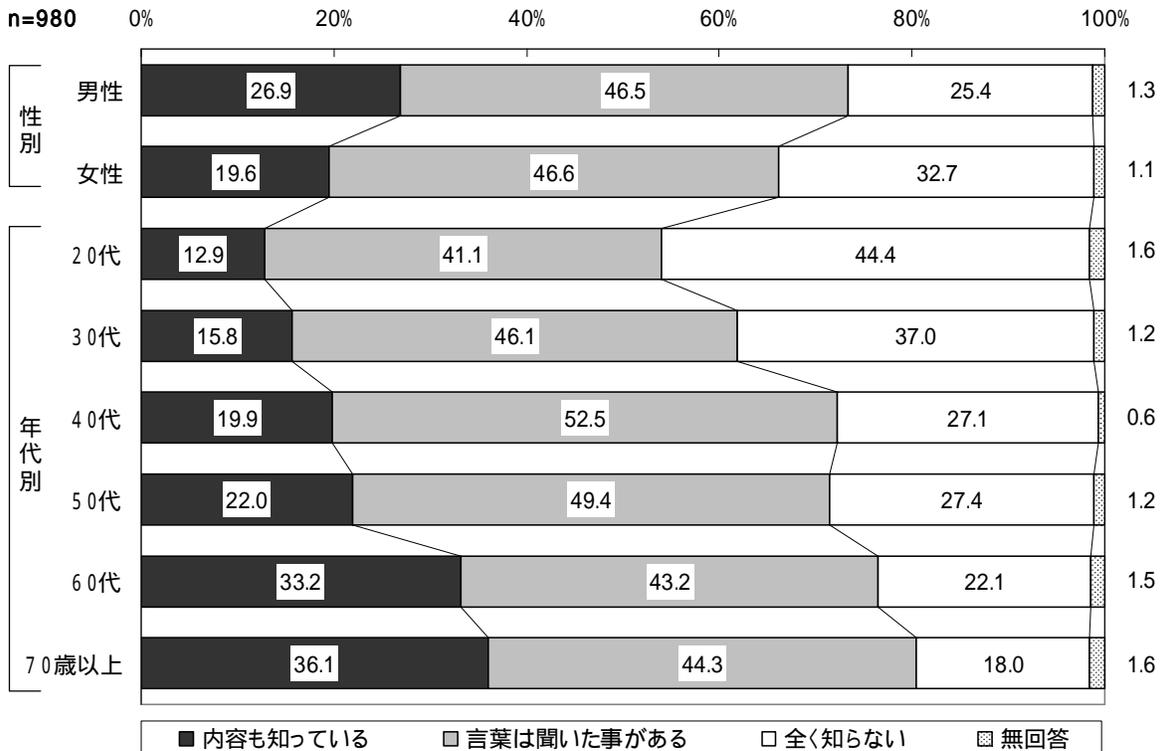
前回と比べ、「内容も知っている」の比率が3.1ポイント増加している。



性別では、「内容も知っている」は男性が女性より7.3ポイント高い26.9%である。

年代別では「内容も知っている」比率は加齢に伴い増加する傾向となっている。

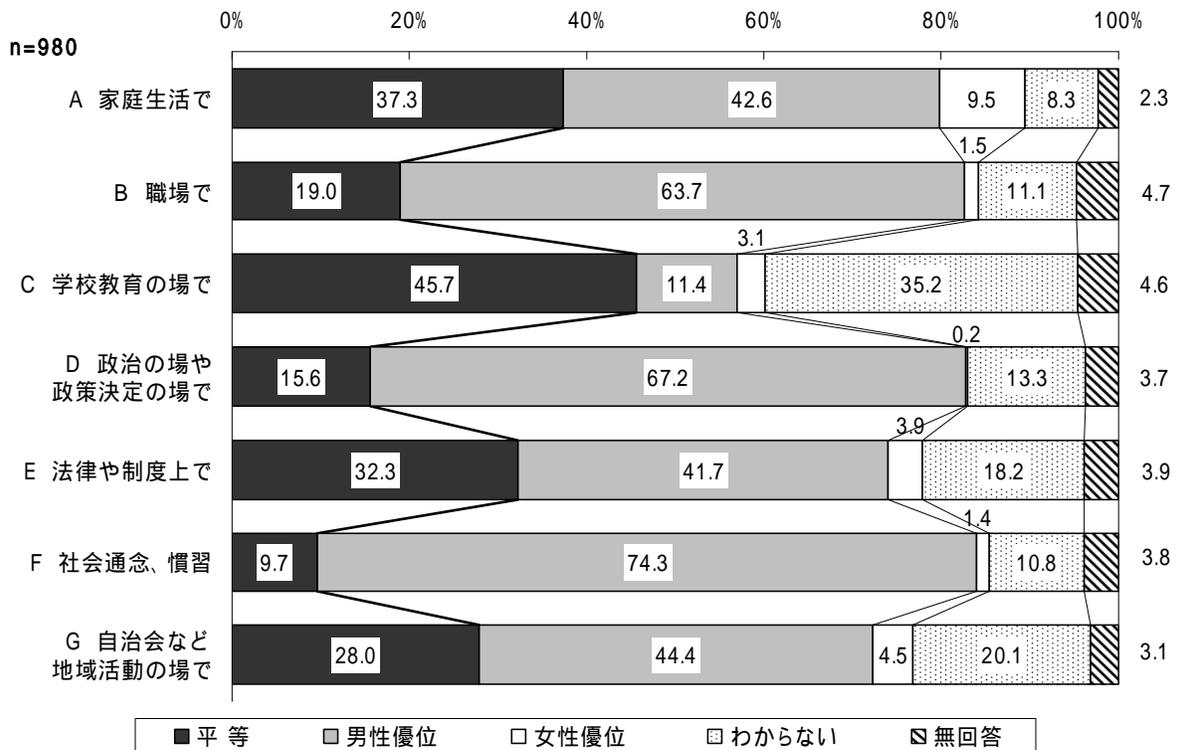
今後若年層への普及・啓発が大きな課題といえる。



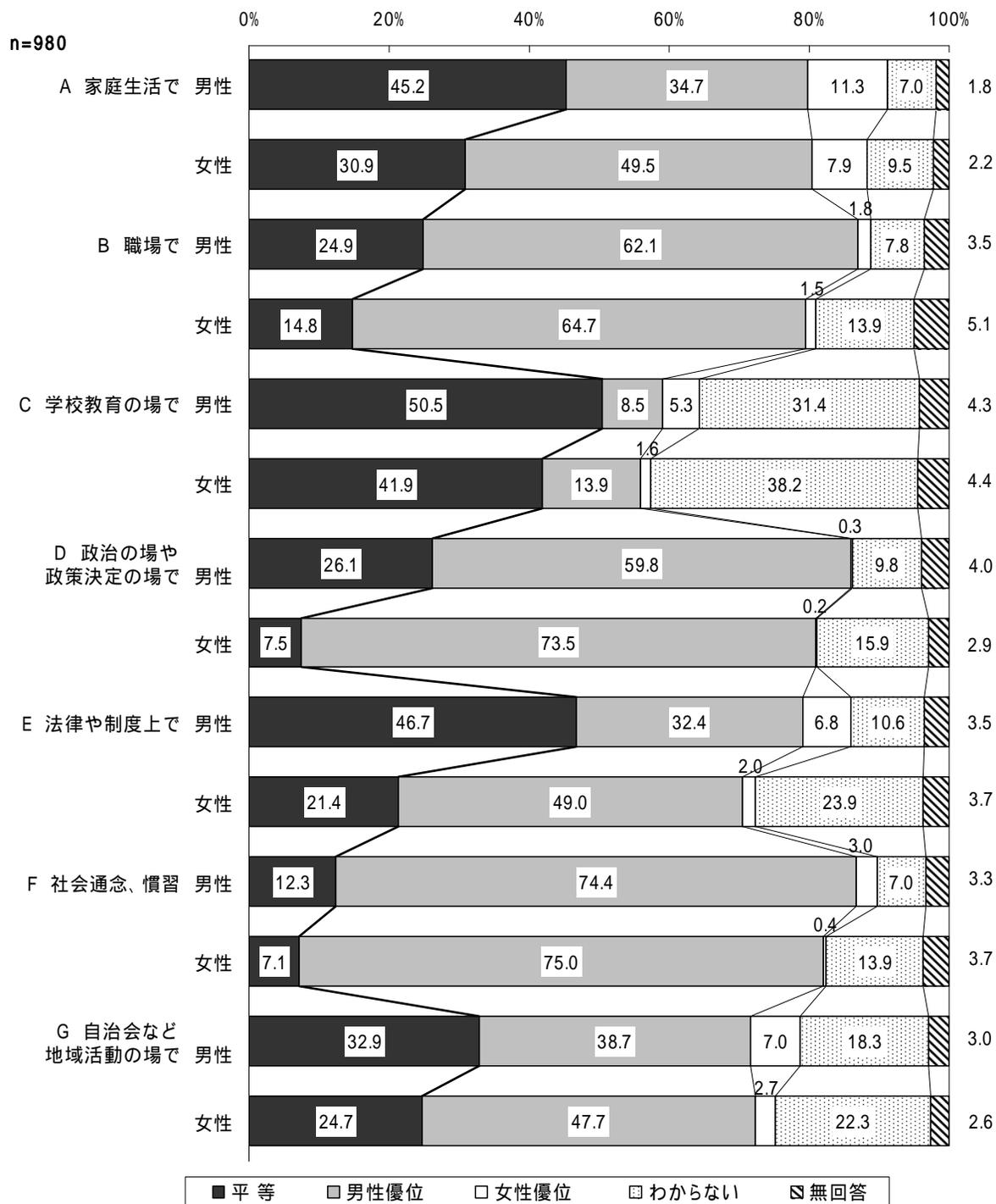
(2) 男女の地位の平等感(問8)

あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

全体の結果は下図にみるとおりである。平等感は学校教育の場が最も高くなっている。それぞれの項目ごとの詳細は後で述べる。



各項目を性別に整理したものが下図である。各項目とも平等感は男性が女性より高くなっている。特に、法律や制度上でと、政治の場や政策決定の場では、男女間の平等意識の格差が大きいことがわかる。



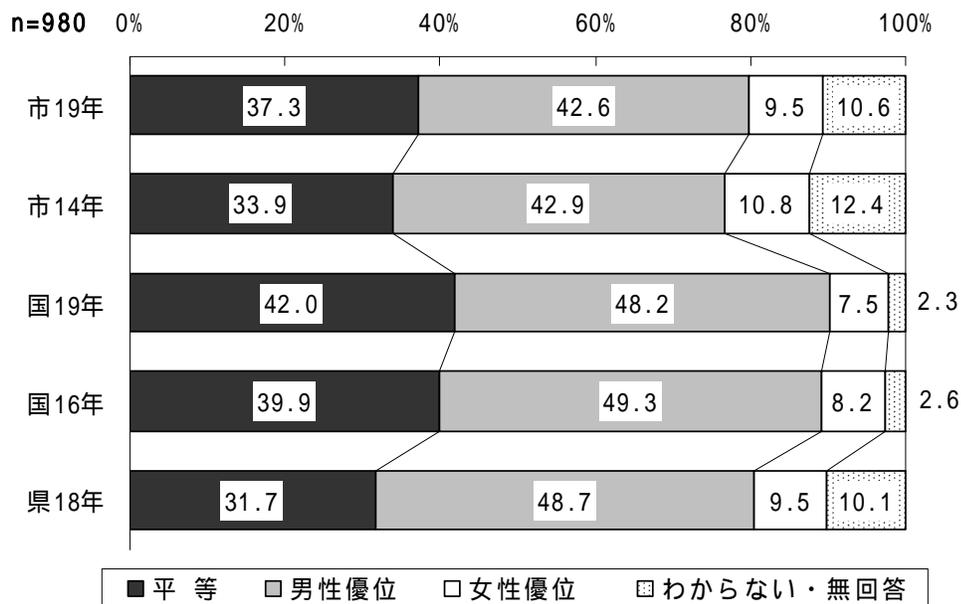
(A) 家庭生活上で

「平等」37.3%、「男性優位」42.6%となっている。

前回調査と比べ、「平等」が3.4ポイント増加している。

他のデータとの比較では、「平等」は国16年で39.9%、国19年で42.0%、県18年で31.7%となっている。

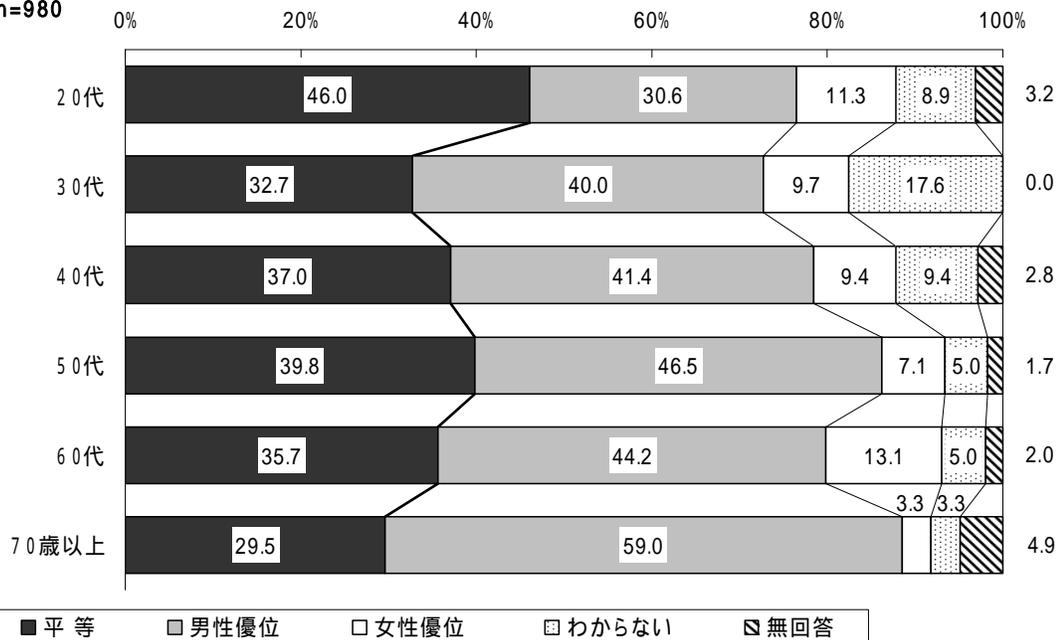
厚木市では国に比べ少し比率が低いものの、県より比率は高くなっている。



年代別では20代の「平等」意識が高くなっている。

年代別 A 家庭生活上で

n=980

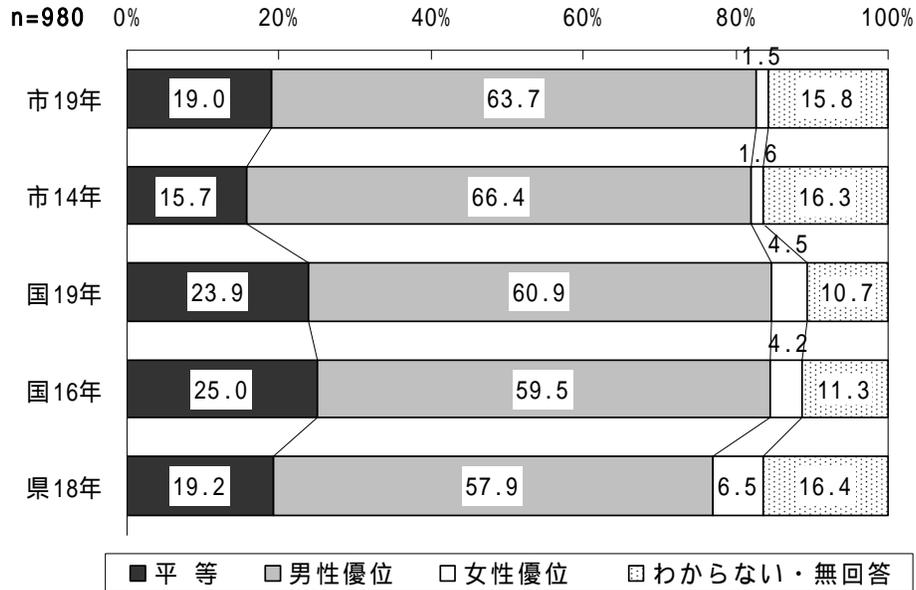


(B) 職場で

「平等」19.0%、「男性優位」63.7%となっている。

前回調査と比べ、「平等」が3.3ポイント増加しているものの、まだ平等感は低い。

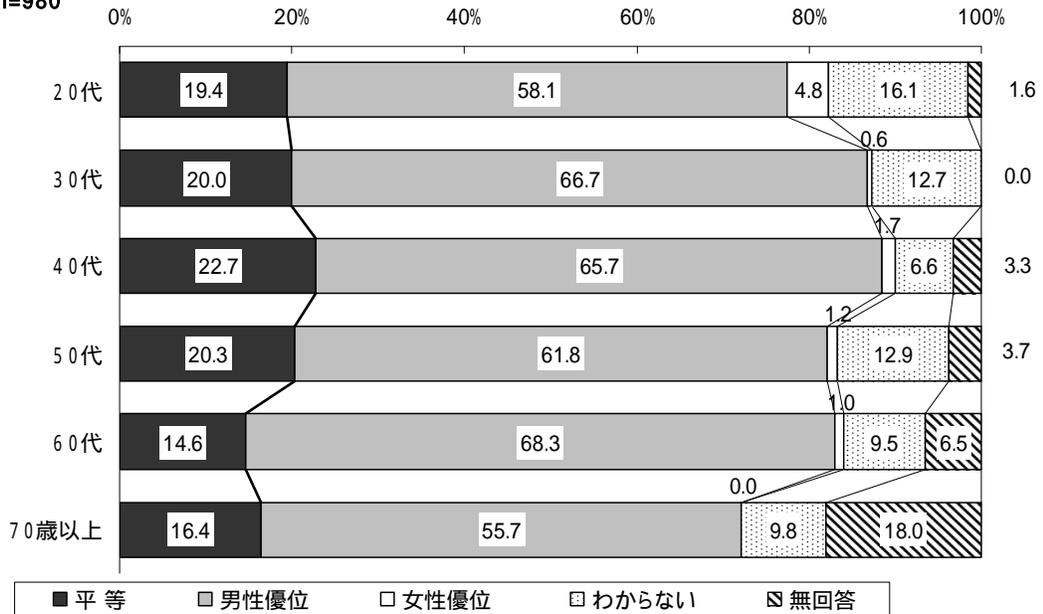
他のデータとの比較では、「平等」は国16年で25.0%、国19年で23.9%、県18年で19.2%となっている。



年代別では、40代の「平等」比率が22.7%と最も高い。60代は14.6%と最も比率が低くなっている。

年代別 B 職場で

n=980

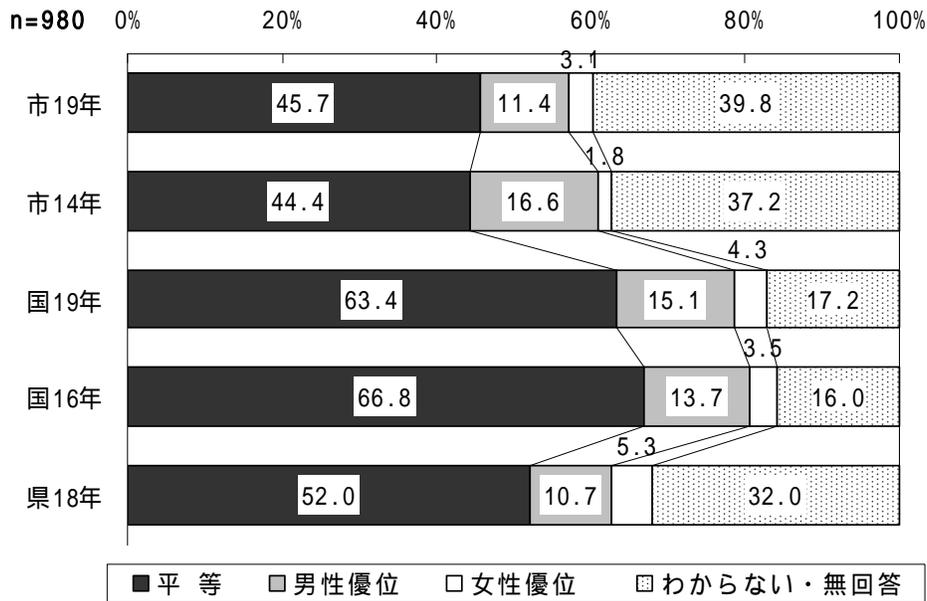


(C) 学校教育の場で

「平等」45.7%、「男性優位」11.4%となっている。

前回調査と比べ、「男性優位」の比率が5.2ポイント減少している。7項目の中で、「平等」の比率が最も高くなっている。

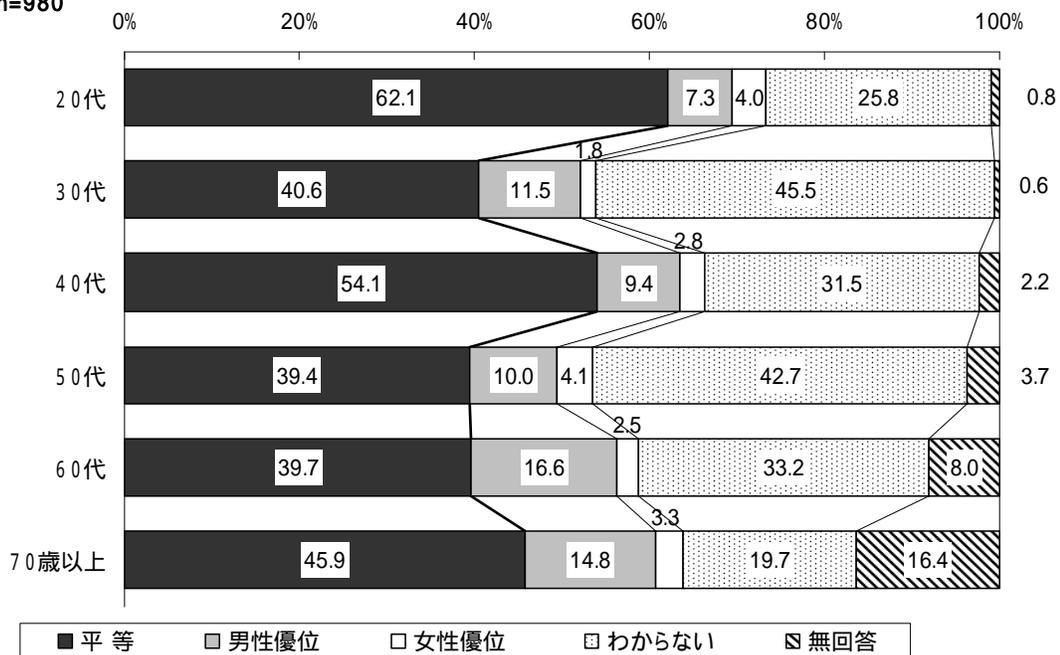
他のデータとの比較では、「平等」は国16年で66.8%、国19年で63.4%、県18年で52.0%となっている。厚木市での「平等」感が国や県の調査に比べ非常に低くなっている。



年代別では、20代が62.1%と「平等」感が最も高くなっている。

年代別 C 学校教育の場で

n=980

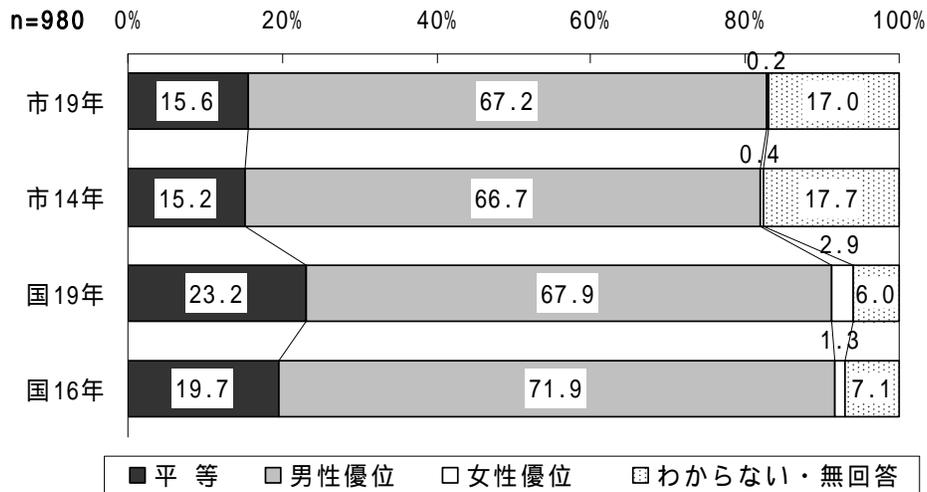


(D) 政治の場や政策決定の場で

「平等」15.6%、「男性優位」67.2%となっている。

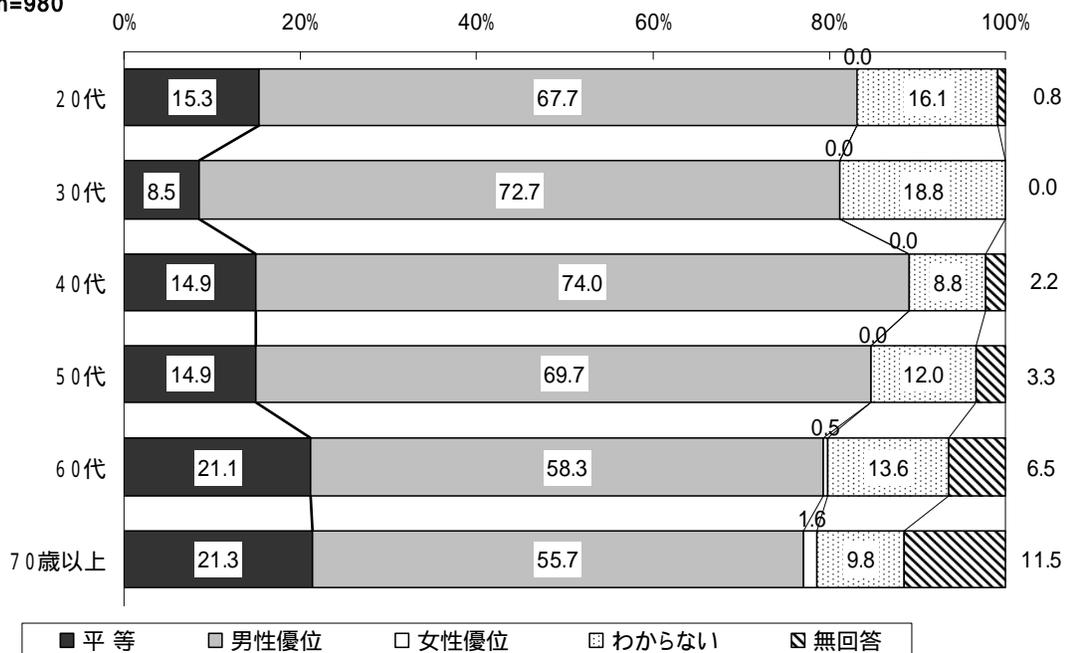
前回調査と比べ、大きな差異はみられない。社会通念・慣習の場に次ぐ低い「平等」比率となっている。

他のデータとの比較では、「平等」は国16年で19.7%、国19年で23.2%となっている。厚木市では「平等」感が国に比べ少し低くなっている。



年代別では、20代を除くと加齢に伴い「平等」の比率は高くなっている。

年代別 D 政治の場や政策決定の場で
n=980

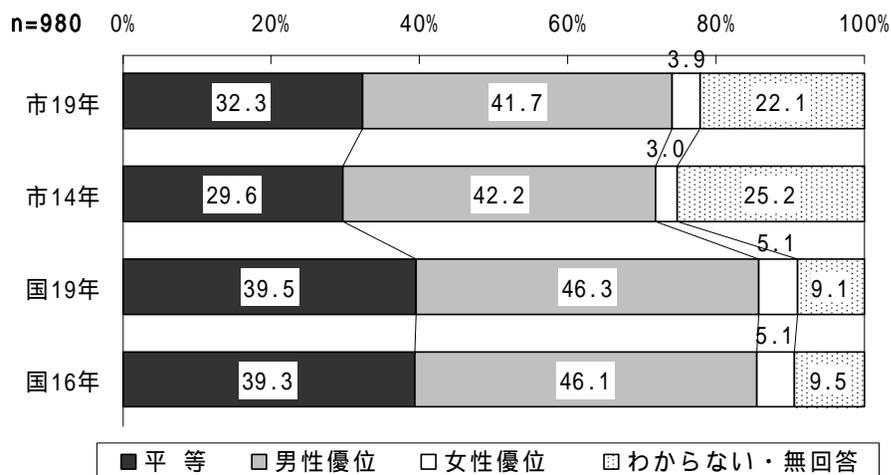


(E) 法律や制度上で

「平等」32.3%、「男性優位」41.7%となっている。

前回調査と比べ、あまり大きな差異はみられない。

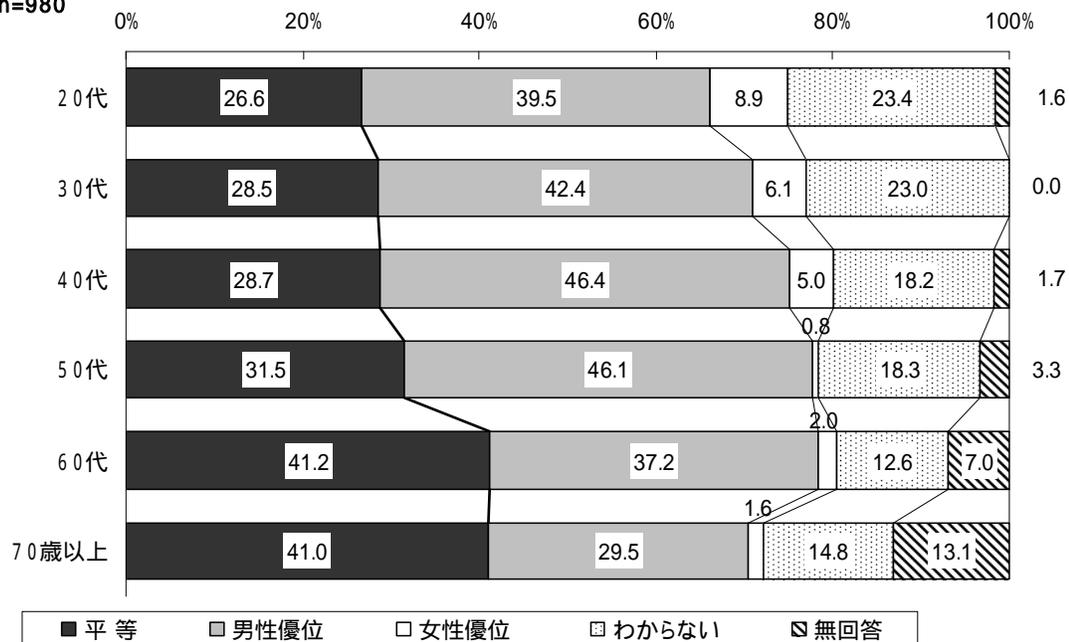
他のデータとの比較では、「平等」は国16年で39.3%、国19年で39.5%となっている。厚木市では国に比べ比率が少し低くなっている。



年代別では、加齢に伴い「平等」の比率は増加の傾向がみられる。

年代別 E 法律や制度上で

n=980

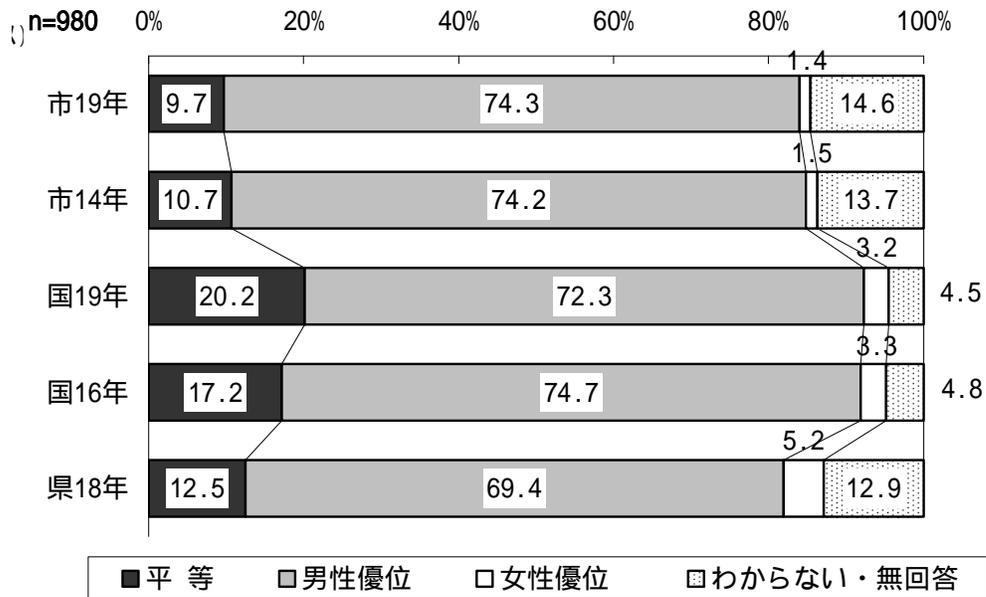


(F) 社会通念、慣習

「平等」9.7%、「男性優位」74.3%となっている。

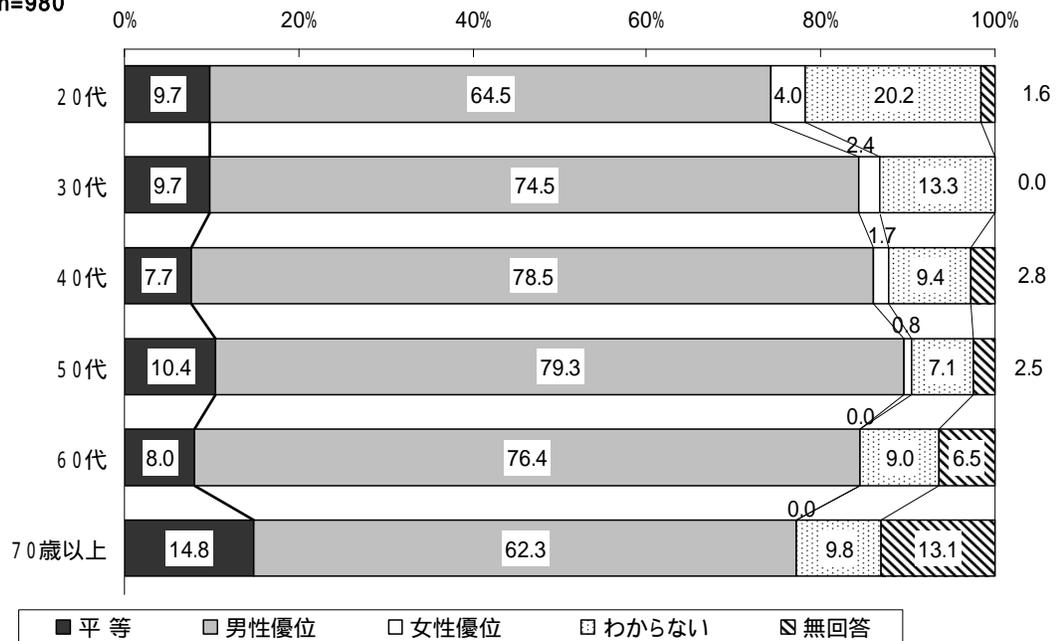
前回調査と比べ、大きな差異はみられない。「平等」の比率は7項目の中で最も低くなっている。

他のデータとの比較では、「平等」は国16年で17.2%、国19年で20.2%、県18年で12.5%となっている。厚木市は国、県に比べ「平等」の比率が低くなっている。



年代別では、全ての世代で「男性優位」の比率が非常に高くなっている。

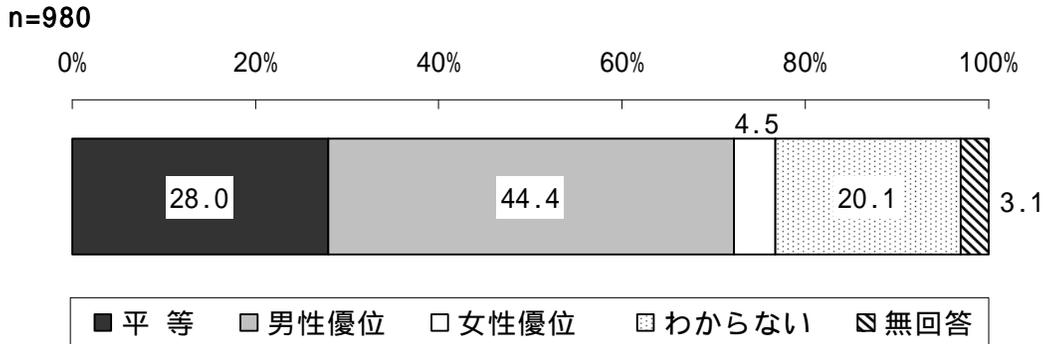
年代別 F 社会通念、慣習
n=980



(G) 自治会など地域活動の場で

「平等」28.0%、「男性優位」44.4%となっている。

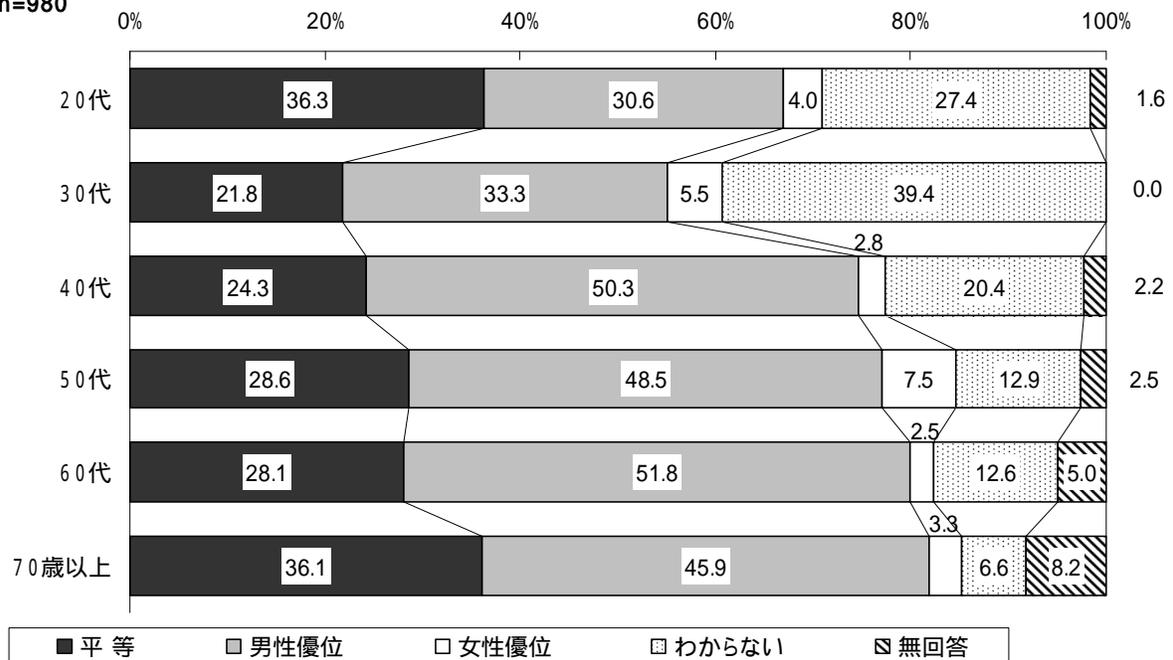
前回調査と比べ、「男性優位」が3.1ポイント増加している。



年代別では、20代と70歳以上で「平等」感が高くなっている。

年代別 G 自治会など地域活動の場で

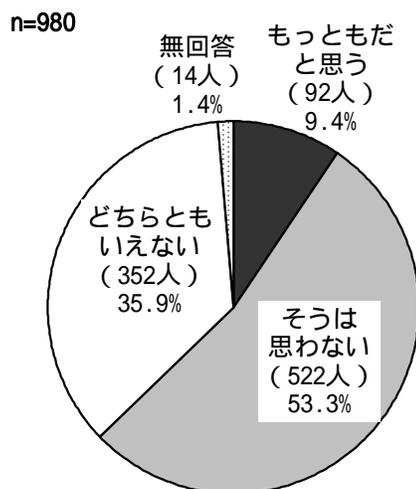
n=980



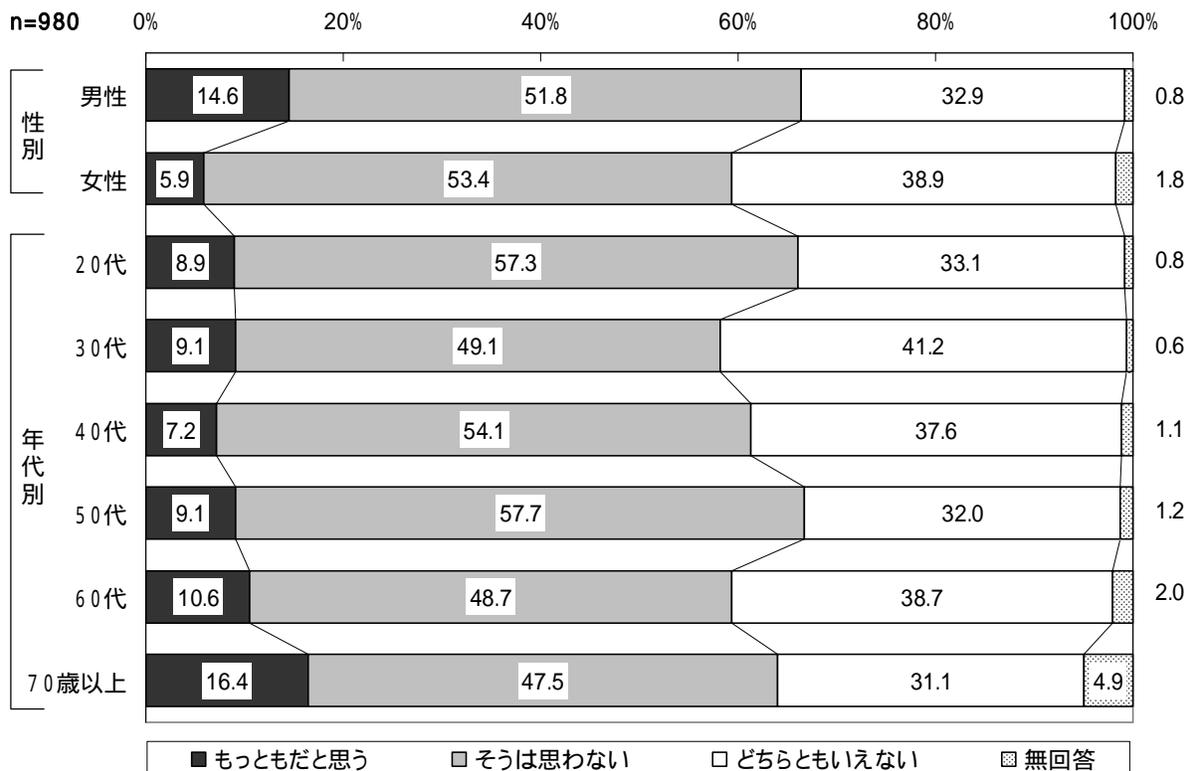
(3) 性別による役割分担意識(問9)

あなたは「男は仕事」「女は家庭」というように性別で役割を区別する考え方についてどう思われますか。

「もっともだと思う」9.4%、「そうは思わない」53.3%、「どちらともいえない」35.9%であった。前回調査と比べ、「もっともだと思う」が2.3ポイント減少し、反対に、「どちらともいえない」が3.5ポイント増加している。



性別では、「もっともだと思う」は男性が女性より8.7ポイント高く、14.6%となっている。年代別では、「もっともだと思う」は加齢に伴い増加する傾向がみられる。

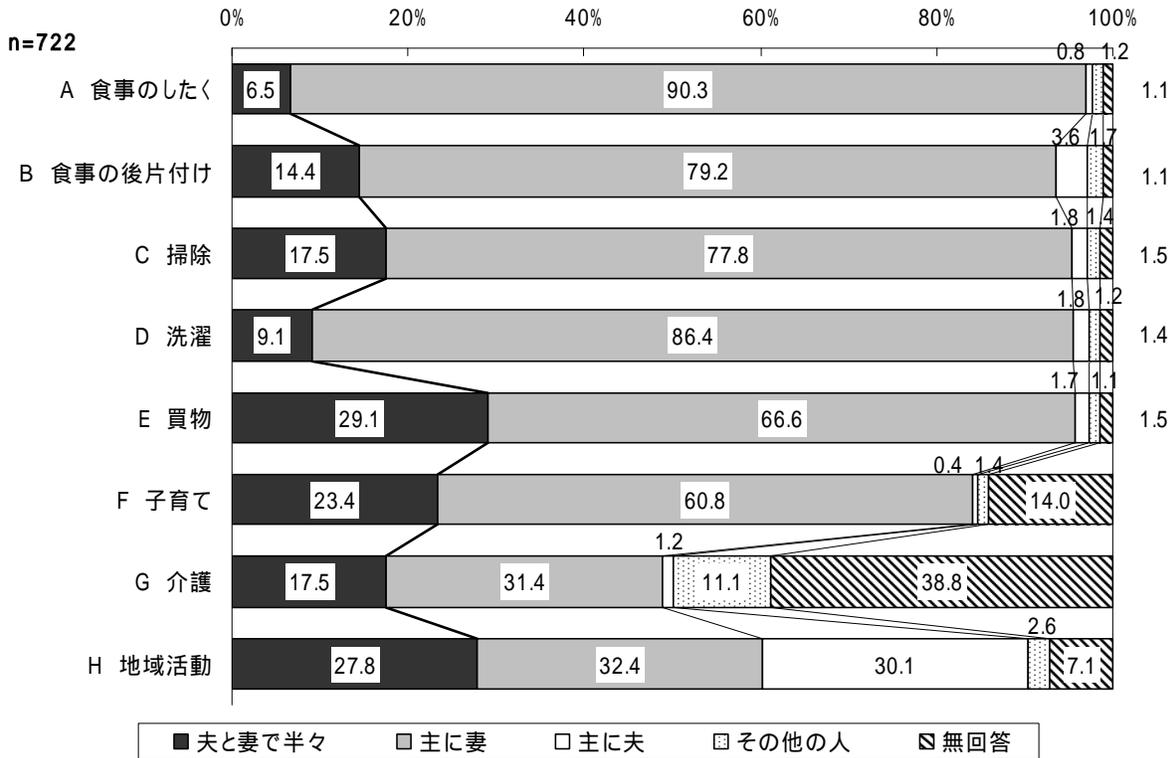


3 家庭生活について

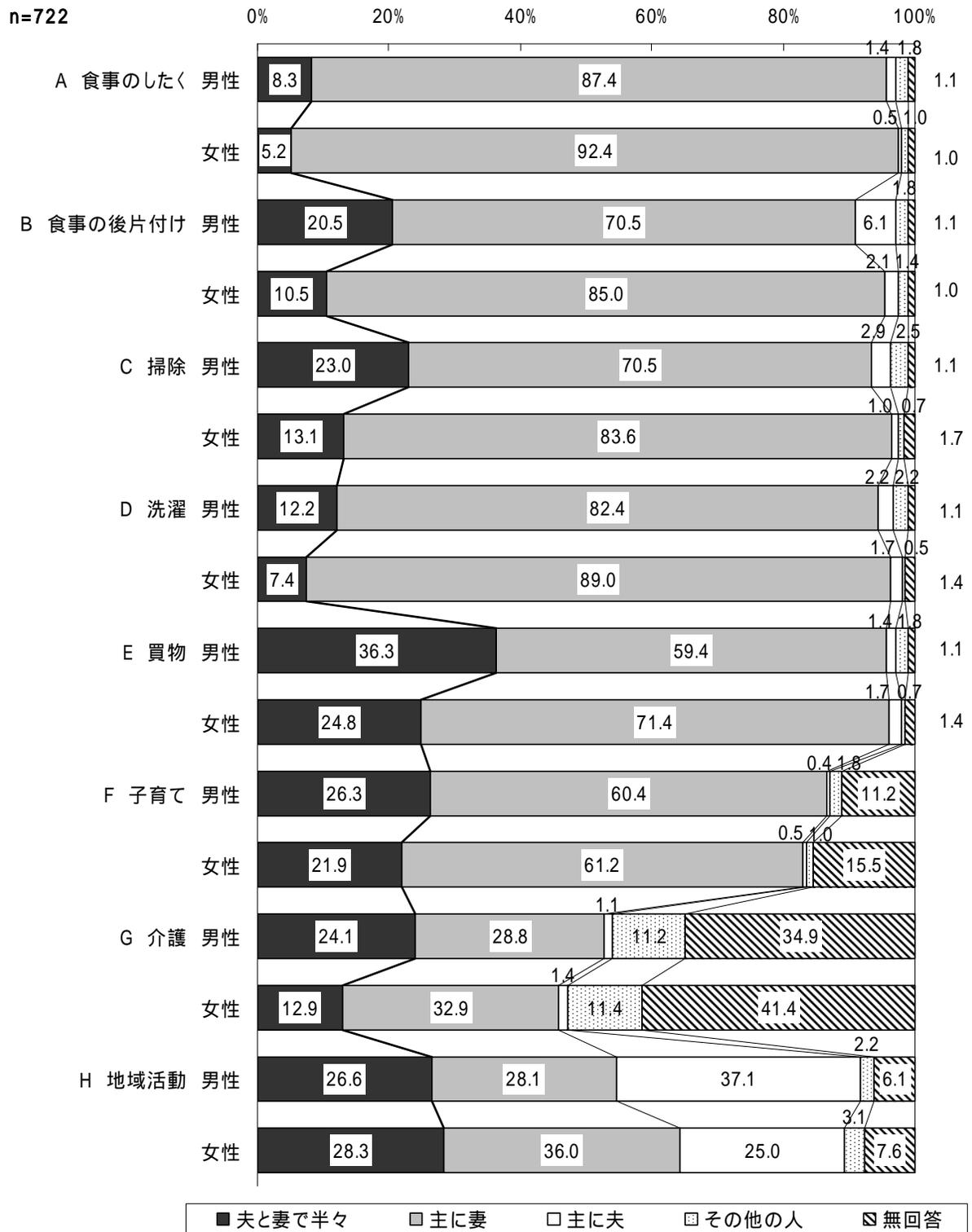
(1) 家事分担の現実(問10)

結婚している方(事実婚も含む)だけにうかがいます。あなたの家庭では、次にあげることを主に誰が分担していますか。

全体の結果は下図にみるとおりである。「夫と妻で半々」は地域活動と買物で比率が高くなっている。それぞれの項目ごとの詳細は後で述べる。



性別では、地域活動を除くすべての項目で「夫と妻で半々」は男性が女性より比率が高くなっている。特に、食事の後片付け、掃除、買物、介護等で男女間の意識の格差が高くなっている。

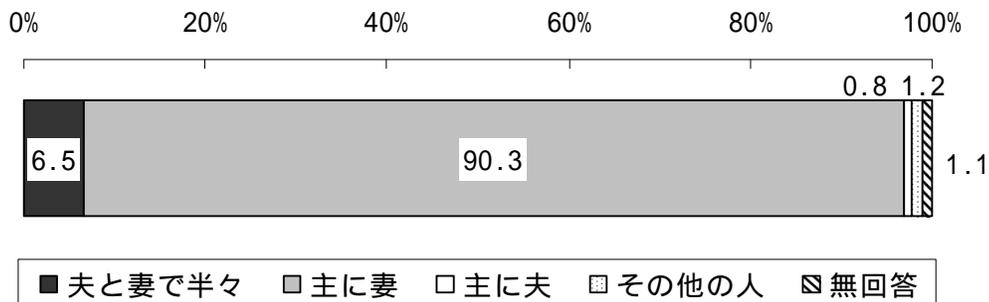


(A) 食事のしたく

「夫と妻で半々」6.5%、「主に妻」90.3%となっている。

前回調査と比べ、大きな差異はみられない。

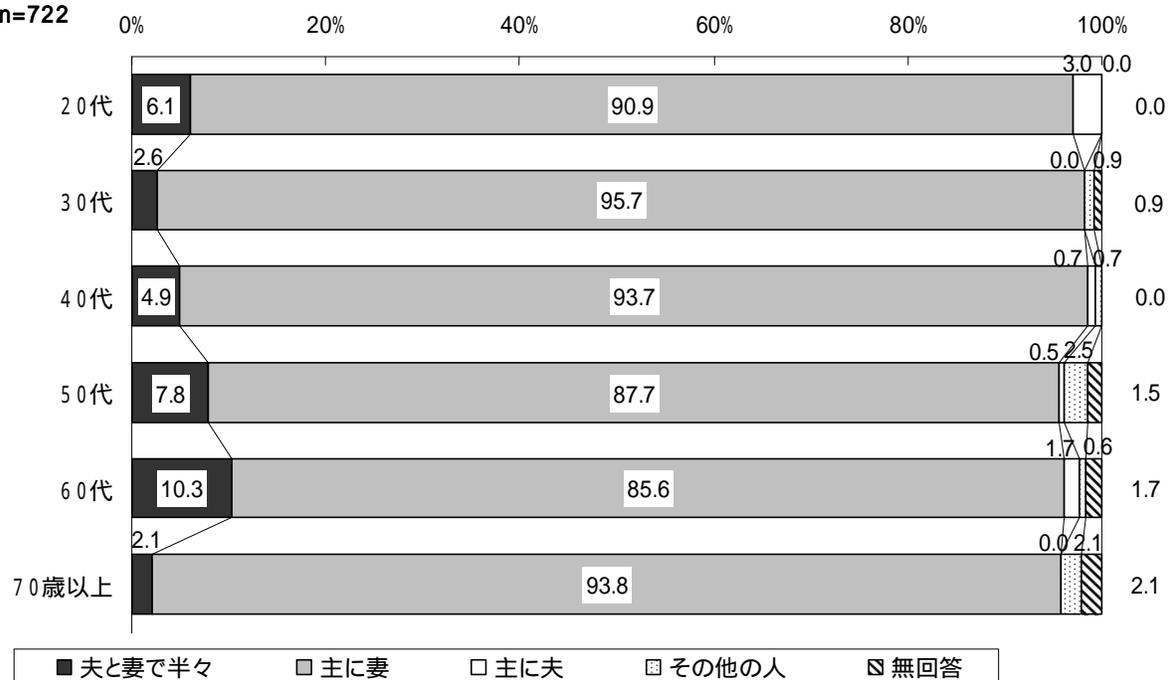
n=722



年代別では、全ての世代において「夫と妻で半々」の比率が低い傾向がみられる。

年代別 A 食事のしたく

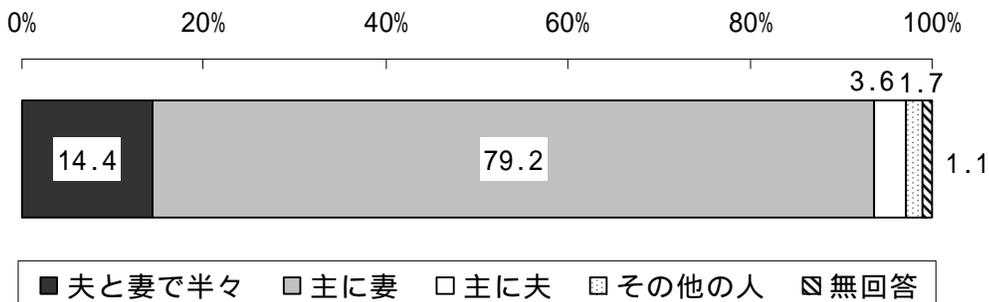
n=722



(B) 食事の後片付け

「夫と妻で半々」14.4%、「主に妻」79.2%となっている。
 前回調査と比べ、「夫と妻で半々」が2.4ポイント増加しているものの、あまり差異はない。

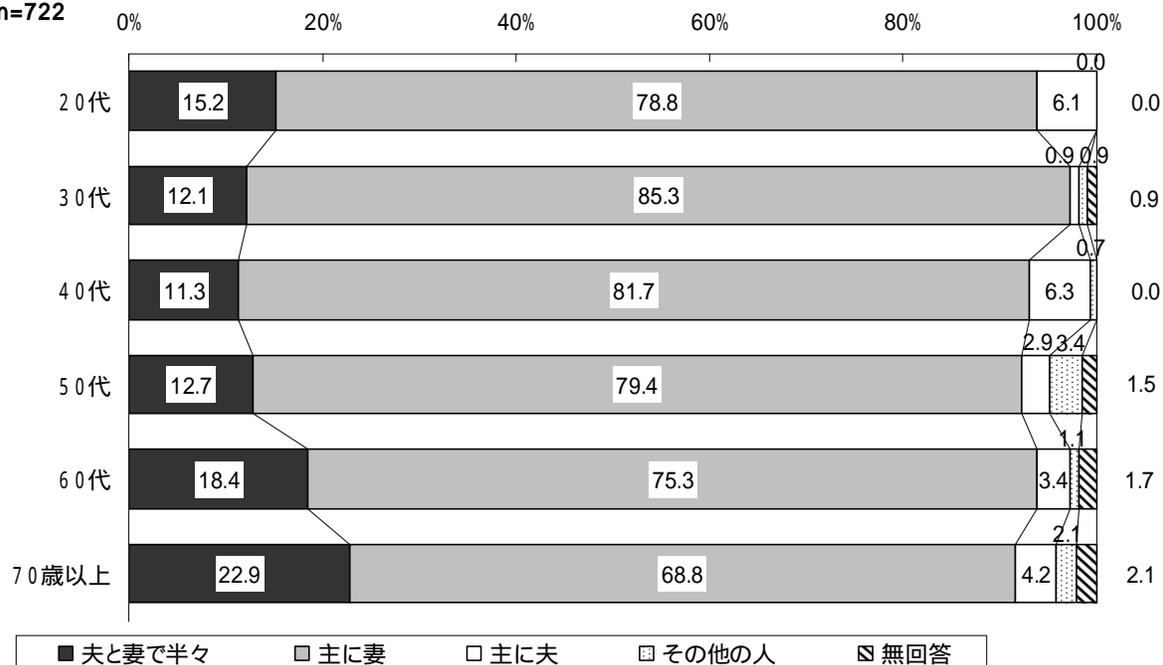
n=722



年代別では、「夫と妻で半々」は40代の11.3%を底に谷形の傾向がみられる。

年代別 B 食事の後片付け

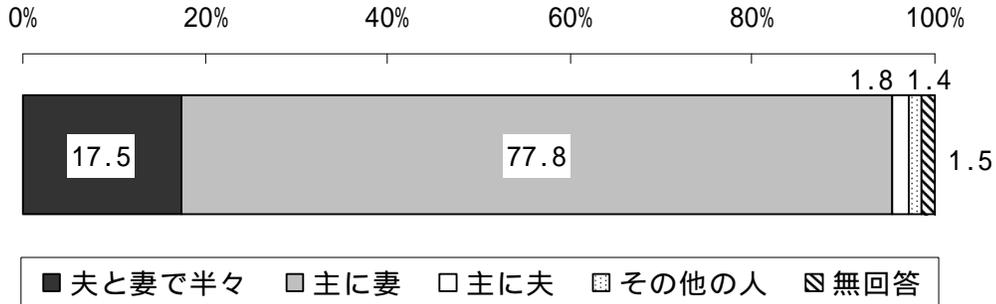
n=722



(C) 掃除

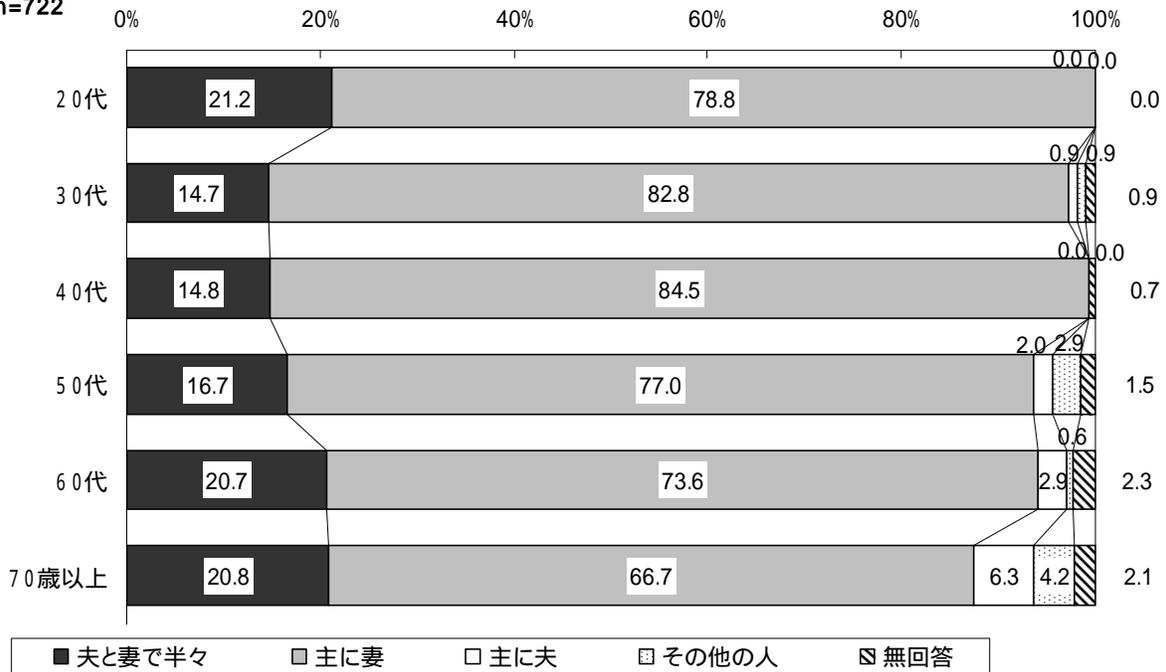
「夫と妻で半々」17.5%、「主に妻」77.8%となっている。
 前回調査と比べ、「夫と妻で半々」が3.1ポイント増加している。

n=722



年代別では、「夫と妻で半々」は30代の14.7%を底に谷形の傾向がみられる。

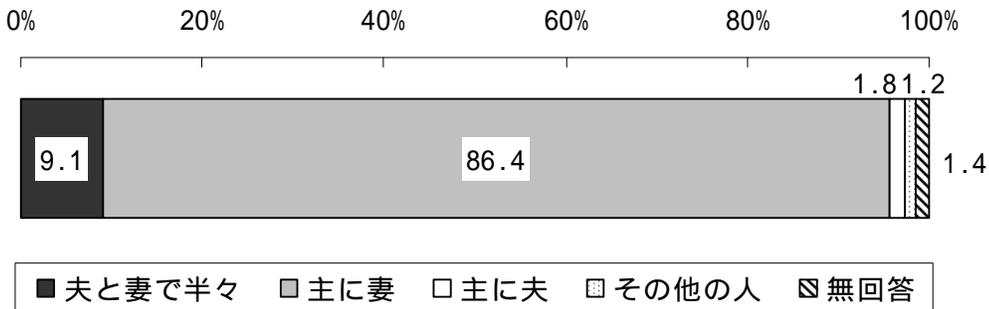
年代別 C 掃除
 n=722



(D) 洗濯

「夫と妻で半々」9.1%、「主に妻」86.4%となっている。
 前回調査と比べ、「夫と妻で半々」が2.9ポイント増加している。

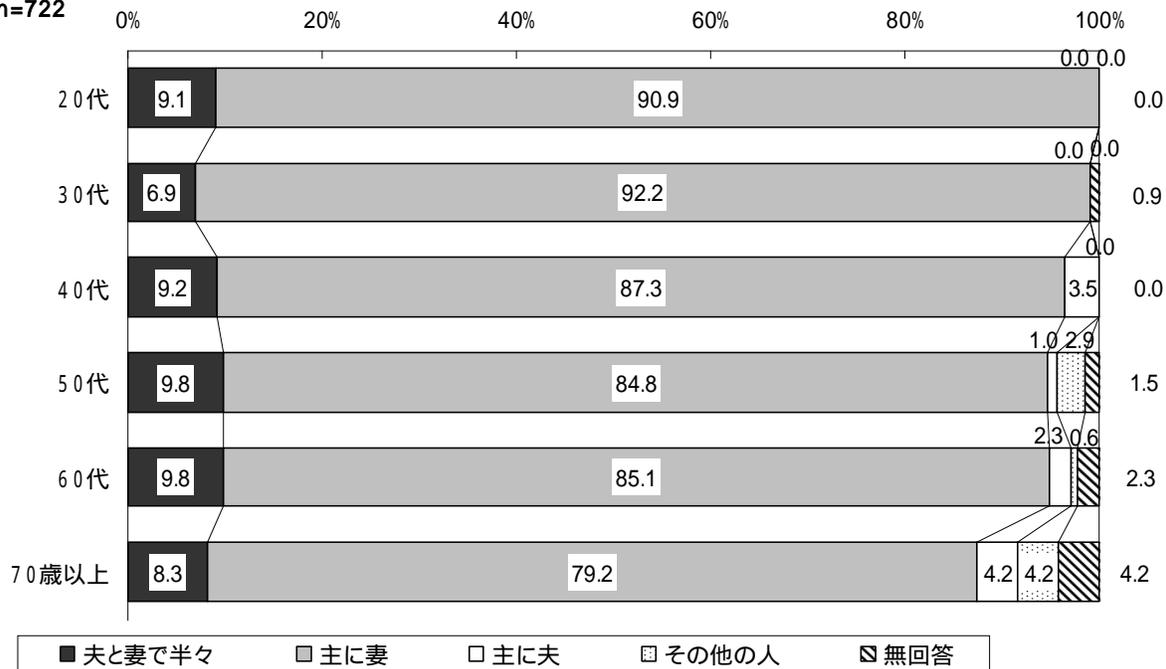
n=722



年代別では、全ての世代において「夫と妻で半々」の比率が低い傾向がみられる。

年代別 D 洗濯

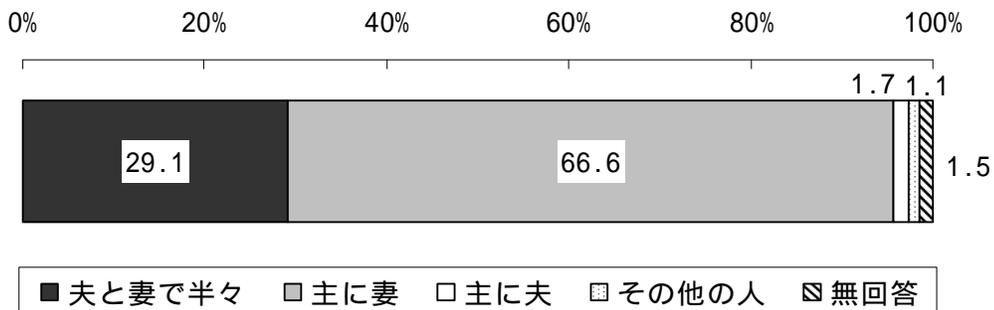
n=722



(E) 買物

「夫と妻で半々」29.1%、「主に妻」66.6%となっている。
 前回調査と比べ、「夫と妻で半々」が3ポイント増加している。

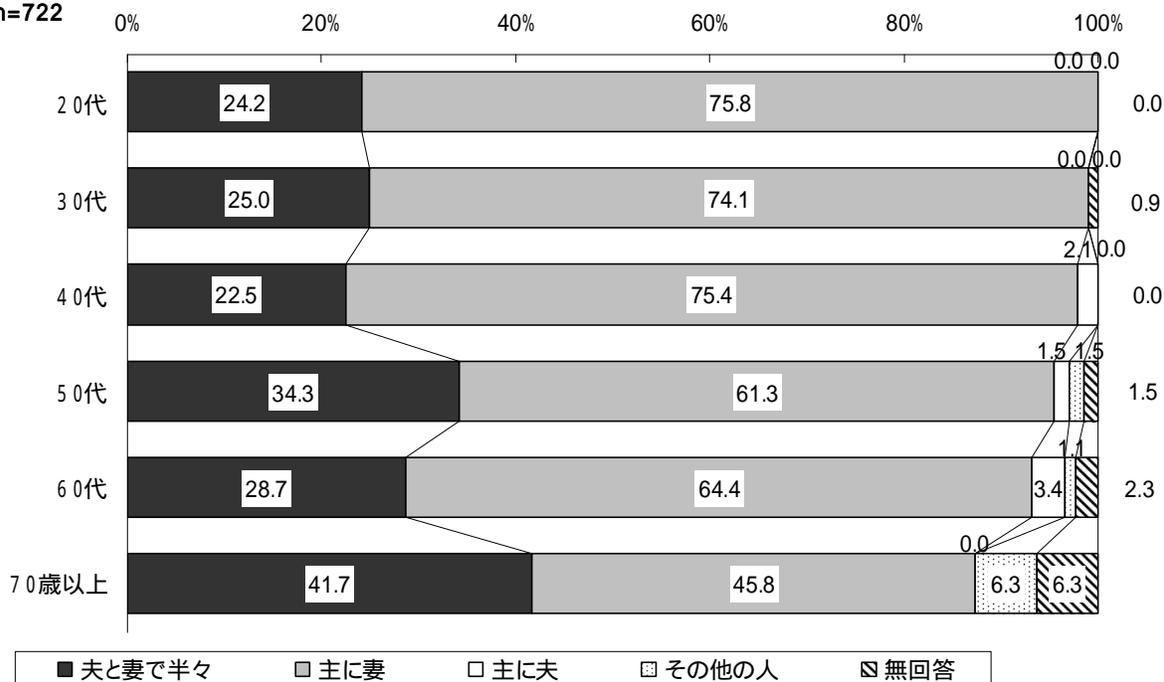
n=722



年代別では、70歳以上において「夫と妻で半々」の比率が高くなっている。

年代別 E 買物

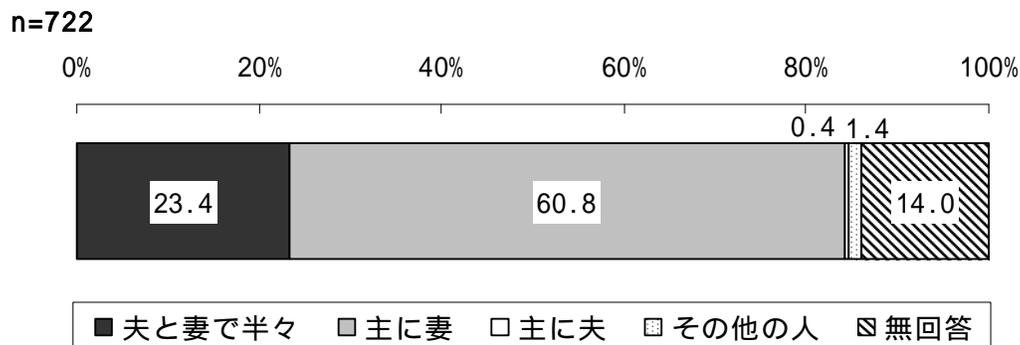
n=722



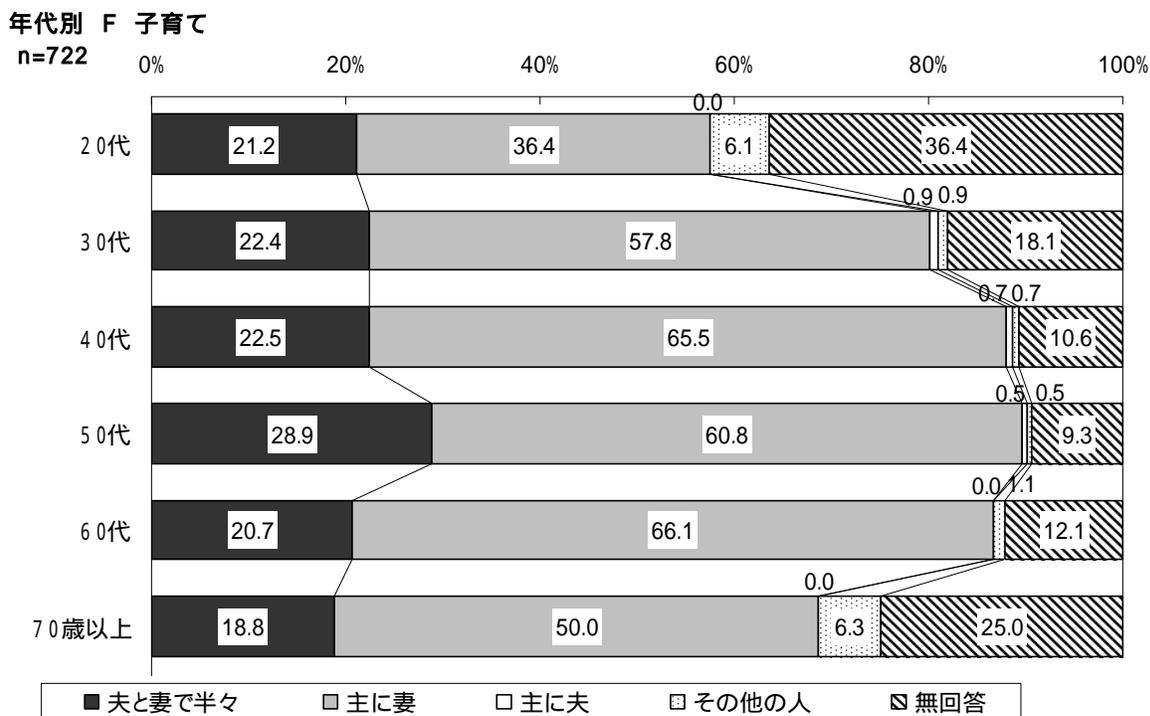
(F) 子育て

「夫と妻で半々」が23.4%、「主に妻」60.8%となっている。

前回調査と比べ、「無回答」が5.7ポイント減少し、反対に、「主に妻」が6.8ポイント増加している。



年代別では、「夫と妻で半々」は50代の28.9%をピークに山型の傾向がみられる。

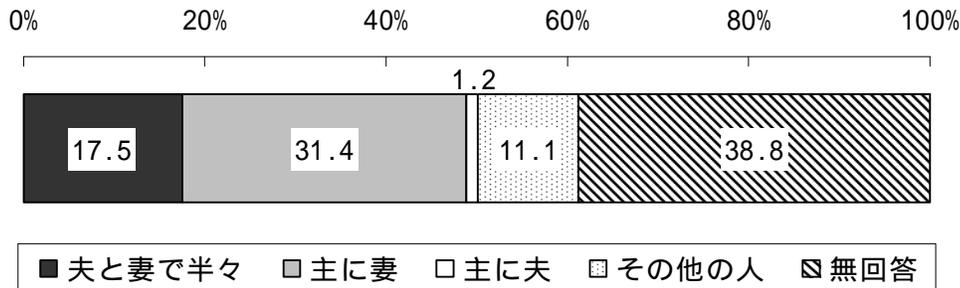


(G) 介護

「夫と妻で半々」17.5%、「主に妻」31.4%、「無回答」38.8%となっている。

前回調査と比べ、「無回答」が8.4ポイント減少し、また「その他の人」が6.6ポイント増加したのが目立つ。

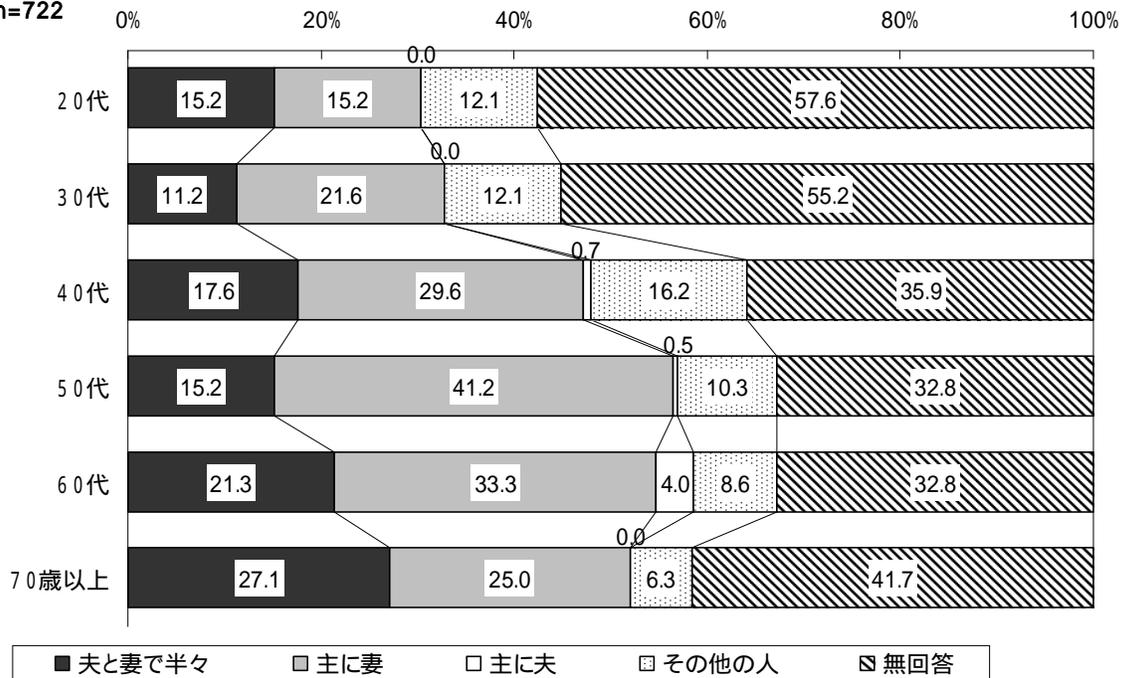
n=722



年代別では、「夫と妻で半々」は増減の傾向を見ながらも加齢に伴い比率が増加している。

年代別 G 介護

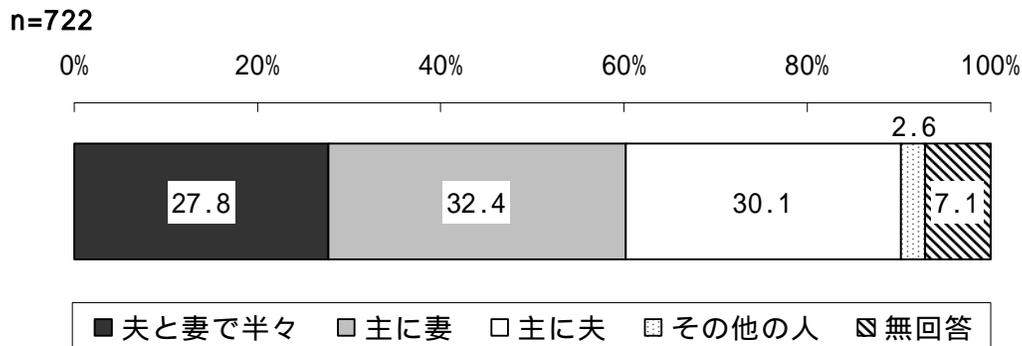
n=722



(H) 地域活動(自治会など)

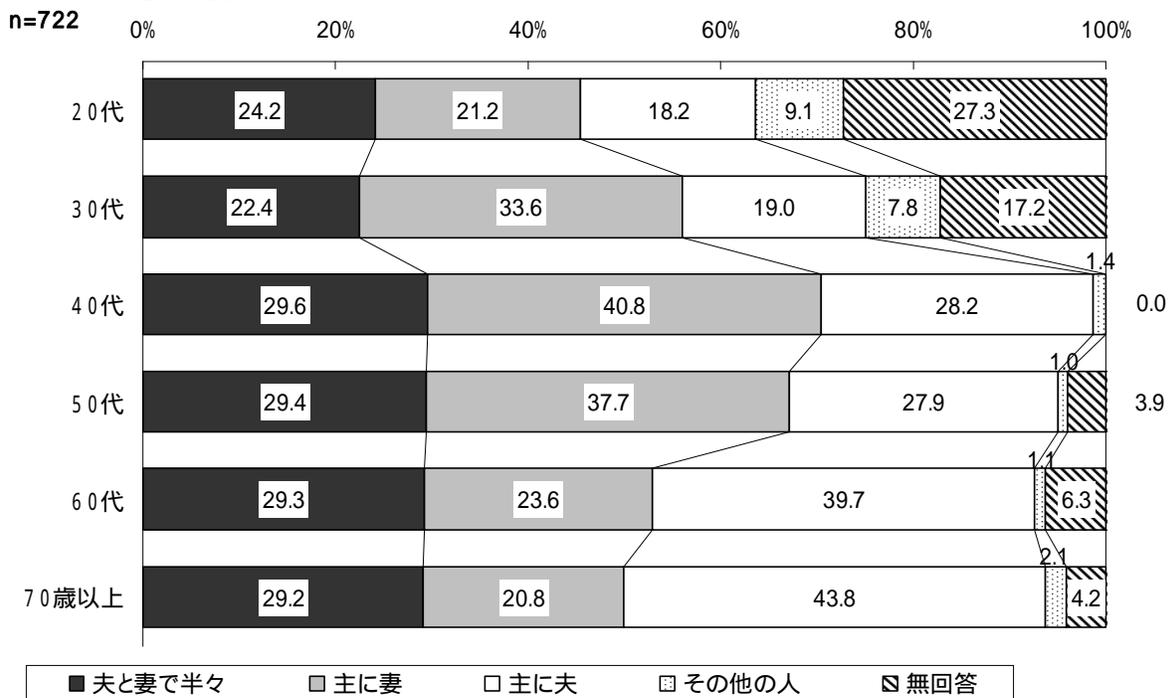
「夫と妻で半々」27.8%、「主に妻」32.4%、「主に夫」30.1%となっている。

前回調査と比べ、「夫と妻で半々」が2.5ポイント増加し、また「主に夫」が4.2ポイント増加している。



年代別では、「主に夫」が加齢に伴い比率が高くなっている。

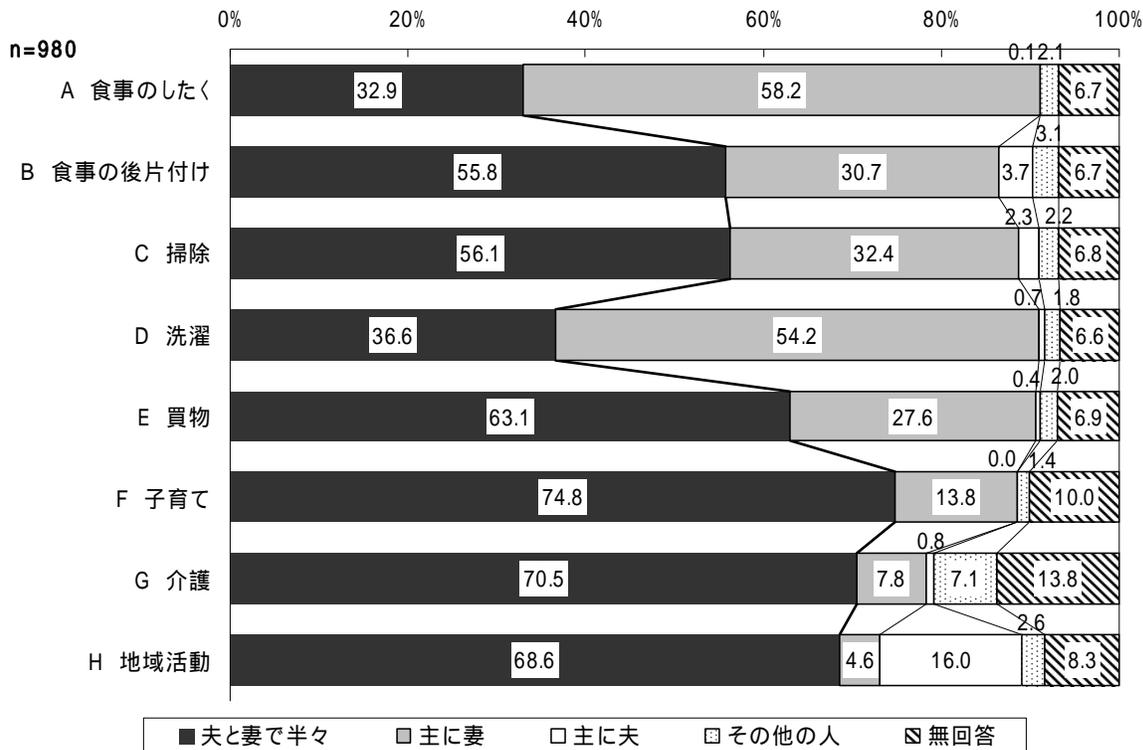
年代別 H 地域活動



(2) 家事分担の理想(問11)

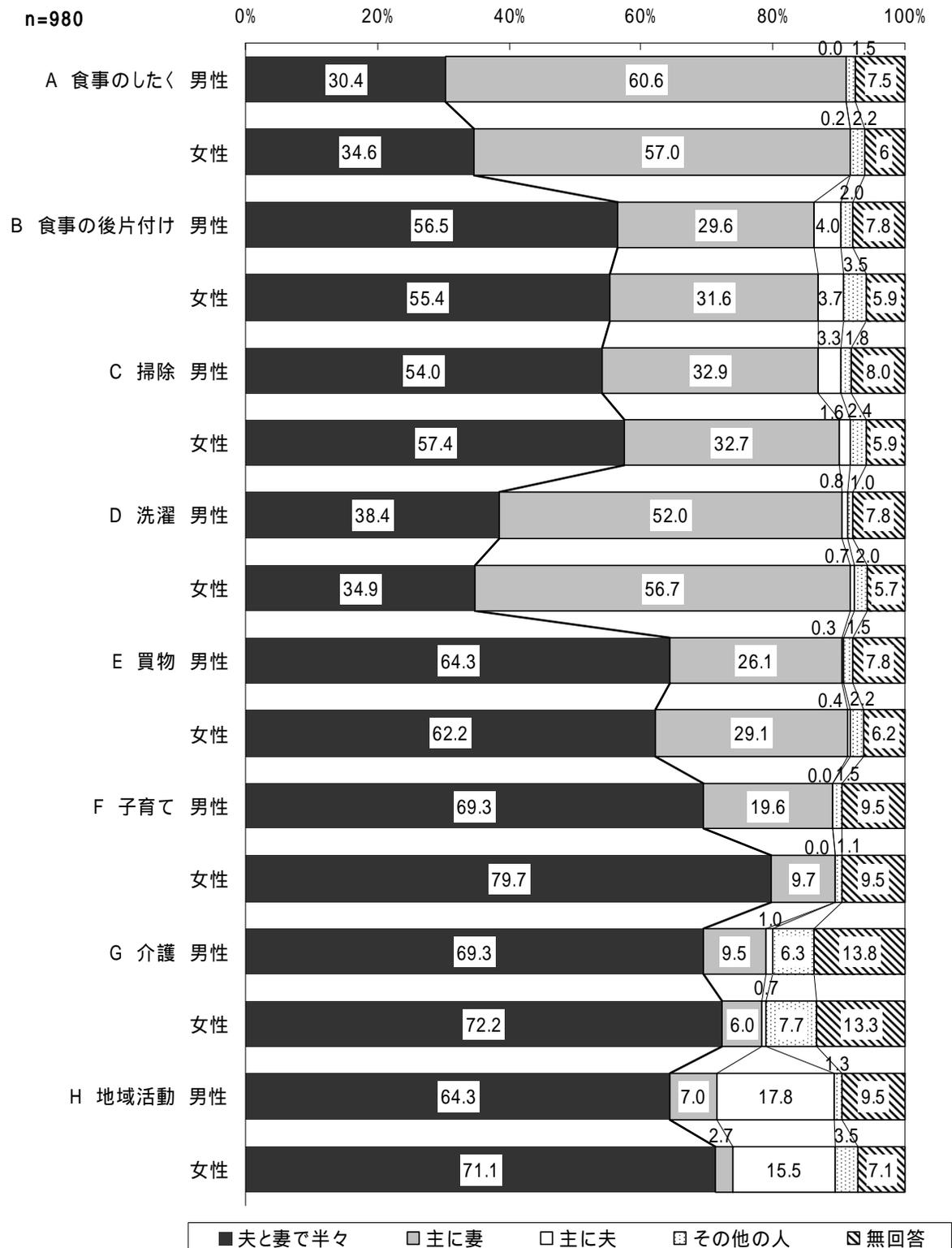
あなたは日常生活のなかで、次にあげることは誰が行うことが望ましいと考えますか。

全体の結果は下図にみるとおりである。「夫と妻で半々」はいずれの項目でも非常に高くなっている。それぞれの項目ごとの詳細は後で述べる。



性別では、各項目とも、「夫と妻で半々」の比率が男女とも高くなっている。子育てについては、男女とも「夫と妻で半々」の比率は高いものの、男女間には10.4ポイント意識の開きが見られる。

全体的には、男女間の意識に大きな差はなく、男女共に根強い性別による固定役割意識があることがうかがえる。

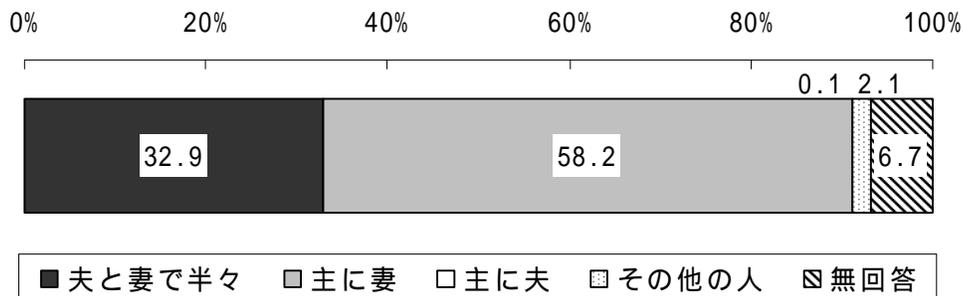


(A) 食事のしたく

「夫と妻で半々」32.9%、「主に妻」58.2%となっている。問10の現実とのギャップは「夫と妻で半々」で26.4ポイント増である。

前回調査と比べ、あまり大きな差異はみられない。

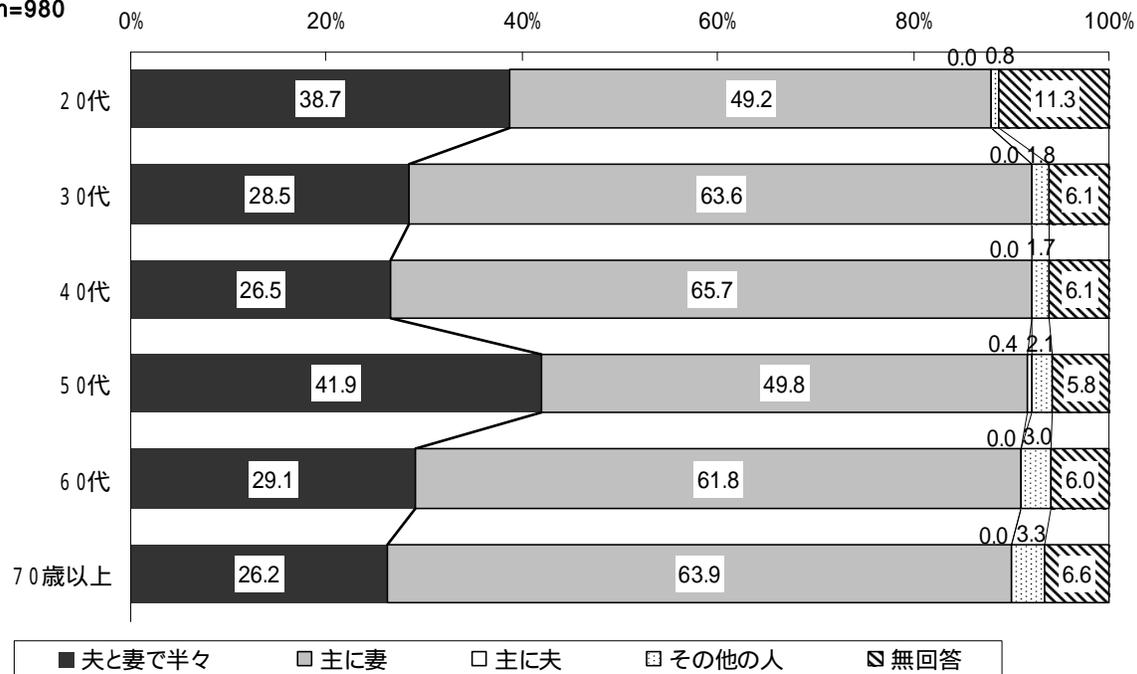
n=980



年代別では、「夫と妻で半々」は20代と50代で比率が高くなっている。

年代別 A 食事のしたく

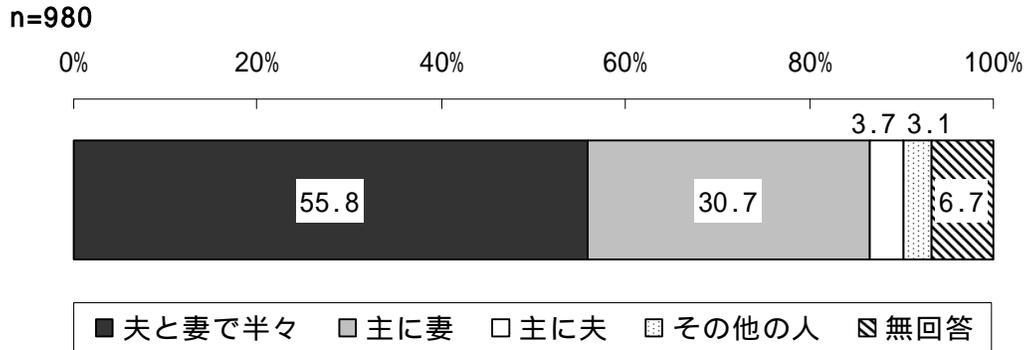
n=980



(B) 食事の後片付け

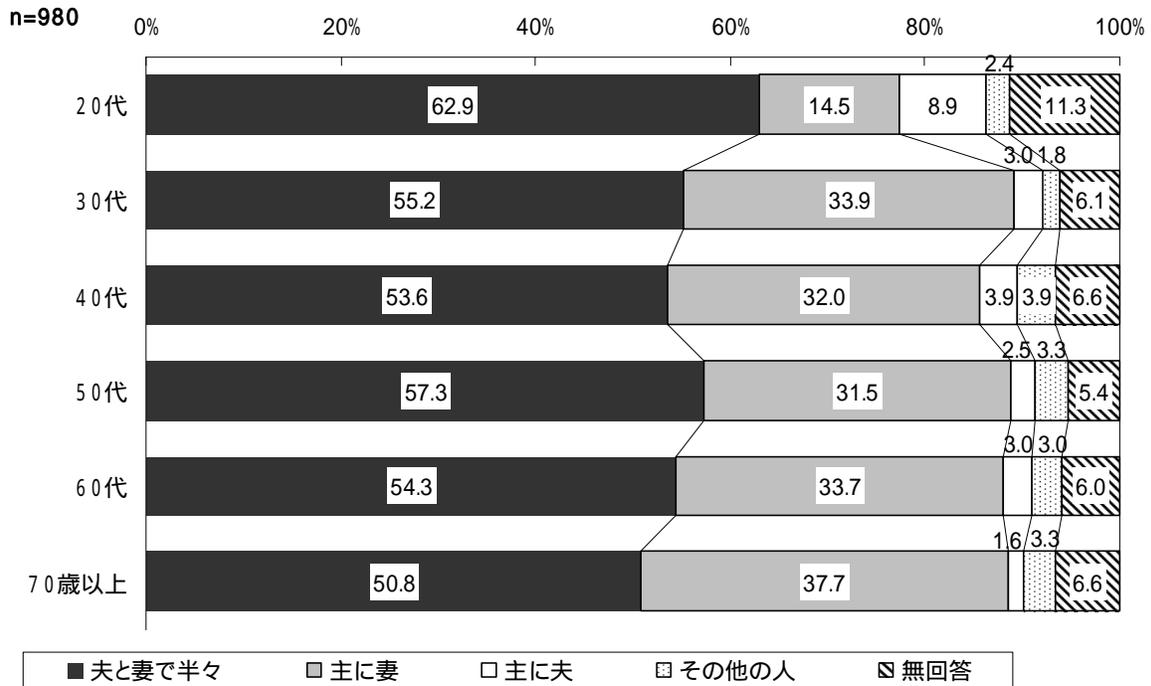
「夫と妻で半々」55.8%、「主に妻」30.7%となっている。問10の現実とのギャップは、「夫と妻で半々」で41.4ポイント増である。各項目の中で3番目に開きが大きい。

前回調査と比べ、「夫と妻で半々」が6.9ポイント増加している。



年代別では、全ての世代で「夫と妻で半々」の比率が50%を超えている。

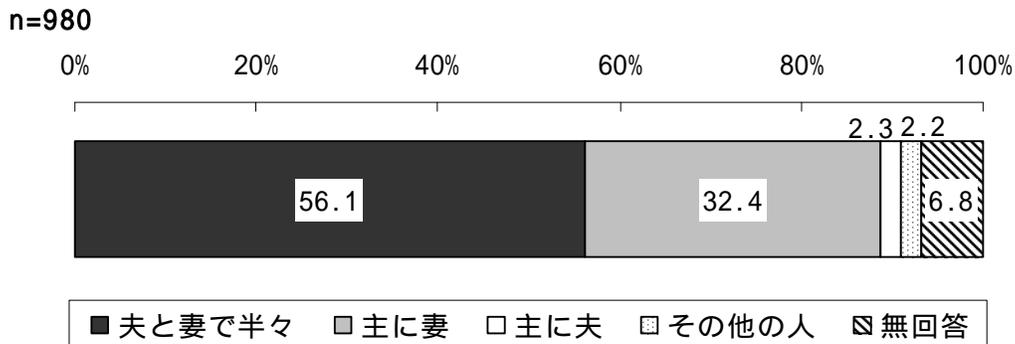
年代別 B 食事の後片付け



(C) 掃除

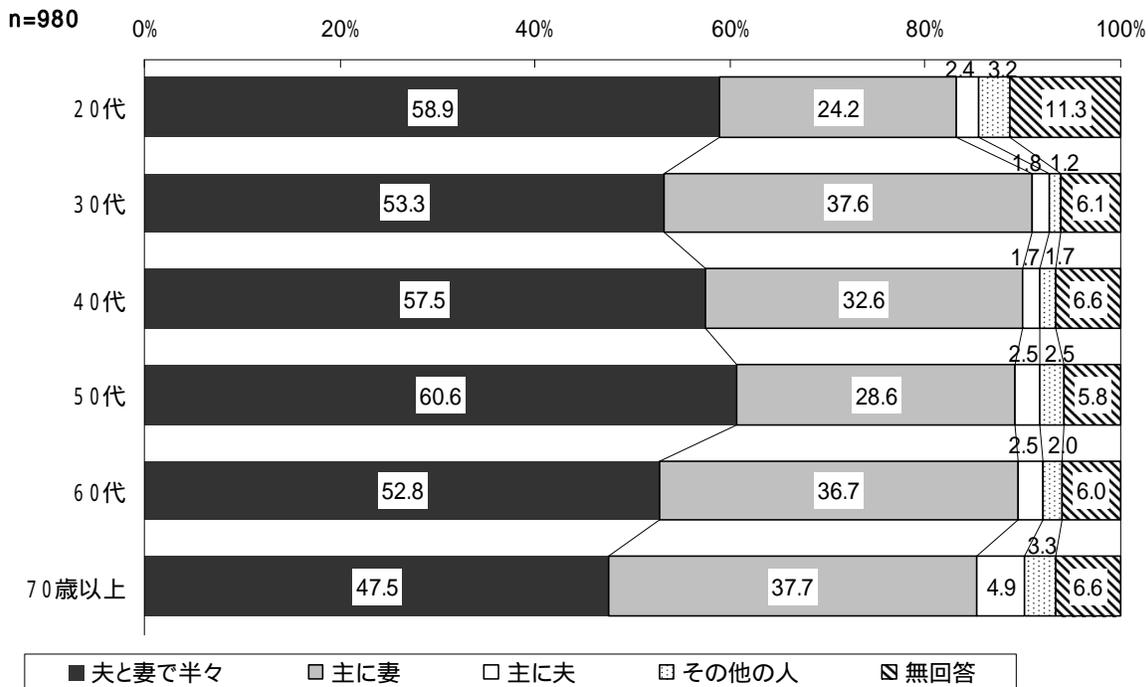
「夫と妻で半々」56.1%、「主に妻」32.4%となっている。問10の現実とのギャップは、「夫と妻で半々」で38.6ポイント増である。

前回調査と比べ、「夫と妻で半々」が4.4ポイント増加している。



年代別では、ほとんどの世代で「夫と妻で半々」の比率が50%以上となっている。

年代別 C 掃除

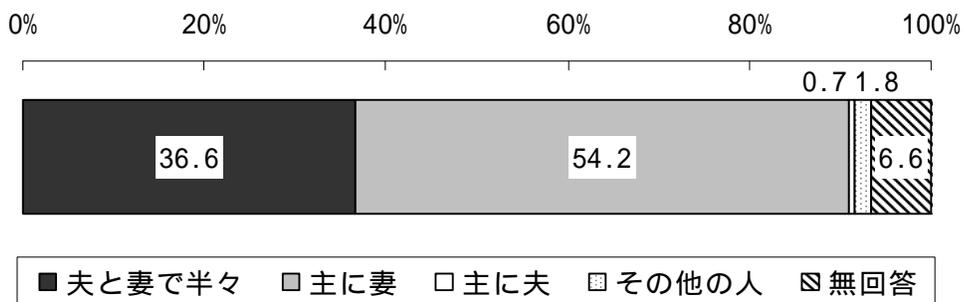


(D) 洗濯

「夫と妻で半々」36.6%、「主に妻」54.2%となっている。問10の現実とのギャップは、「夫と妻で半々」で27.5ポイント増である。

前回調査と比べ、「夫と妻で半々」が5.2ポイント増加している。

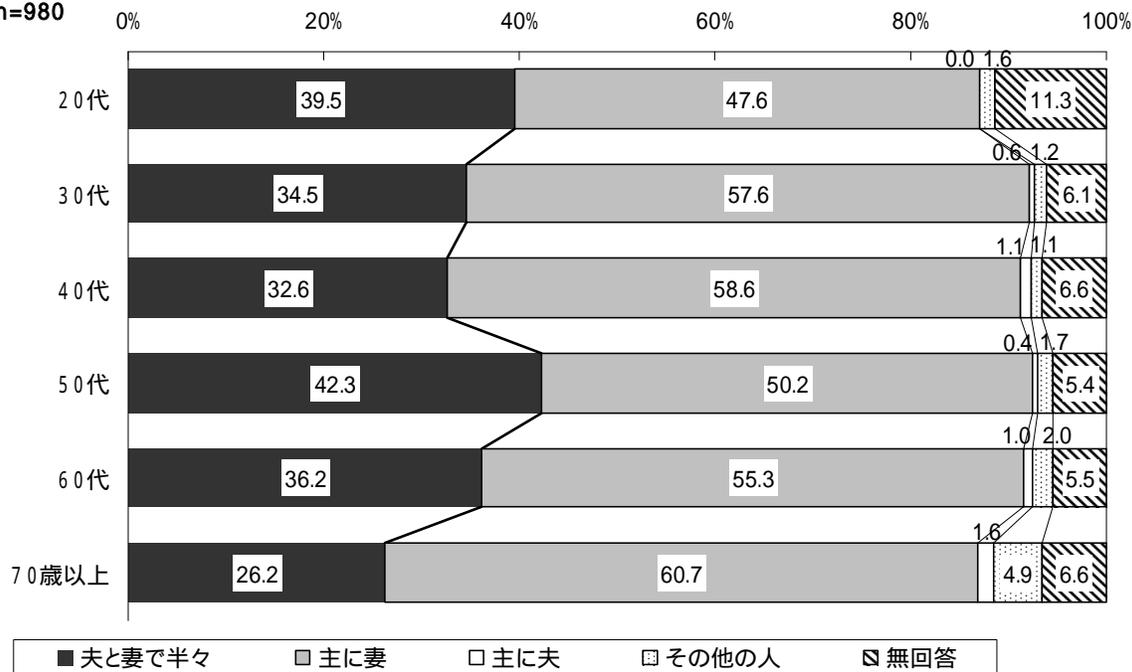
n=980



年代別では、ほとんどの世代において「主に妻」の比率が50%以上となっている。

年代別 D 洗濯

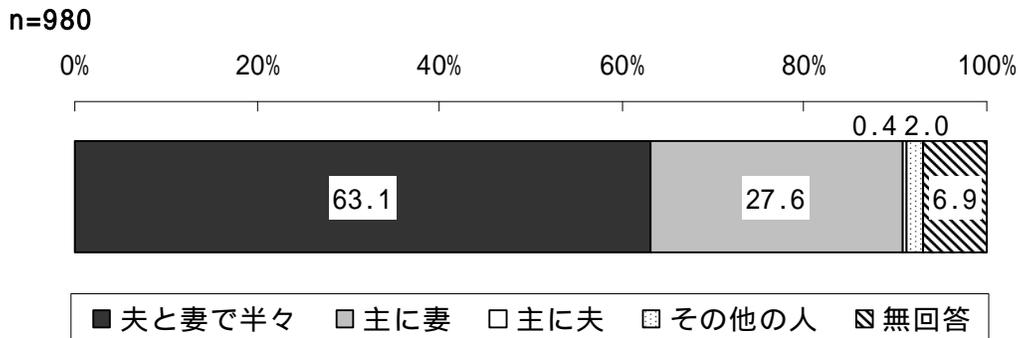
n=980



(E) 買物

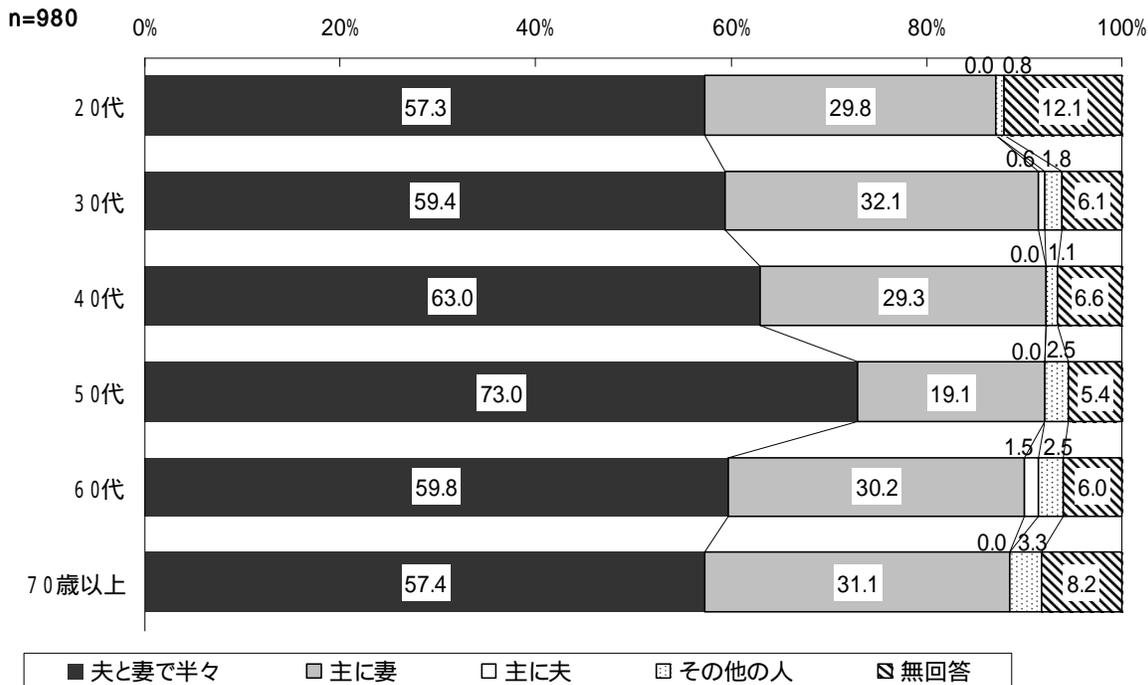
「夫と妻で半々」63.1%、「主に妻」27.6%となっている。問10の現実とのギャップは「夫と妻で半々」が34.0ポイント増である。

前回調査と比べ、「夫と妻で半々」が8.2ポイント増加している。



年代別では、「夫と妻で半々」は50代の73.0%をピークにほとんどの世代で高い比率の傾向がみられる。

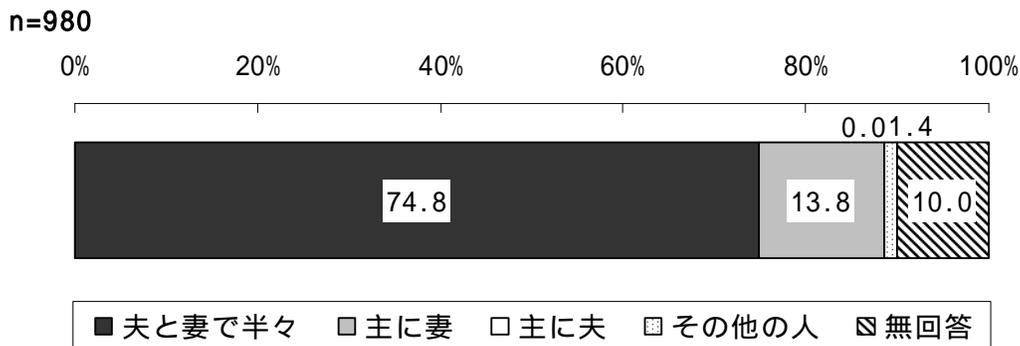
年代別 E 買物



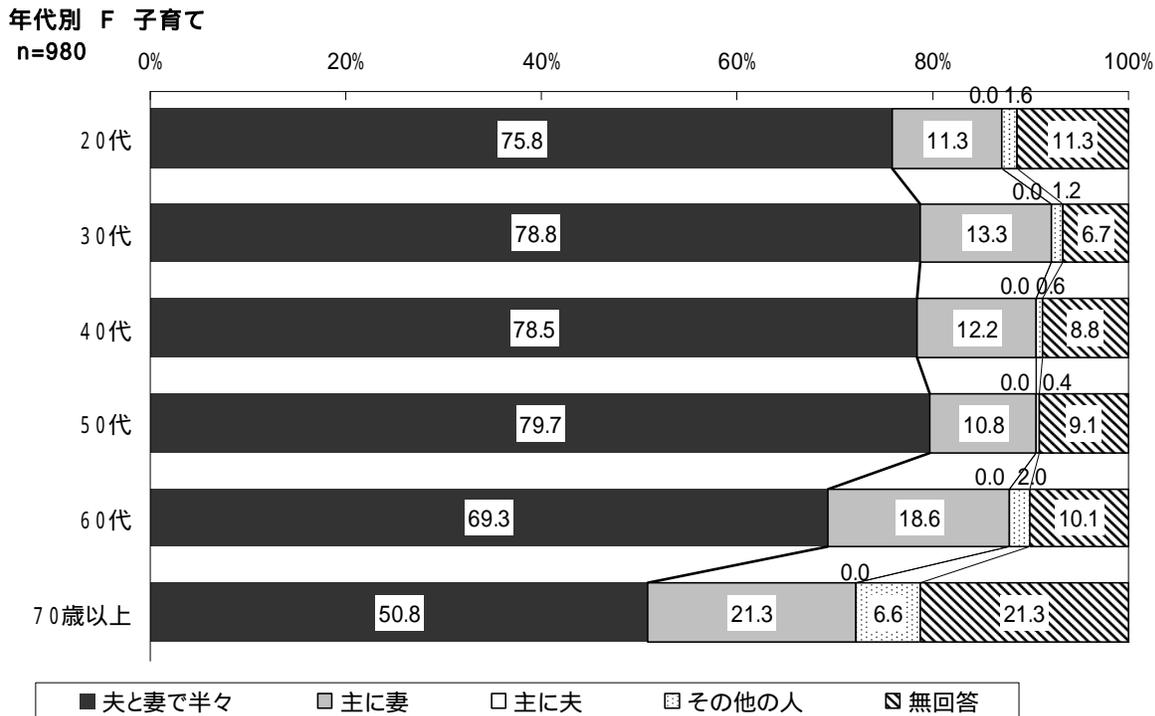
(F) 子育て

「夫と妻で半々」74.8%、「主に妻」13.8%となっている。問10の現実とのギャップは、「夫と妻で半々」で51.4ポイント増である。各項目の中で2番目に大きい開きである。少子化や女性の職場進出等の問題を考えるとき、今後も子育てで支援等の施策が重要であるといえる。

前回調査と比べ、「夫と妻で半々」が4.1ポイント増加している。



年代別では、「夫と妻で半々」は、特に20代から50代までの子育て世代において75%を超える高い比率となっている。

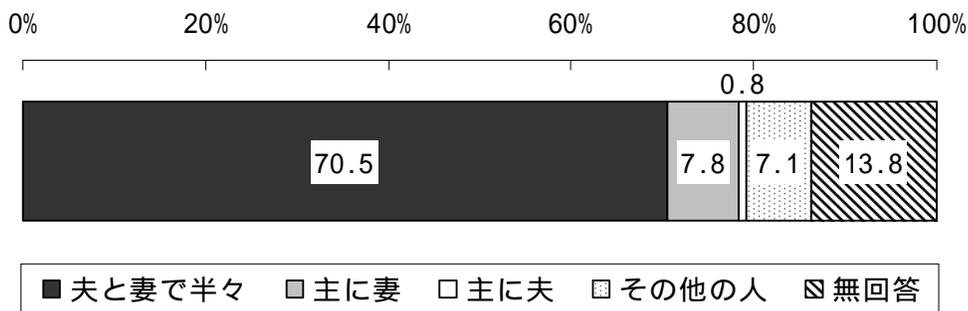


(G) 介護

「夫と妻で半々」70.5%、「主に妻」7.8%、「その他の人」7.1%となっている。問10の現実とのギャップは、「夫と妻で半々」で53.0ポイント増である。また、「その他の人」が4.0ポイント減となっているのが特徴的であり、各項目の中で一番開きが大きくなっている。老老介護等の問題が指摘されることが多いが、子育て支援同様、介護の有効な施策が非常に重要であろう。

前回調査と比べ、「その他の人」が4.9ポイント増加している。

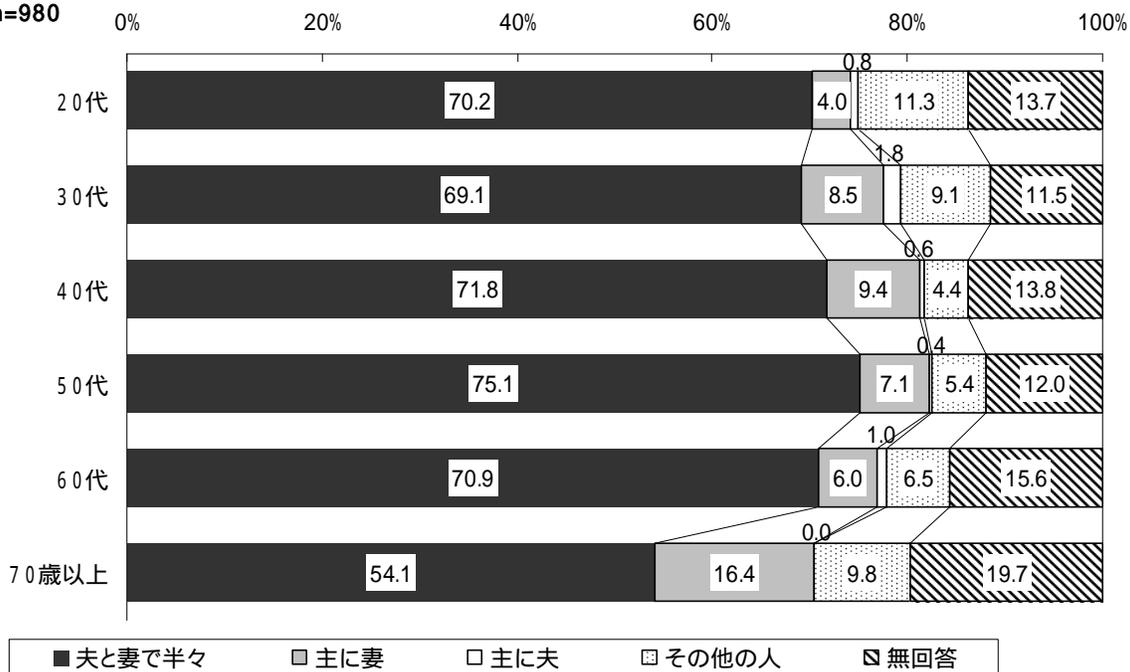
n=980



年代別では、「夫と妻で半々」は70歳以上で54.1%と最も比率が低くなっている。

年代別 G 介護

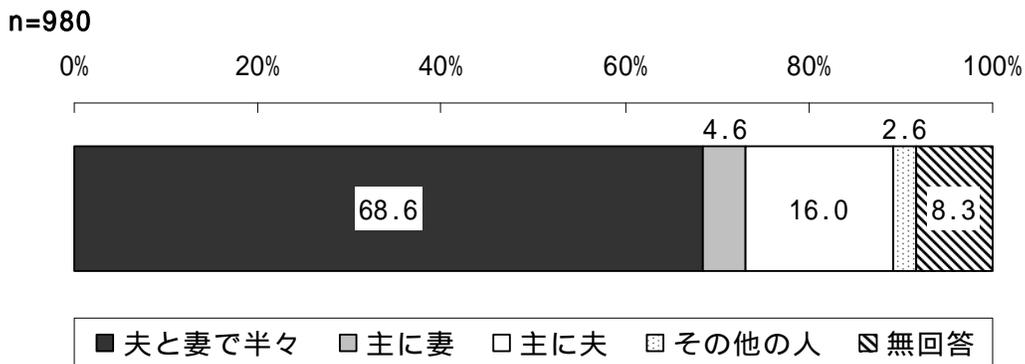
n=980



(H) 地域活動(自治会など)

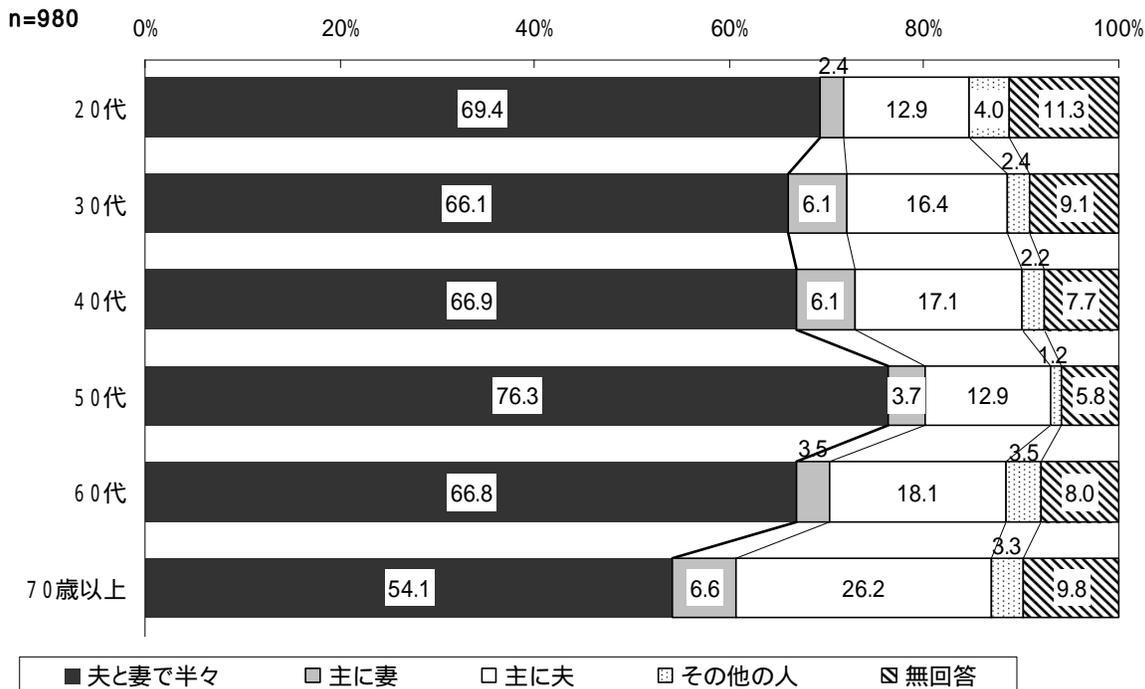
「夫と妻で半々」68.6%、「主に妻」4.6%、「主に夫」16.0%となっている。問 10 の現実とのギャップは、「夫と妻で半々」で 40.8 ポイント増である。また、「主に妻」は 27.8 ポイント減、「主に夫」は 14.1 ポイント減となっている。

前回調査と比べ、あまり大きな差異はみられない。



年代別では、全ての世代において「夫と妻で半々」の比率が高いとともに、「主に妻」の比率が非常に低い。

年代別 H 地域活動



4 出産・育児について

出産・育児についてうかがいます。

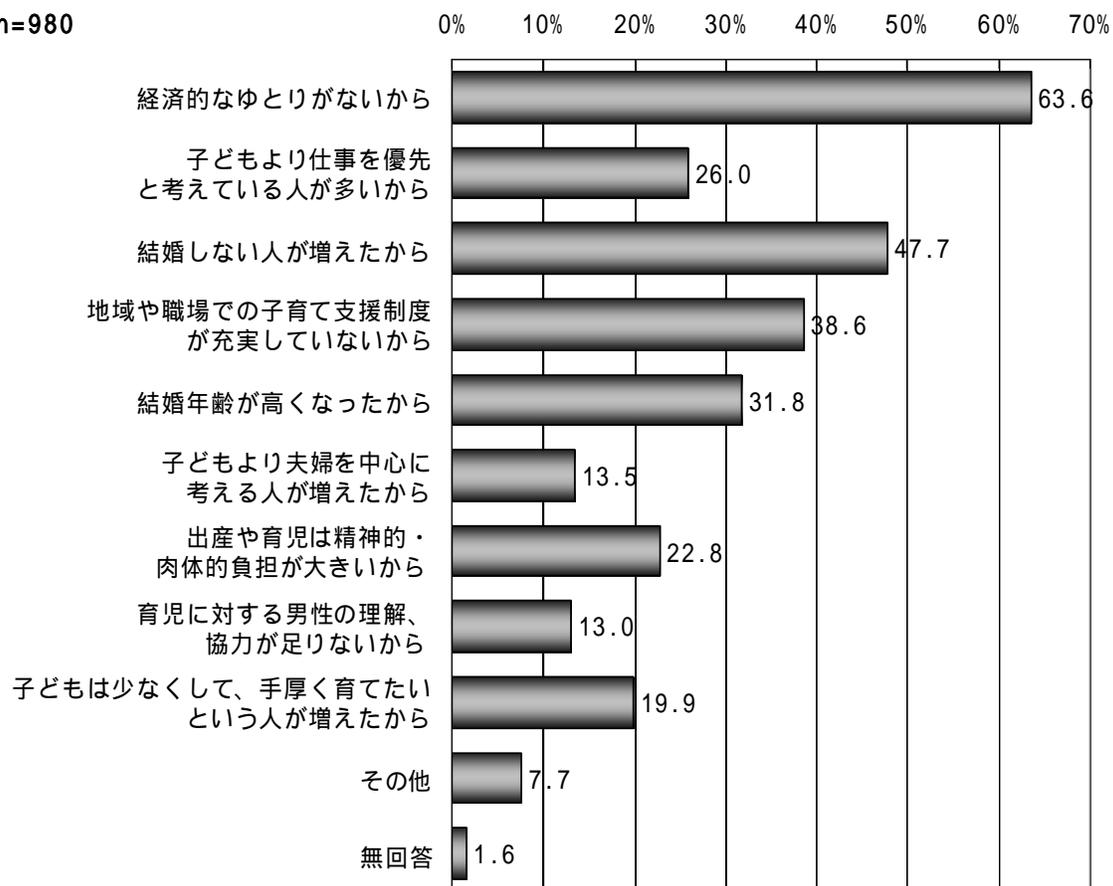
(1) 少子化の理由(問12)

近年、出生率が低下し少子化が進んでいますが、その理由はどのようなことにあると思いますか。

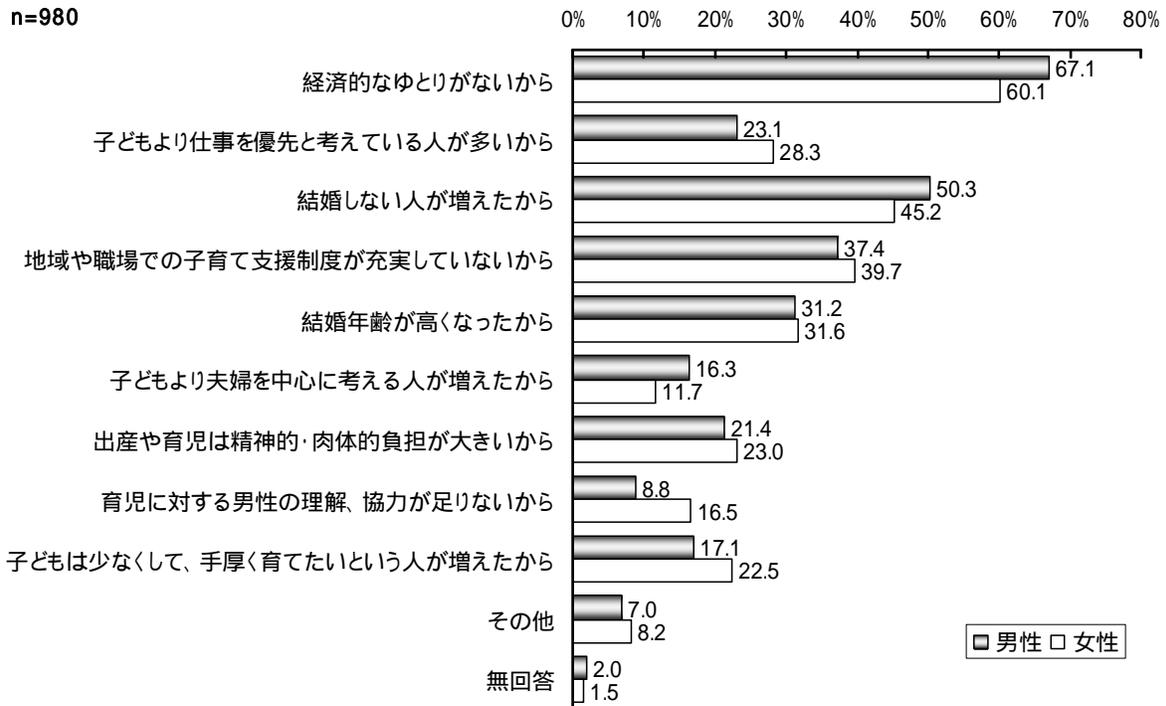
「経済的なゆとりがないから」が63.6%と最も比率が高い。次いで、「結婚しない人が増えたから」47.7%、「地域や職場での子育て支援制度が充実していないから」38.6%とつづく。

前回調査と比べ、「経済的なゆとりがないから」が4.8ポイント、「結婚しない人が増えたから」が5.2ポイント、「地域や職場での子育て支援制度が充実していないから」が6.3ポイント増加している。反対に、「子どもより夫婦を中心に考える人が増えたから」が4.9ポイント、「子どもは少なくし、手厚く育てたいという人が増えたから」が7.0ポイント減少している。

n=980



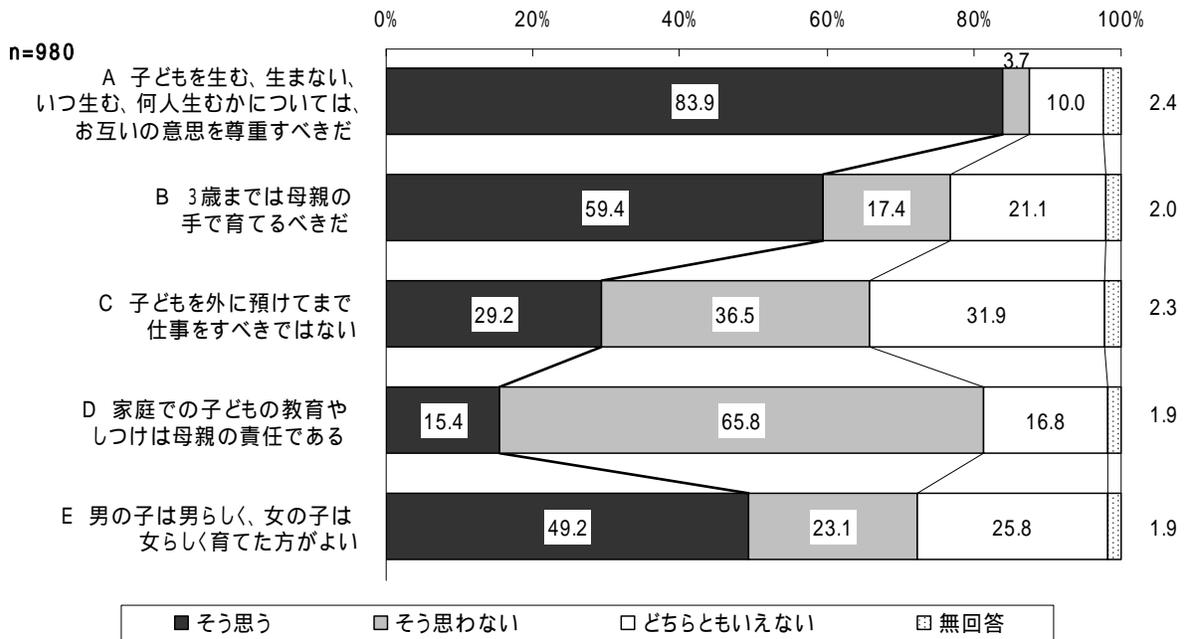
性別では、「経済的なゆとりがないから」や「結婚しない人が増えたから」は、男性が女性より5~7ポイント比率が高くなっている。反対に、「育児に対する男性の理解、協力が足りないから」や「子どもは少なくし、手厚く育てたいという人が増えたから」は、女性が男性より5~8ポイント近く比率が高い。



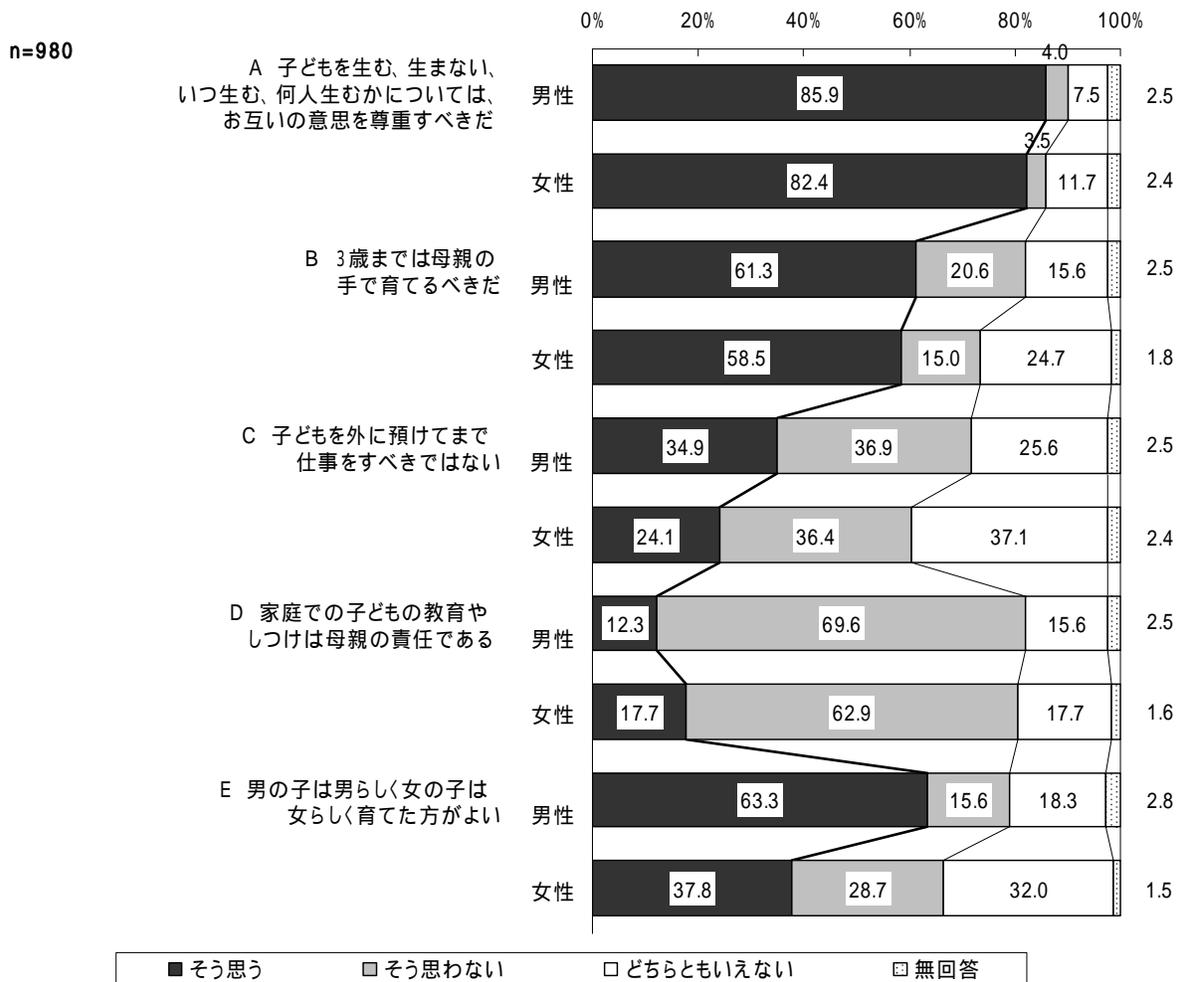
(2) 出産・育児の考え方(問13)

出産・育児に関する次のような考え方をあなたはどのように思いますか。

全体の結果は下図にみるとおりである。「そう思う」は「出産に関する計画のお互いの意思尊重」で83.9%、「3歳までは母親の手で育てるべきだ」で59.4%と比率が高くなっている。それぞれの項目ごとの詳細は後で述べる。

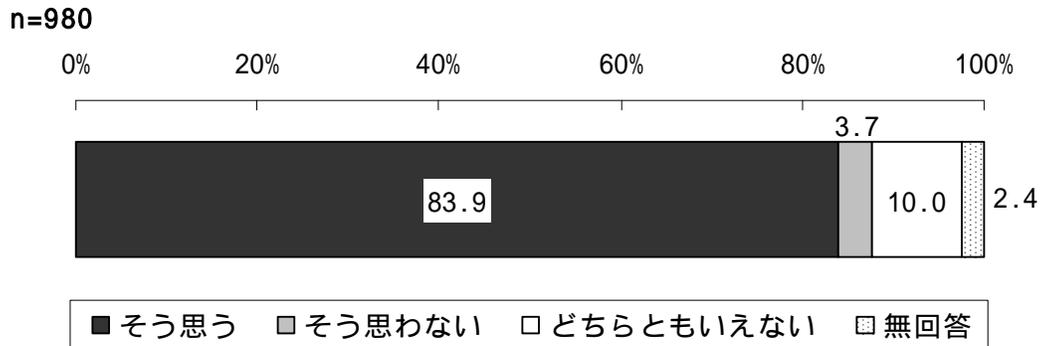


男女別では、「そう思う」は男の子は男らしく女の子は女らしく育てた方がよいと、子どもを外に預けてまで仕事をすべきでないが、男女間の意識の開きが大きくなっている。



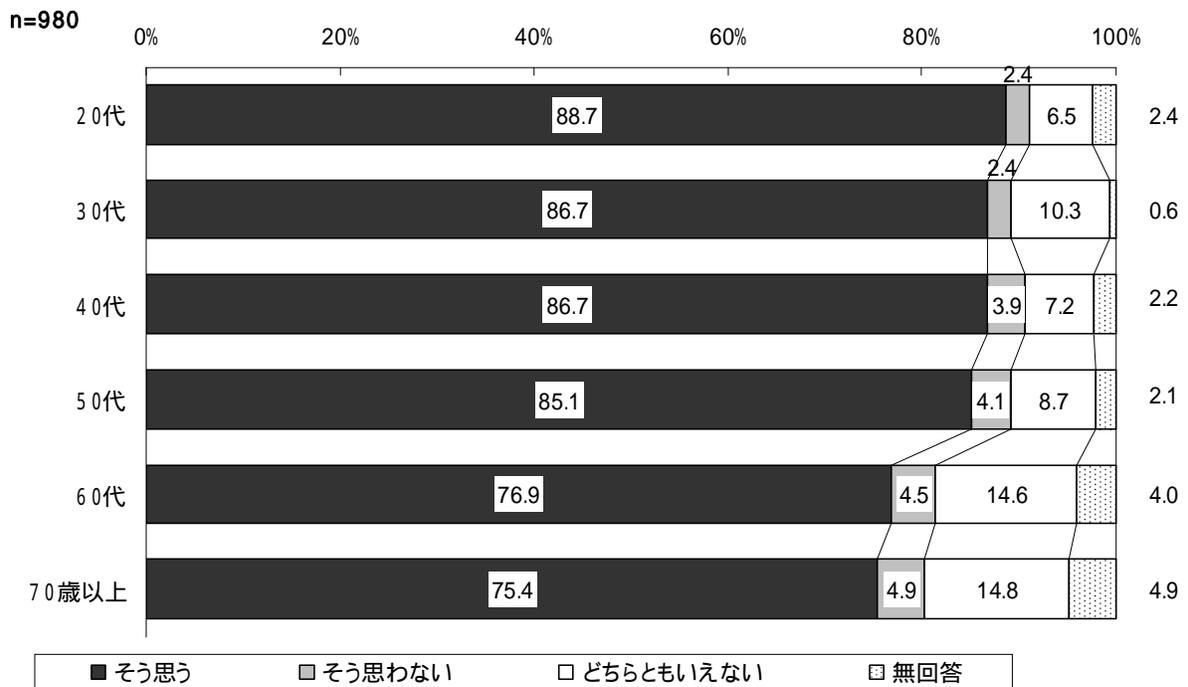
(A) 子どもを生む、生まない、いつ生む、何人生むかについては、お互いの意思を尊重すべきだ。

「そう思う」83.9%、「そう思わない」3.7%、「どちらともいえない」10.0%となっている。前回調査と比べ、あまり大きな差異はみられない。



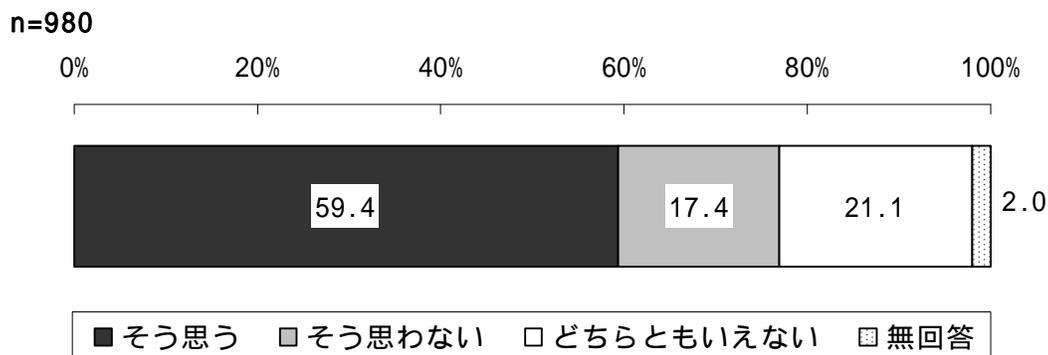
年代別では、全ての世代で「そう思う」が高い比率である。

年代別 A 出産に関する計画のお互いの意思尊重について



(B) 3歳までは母親の手で育てるべきだ。

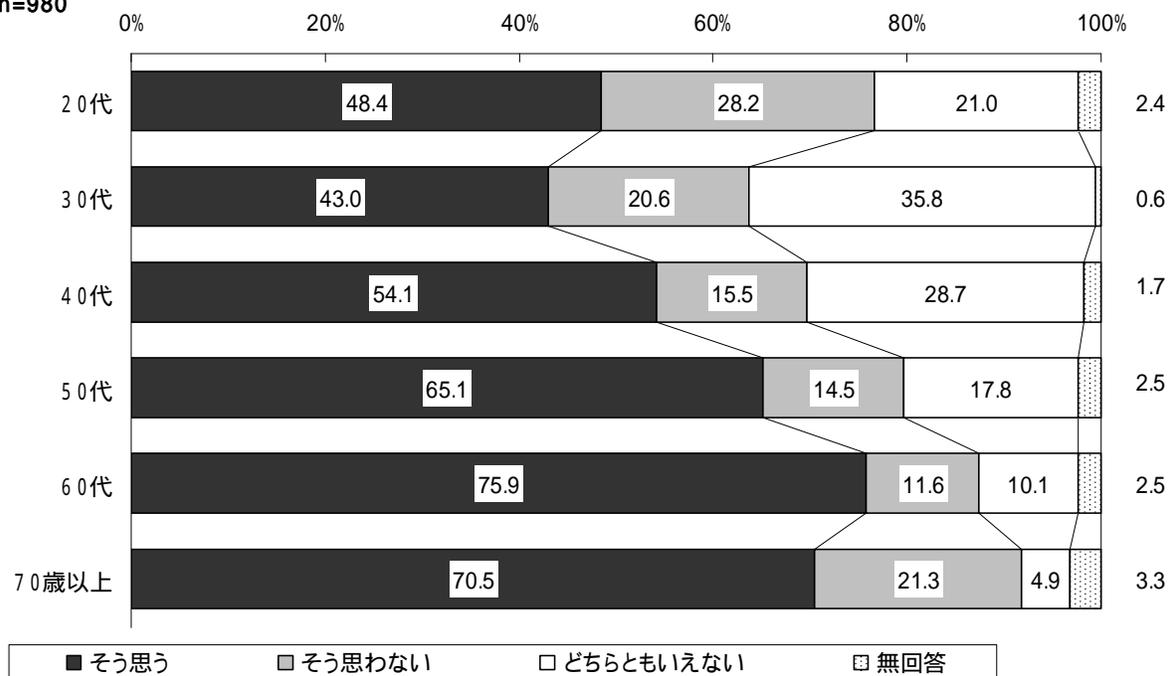
「そう思う」59.4%、「そう思わない」17.4%、「どちらともいえない」21.1%となっている。
 前回調査と比べ、あまり大きな差異はみられない。



年代別では、20代と70歳以上を除くと、「そう思う」は加齢に伴い比率が増加する傾向がある。

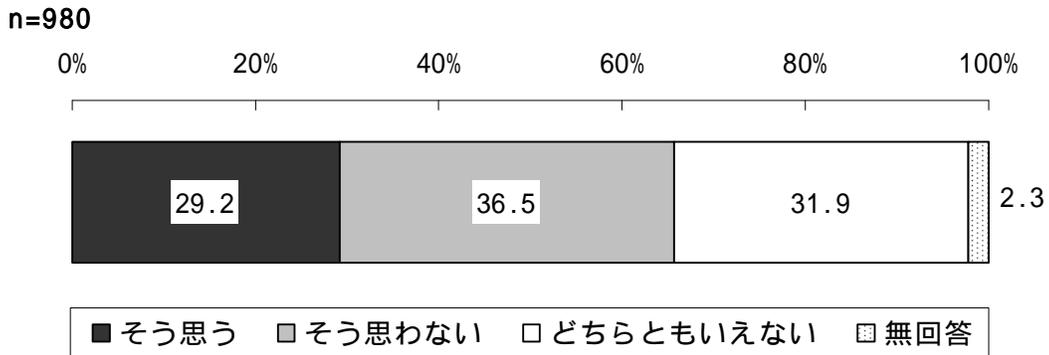
年代別 B 3歳までは母親の手で育てるべきだ

n=980



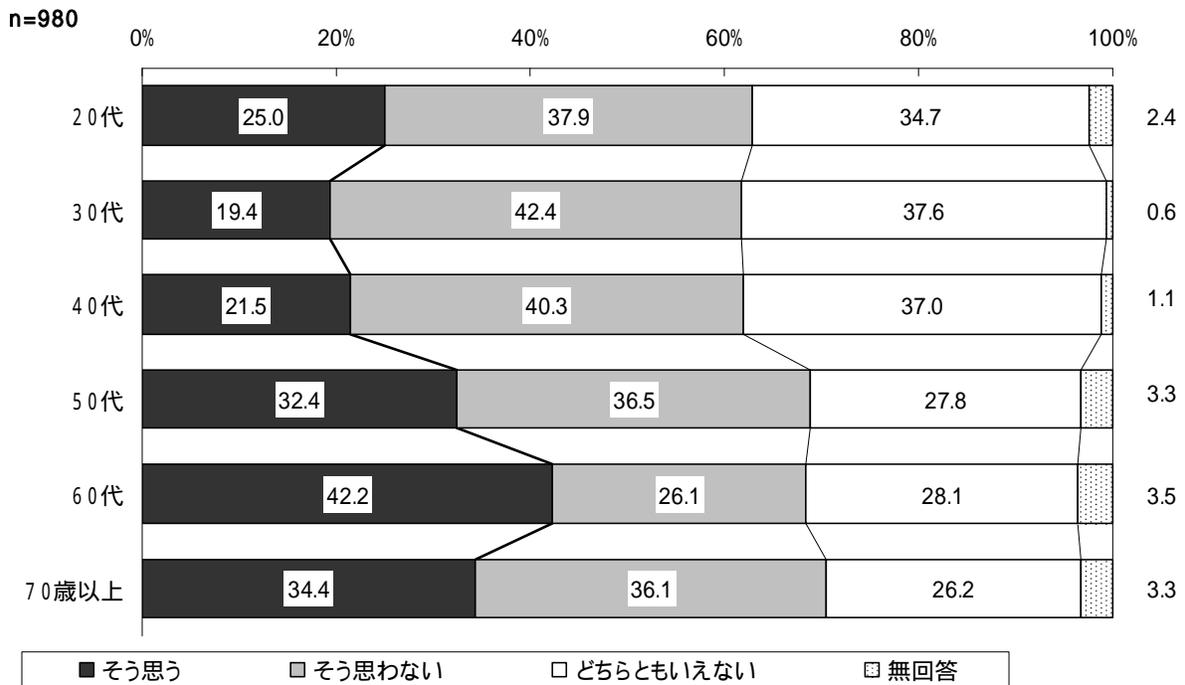
(C) 子どもを外に預けてまで仕事をすべきでない。

「そう思う」29.2%、「そう思わない」36.5%、「どちらともいえない」31.9%となっている。
 前回調査と比べ、「そう思う」が3.8ポイント減少している。



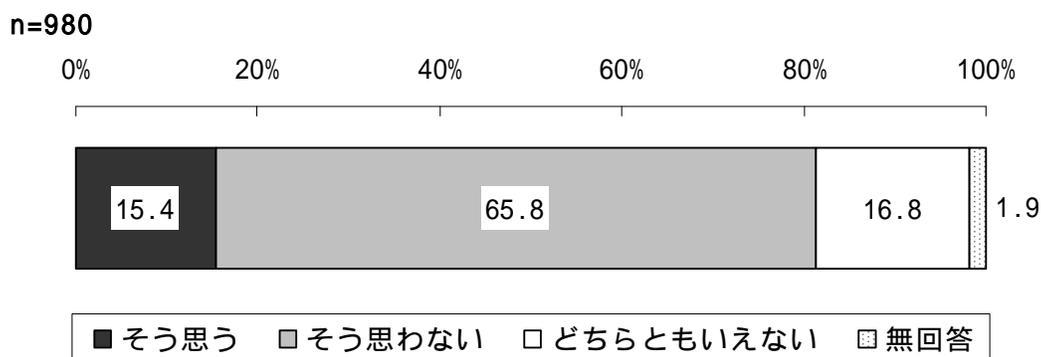
年代別では、20代と70歳以上を除くと、「そう思う」は加齢に伴い比率が増加する傾向がある。

年代別 C 子どもを外に預けてまで仕事をすべきではない



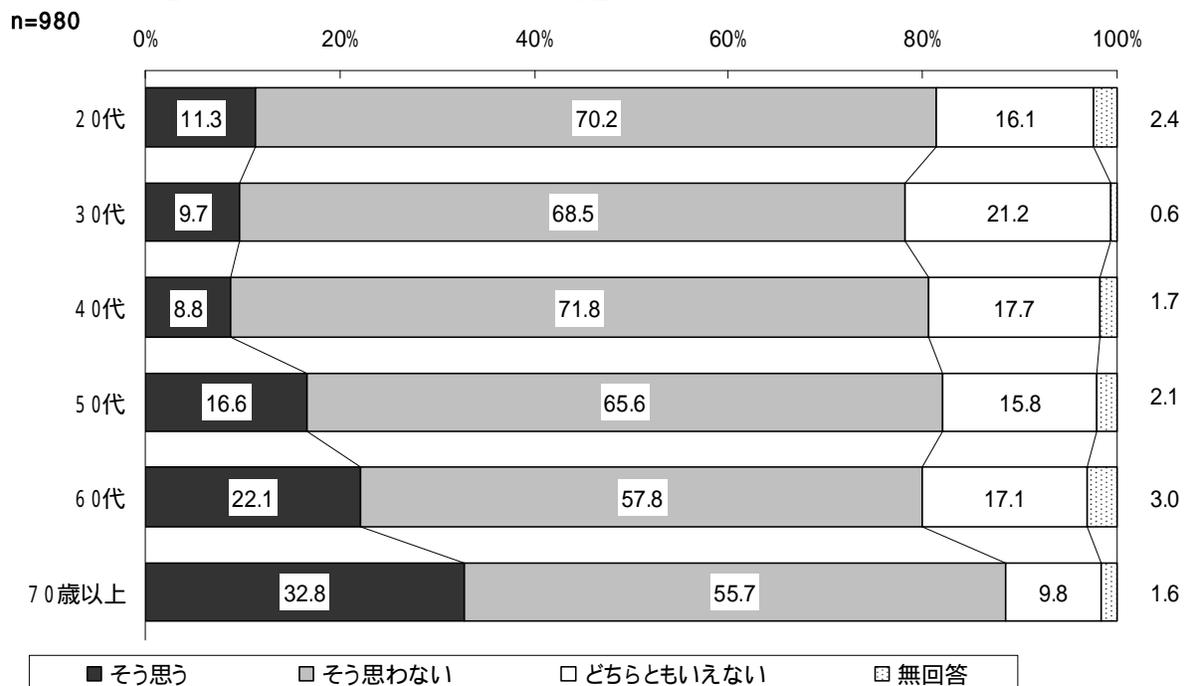
(D) 家庭での子どもの教育やしつけは母親の責任である。

「そう思う」15.4%、「そう思わない」65.8%、「どちらともいえない」16.8%となっている。
前回調査と比べ、あまり大きな差異はみられない。



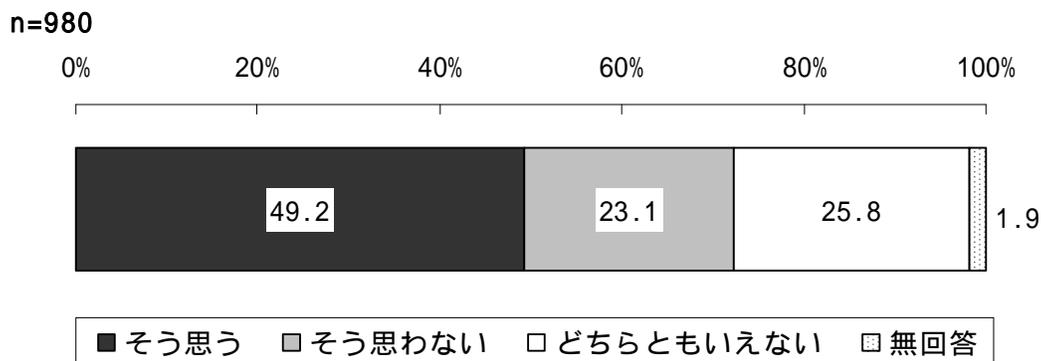
年代別では、「そう思う」は加齢に伴い比率が増加する傾向にあるが、全体的には「そう思わない」の比率が高い。

年代別 D 家庭での子どもの教育やしつけは母親の責任である



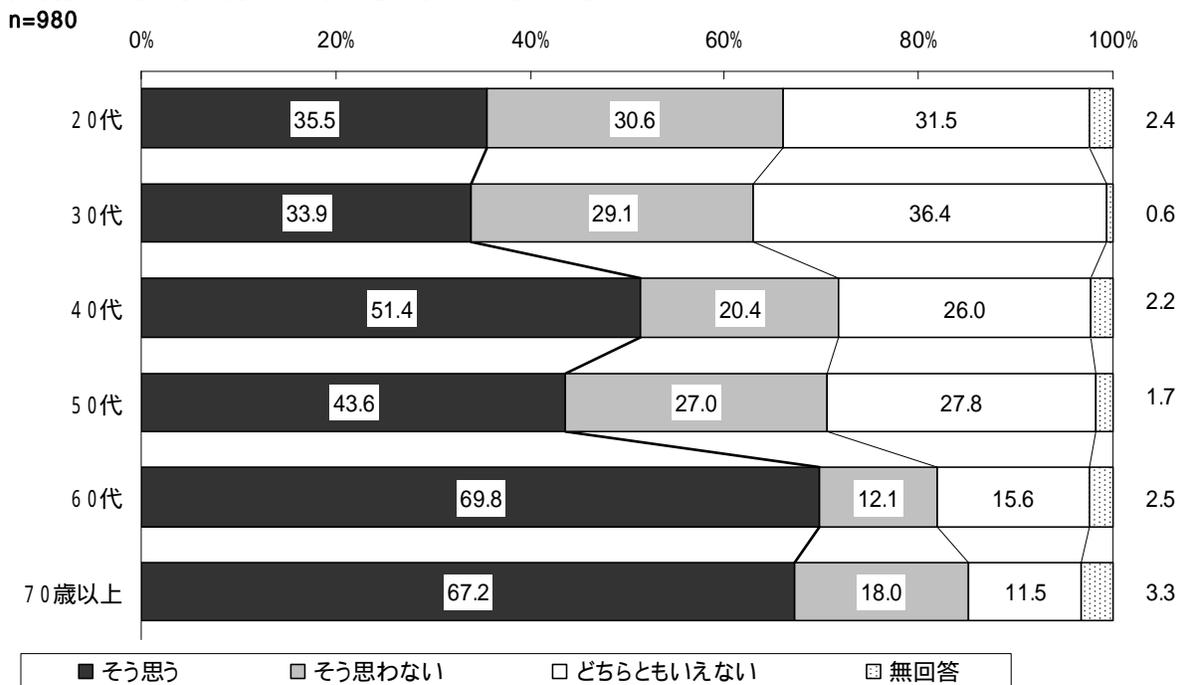
(E) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい。

「そう思う」49.2%、「そう思わない」23.1%、「どちらともいえない」25.8%となっている。
 前回調査と比べ、「そう思う」が5.2ポイント増加している。



年代別では、「そう思う」は30代まで、50代まで、60代以上という様に世代間で比率に段差がみられる。全体的には「そう思う」は加齢に伴い比率が増加する傾向がみられる。

年代別 E 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい



5 社会生活（仕事、地域活動）について

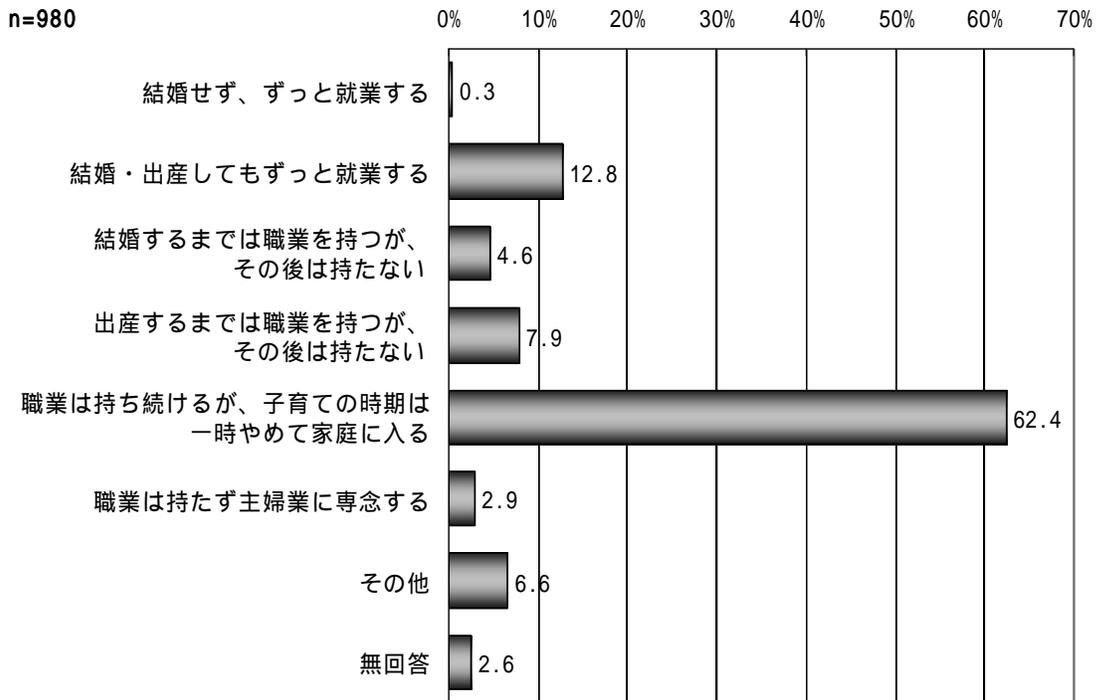
社会生活（仕事、地域活動）についてうかがいます。

（1）女性の理想的働き方（問14）

女性にとって望ましい働き方はどれだと思いますか。

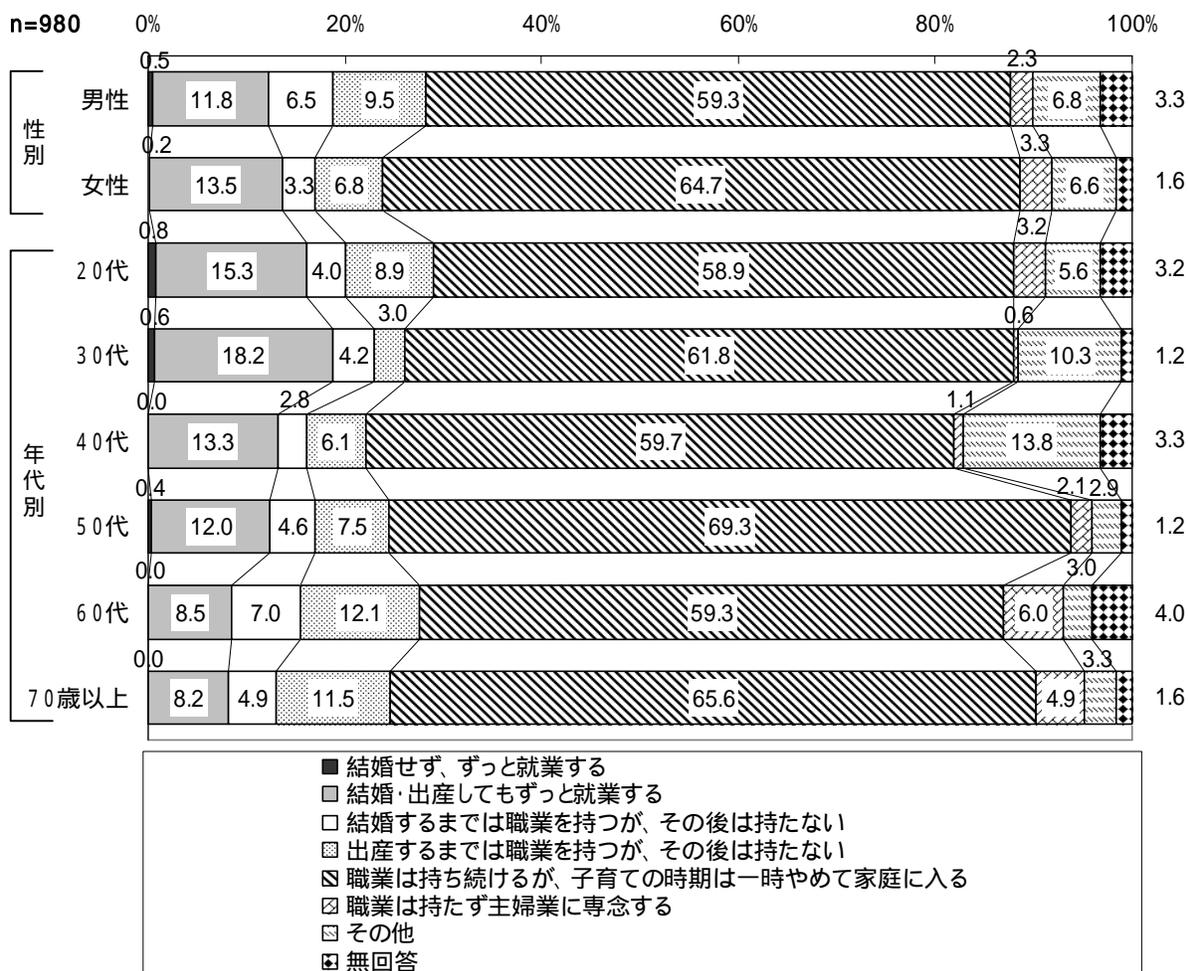
「職業は持ち続けるが、子育ての時期は一時やめて家庭にいる」62.4%、「結婚・出産してもずっと就業する」12.8%となっている。

前回調査と比べ、あまり大きな差異はみられない。



性別では、「職業は持ち続けるが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る」は女性が男性より 5.4 ポイント比率が高い。

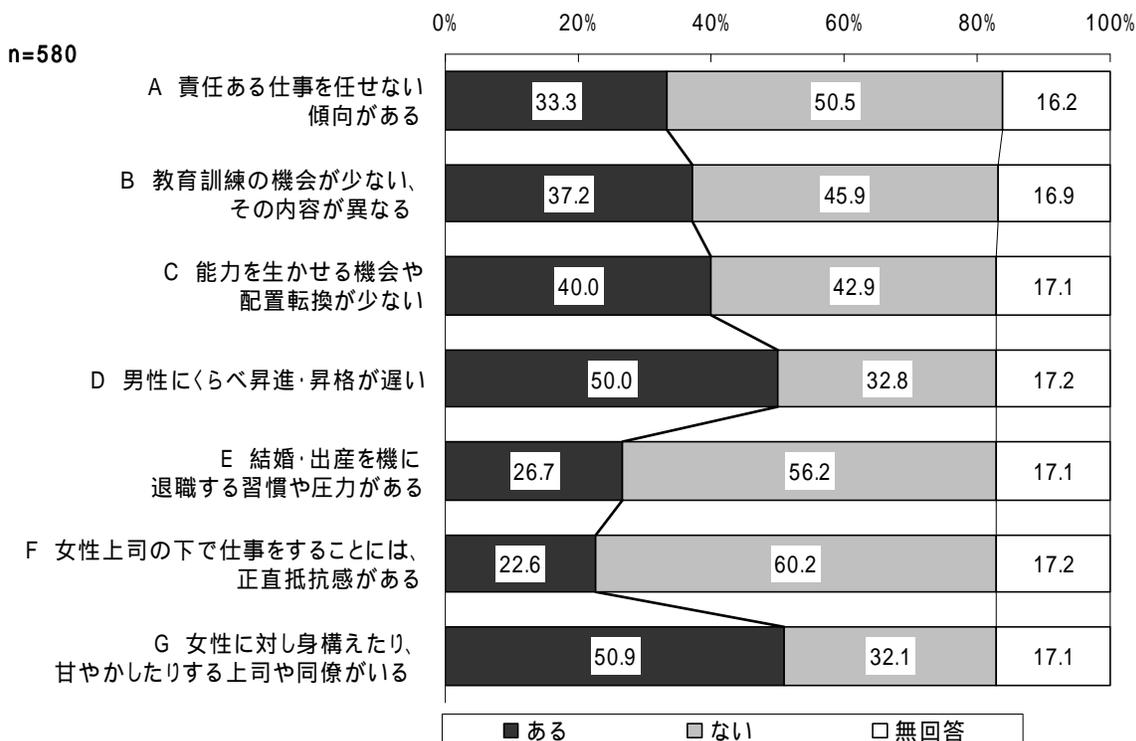
年代別では、「職業は持ち続けるが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る」が 50 歳代で 69.3% をピークとして全体的に比率が高くなっている。「結婚・出産してもずっと就業する」は若い人ほど比率が高い傾向がみられる。特に 30 歳代は 18.2% と最も比率が高くなっている。



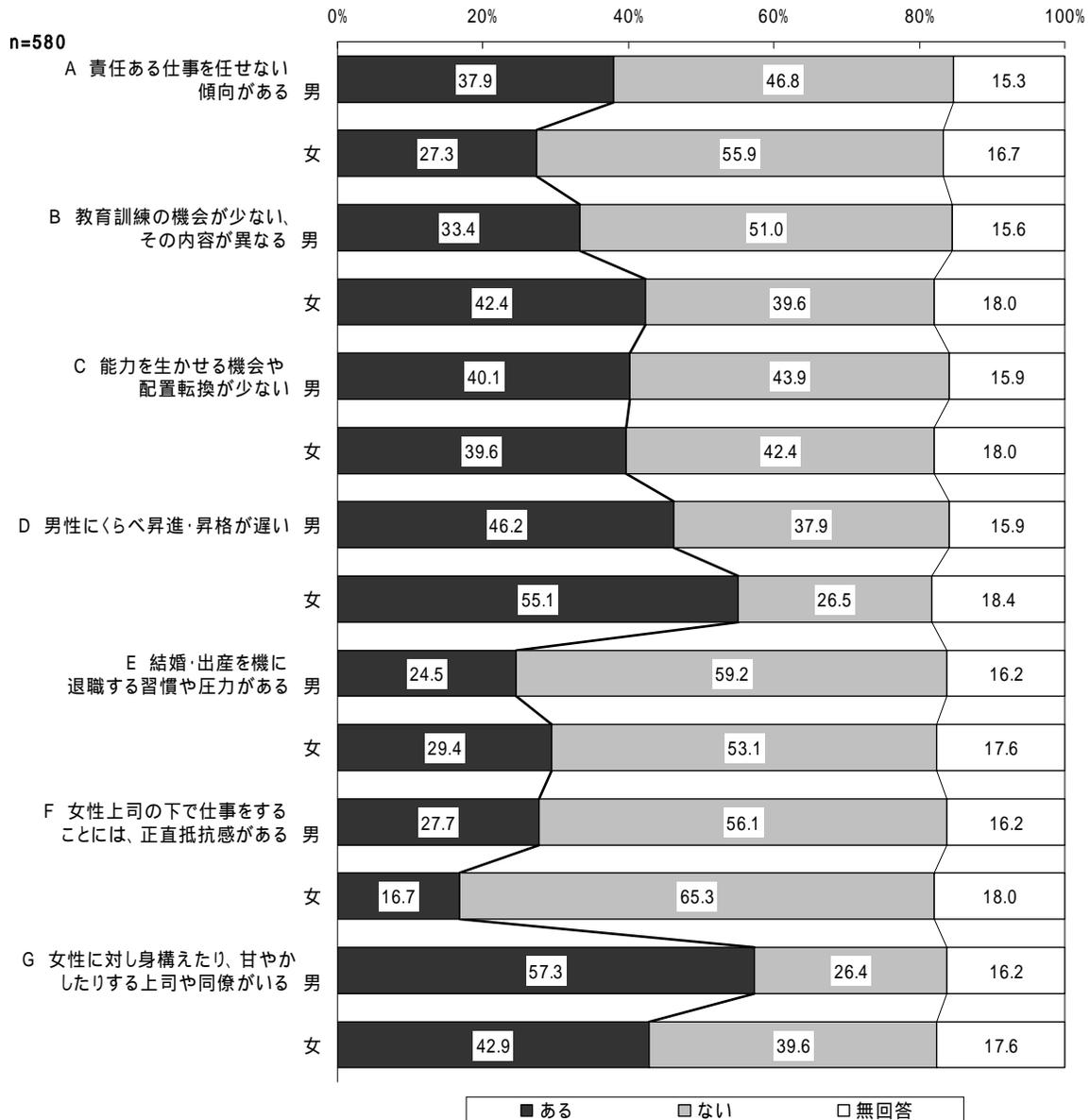
(2) 職場での男女平等(問15)

**現在、お勤めの方だけにうかがいます。あなたは職場の中で、女性について次のように感じる
ことがありますか。**

全体の結果は下図にみるとおりである。「ある」は「女性に対し身構えたり、甘やかしたりする上司や同僚がいる」と「男性に比べ昇進・昇格が遅い」の比率が高くなっている。それぞれの項目ごとの詳細は後で述べる。

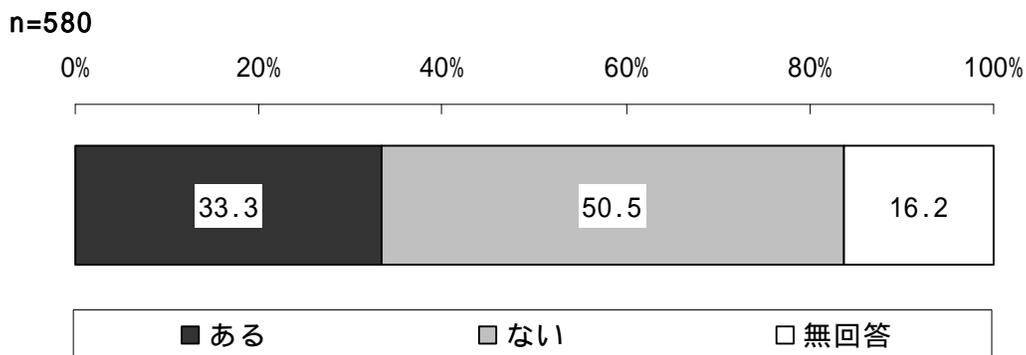


性別では、「ある」は「女性に対し身構えたり、甘やかしたりする上司や同僚がいる」や、「責任ある仕事を任せない傾向がある」等は男性が女性より比率がかなり高い。一方、「教育訓練の機会が少ない、その内容が異なる」、「男性に比べ昇進・昇格が遅い」等は女性が男性よりかなり比率が高くなっている。



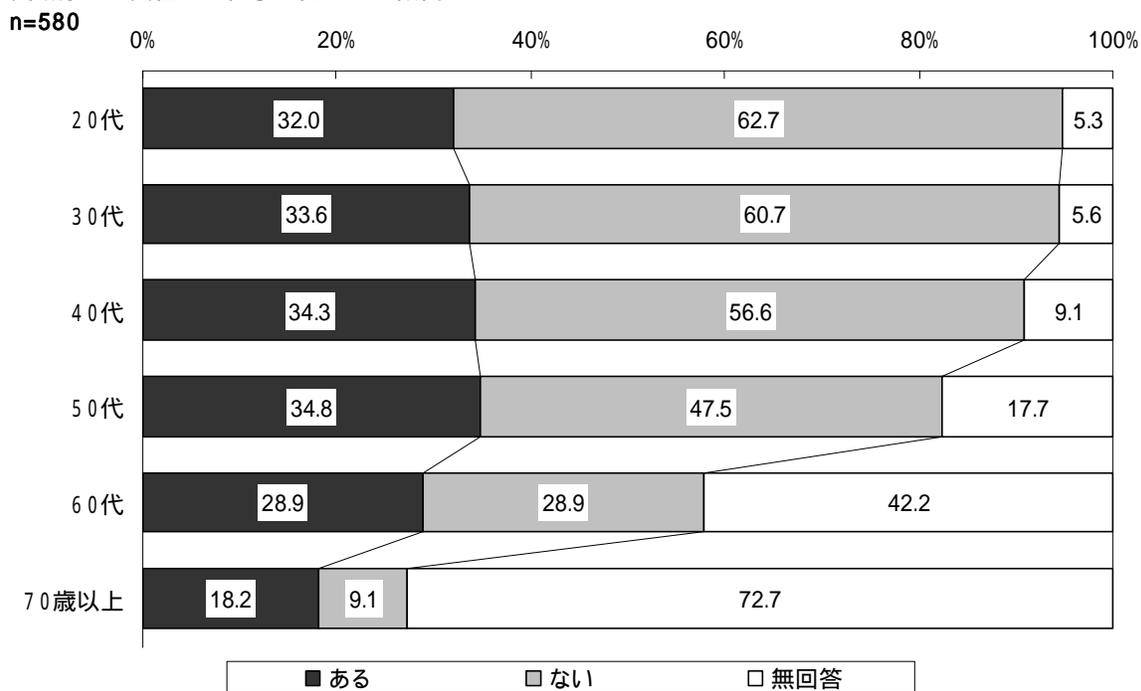
(A) 責任ある仕事を任せない傾向がある。

「ある」33.3%、「ない」50.5%となっている。
前回調査と比べ、「ある」が4.3ポイント減少している。



年代別では、60代と70歳以上を除く世代で「ある」が30%を超えている。

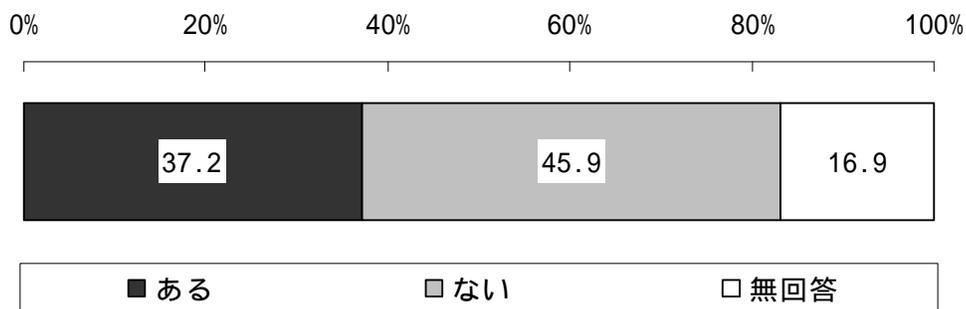
年代別 A 責任ある仕事を任せない傾向がある



(B) 教育訓練の機会が少ない、その内容が異なる。

「ある」37.2%、「ない」45.9%となっている。
前回調査と比べ、「ない」が3.1ポイント増加している。

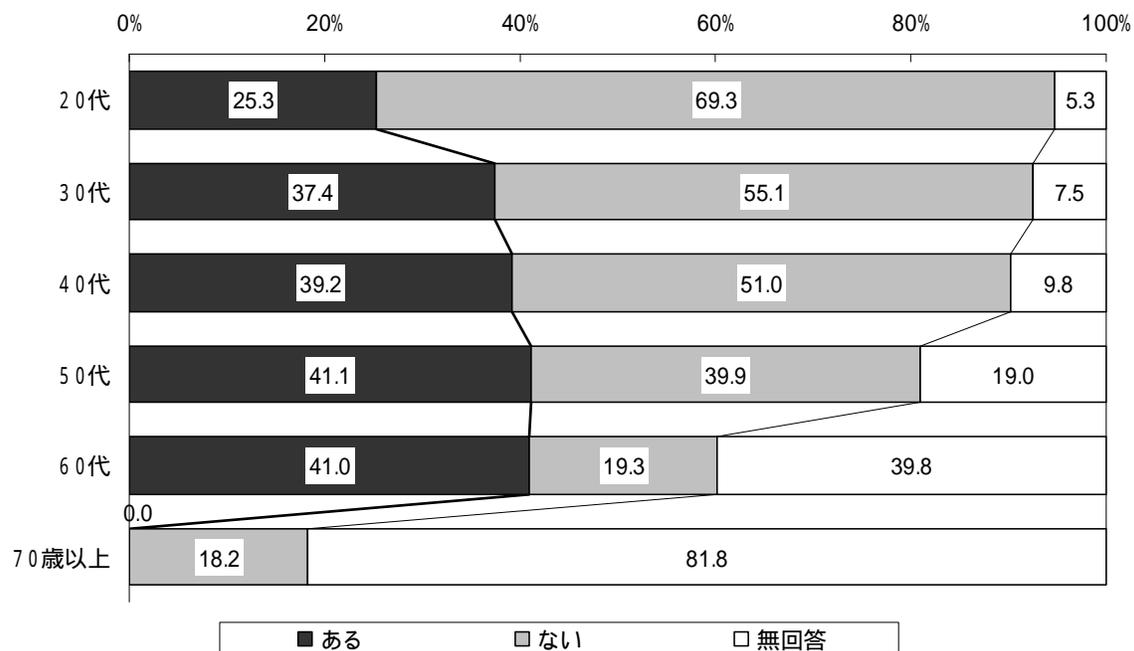
n=580



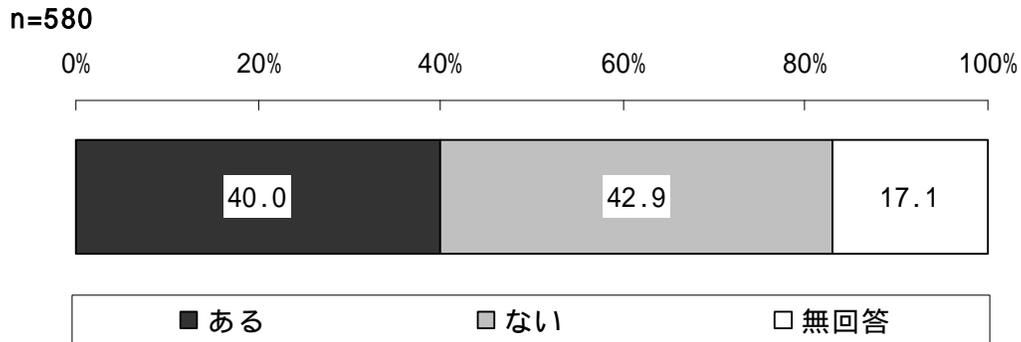
年代別では、20代から40代においては50%以上が「ない」としている。

年代別 B 教育訓練の機会が少ない、その内容が異なる

n=580

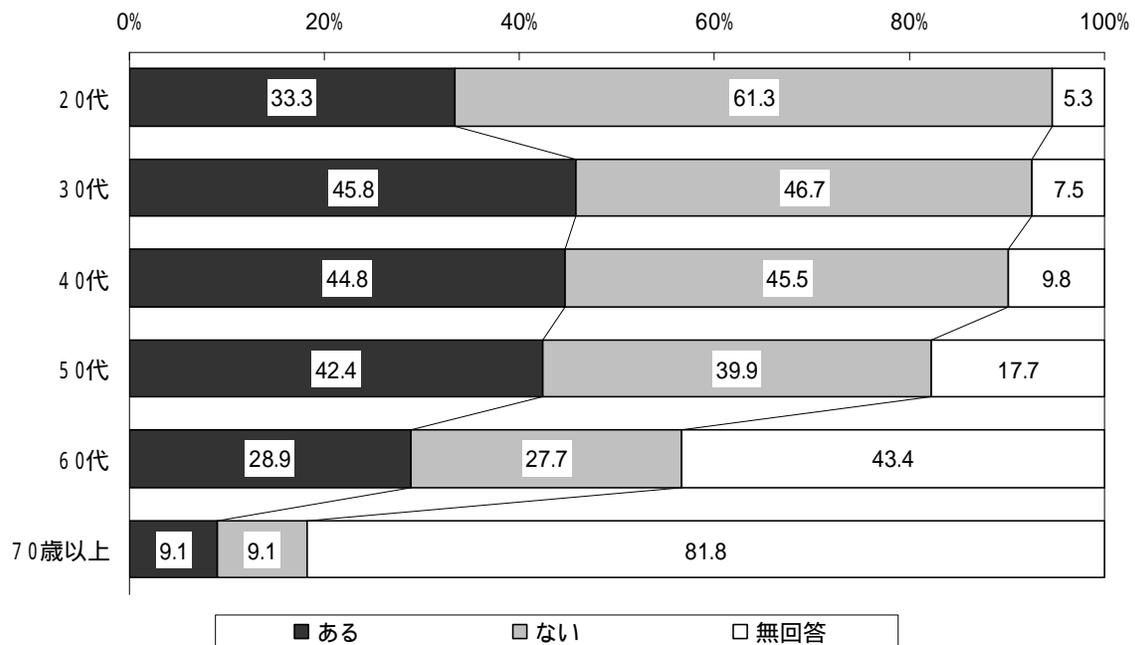


(C) 能力を生かせる機会や配置転換が少ない。
 「ある」40.0%、「ない」42.9%となっている。
 前回調査と比べ、「ある」が4.6ポイント減少している。



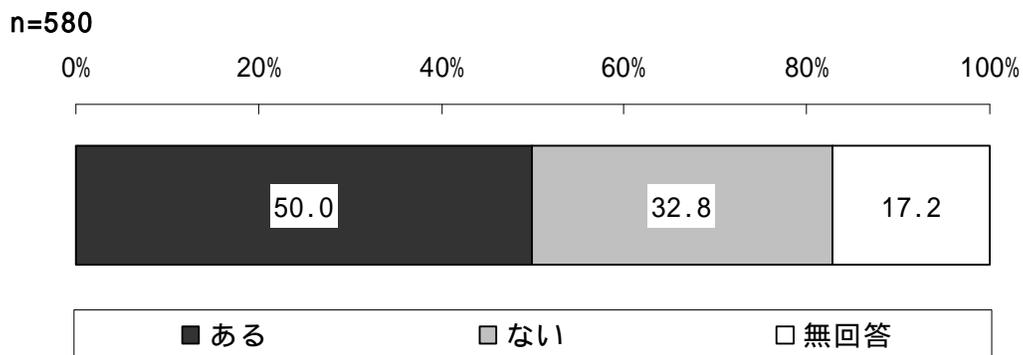
年代別では、20代を除くと、「ある」は加齢に伴い比率が低下する傾向がみられる。

年代別 C 能力を生かせる機会や配置転換が少ない
 n=580



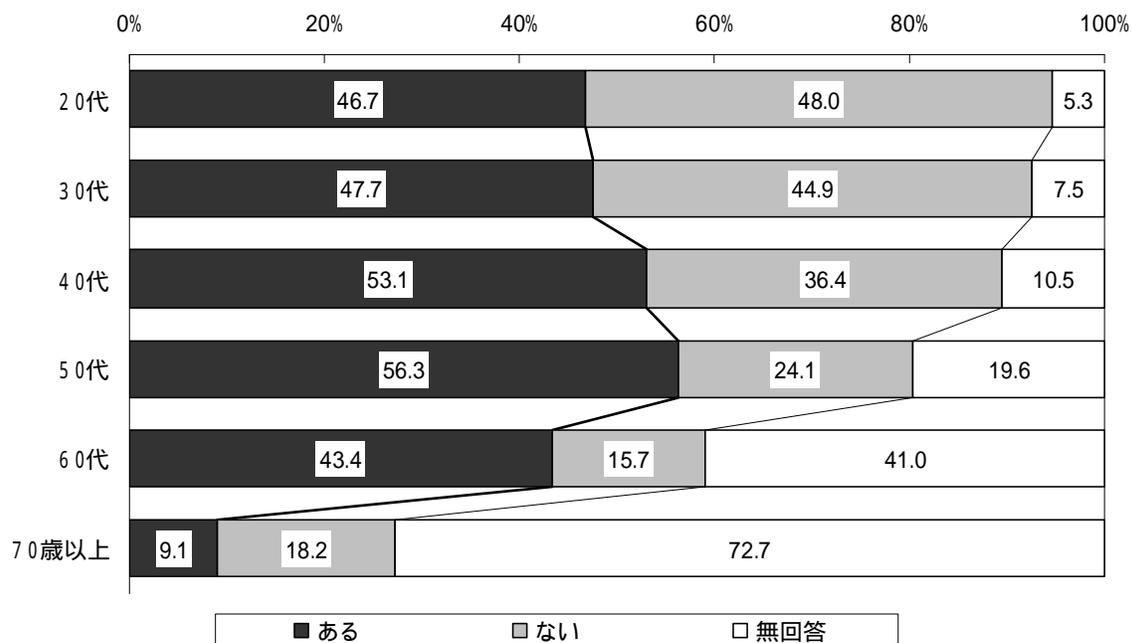
(D) 男性にくらべ昇進・昇格が遅い。

「ある」50.0%、「ない」32.8%となっている。
前回調査と比べ、「ある」が3.6ポイント減少している。

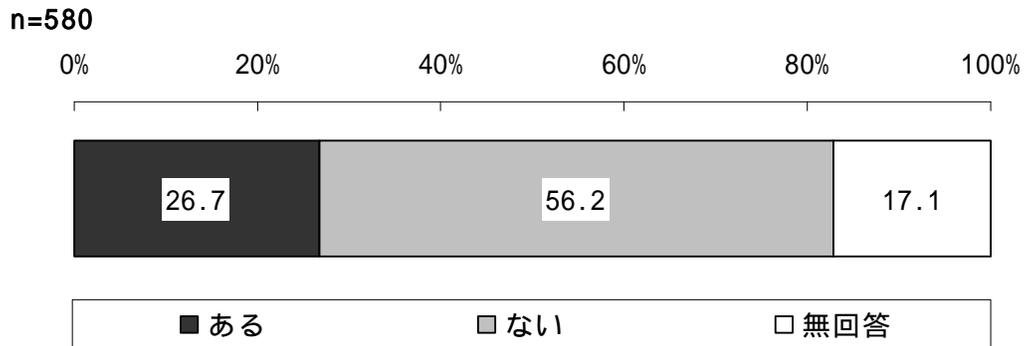


年代別では、「ある」は40代と50代で50%を超えている。

年代別 D 男性にくらべ昇進・昇格が遅い
n=580

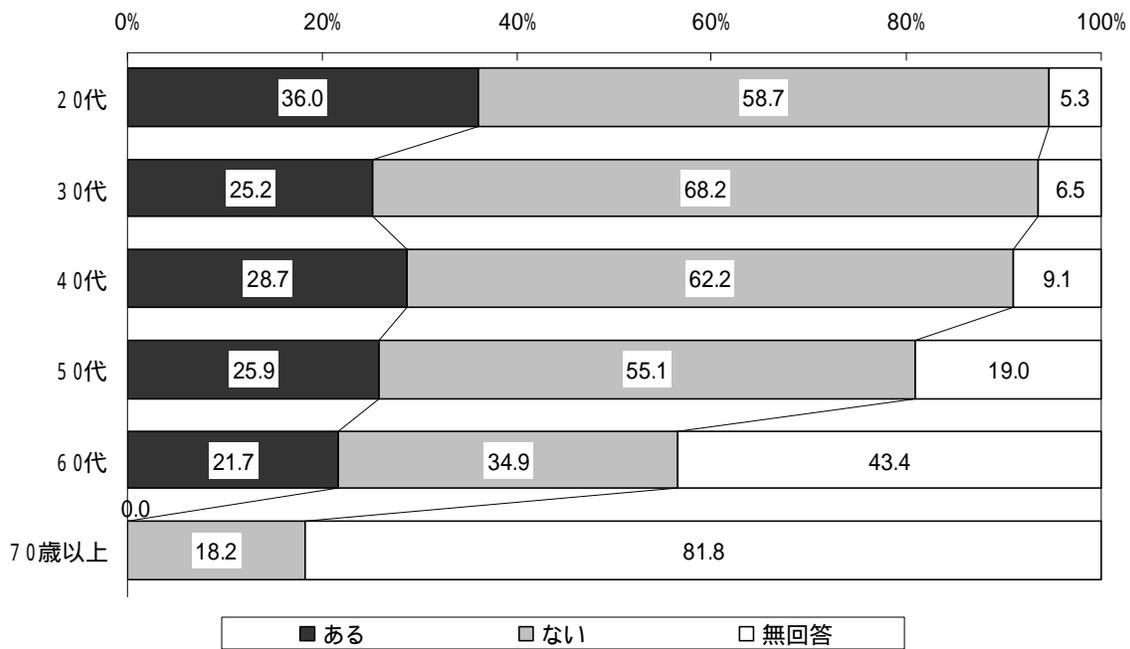


(E) 結婚・出産を機に退職する習慣や圧力がある。
 「ある」26.7%、「ない」56.2%となっている。
 前回調査と比べ、あまり大きな差異はみられない。



年代別では、「ある」は30代を除き、加齢に伴い比率が低下する傾向がみられる。

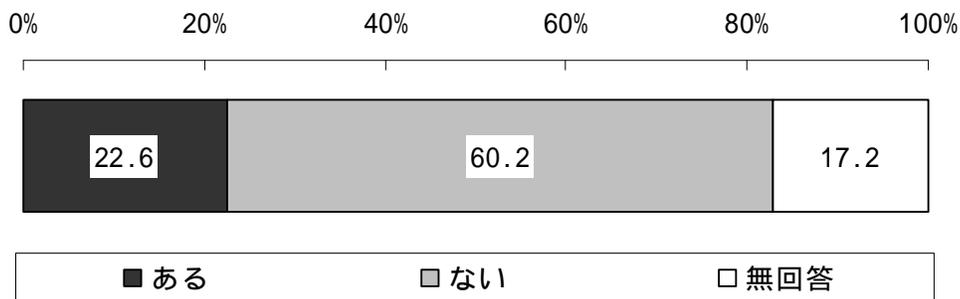
年代別 E 結婚・出産を機に退職する習慣や圧力がある
 n=580



(F) 女性上司の下で仕事をするには、正直抵抗感がある。

「ある」22.6%、「ない」60.2%となっている。
前回調査と比べ、あまり大きな差異はみられない。

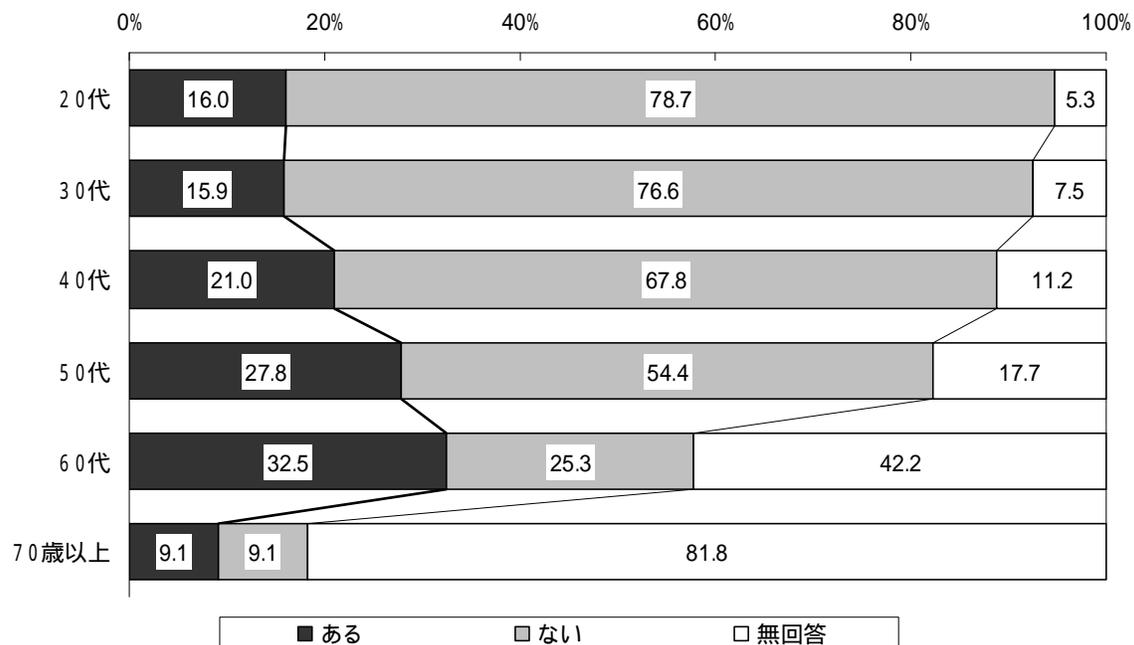
n=580



年代別では、「ある」は70歳以上を除くと、加齢に伴い比率が増加する傾向がみられる。

年代別 F 女性上司の下で仕事をするには、正直抵抗感がある

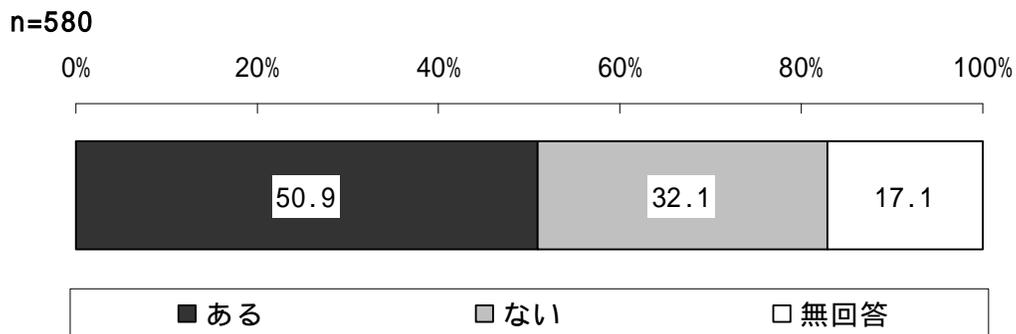
n=580



(G) 女性に対して身構えたり、甘やかしたりする上司や同僚がいる。

「ある」50.9%、「ない」32.1%となっている。

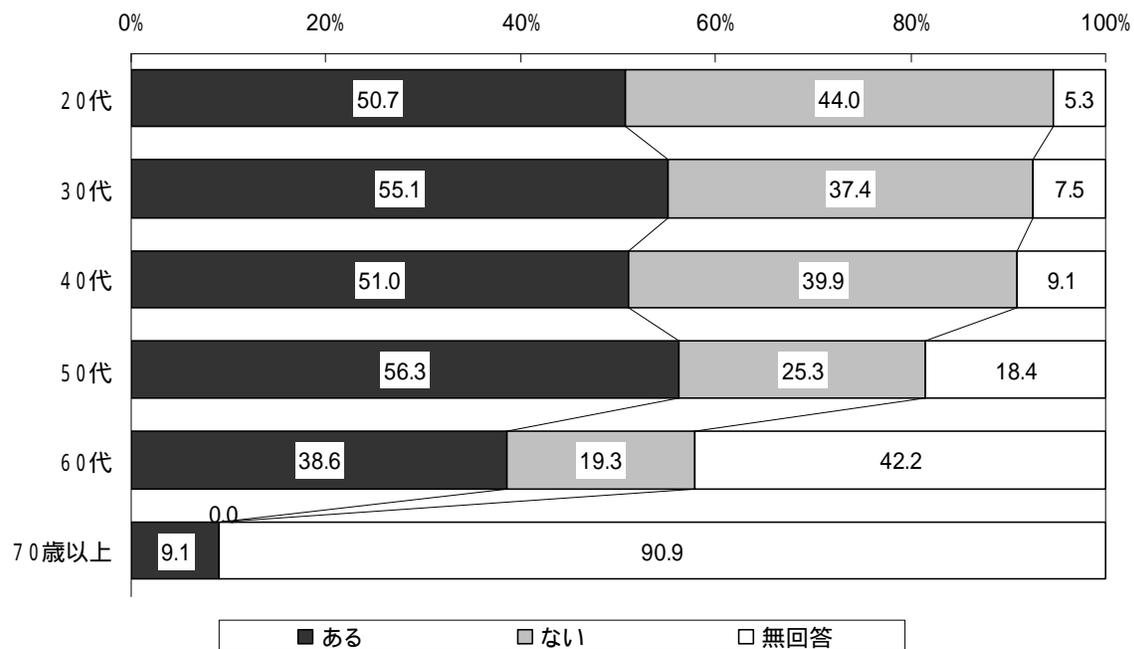
前回調査と比べ、「ある」が2.7ポイント増加している。



年代別では、「ある」は50代までは50%以上で大きな差異はないが、60代以上になると比率が非常に低下している。

年代別 G 女性に対し身構えたり、甘やかしたりする上司や同僚がいる

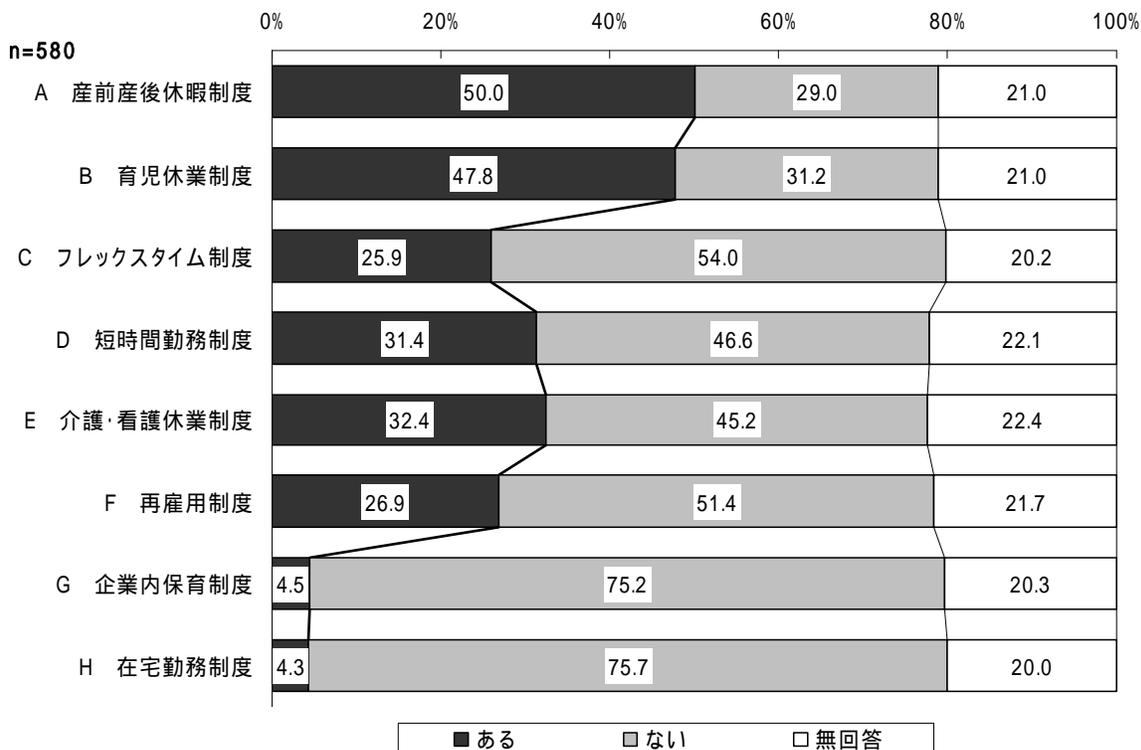
n=580



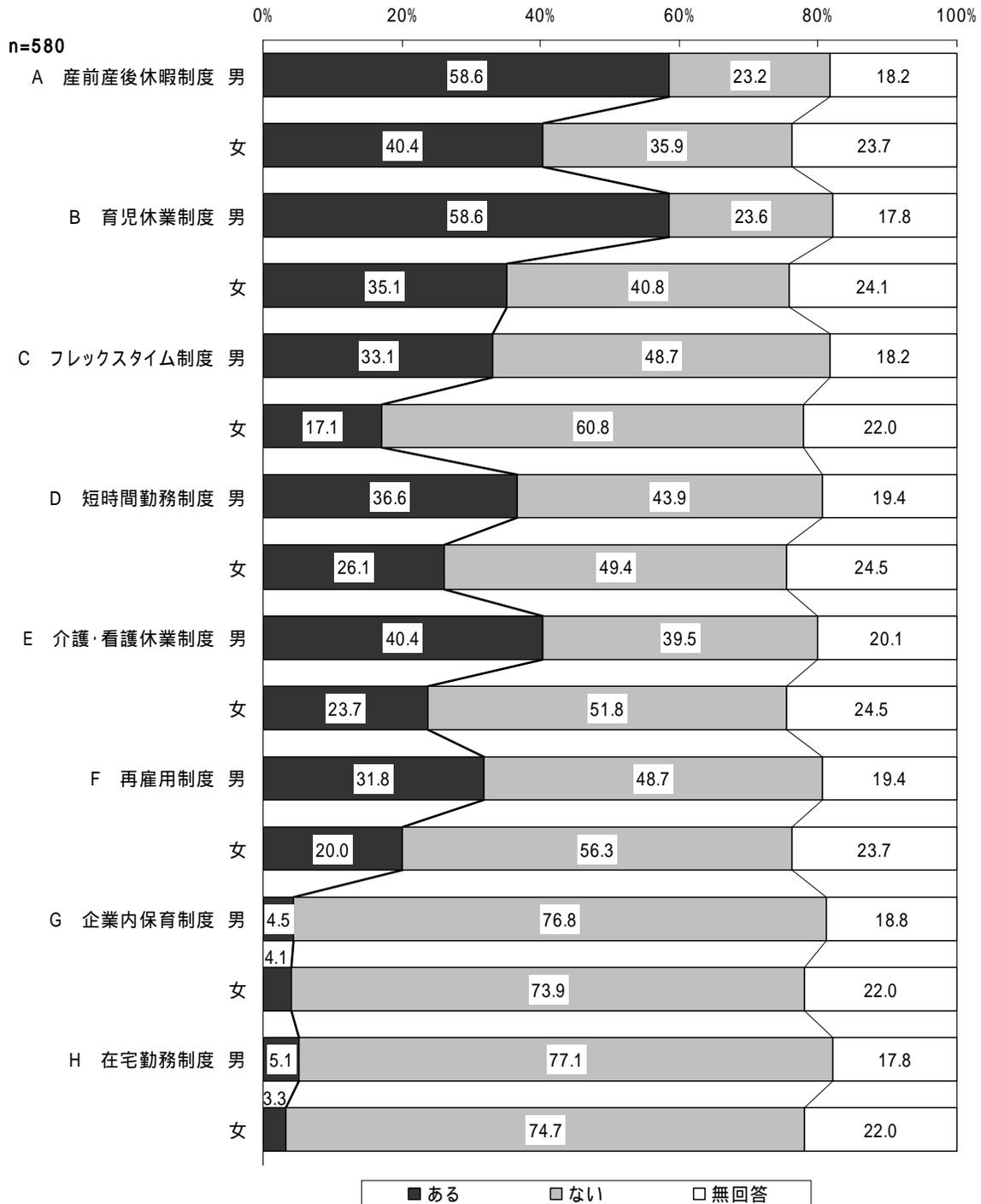
(3) 職場で普及している各種休業制度等(問16)

現在、お勤めの方だけにうかがいます。あなたの職場には次のような制度はありますか。

全体の結果は下図にみるとおりである。「ある」は産前産後休暇制度と育児休業制度が50%前後と比率が高くなっている。それぞれの項目ごとの詳細は後で述べる。

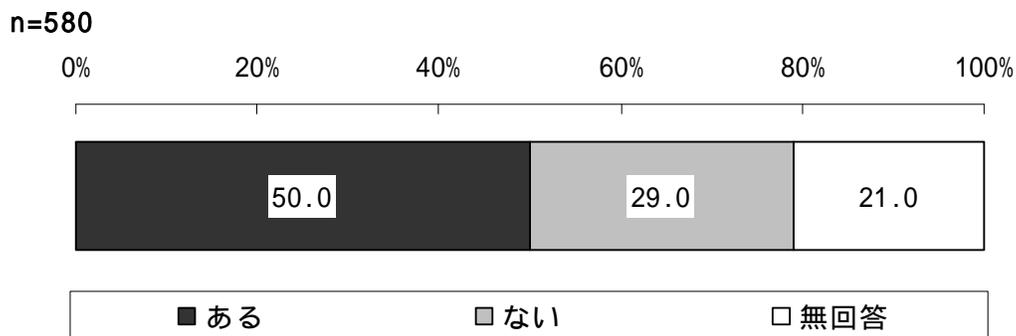


性別では、「ある」はいずれの項目でも男性が女性より比率がかなり高くなっている。
女性が働く職場での各種制度等の充実が求められている。



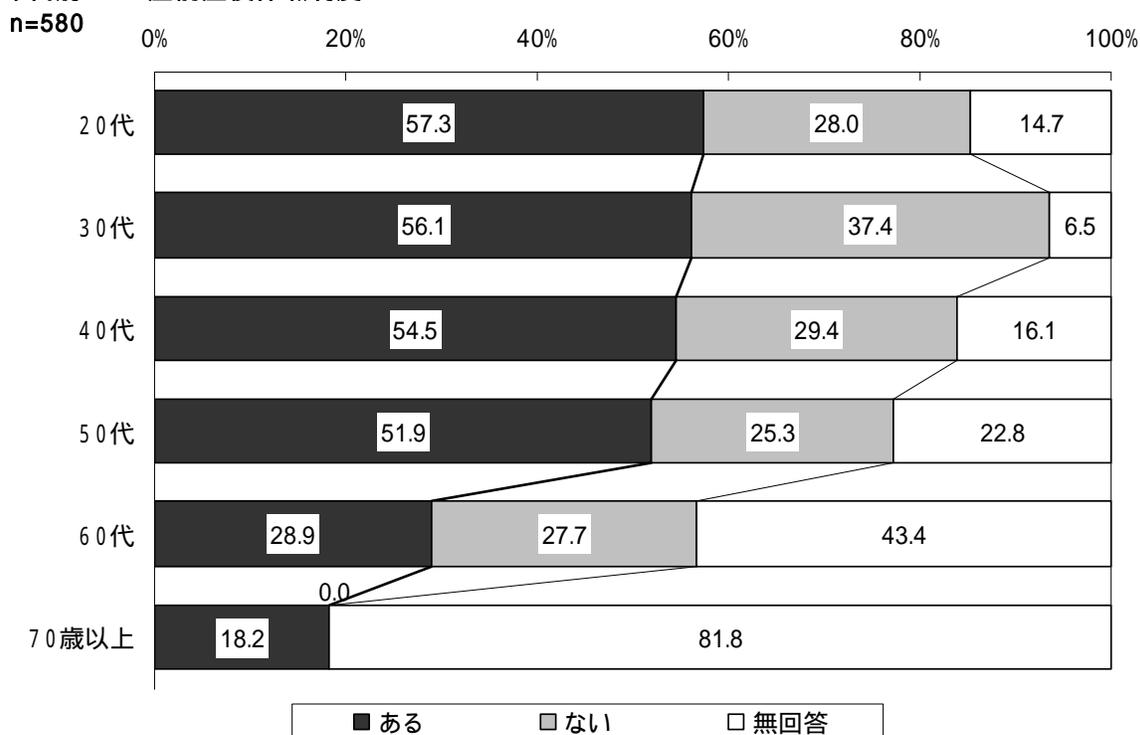
(A) 産前産後休暇制度

「ある」50.0%、「ない」29.0%となっている。
 前回調査と比べ、「ある」が6.4ポイント減少している。



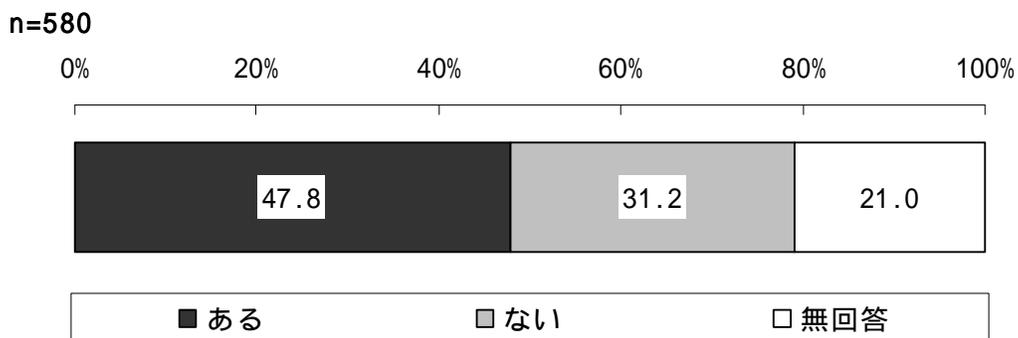
年代別では、20代から50代までにおいて「ある」が50%以上の比率である。

年代別 A 産前産後休暇制度



(B) 育児休業制度

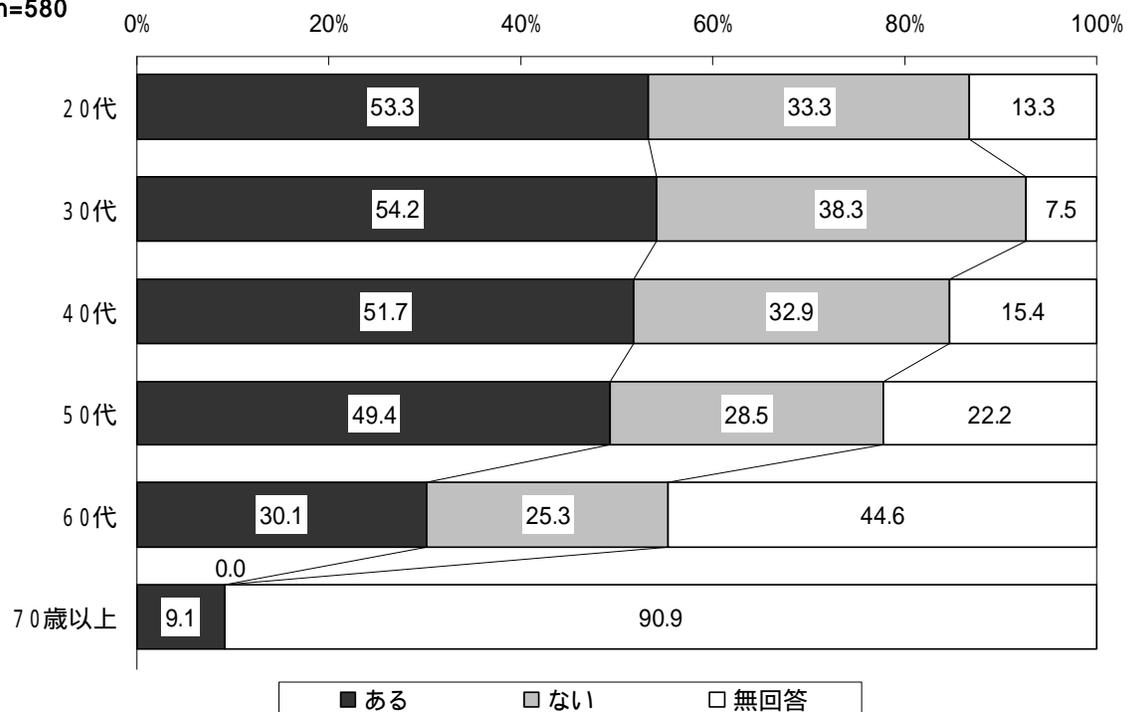
「ある」47.8%、「ない」31.2%となっている。
 前回調査と比べ、大きな差異はみられない。



年代別では、20代から50代までにおいて概ね50%の比率で「ある」となっている。

年代別 B 育児休業制度

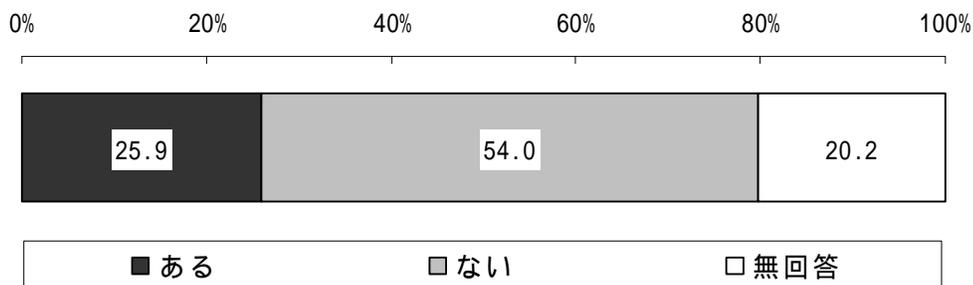
n=580



(C)フレックスタイム制度

「ある」25.9%、「ない」54.0%となっている。
 前回調査と比べ、ほとんど差異はみられない。

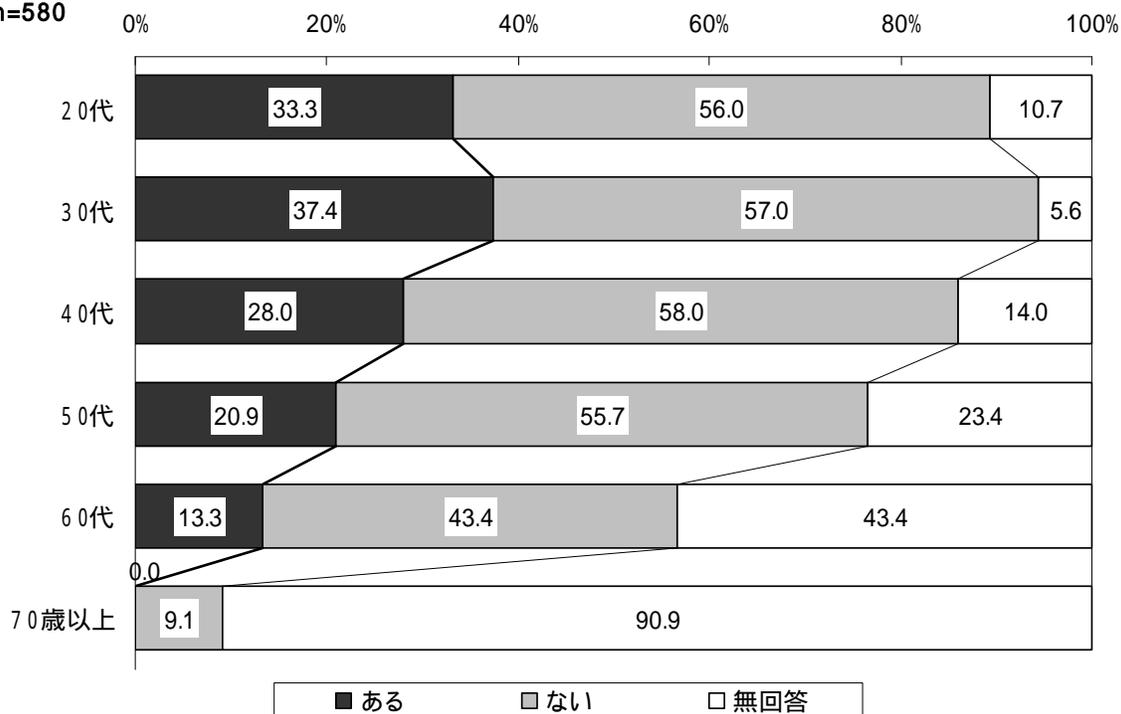
n=580



年代別では、60代と70歳以上を除いた世代で「ない」が50%以上の比率となっている。

年代別 C フレックスタイム制度

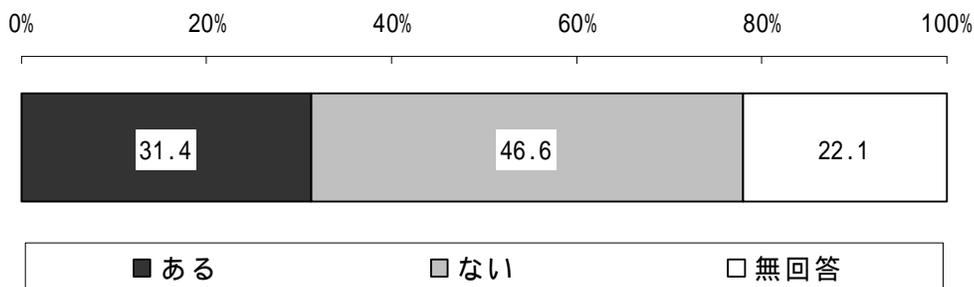
n=580



(D) 短時間勤務制度

「ある」31.4%、「ない」46.6%となっている。
前回調査と比べ、「ある」が3.3ポイント増加している。

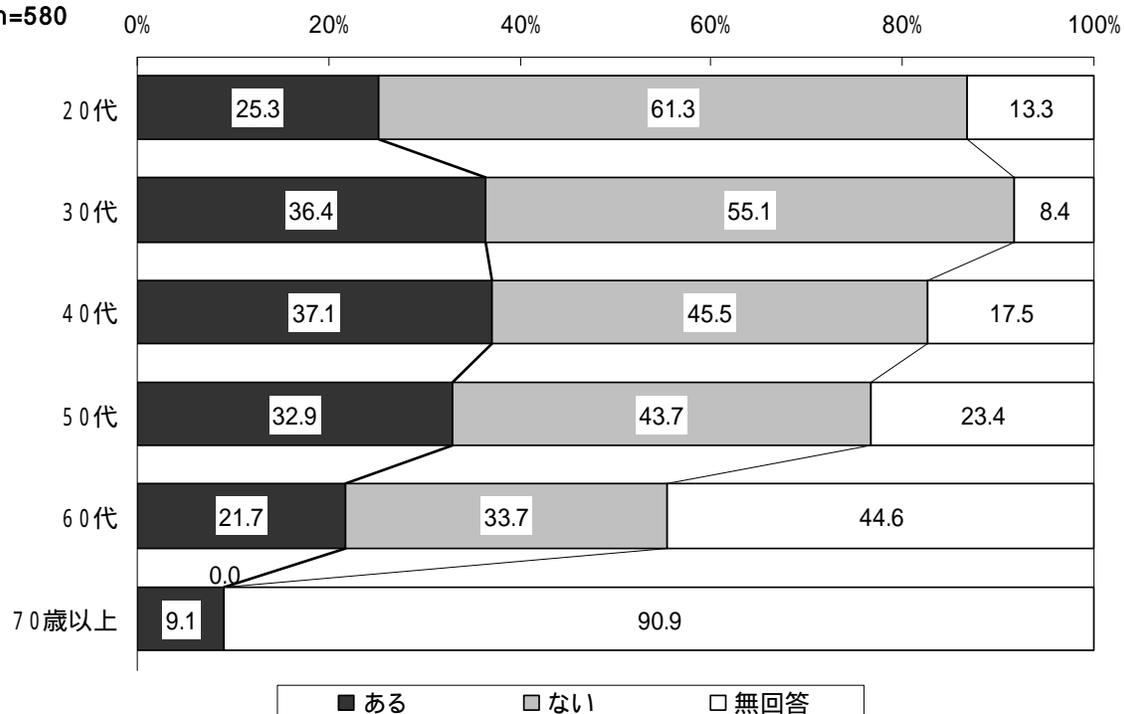
n=580



年代別では、「ある」は40代の37.1%をピークに山型の傾向となっている。

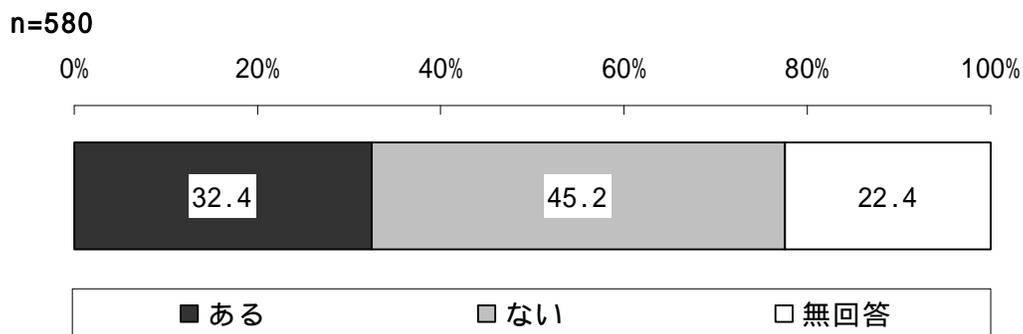
年代別 D 短時間勤務制度

n=580



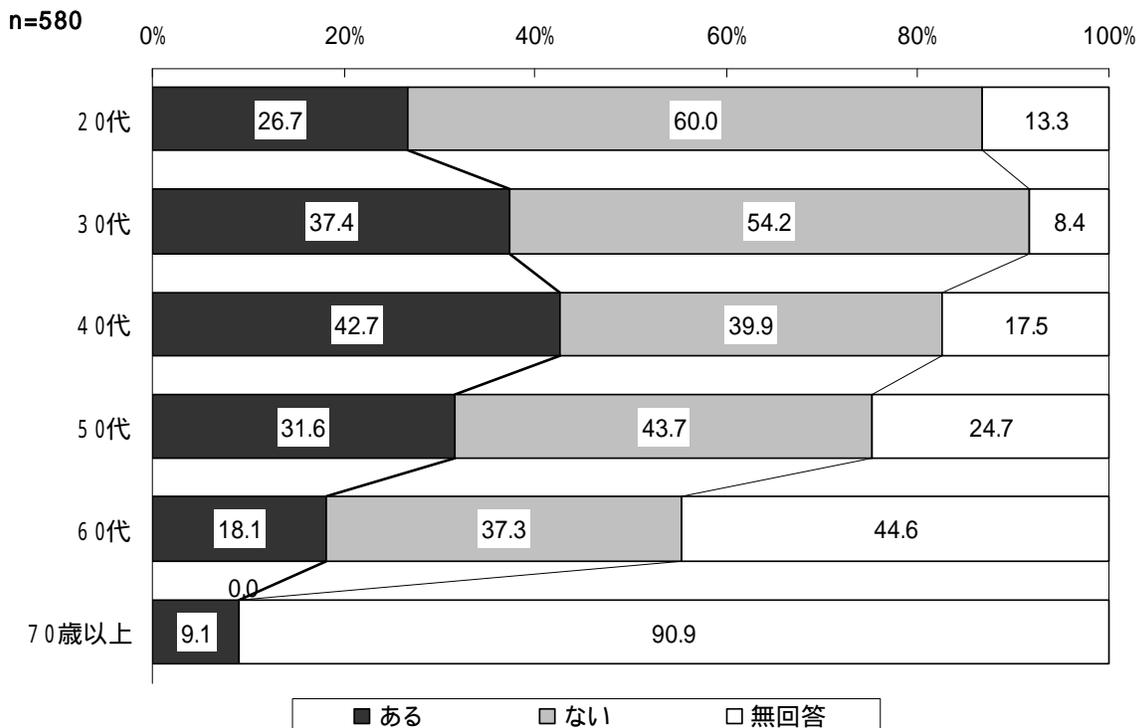
(E) 介護・看護休業制度

「ある」32.4%、「ない」45.2%となっている。
前回調査と比べ、「ある」が2.2ポイント増加している。



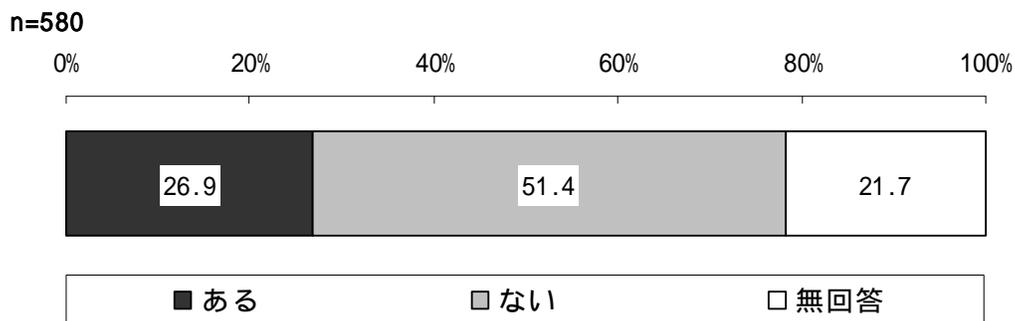
年代別では、「ある」は40代の42.7%をピークに山型の傾向となっている。

年代別 E 介護・看護休業制度



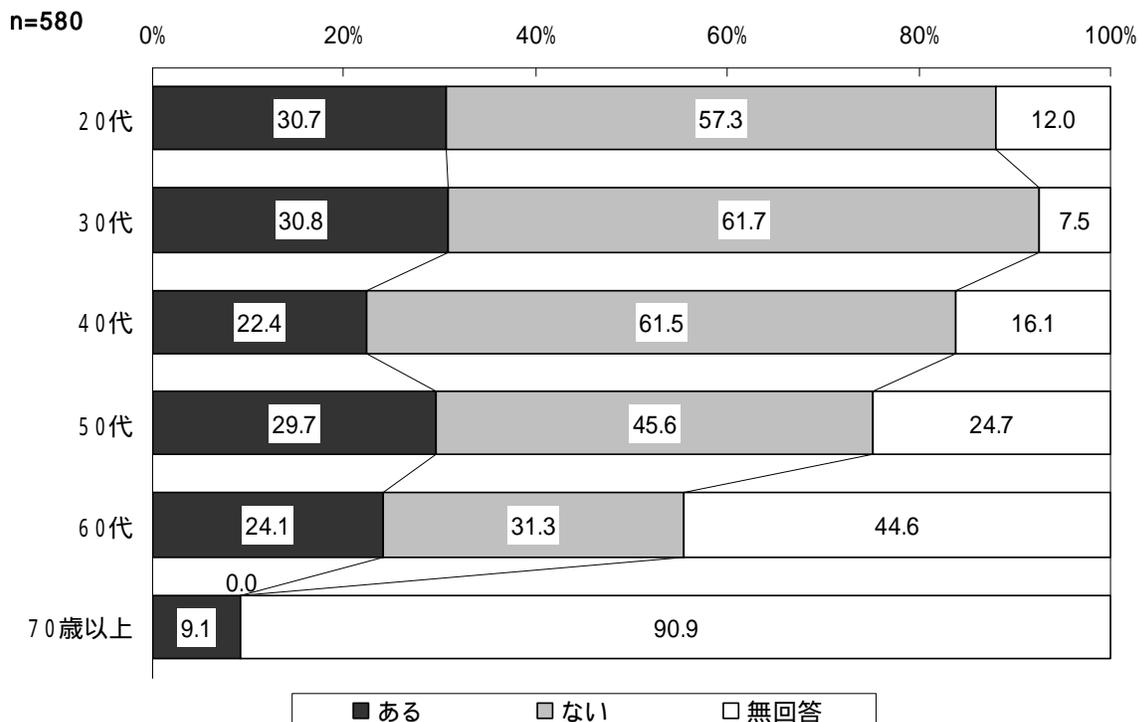
(F) 再雇用制度

「ある」26.9%、「ない」51.4%となっている。
 前回調査と比べ、「ある」が7.6ポイント増加しているのが目立つ。



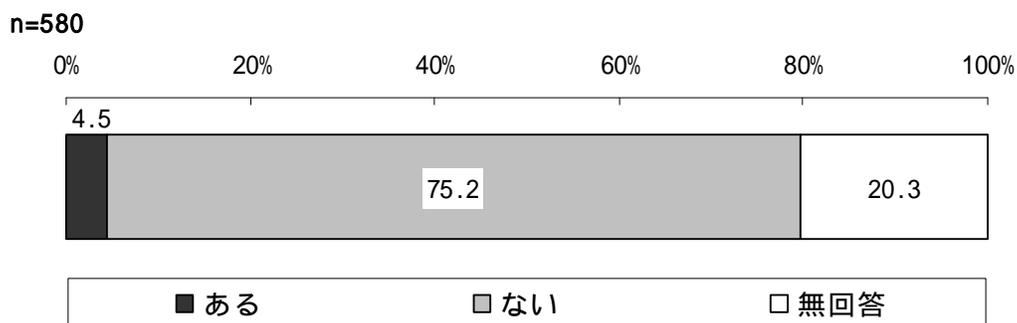
年代別では、「ある」は40代の22.4%で少し比率が低くなっているものの、現役世代の職場では約30%の比率で再雇用制度があることがうかがえる。

年代別 F 再雇用制度



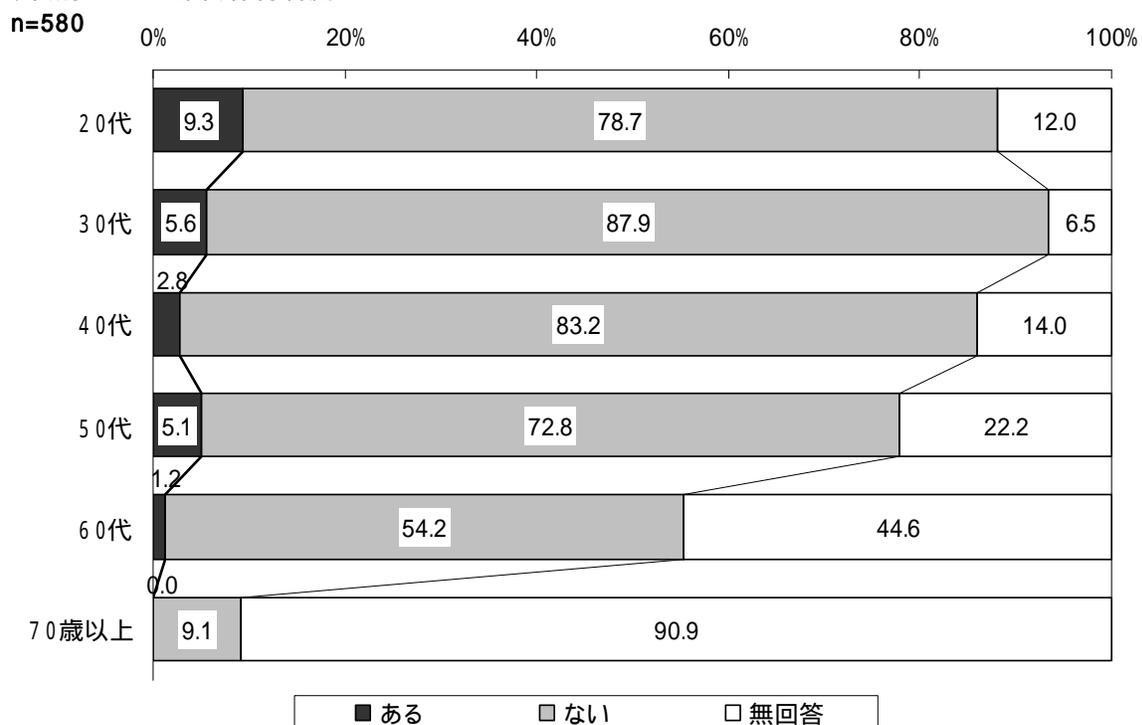
(G) 企業内保育制度

「ある」4.5%、「ない」75.2%となっている。この制度がある企業はまだ非常に少ない。
前回調査と比べ、「ある」が1.9ポイント増加している。



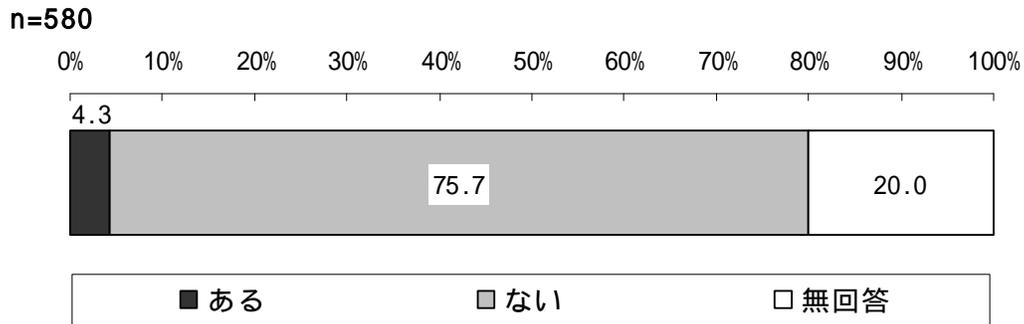
年代別では、「ある」は20代の9.3%が最も高く、全ての世代でこの制度の導入が低いことがうかがえる。

年代別 G 企業内保育制度



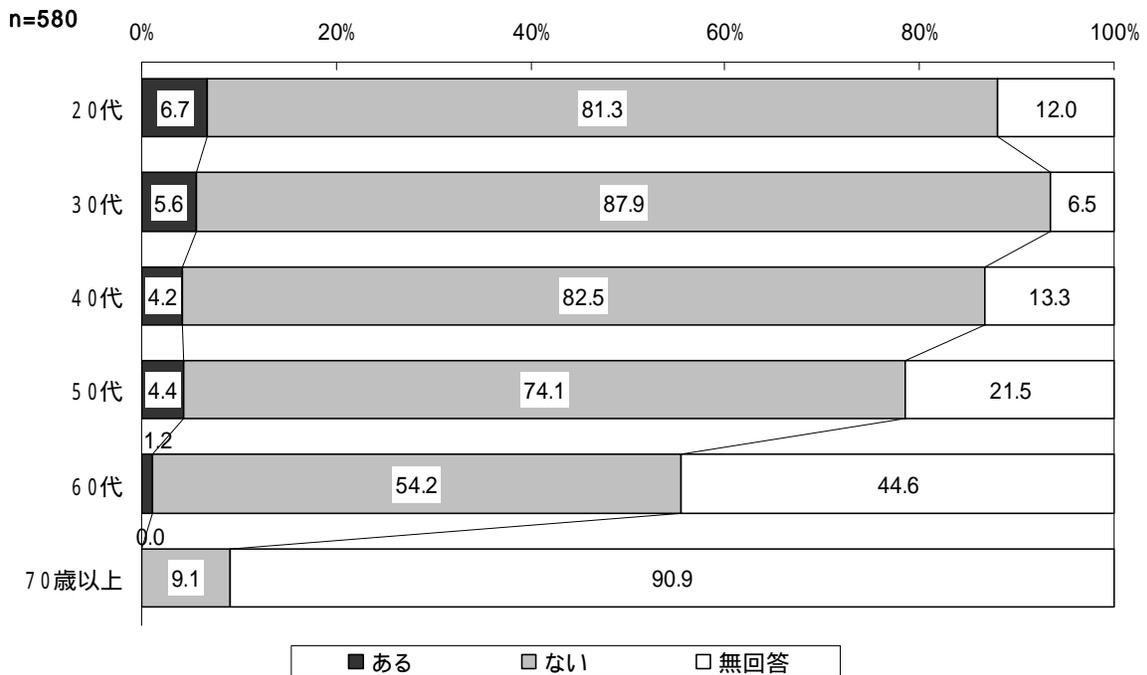
(H) 在宅勤務制度

「ある」4.3%、「ない」75.7%となっている。全体的に、導入している職場はまだ少ない。前回調査と比べ、「ある」が1.7ポイント増加している。



年代別では、「ある」は20代の6.7%が最も高く、全ての世代でこの制度の導入が低いことがうかがえる。

年代別 H 在宅勤務制度

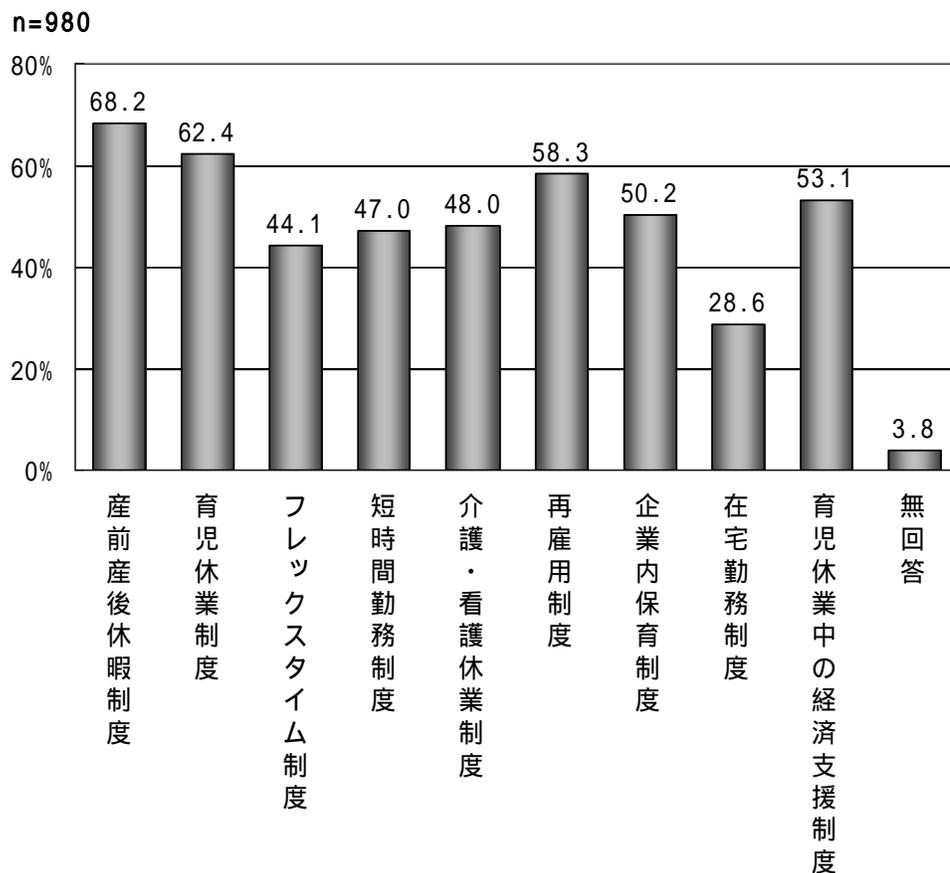


(4) 職場に必要な各種休業制度等(問17)

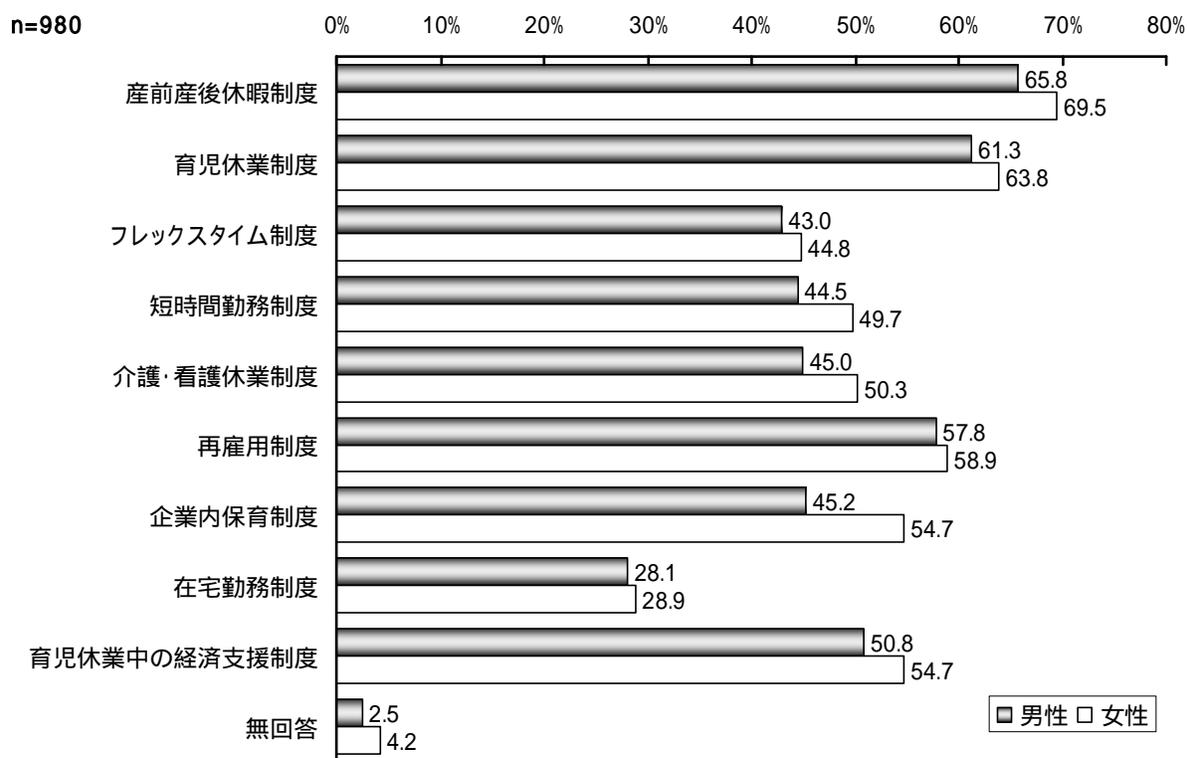
男女が共に働きやすい職場環境を作るため、あなたはどのような制度が必要だと思いますか。

「産前産後休暇制度」が68.2%と最も比率が高い。次いで「育児休業制度」62.4%、「再雇用制度」58.3%、「育児休業中の経済支援制度」53.1%、「企業内保育制度」50.2%とつづく。これらは5割以上の希望となっている。「在宅勤務制度」の28.6%を除くと、他も5割近い希望比率となっている。

前回調査と比べ、「産前産後休暇制度」が3.8ポイント増加し、反対に「介護・看護休業制度」が5.1ポイント減少しているのが目立つ。



性別では、いずれの項目でも、女性の比率が男性の比率より高くなっている。その中でも、「企業内保育制度」9.5ポイント、「介護・看護休業制度」5.3ポイント、「短時間勤務制度」5.2ポイント女性の比率が高いのが特徴となっている。

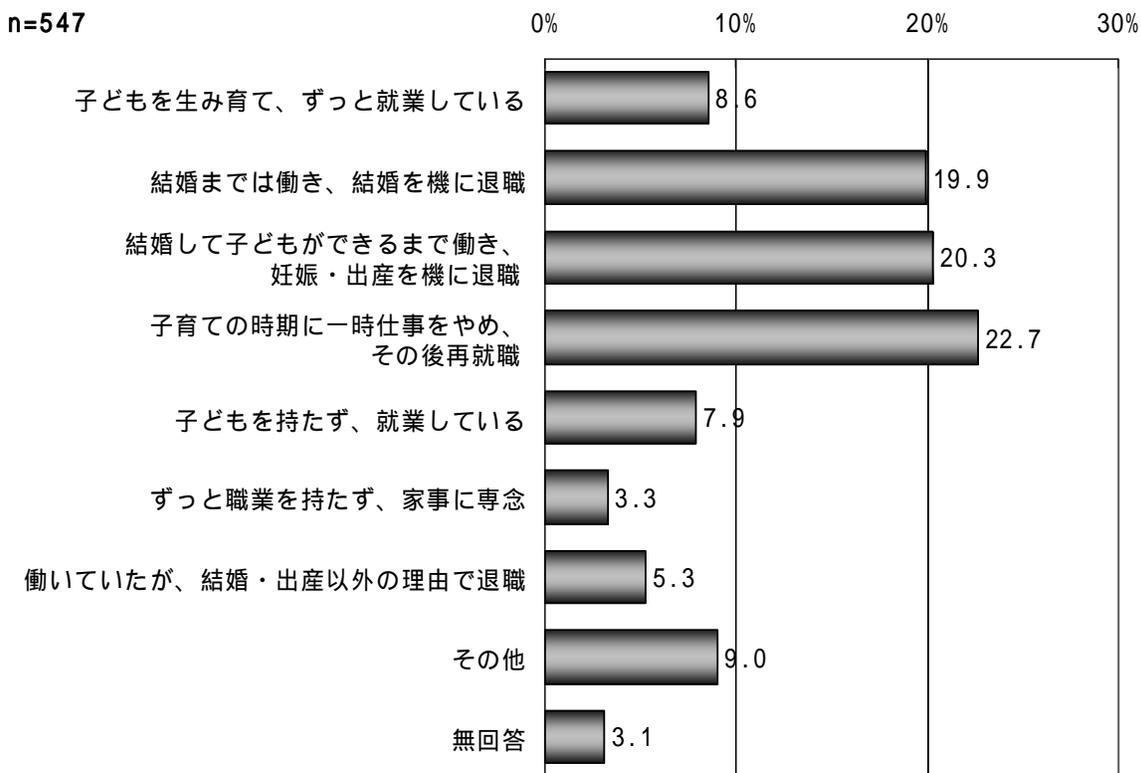


(5) 女性の働き方(問18)

女性の方だけにうかがいます。あなたの働き方は次のどれにあたりますか。

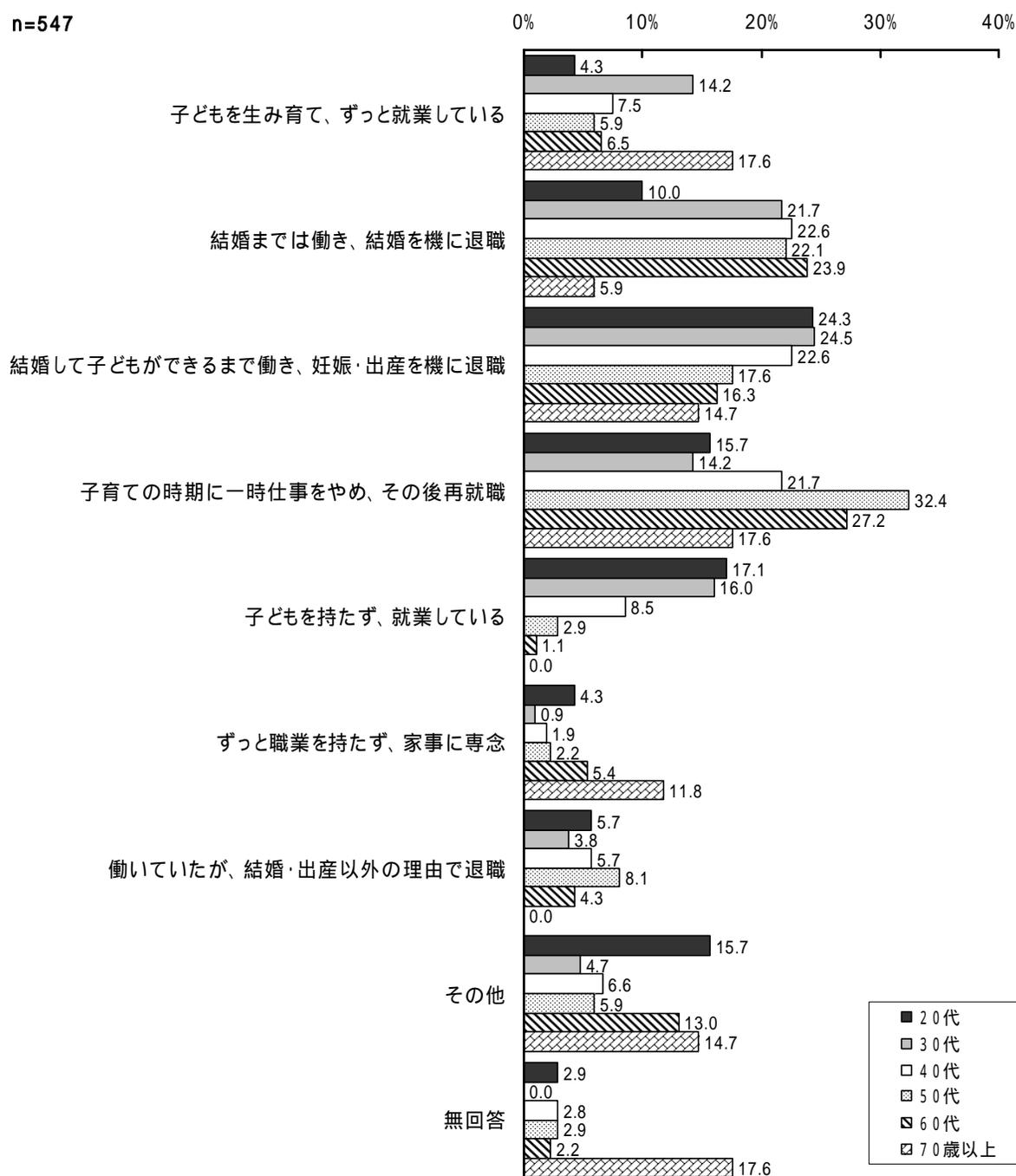
「子育て時期に一時仕事をやめ、その後再就職」が22.7%と最も比率が高い。次いで「結婚して子どもができるまで働き、妊娠・出産を機に退職」20.3%、「結婚までは働き、結婚を機に退職」19.9%とつづく。これらが3つの大きな働き方となっている。

前回調査と比べ、「結婚して子どもができるまで働き、妊娠・出産を機に退職」が3.9ポイント、「子育て時期に一時仕事をやめ、その後再就職」が2.4ポイント増加しているのが特徴的である。



年代別では、「子どもを産み育て、ずっと就業している」は30代と70歳以上で比率が高くなっている。「結婚までは働き、結婚を機に退職」は30～60代で20%以上の比率となっている。「結婚して子どもができるまで働き、妊娠・出産を機に退職」は加齢に伴い比率が減少する傾向がみられる。「子育ての時期に一時仕事をやめ、その後再就職」は40～60代で20%以上の比率となっている。「子どもを持たず、就業している」は若い人ほど比率が高くなる傾向がみられる。特に20～30代では15%以上の比率となっている。

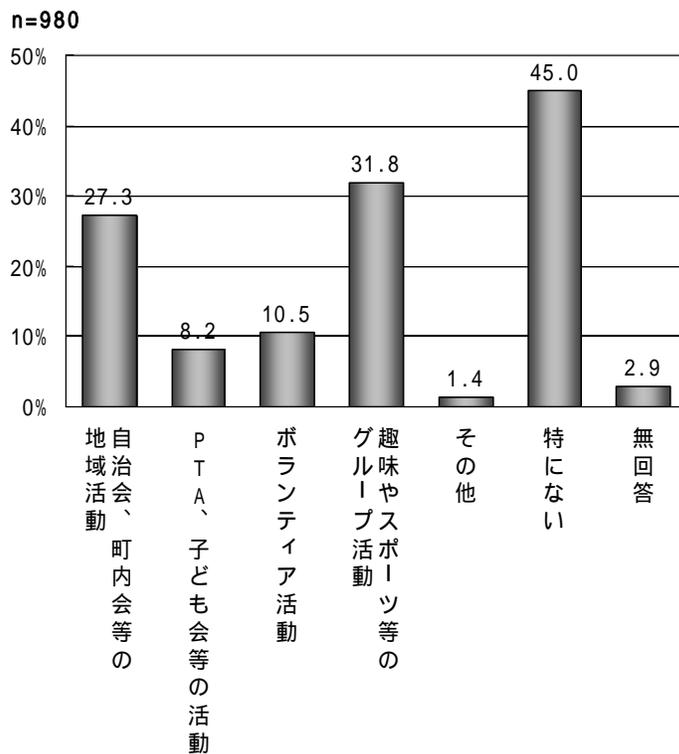
n=547



(6) 社会活動への参加状況(問19)

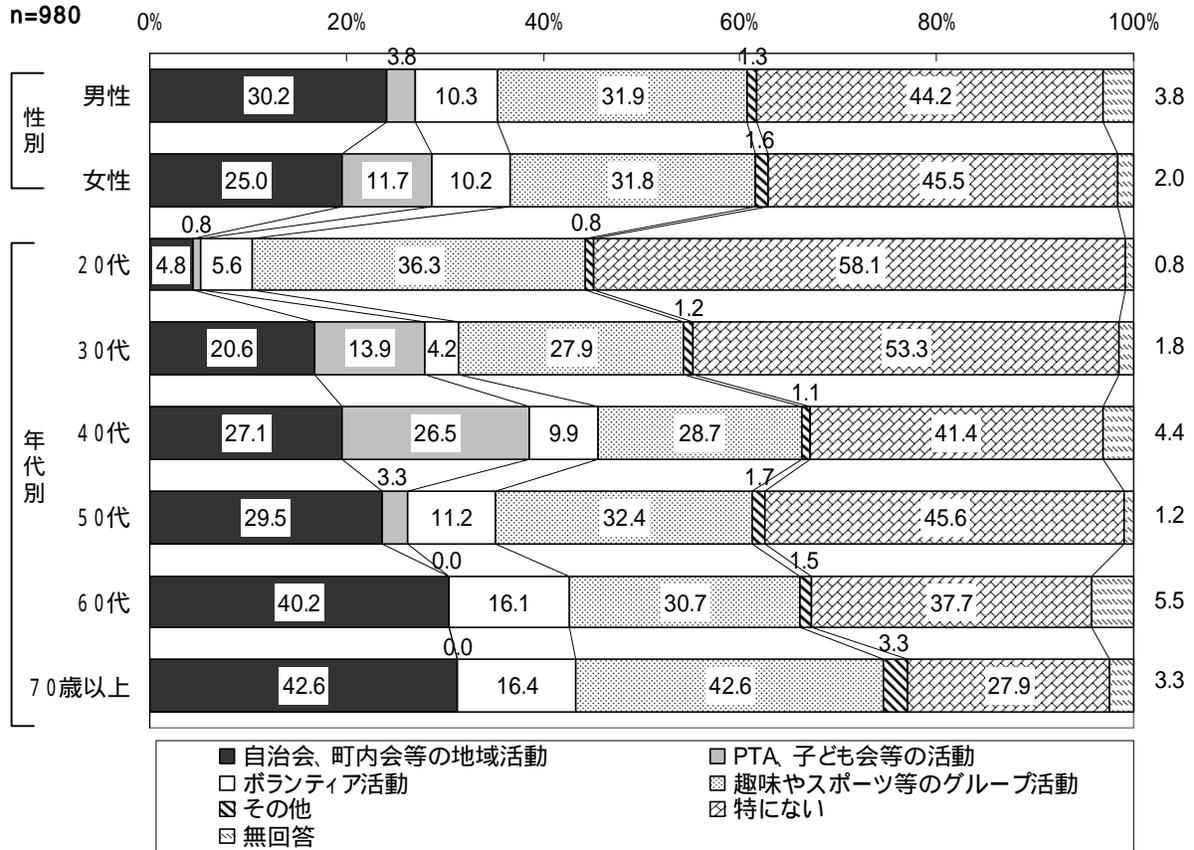
あなたは現在、仕事以外で次のような社会活動に参加されていますか

「特にない」が45.0%と最も比率が高い。次いで「趣味やスポーツ等のグループ活動」31.8%、「自治会、町内会等の地域活動」27.3%とつづく。
前回調査と比べ、あまり大きな差異はみられない。



性別では、「自治会、町内会等の地域活動」は男性が女性より 5.2 ポイント比率が高い。

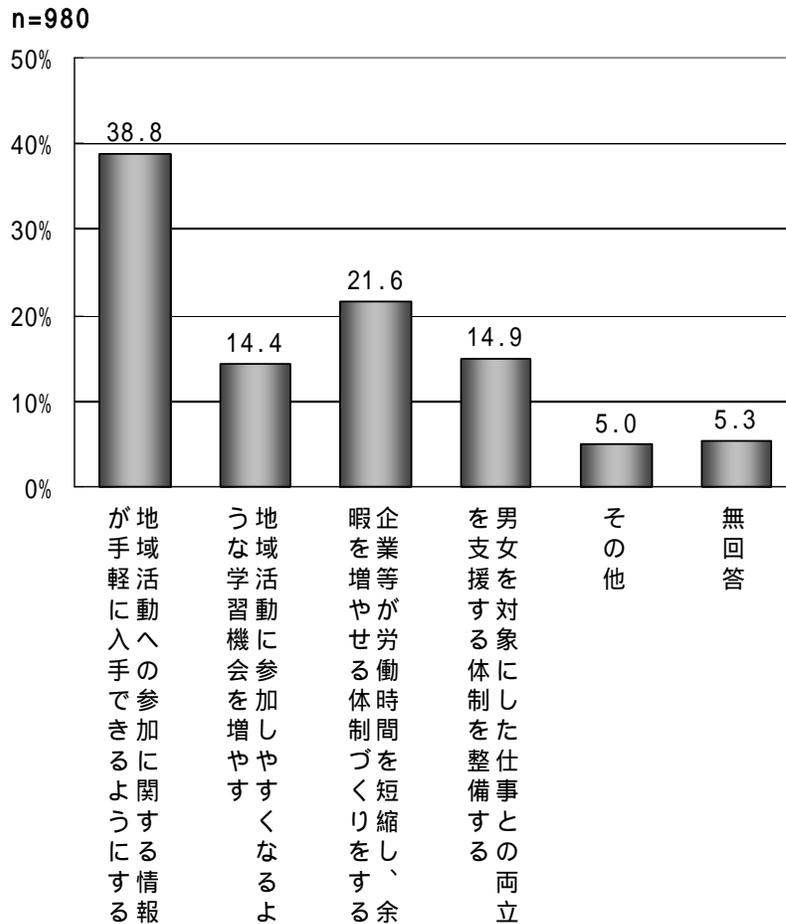
年代別では、「自治会、町内会等の地域活動」は加齢に伴い比率が増加する傾向がみられる。「PTA、子ども会等の活動」は 30～40 代で比率が高い。また「ボランティア活動」は 60 代以上で比率が高い。「特にない」は加齢に伴い比率が減少する傾向がみられる。



(7) 地域活動への参加促進策(問20)

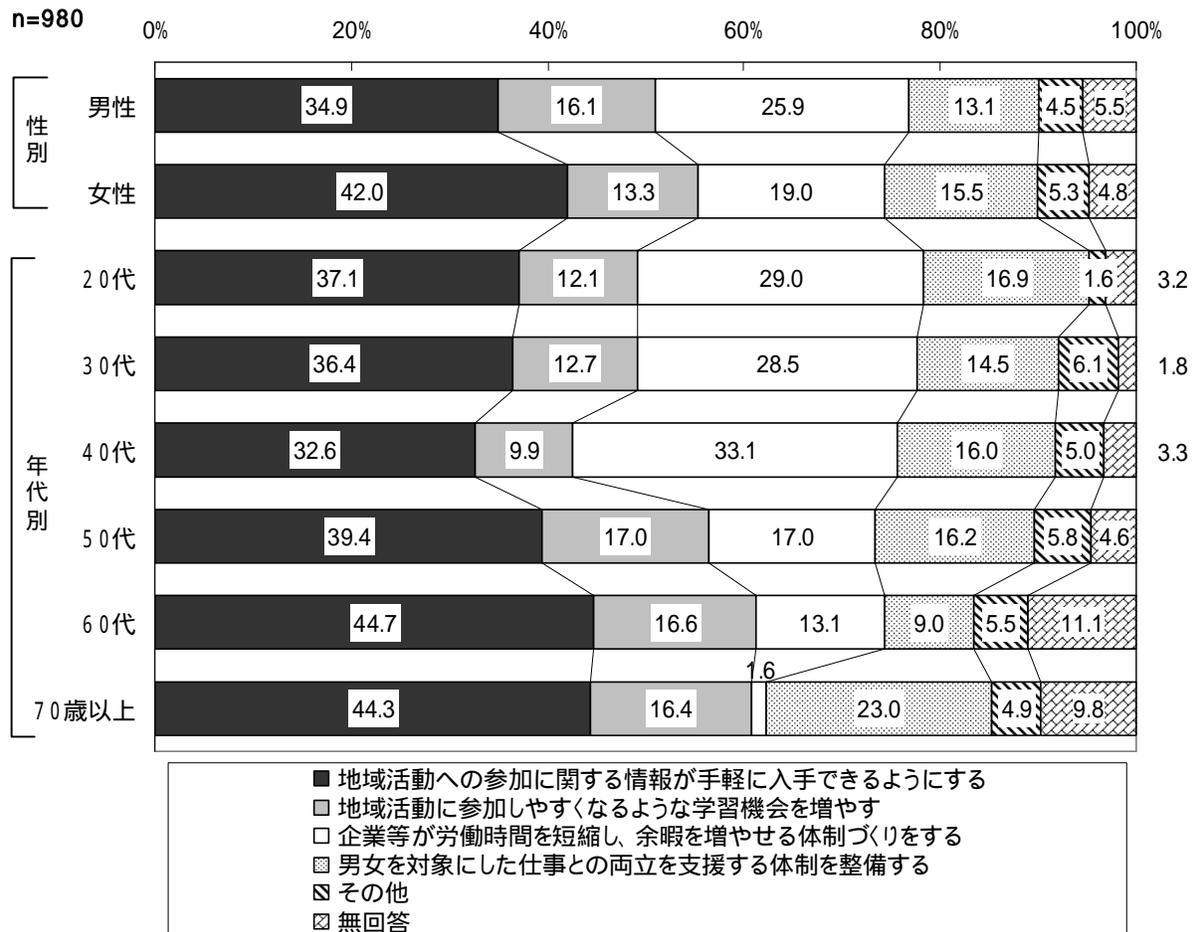
今後、地域活動への参加を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

「地域活動への参加に関する情報が手軽に入手できるようにする」が38.8%と最も比率が高い。次いで「企業等が労働時間を短縮し、余暇を増やせる体制づくりをする」21.6%とつづく。前回調査と比べ、あまり大きな差異はみられない。



性別では、「地域活動への参加に関する情報が手軽に入手できるようにする」は女性が男性より7.1ポイント比率が高い。反対に、「企業等が労働時間を短縮し、余暇を増やせる体制づくりをする」は男性が女性より6.9ポイント比率が高くなっている。

年代別では、「地域活動への参加に関する情報が手軽に入手できるようにする」は40代の32.6%を底に谷型の傾向がみられる。「企業等が労働時間を短縮し、余暇を増やせる体制づくりをする」は20～40代で比率が特に高くなっている。



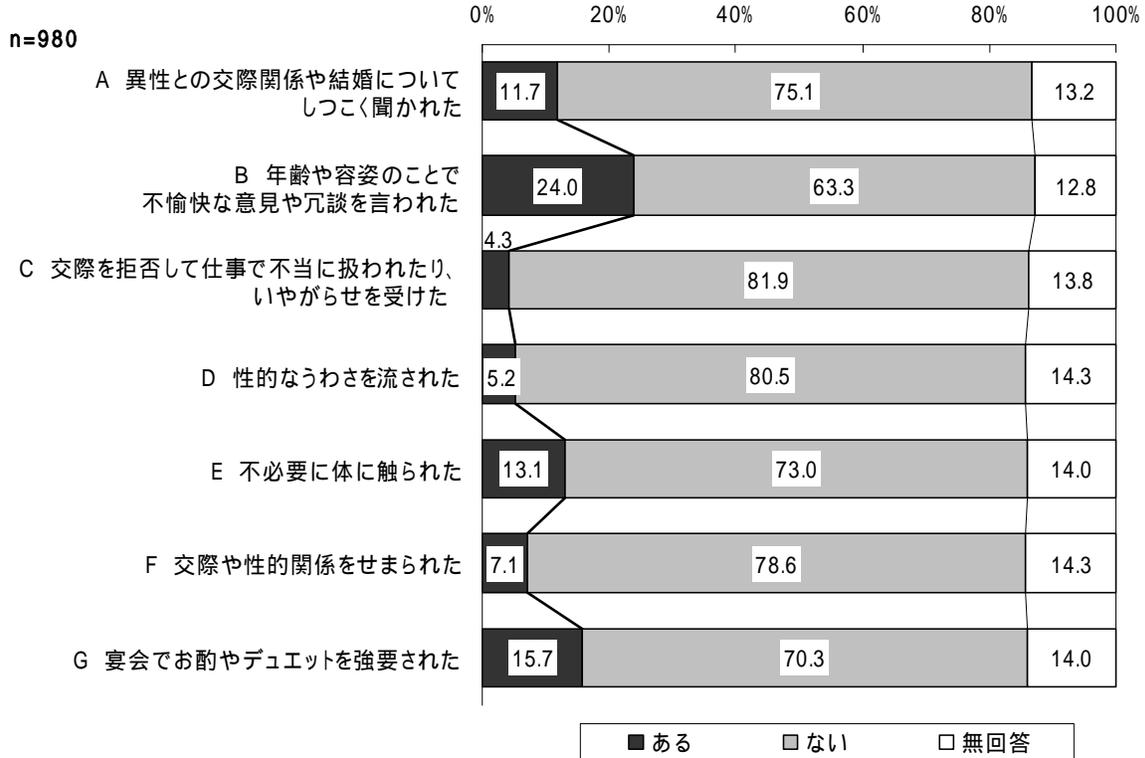
6 セクシュアル・ハラスメントやドメスティックバイオレンスについて

セクシュアル・ハラスメントやDV（ドメスティック・バイオレンス）についてうかがいます。

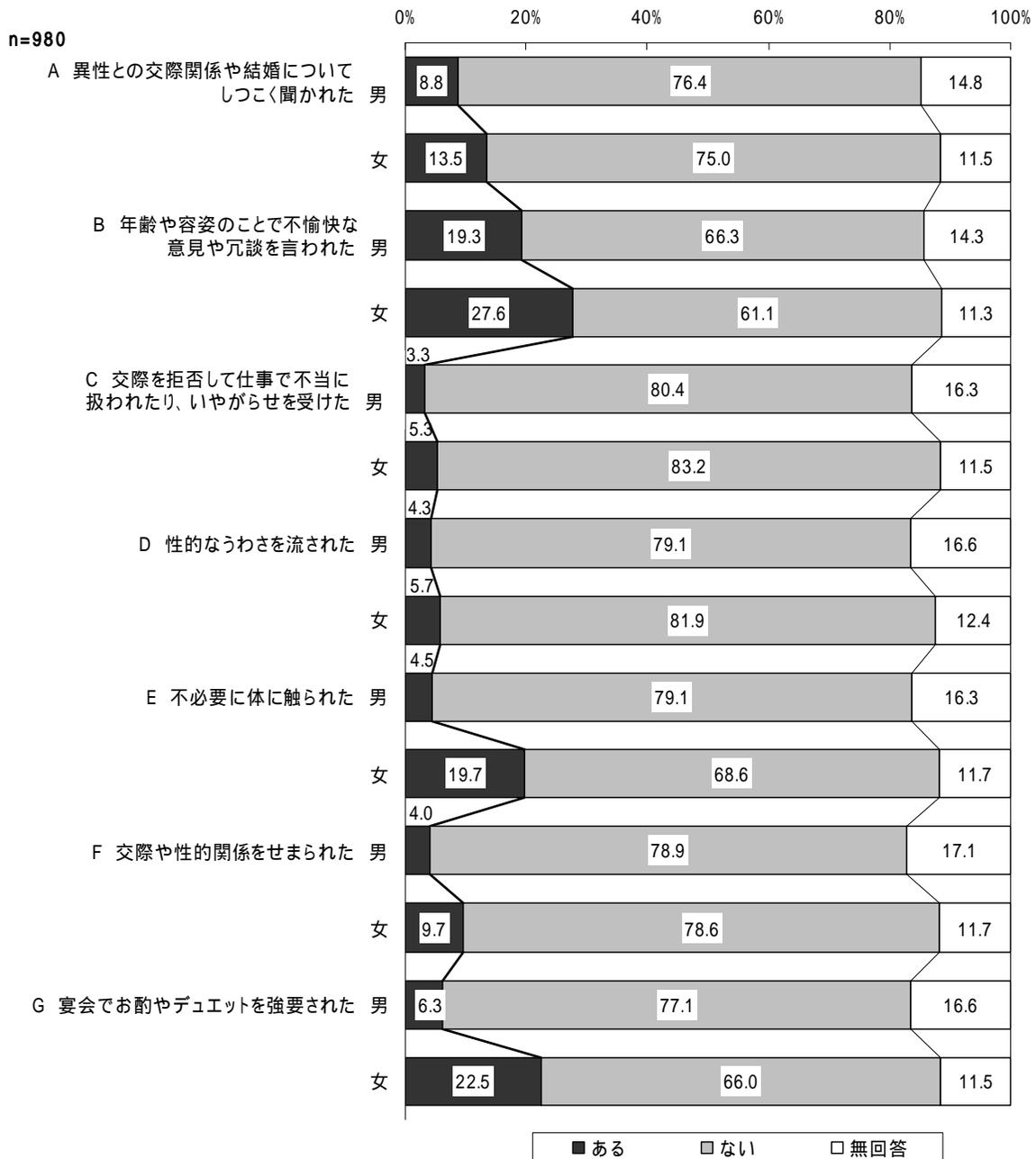
(1) セクシュアル・ハラスメントの実態（問21）

あなたは、次のような行為について、セクシュアル・ハラスメントだと感じた経験はありますか。

全体の結果は下図にみるとおりである。「ある」は年齢や容姿のことで不愉快な意見や冗談を言われたの比率が24.0%と最も高くなっている。それぞれの項目ごとの詳細は後で述べる。



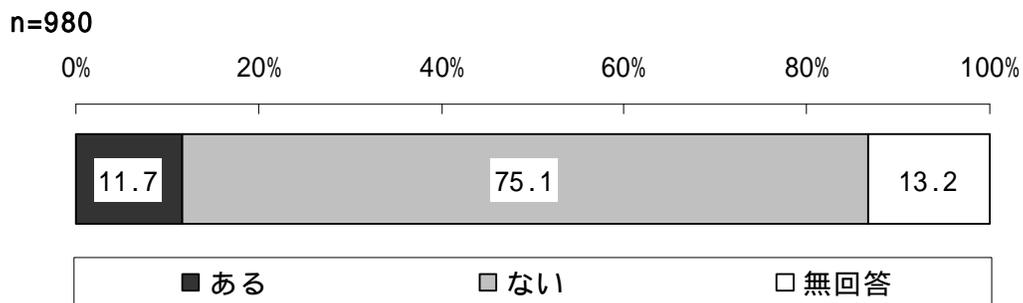
性別では、「ある」は「年齢や容姿のことで不愉快な意見や冗談を言われた」、「不必要に体に触られた」、「宴会やお酌やデュエットを強要された」で、男性と比較して女性の比率が高い。



(A) 異性との交際関係や結婚についてしつこく聞かれた。

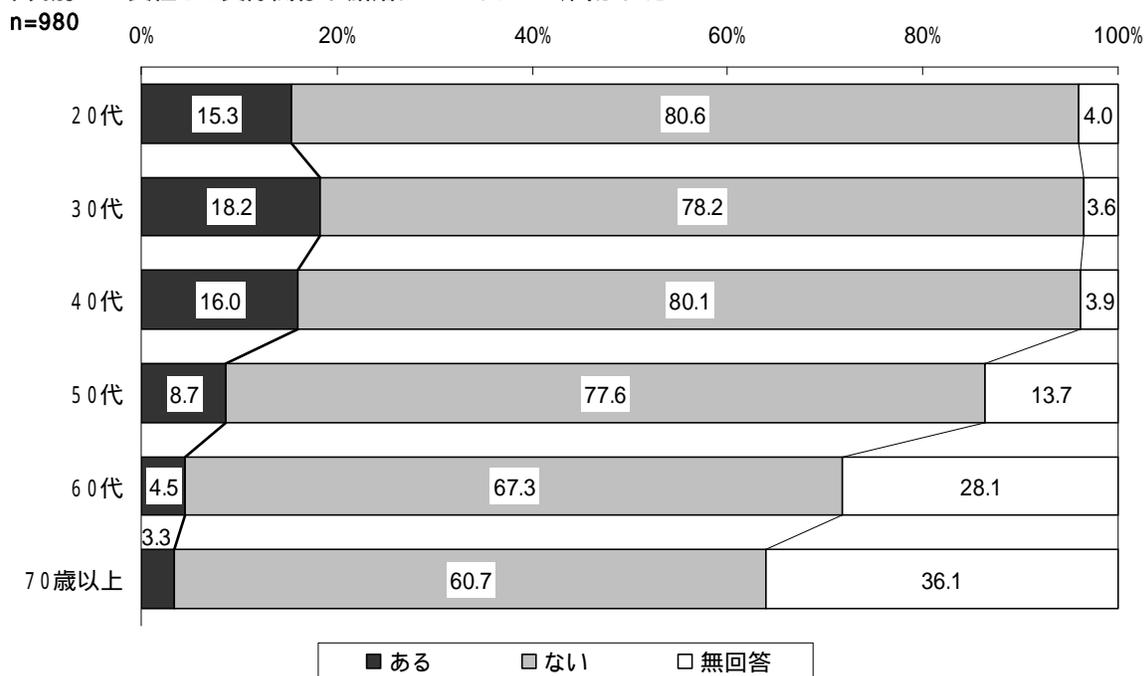
「ある」11.7%、「ない」75.1%となっている。

前回調査と比べ、「ない」が3.5ポイント増加している。



年代別では、「ある」は30代の18.2%がピークとなっている。

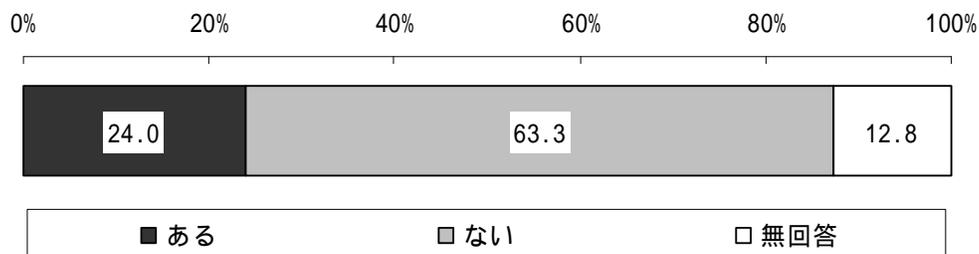
年代別 A 異性との交際関係や結婚についてしつこく聞かれた



(B) 年齢や容姿のことで不愉快な意見や冗談を言われた。

「ある」24.0%、「ない」63.3%となっている。
前回調査と比べ、「ある」が2.5ポイント増加している。

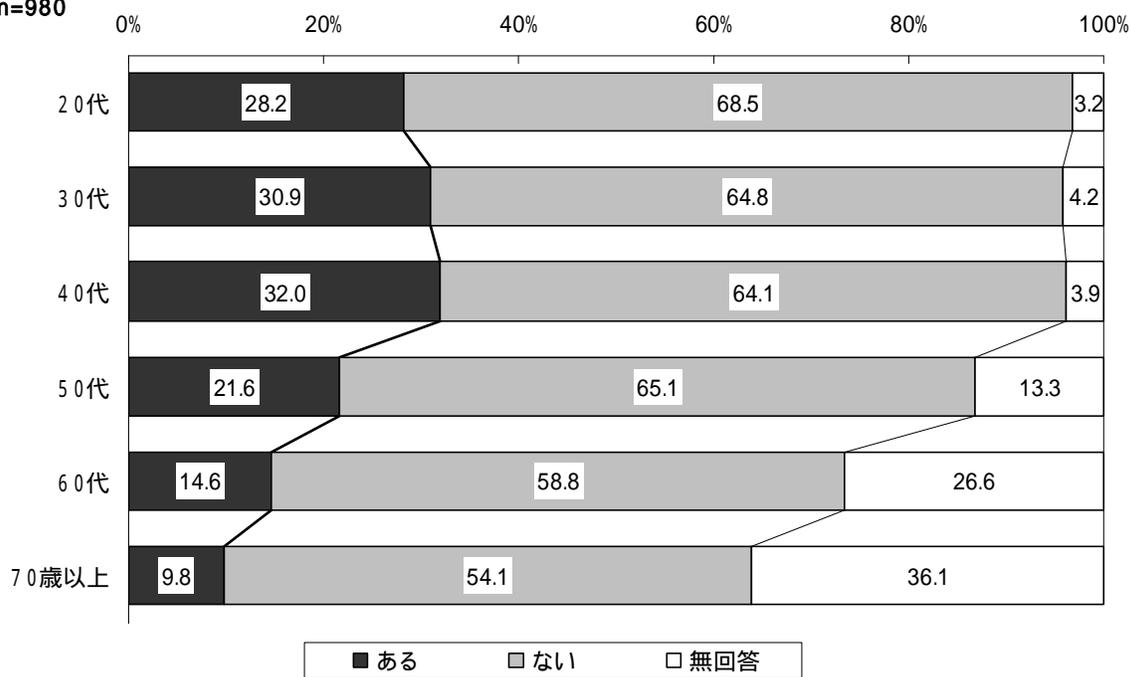
n=980



年代別では、「ある」は40代の32.0%をピークに山型の傾向となっている。

年代別 B 年齢や容姿のことで不愉快な意見や冗談を言われた

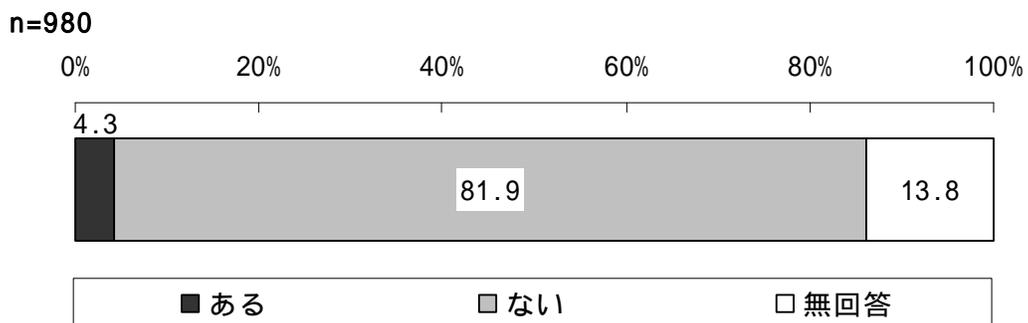
n=980



(C) 交際を拒否して仕事で不当に扱われたり、いやがらせを受けた。

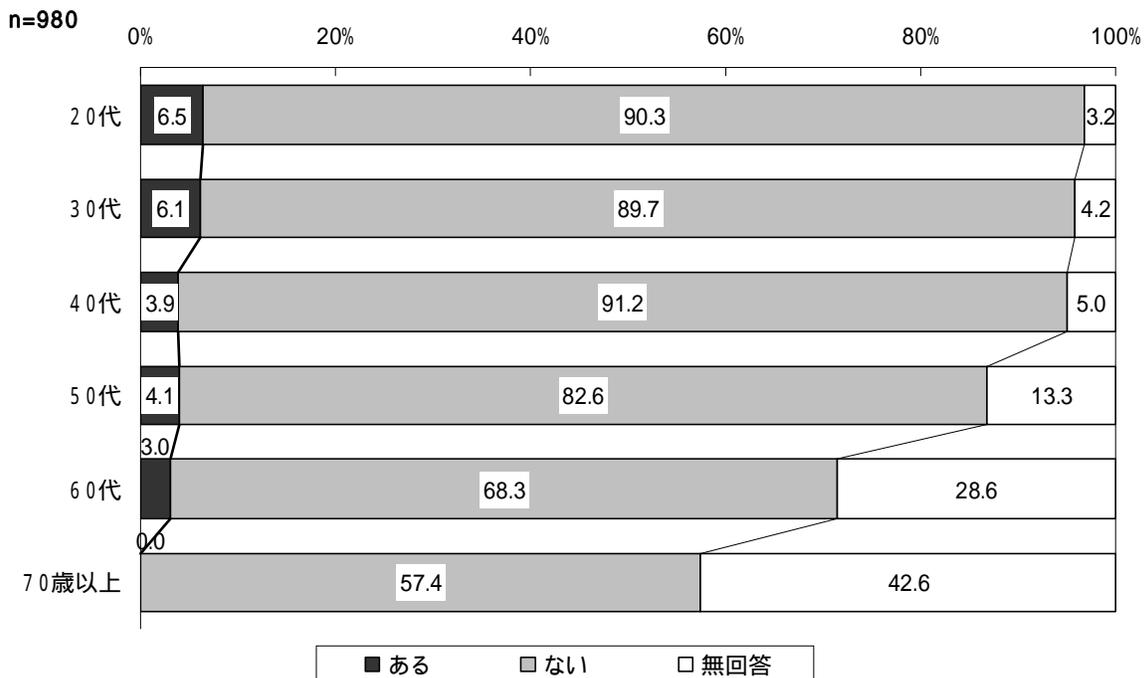
「ある」4.3%、「ない」81.9%となっている。

前回調査と比べ、「ない」が5.1ポイント増加している。



年代別では、「ある」は20代の6.5%がピークとなっている。

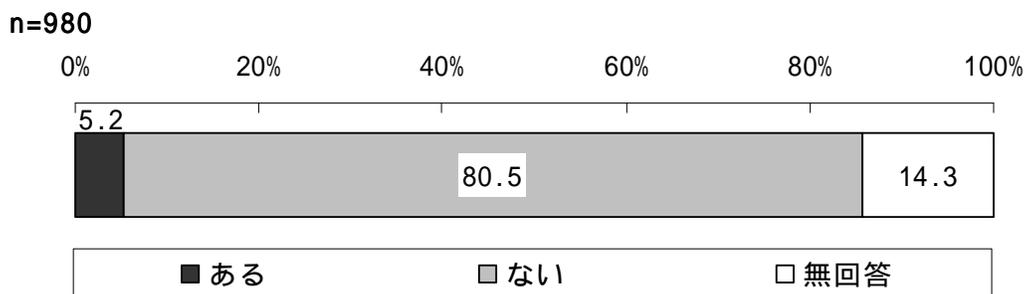
年代別 C 交際を拒否して仕事で不当に扱われたり、いやがらせを受けた



(D) 性的なうわさを流された。

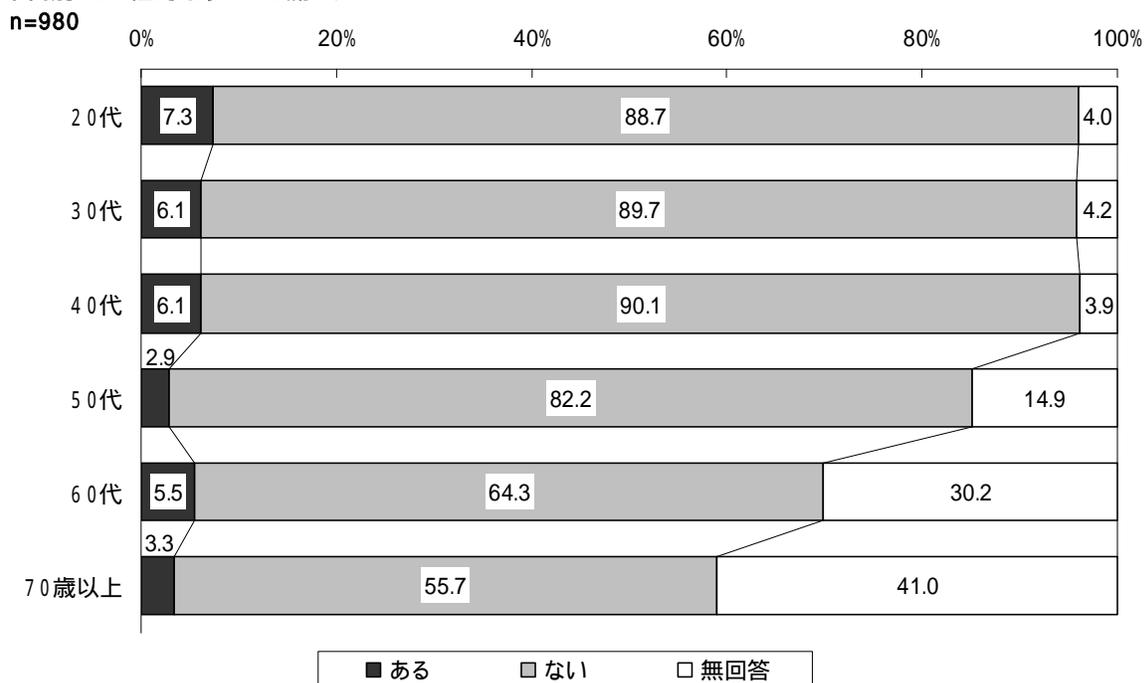
「ある」5.2%、「ない」80.5%となっている。

前回調査と比べ、「ない」が3.6ポイント増加している。



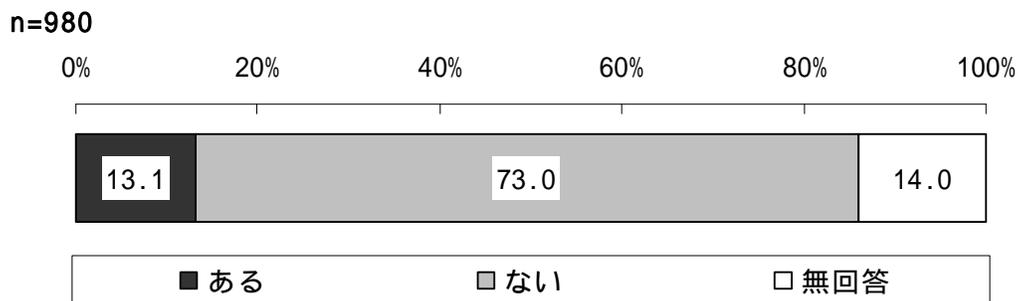
年代別では、「ある」は20代の7.3%がピークとなっている。

年代別 D 性的なうわさを流された



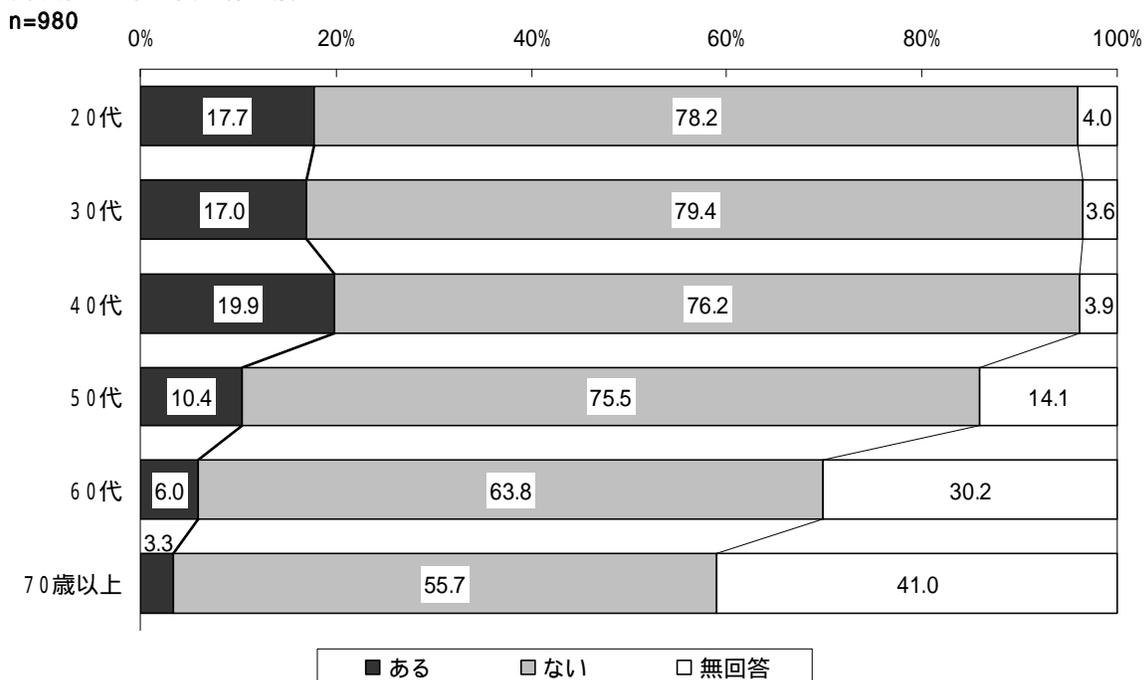
(E) 不必要に体に触られた。

「ある」13.1%、「ない」73.0%となっている。
前回調査と比べ、「ない」が4.5ポイント増加している。



年代別では、「ある」は40代の19.9%がピークとなっている。

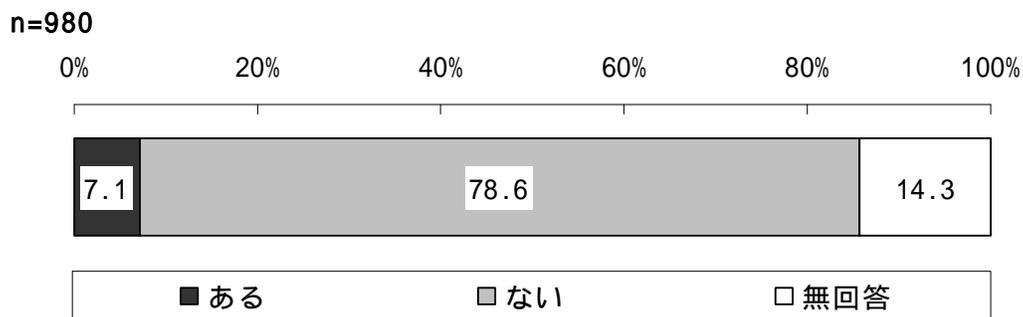
年代別 E 不必要に体に触られた



(F) 交際や性的関係をせまられた。

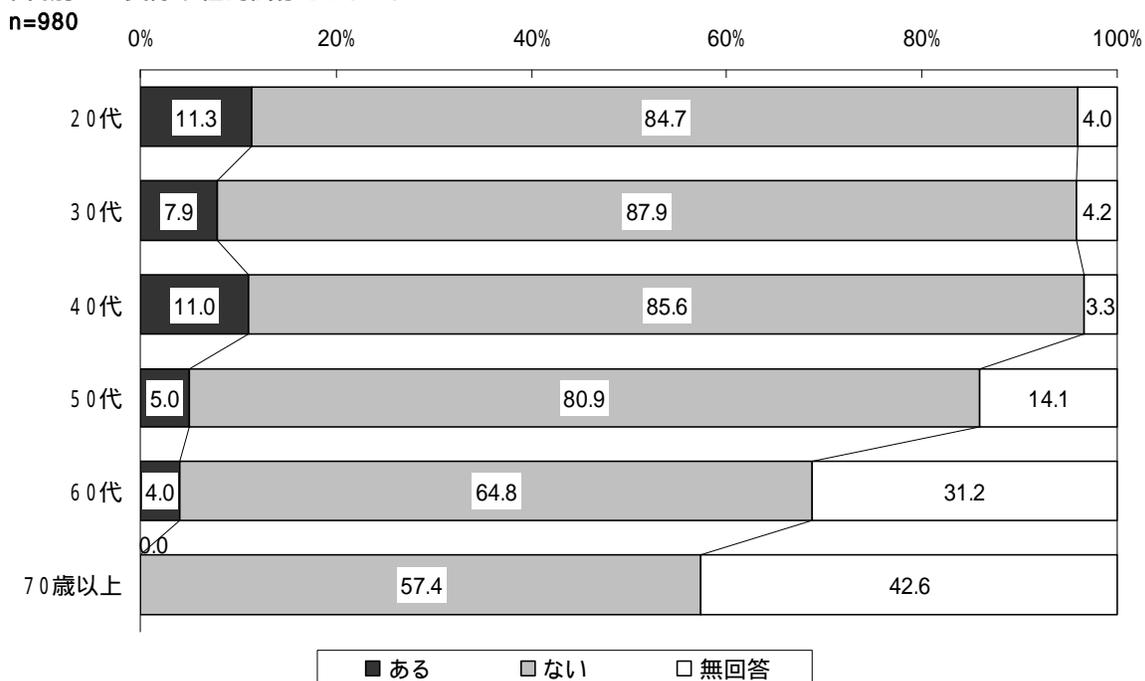
「ある」7.1%、「ない」78.6%となっている。

前回調査と比べ、「ない」が3.7ポイント増加している。



年代別では、「ある」は20代の11.3%がピークとなっている。

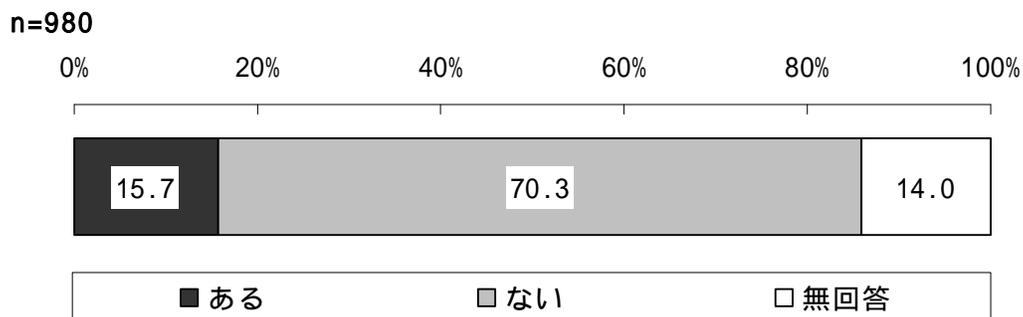
年代別 F 交際や性的関係をせまられた



(G) 宴会でお酌やデュエットを強要された。

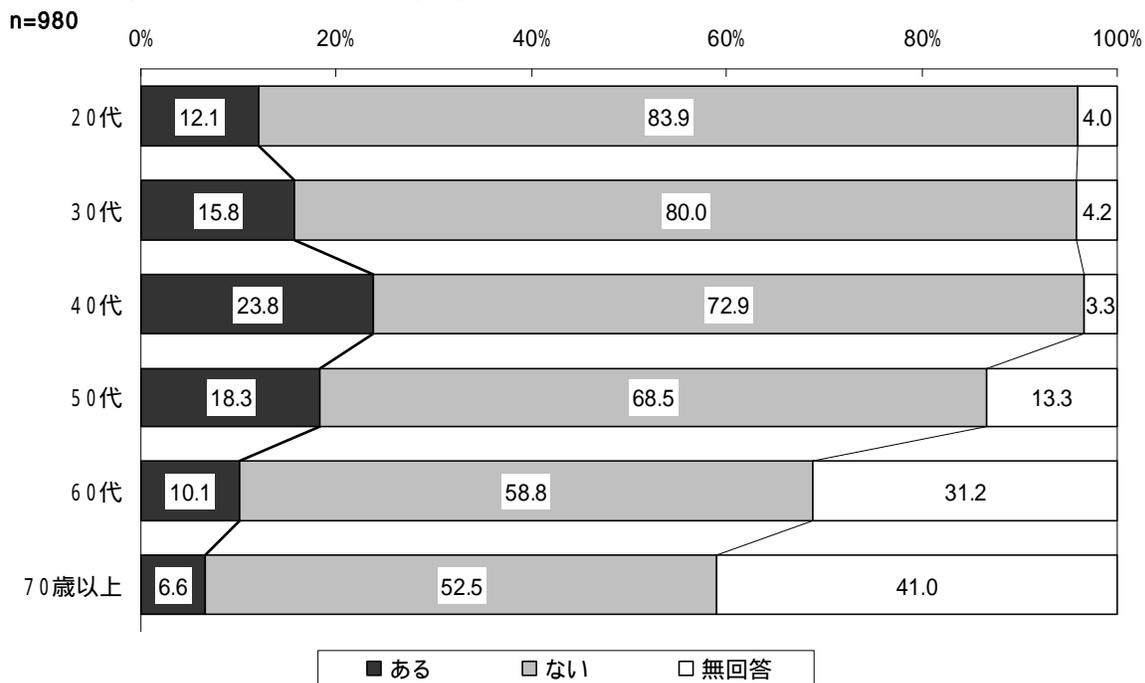
「ある」15.7%、「ない」70.3%となっている。

前回調査と比べ、「ない」が5.3ポイント増加している。



年代別では、「ある」は40代の23.8%をピークに山型の傾向となっている。

年代別 G 宴会でお酌やデュエットを強要された

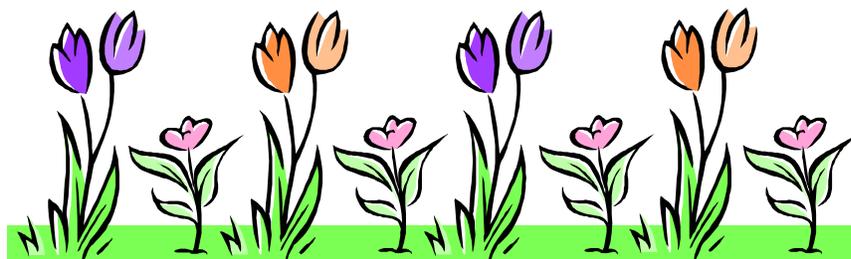
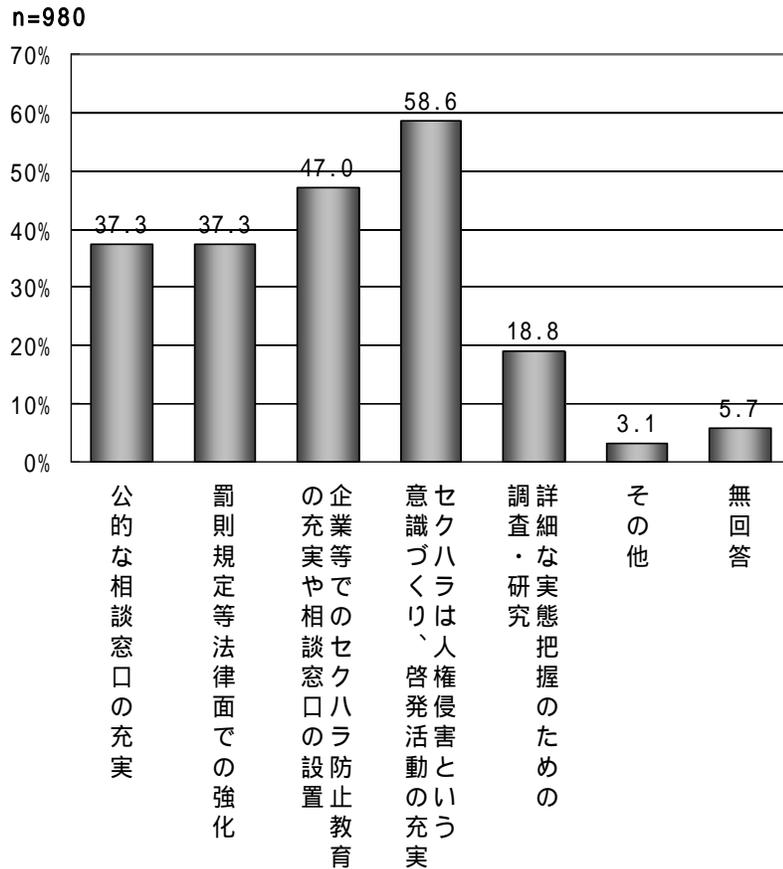


(2) セクシュアル・ハラスメントの防止対策(問22)

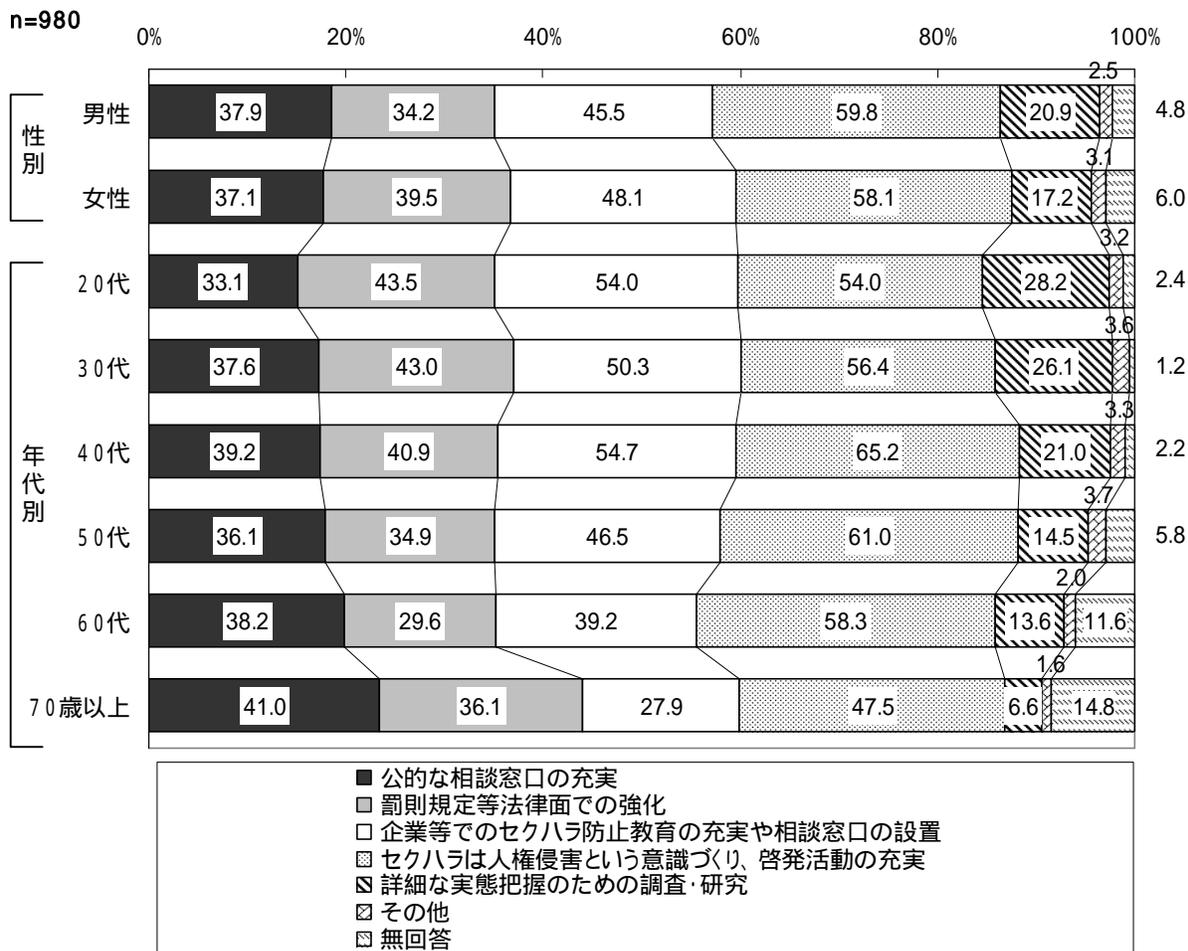
セクシュアル・ハラスメントをなくすためにはどのような対策が必要と考えますか。

「セクハラは人権侵害という意識づくり、啓発活動の充実」が58.6%と最も比率が高い。次いで「企業等でのセクハラ防止教育の充実や相談窓口の設置」47.0%とつづく。

前回調査と比べ、「セクハラは人権侵害という意識づくり、啓発活動の充実」が4.6ポイント、「企業等でのセクハラ防止教育の充実や相談窓口の設置」は5.6ポイント比率が増加している。



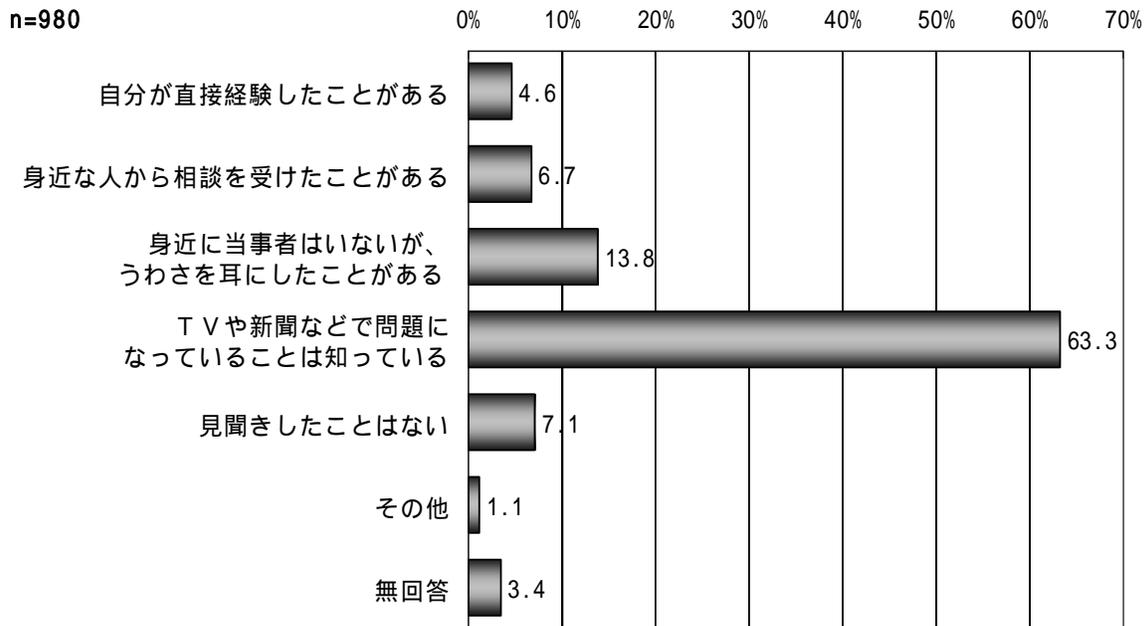
性別では、「罰則規定等法律面での強化」で女性が男性より 5.3 ポイント比率が高いのが目立つ。
 年代別では、「企業等でのセクハラ防止教育の充実や相談窓口の設置」は加齢に伴い比率が減少する傾向がみられる。反対に、「詳細な実態把握のための調査・研究」は若い人ほど比率が増加する傾向がみられる。



(3) DV(ドメスティック・バイオレンス)の体験(問23)

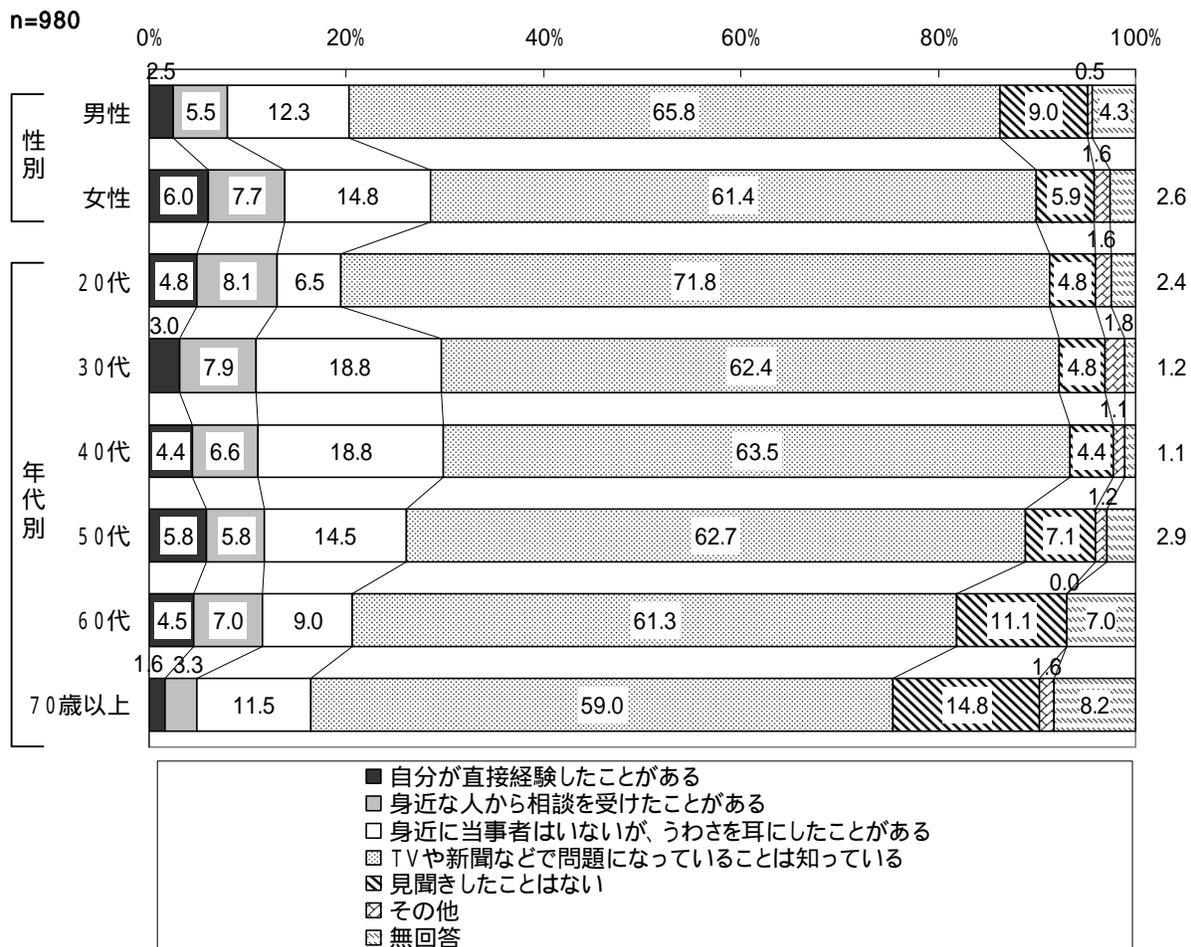
あなたは、DV(ドメスティック・バイオレンス)について見聞きしたことはありますか。

「TVや新聞などで問題になっていることは知っている」63.3%と圧倒的比率であった。



性別では、「TVや新聞などで問題になっていることは知っている」は男性が女性より4.4ポイント比率が高い。反対に、「自分が直接経験したことがある」は女性が男性より3.5ポイント比率が多くなっている。

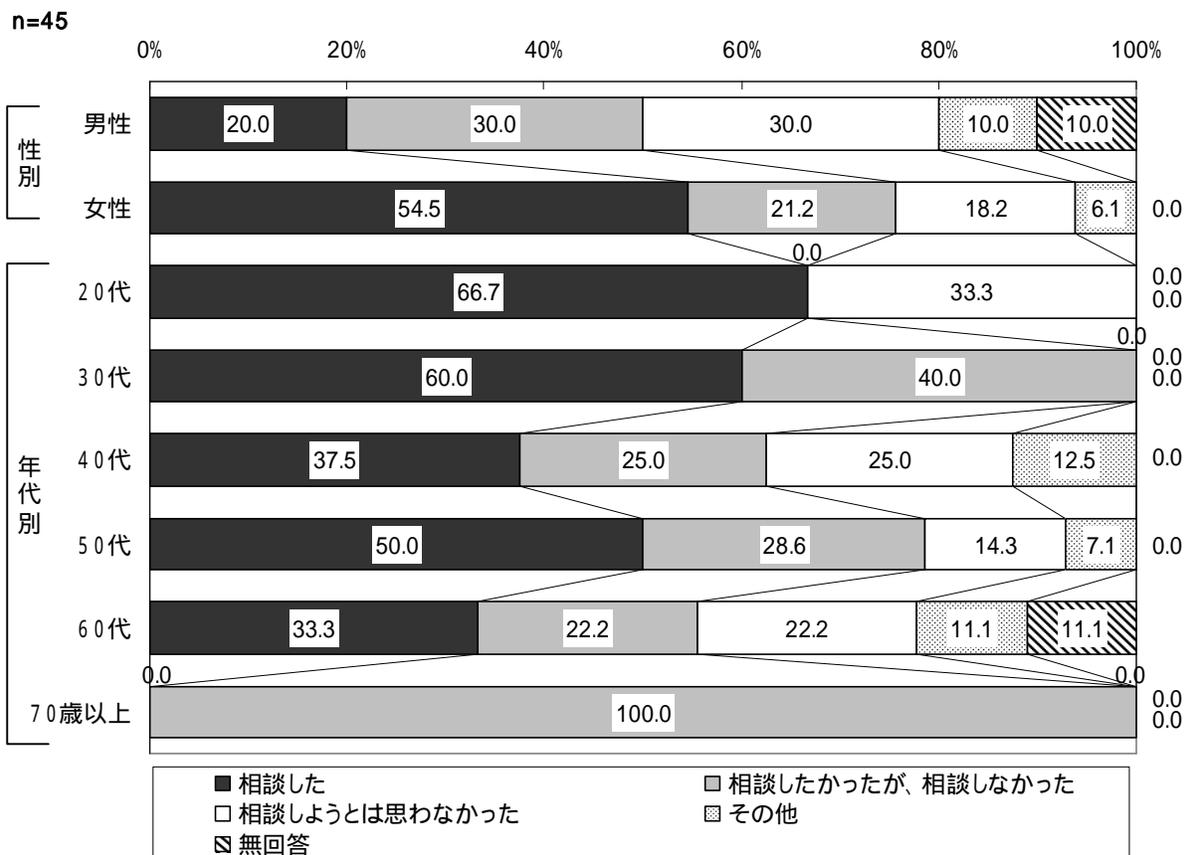
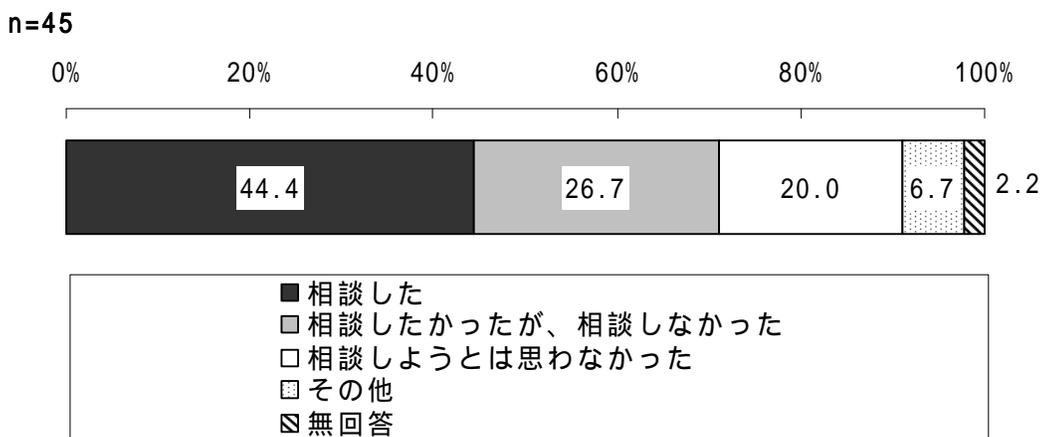
年代別では、「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」は30～50代で比率が高い。「聞ききたことはない」は60代以上で10%以上の比率となっている。



(4) DV経験者の相談状況(問24)

問23で1(自分が直接経験したことがある)と答えた方にお尋ねします。だれかに、又はどこかに相談しましたか。

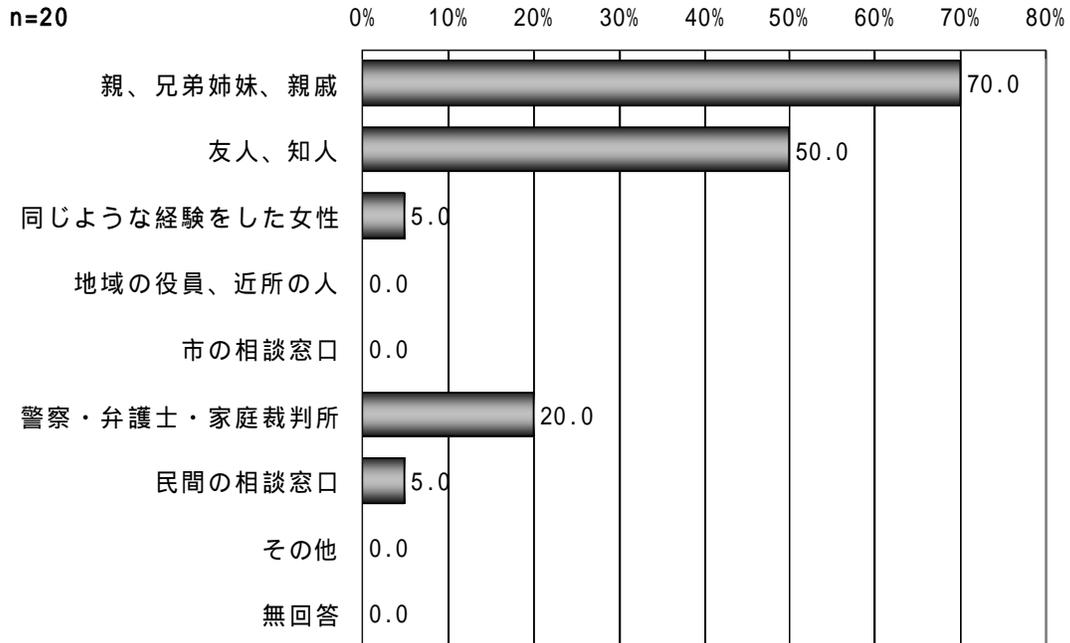
「相談した」44.4%、「相談したかったが、相談しなかった」26.7%、「相談しようとは思わなかった」20.0%となっている。



(5) DV相談者の相談先(問25)

問24で1(相談した)と答えた方にお尋ねします。どこに相談に行きましたか。

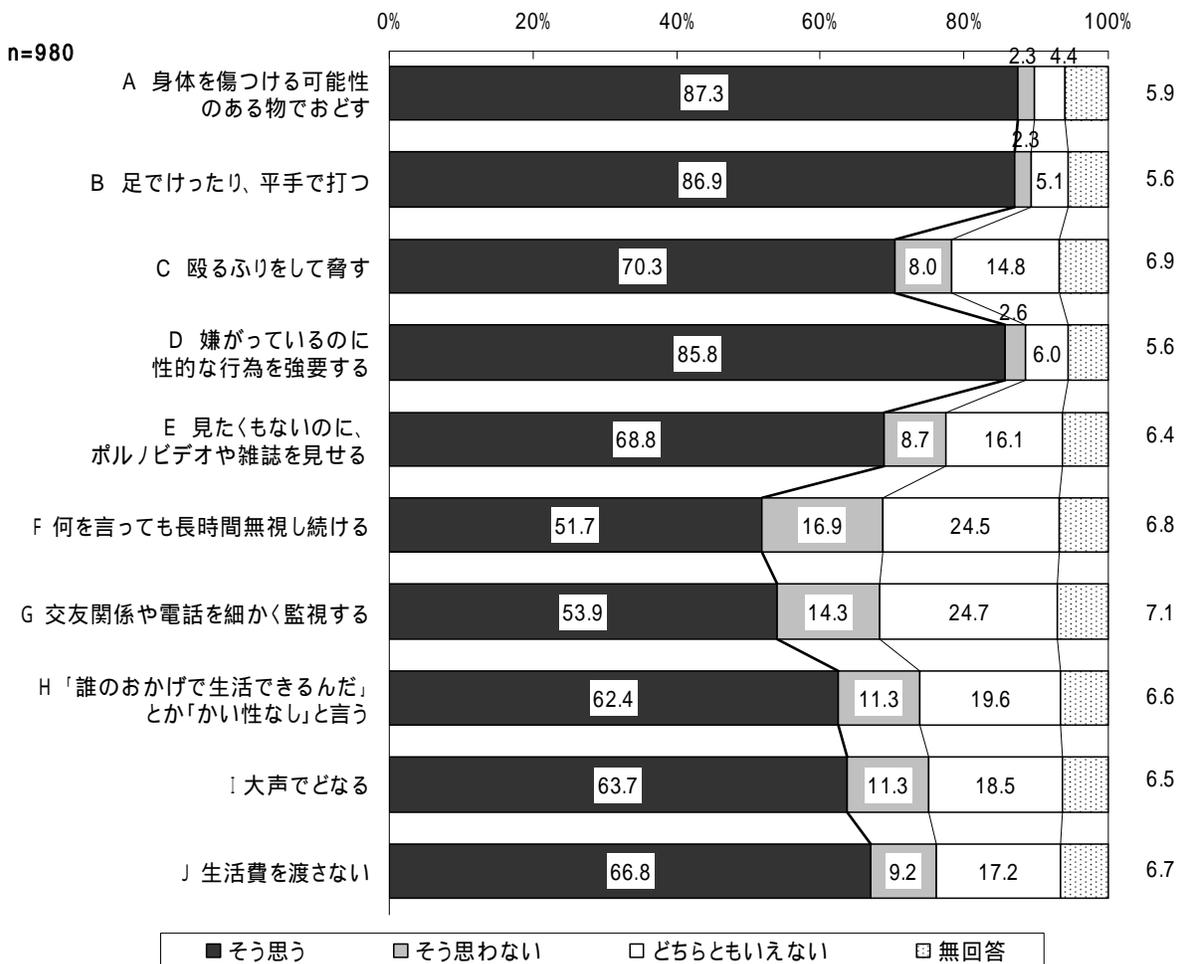
「親、兄弟姉妹、親戚」70.0%、「友人、知人」50.0%、「警察・弁護士・家庭裁判所」20.0%となっている。



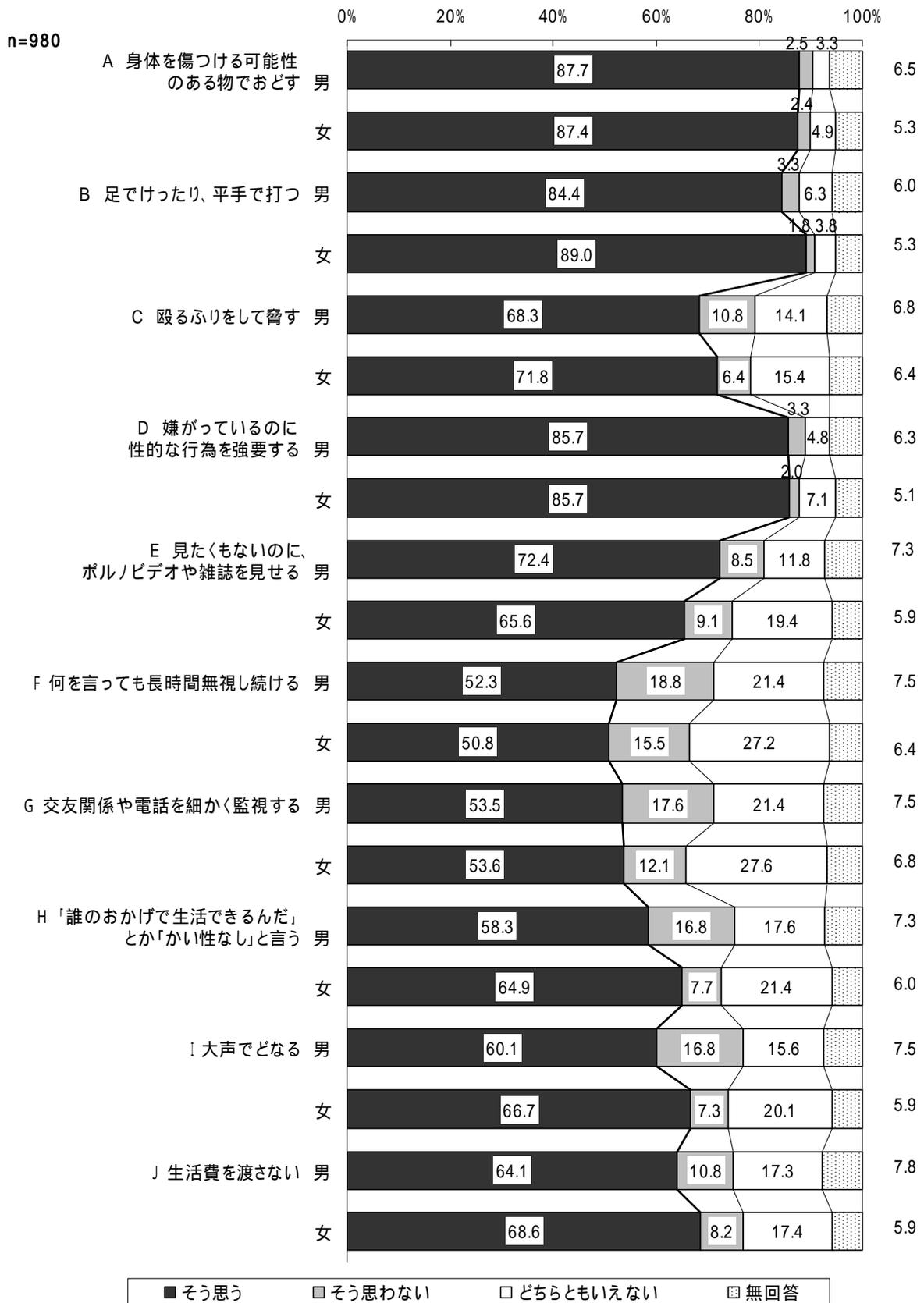
(6) DVと思われる行為(問26)

あなたは、次にあげる行為はDV(ドメスティック・バイオレンス)に当たるとおもいますか。

全体の結果は下図にみるとおりである。「そう思う」は「身体を傷つける可能性のあるものでおどす」が87.3%と最も比率が高くなっている。それぞれの項目ごとの詳細は後で述べる。



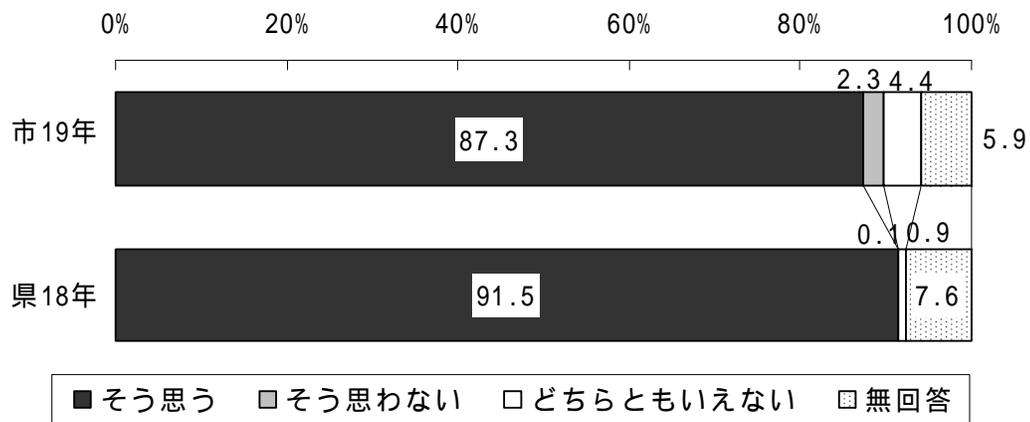
性別では、各項目とも男女間に大きな意識の相違はみられない。



(A) 身体を傷つける可能性のあるものでおどす。

「そう思う」87.3%、「そう思わない」2.3%、「どちらともいえない」4.4%となっている。
 なお、「そう思う」は18年県では91.5%であった。厚木市の比率が4.2ポイント低い。

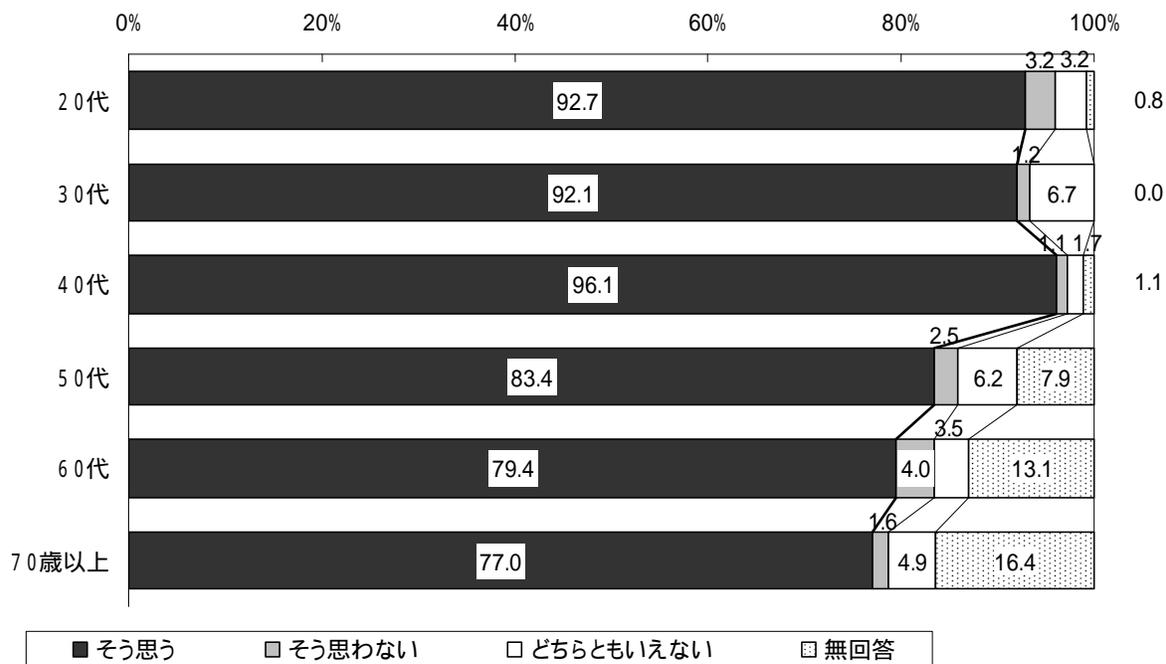
n=980



年代別では、全ての世代で「そう思う」の比率が高い。

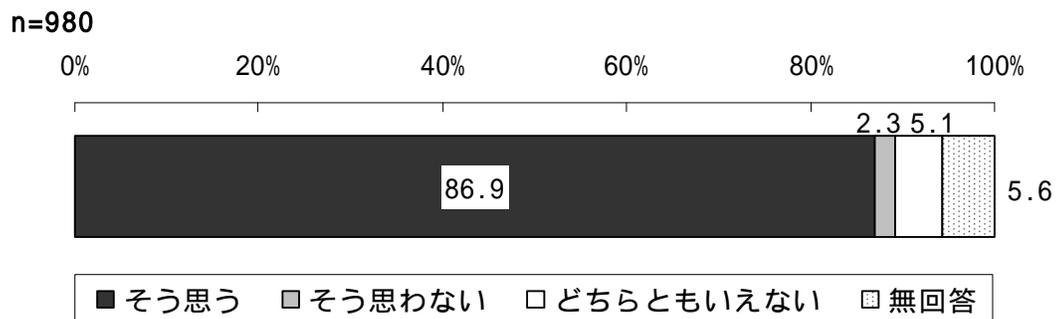
年代別 A 身体を傷つける可能性のある物でおどす

n=980



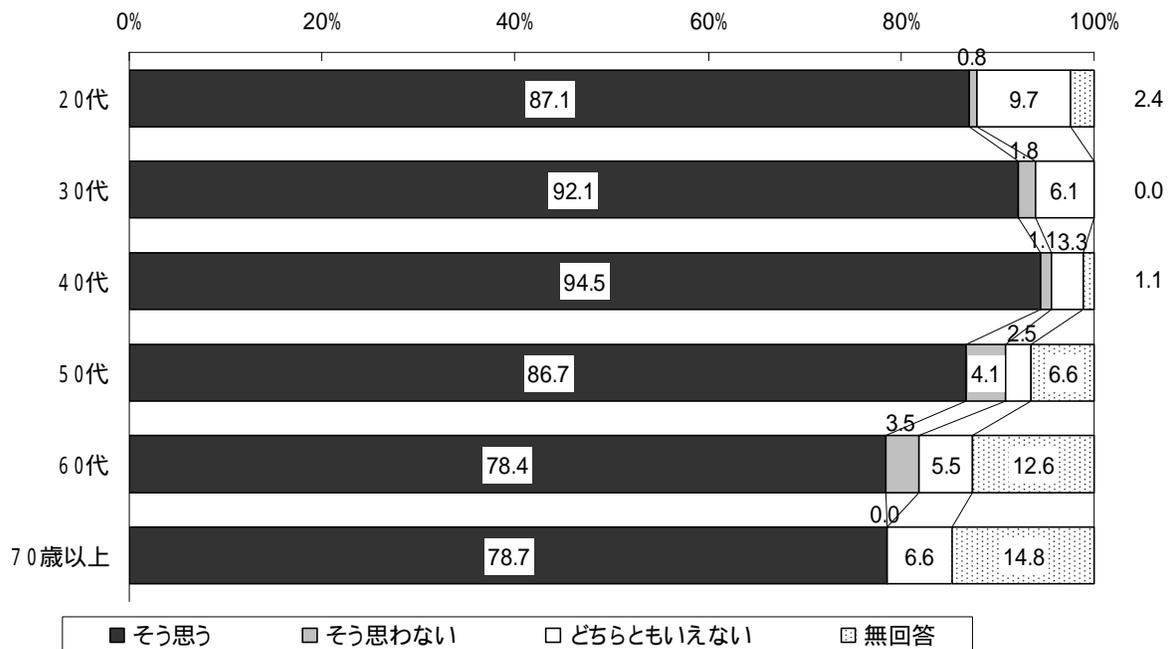
(B) 足でけったり、平手で打つ。

「そう思う」86.9%、「そう思わない」2.3%、「どちらともいえない」5.1%となっている。



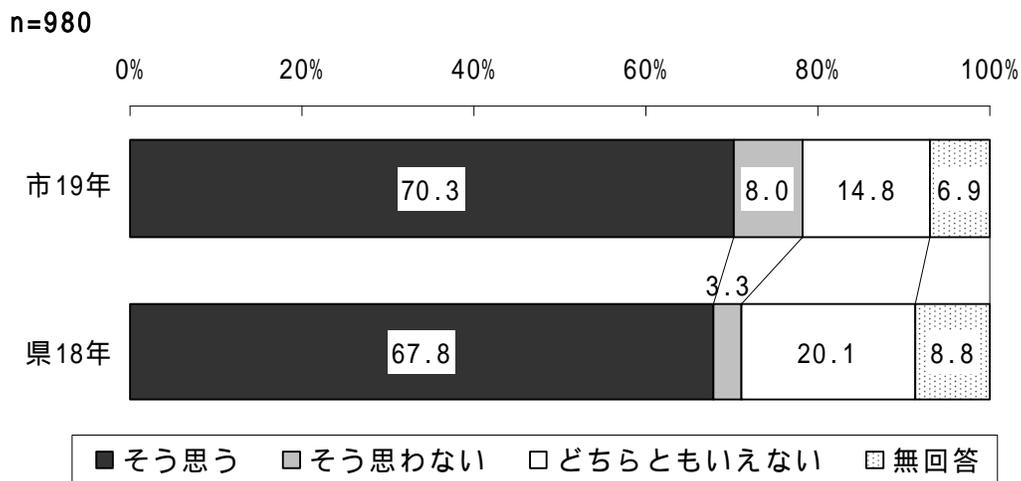
年代別では、全ての世代で「そう思う」の比率が高い。

年代別 B 足でけったり、平手で打つ
n=980



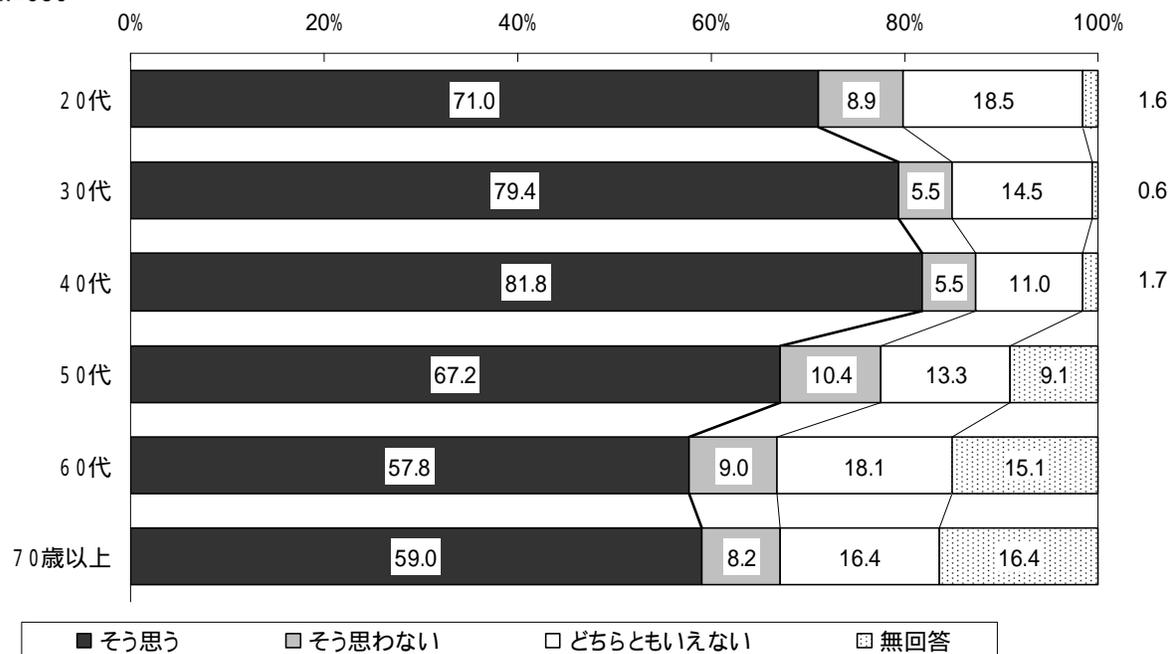
(C) 殴るふりをして脅す。

「そう思う」70.3%、「そう思わない」8.0%、「どちらともいえない」14.8%となっている。
 なお、「そう思う」は18年県では67.8%となっている。



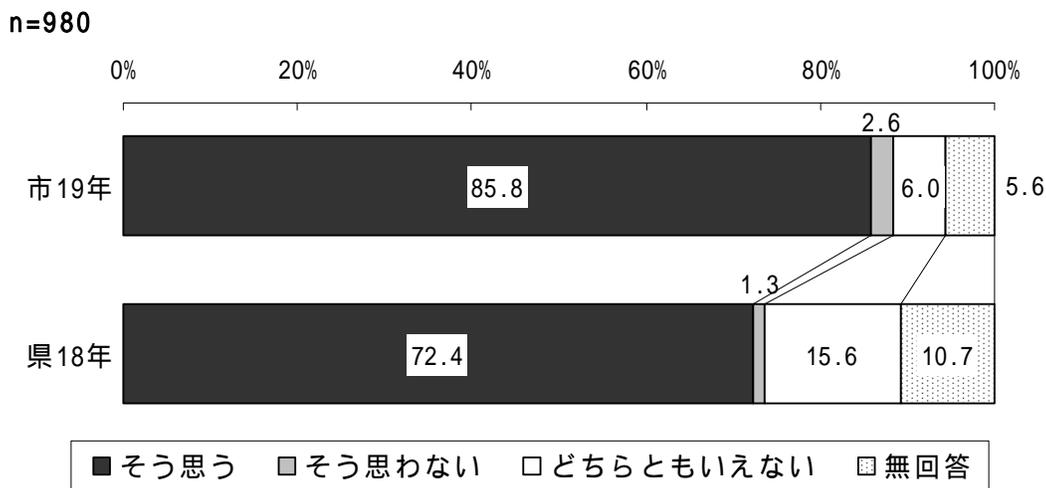
年代別では、「そう思う」は40代の81.8%をピークに山型の傾向がみられる。

年代別 C 殴るふりをして脅す
 n=980



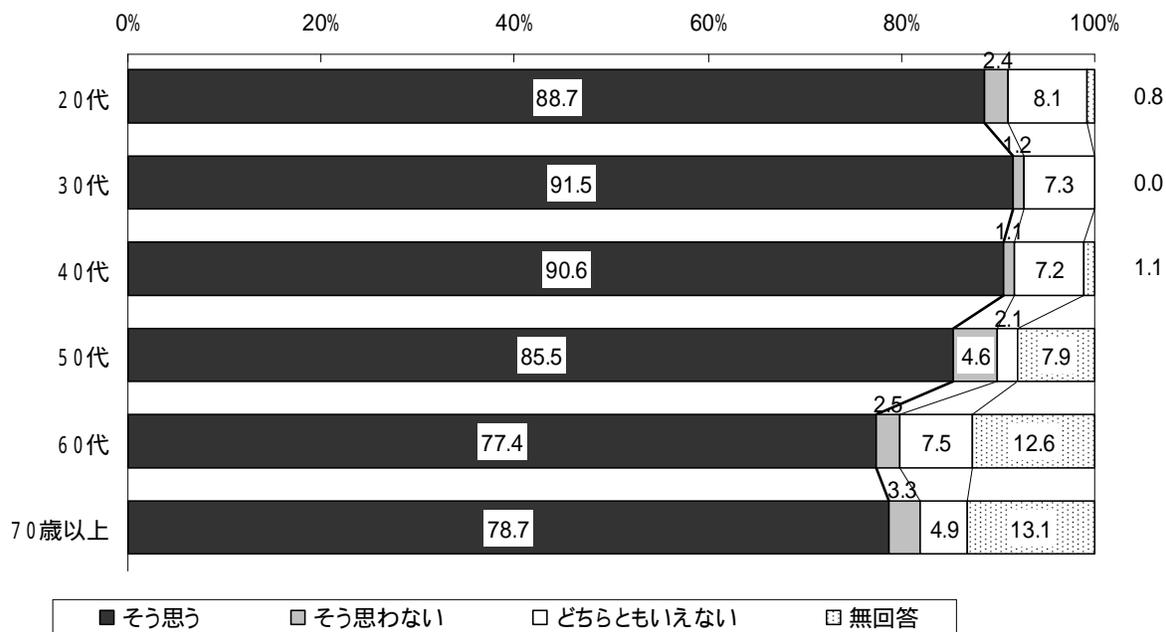
(D) 嫌がっているのに性的な行為を強要する。

「そう思う」85.8%、「そう思わない」2.6%、「どちらともいえない」6.0%となっている。
 なお、「そう思う」は18年県では72.4%であった。厚木市の比率が13.4ポイント高い。



年代別では、全ての世代で「そう思う」の比率が高い。

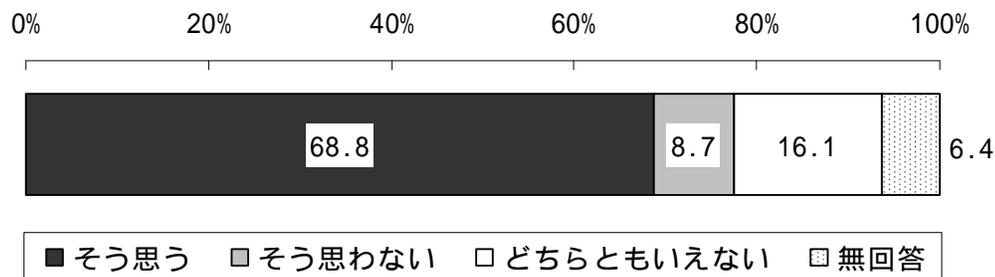
年代別 D 嫌がっているのに性的な行為を強要する
 n=980



(E) 見たくもないのに、ポルノビデオや雑誌を見せる。

「そう思う」68.8%、「そう思わない」8.7%、「どちらともいえない」16.1%となっている。

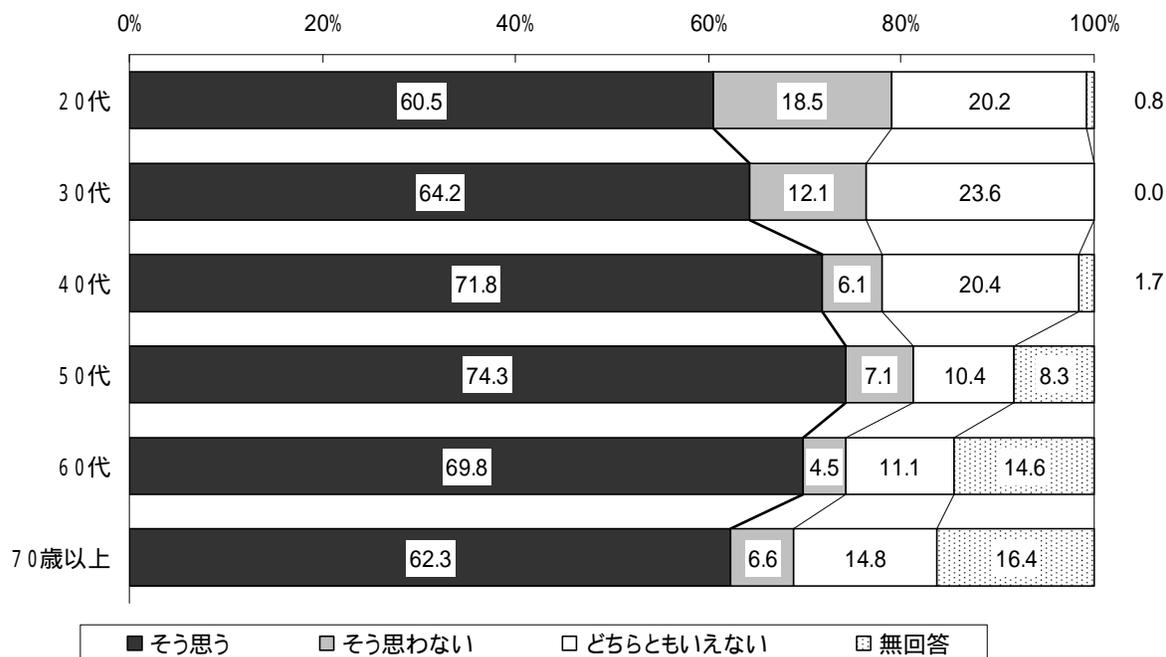
n=980



年代別では、「そう思う」は50代の74.3%をピークに山型の傾向となっている。

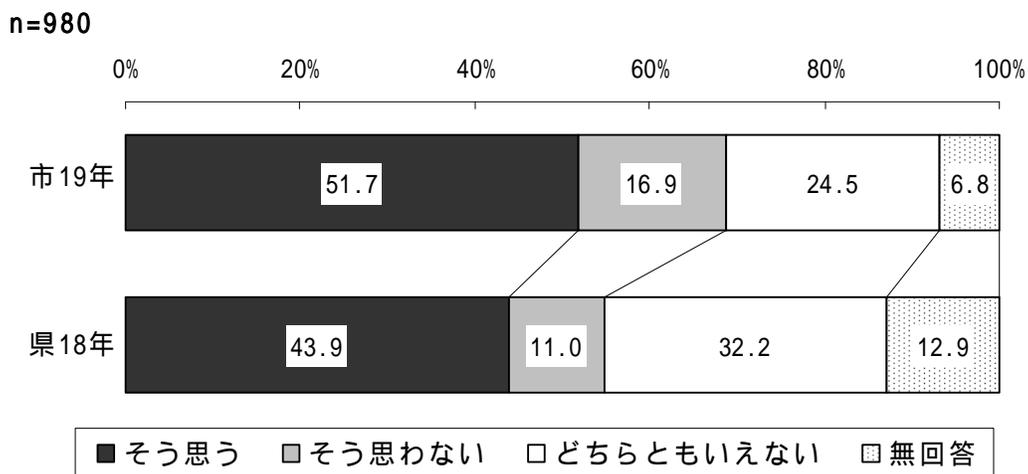
年代別 E 見たくもないのに、ポルノビデオや雑誌を見せる

n=980



(F) 何を言っても長時間無視し続ける。

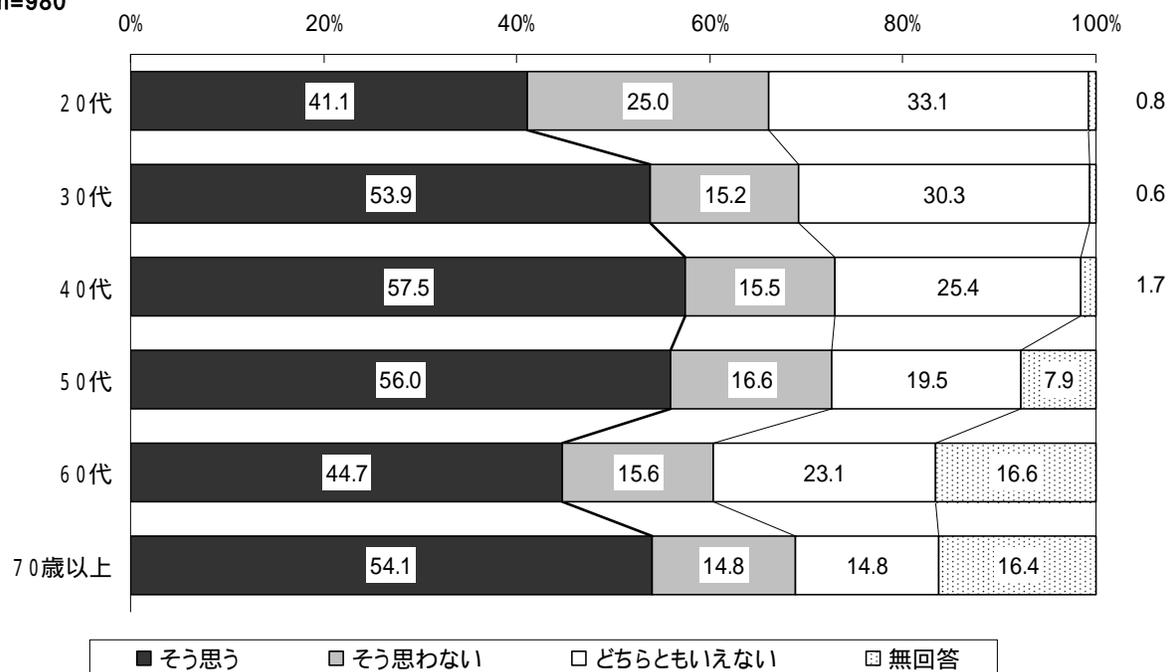
「そう思う」51.7%、「そう思わない」16.9%、「どちらともいえない」24.5%となっている。
 なお、「そう思う」は18年県では43.9%であった。厚木市の比率の高さが目立つ。



年代別では、「そう思う」は70歳以上を除くと、40代の57.5%をピークに山型の傾向がみられる。

年代別 F 何を言っても長時間無視し続ける

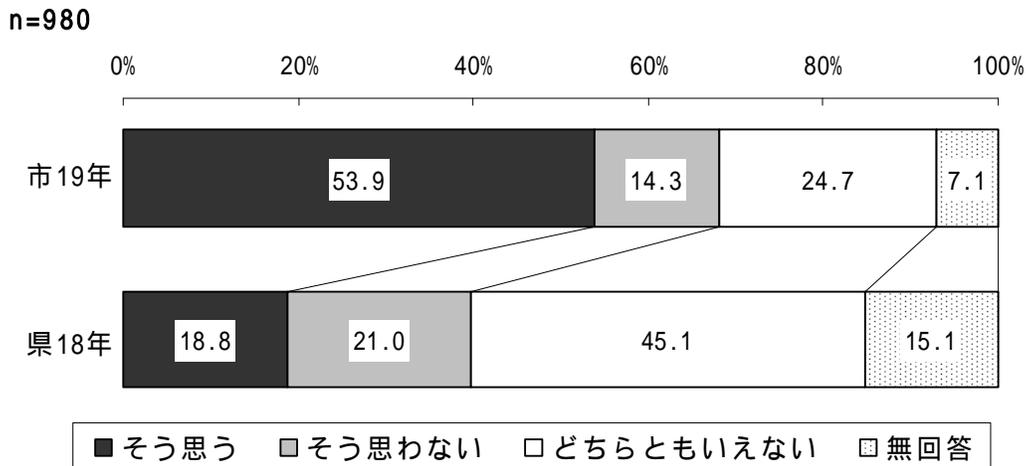
n=980



(G) 交友関係や電話を細かく監視する。

「そう思う」53.9%、「そう思わない」14.3%、「どちらともいえない」24.7%となっている。

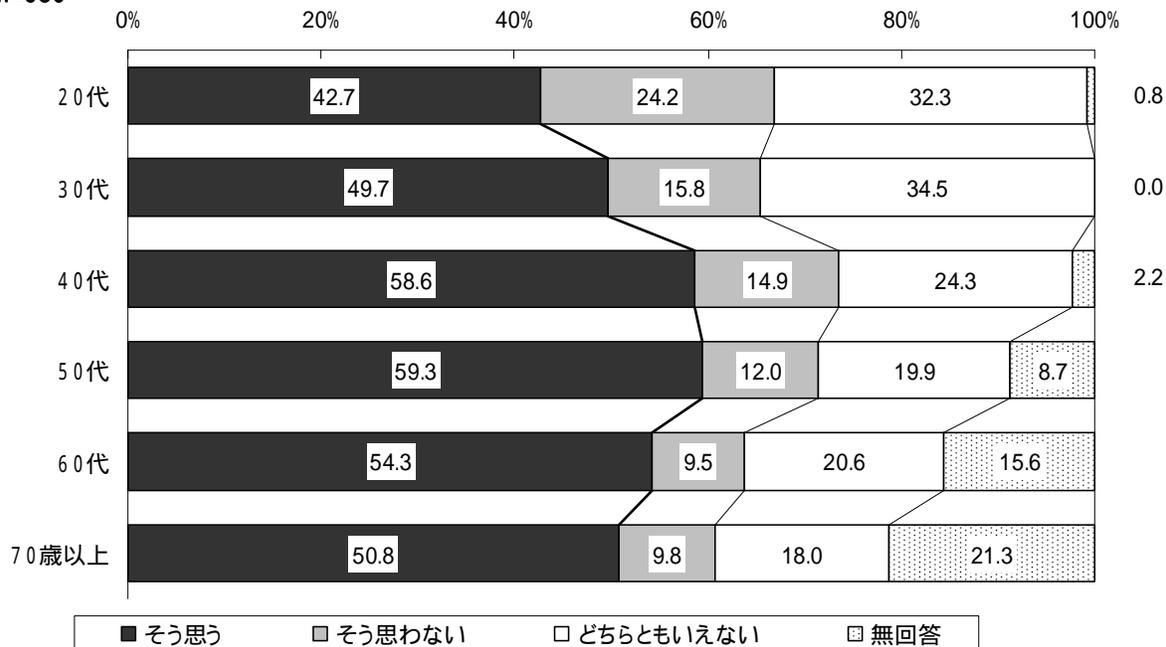
なお、「そう思う」は18年県では18.8%であった。厚木市での結果はこれに比べ35.1ポイント高くなっている。厚木市でのこの問題に対する敏感さが際立っている。



年代別では、「そう思う」は50代の59.3%をピークに山型の傾向となっている。

年代別 G 交友関係や電話を細かく監視する

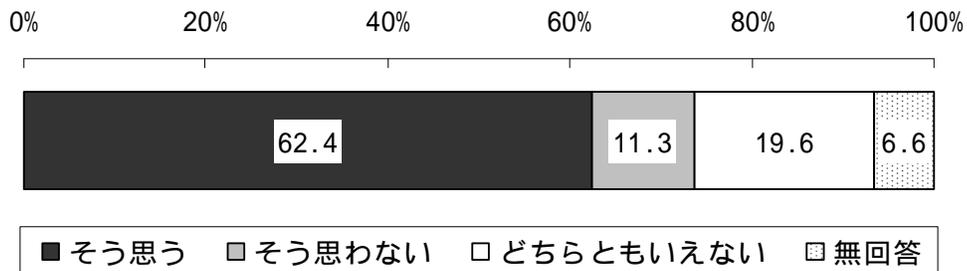
n=980



(H)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かい性なし」と言う。

「そう思う」62.4%、「そう思わない」11.3%、「どちらともいえない」19.6%となっている。

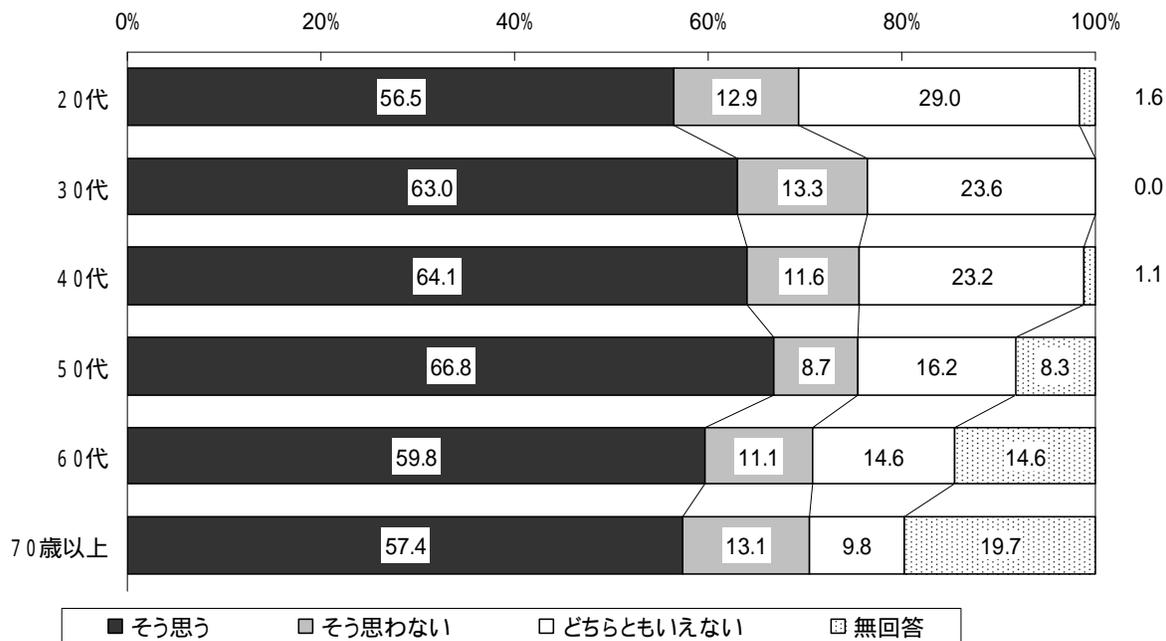
n=980



年代別では、「そう思う」は50代の66.8%をピークに山型の傾向となっている。

年代別 H 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かい性なし」と言う

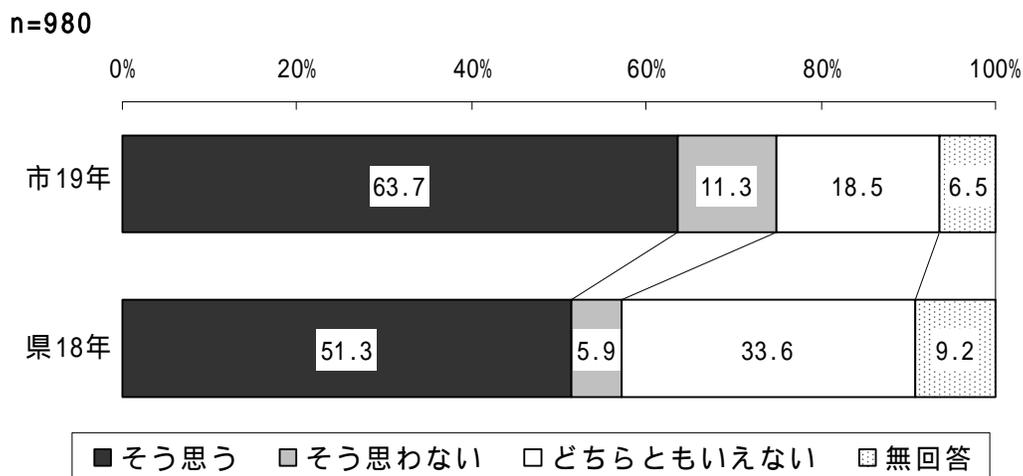
n=980



(I) 大声でどなる。

「そう思う」63.7%、「そう思わない」11.3%、「どちらともいえない」18.5%となっている。

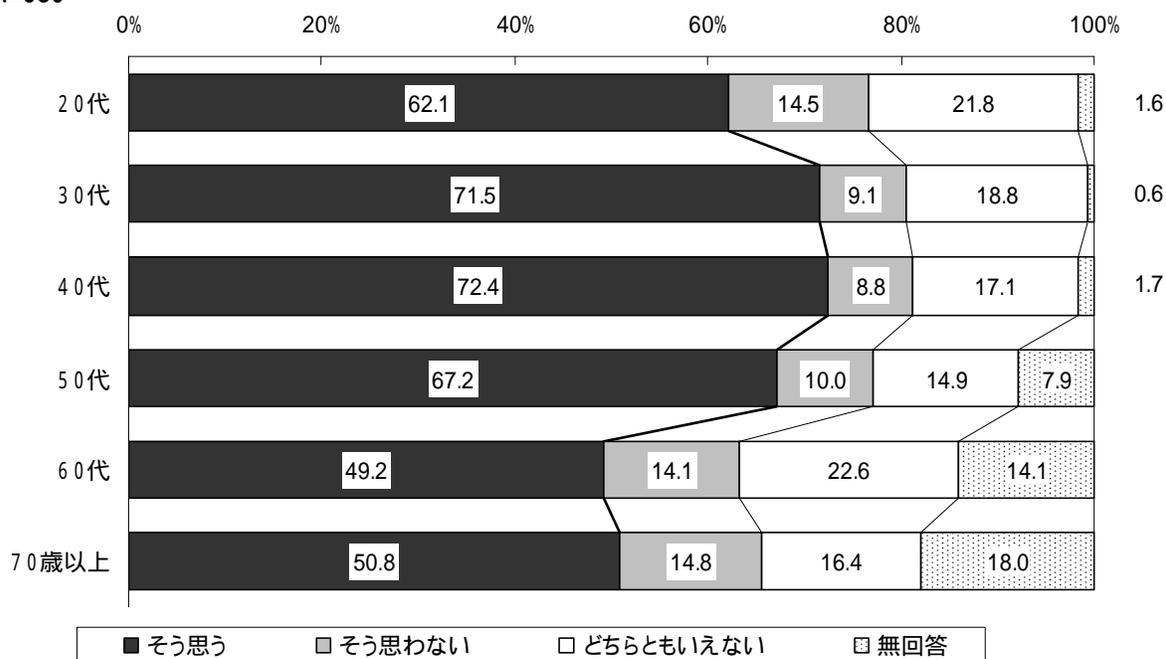
なお、「そう思う」は18年県では51.3%であった。厚木市の場合、県より12.4ポイント比率が高い。ここにも厚木市での、この問題に対する敏感さがあらわれている。



年代別では、「そう思う」は40代の72.4%をピークに山型の傾向となっている。

年代別 I 大声でどなる

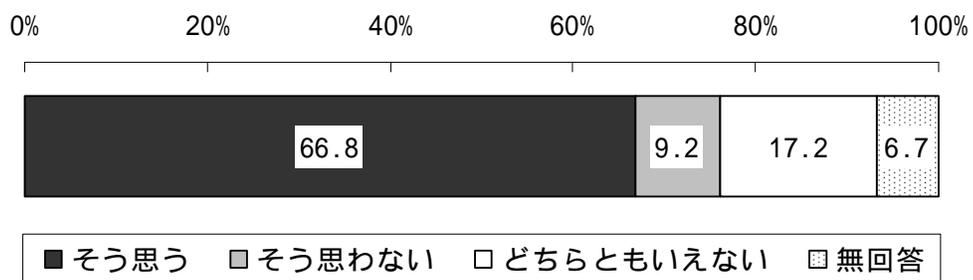
n=980



(J) 生活費を渡さない。

「そう思う」66.8%、「そう思わない」9.2%、「どちらともいえない」17.2%となっている。

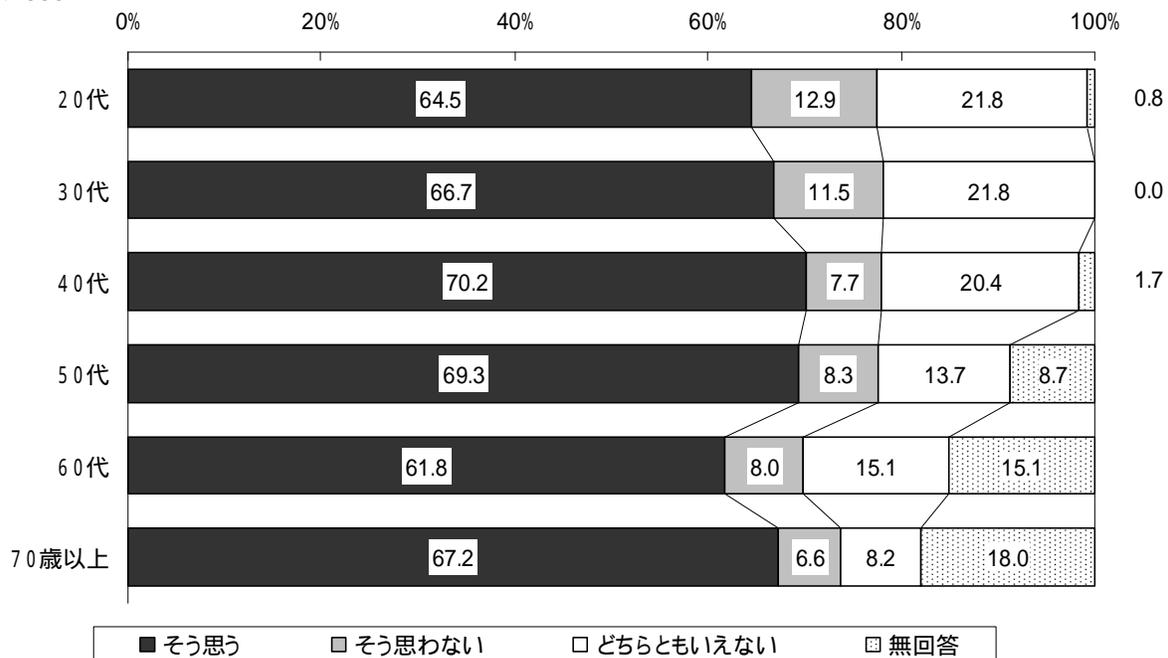
n=980



年代別では、「そう思う」は年代間にあまり大きな差異はみられない。

年代別 J 生活費を渡さない

n=980



7 ワーク・ライフ・バランスと生活時間の配分について

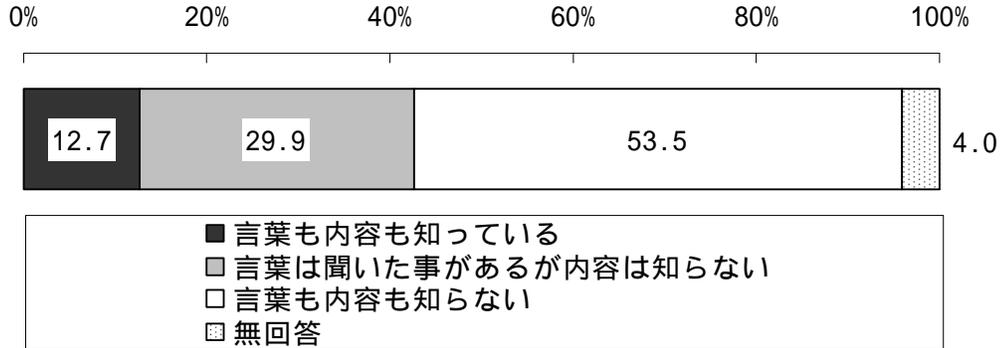
ワーク・ライフ・バランスと生活時間の配分についてうかがいます。

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度(問27)

ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。

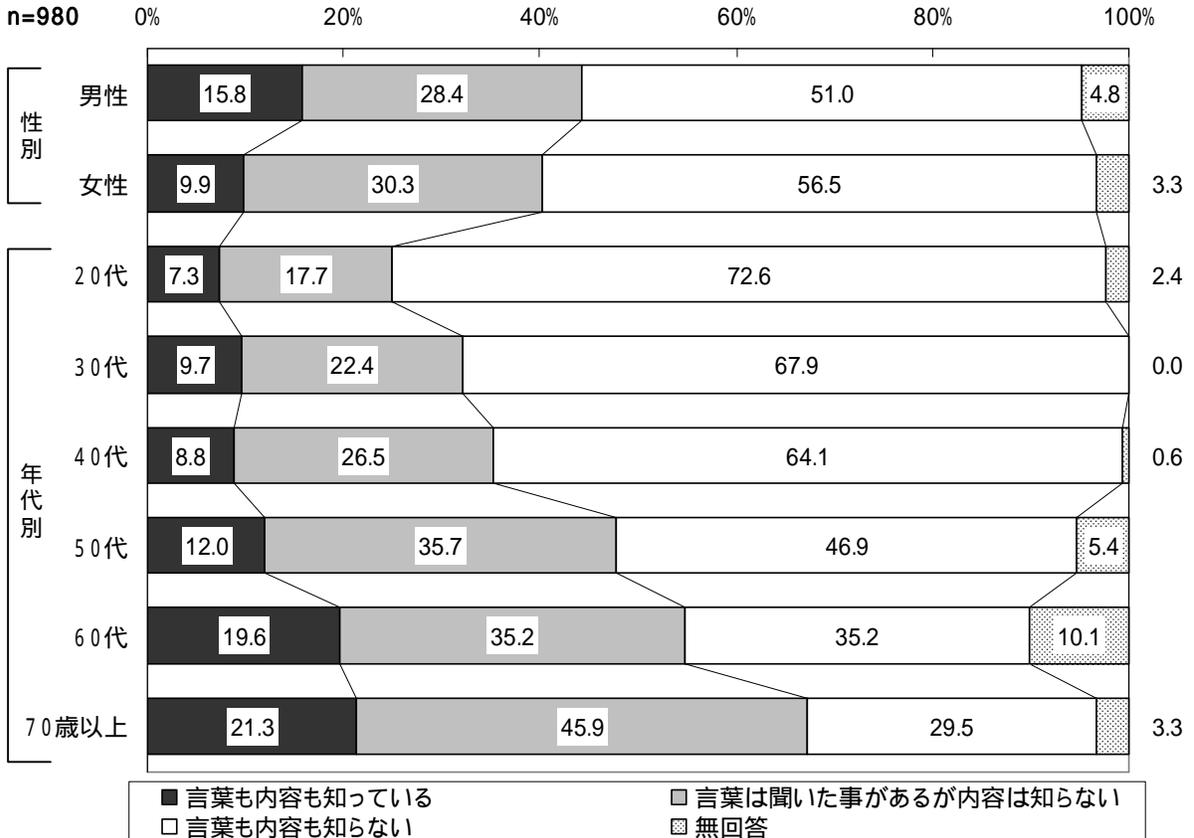
「言葉も内容も知っている」12.7%、「言葉は聞いた事があるが内容は知らない」29.9%、「言葉も内容も知らない」53.5%となっている。まだ、内容の実態が広く認知されていないことがうかがえる。

n=980



性別では、「言葉も内容も知っている」は男性が女性より5.9ポイント比率が高い。

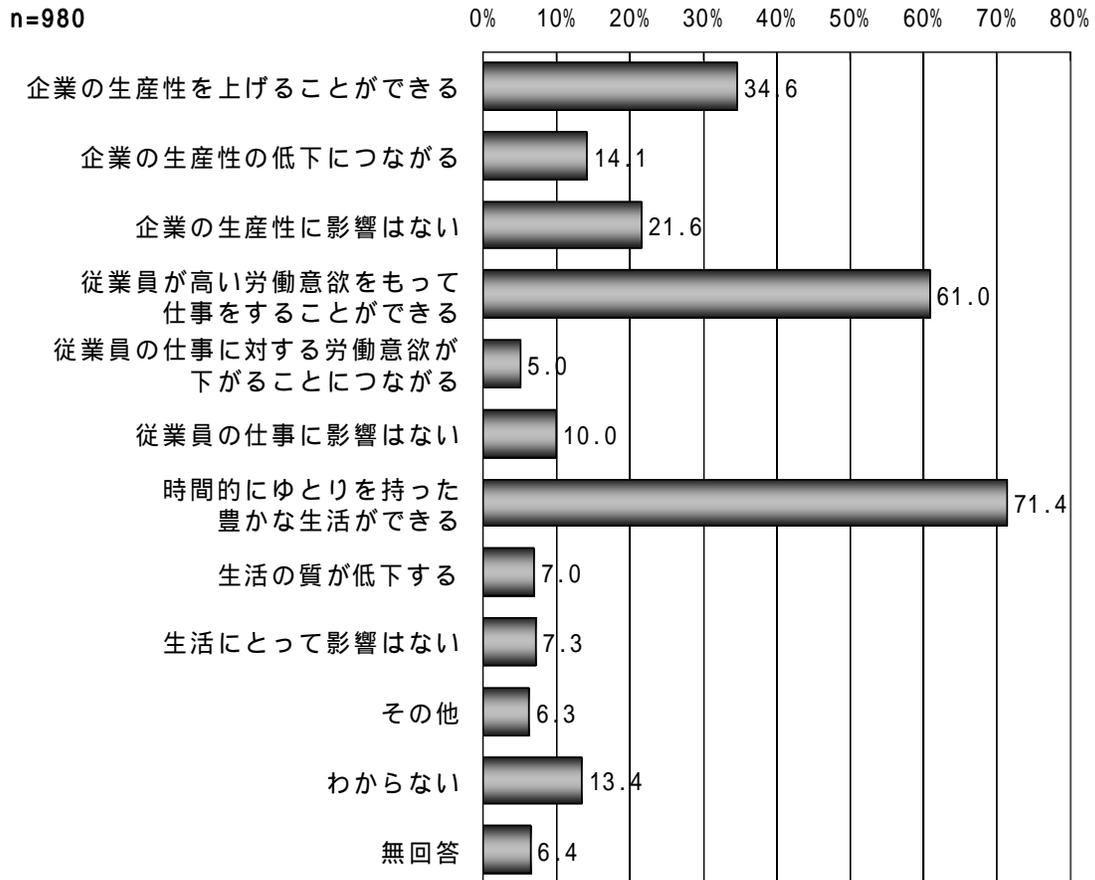
年代別では、「言葉も内容も知っている」は加齢に伴い比率が増加する傾向がみられる。



(2) ワーク・ライフ・バランス促進の効果(問28)

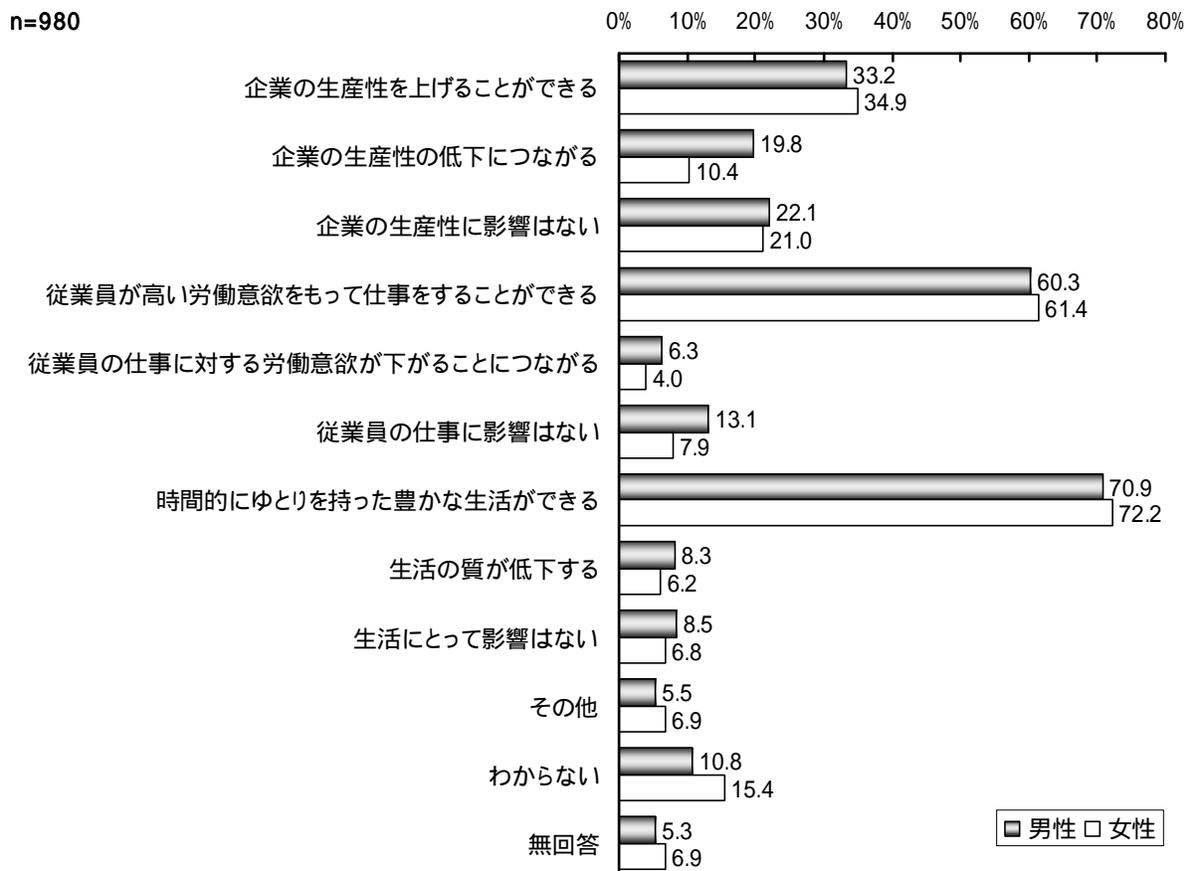
ワーク・ライフ・バランスを進めることで、どのような効果があると思いますか。

「時間的ゆとりを持った豊かな生活ができる」が71.4%と最も比率が高い。次いで「従業員が高い労働意欲をもって仕事をすることができる」61.0%、「企業の生産性を上げることができる」34.6%とつづく。全体的に肯定的意見が強くなっている。

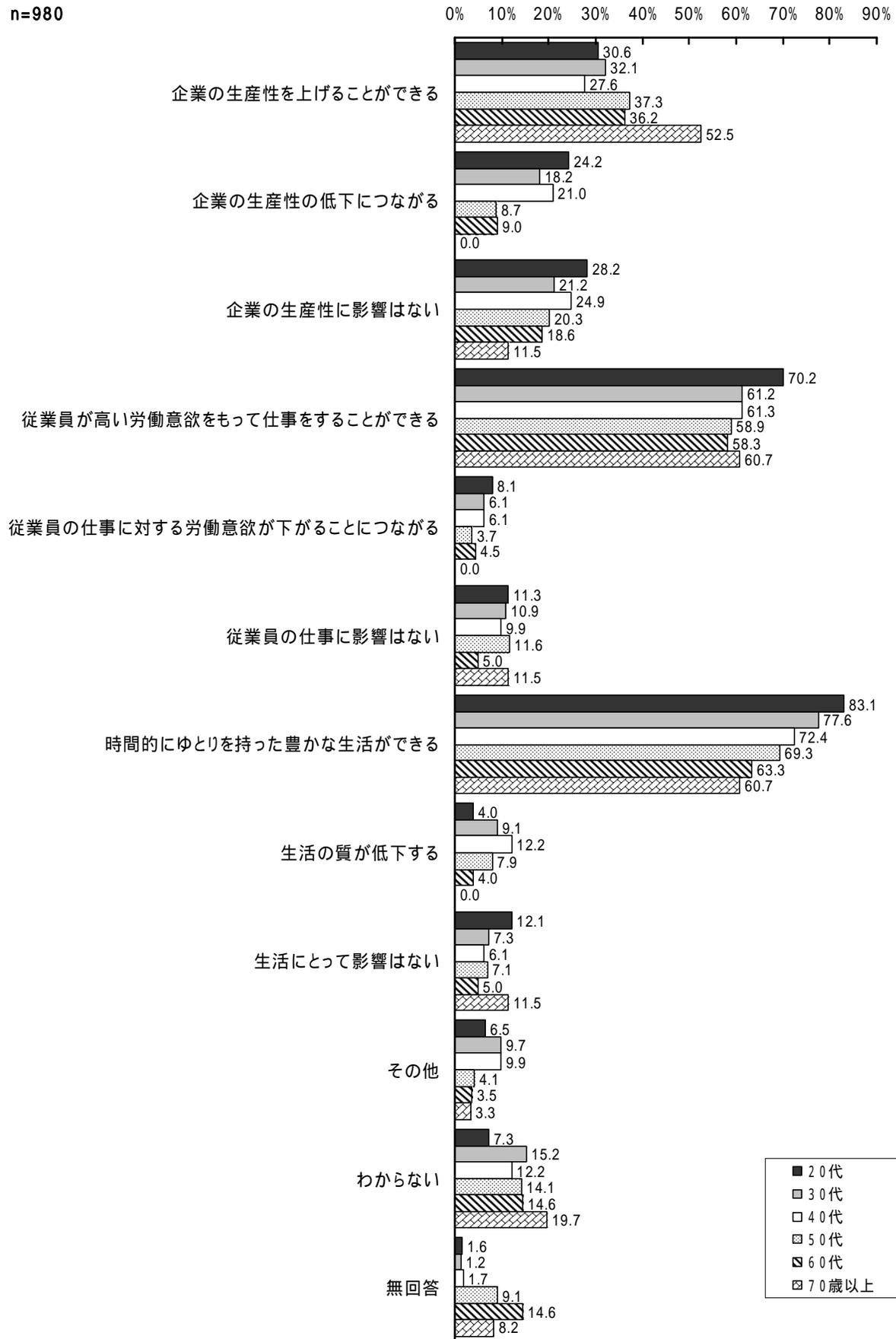


性別では、「企業の生産性低下につながる」は男性が女性より 9.4 ポイント比率が高い。また、「従業員の仕事に影響はない」も男性が女性より 5.2 ポイント比率が高くなっている。全体的に男性が女性より効果に対し多少否定的な傾向がうかがえる。

年代別では、「企業の生産性低下につながる」は 20～40 代の比率が 20%前後と高いのが目立つ。



n=980

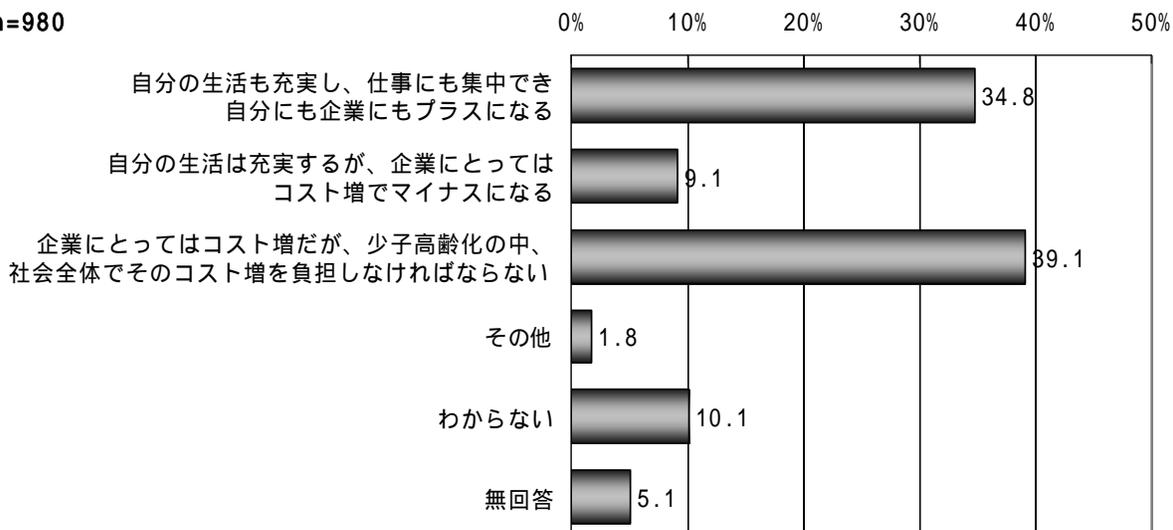


(3) 企業育児制度充実への意見(問29)

企業が育児制度を充実させることについてどう思いますか。

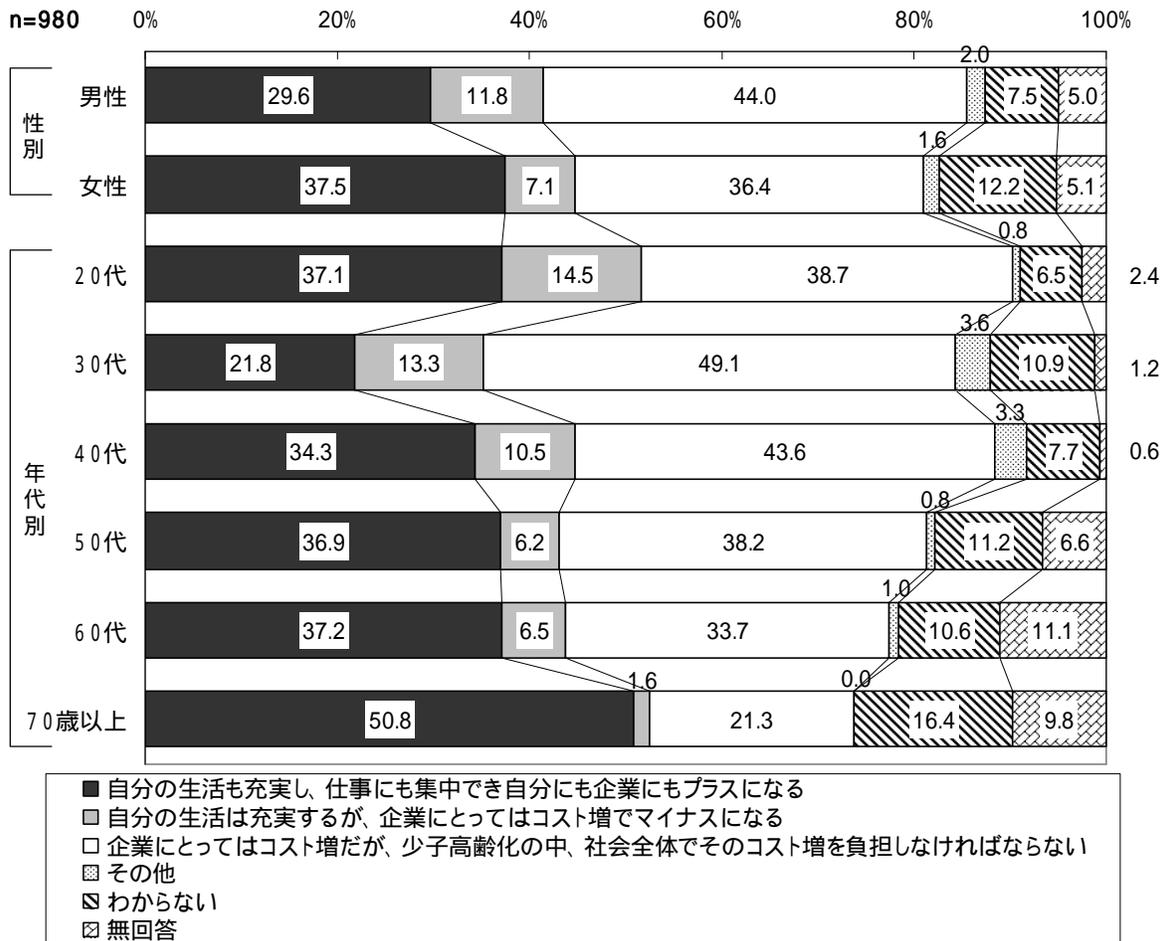
「企業にとってはコスト増だが、少子高齢化の中、社会全体でそのコスト増を負担しなければならない」が39.1%と最も比率が高くなっている。次いで「自分の生活も充実し、仕事にも集中でき、自分にも企業にもプラスになる」34.8%とつづく。

n=980



性別では、男性より女性の方に企業の育児制度の充実については肯定的意見が強い傾向がみられる。

年代別では、「自分の生活も充実し、仕事にも集中でき、自分にも企業にもプラスになる」が30代で21.8%と最も比率が低くなっている。「自分の生活は充実するが、企業にとってはコスト増でマイナスになる」は若い人ほど比率が高くなる傾向がみられる。



(4) 現在の生活時間の配分(問30)

あなたの現在の生活時間のおおよその配分をお知らせください。

(平日の性別・年代別平均生活時間)

全体では、睡眠6時間38分、仕事6時間、家事・育児3時間45分、学習・趣味2時間5分、スポーツ・レジャー32分、介護9分、社会活動15分、通勤通学1時間、その他3時間37分となっている。

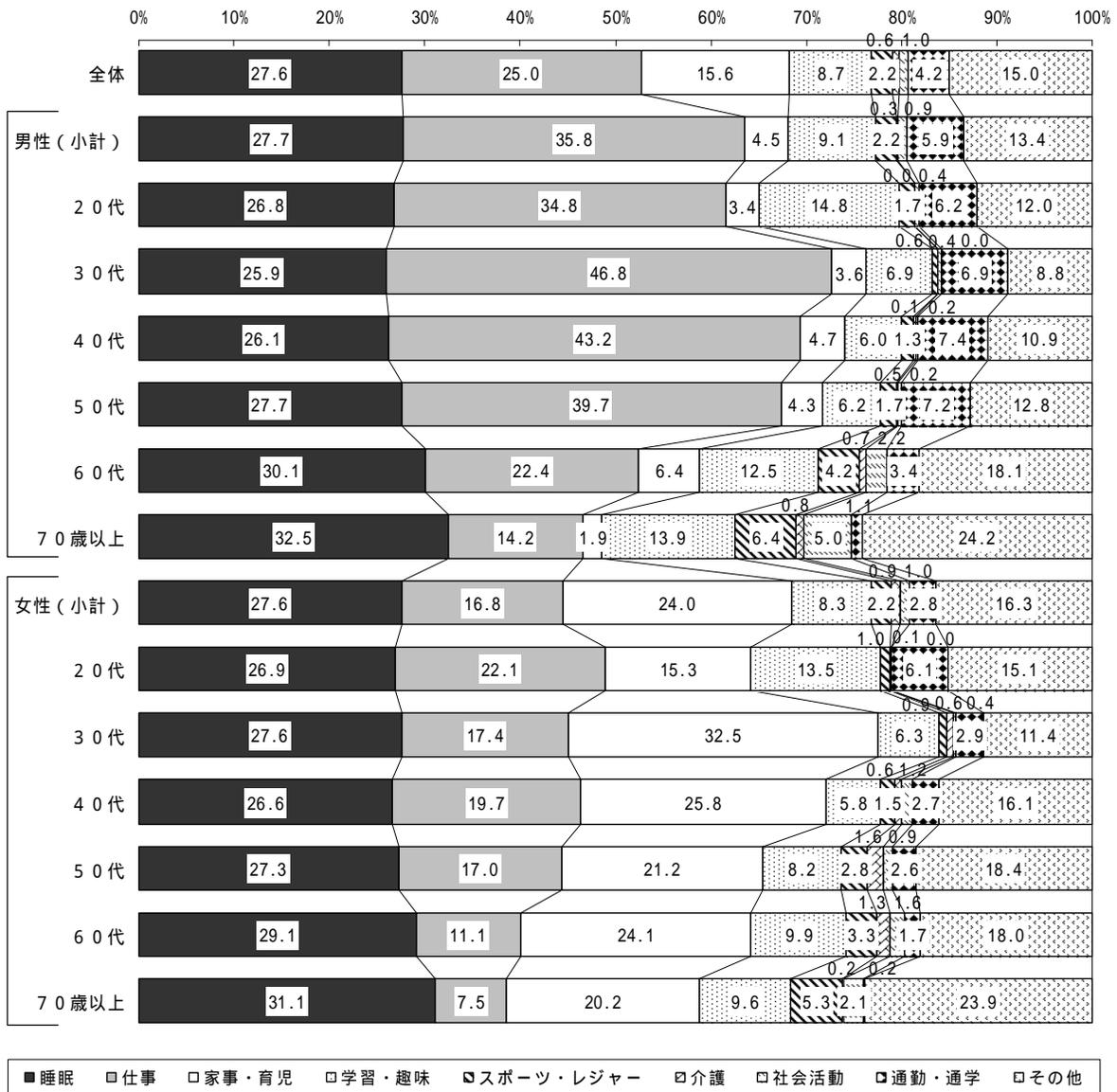
性別では、睡眠は男女間にほとんど差異はない。仕事は男性が女性より4時間33分多く、家事・育児は女性が男性より4時間40分多い。学習・趣味とスポーツ・レジャーは男女間に大きな差異はない。介護は女性が男性より8分多く、社会活動は男女間に大きな差異はない。通勤・通学は男性が女性より45分多く、その他は女性が男性より41分多くなっている。

性別・年代別では、仕事は男性の20～50代で8時間以上と多くなっている。特に30代は11時間14分で最も多い。家事・育児は女性の30～60代で5時間以上と多くなっている。特に30代は7時間49分で特に多い。

単位:時間

全体		人数	睡眠	仕事	家事・育児	学習・趣味	スポーツ・レジャー	介護	社会活動	通勤・通学	その他
		820	6:38	6:00	3:45	2:05	0:32	0:09	0:15	1:00	3:37
男	全体	340	6:39	8:36	1:05	2:12	0:32	0:04	0:14	1:26	3:14
	20代	47	6:26	8:22	0:49	3:33	0:24	0:00	0:05	1:29	2:53
	30代	51	6:13	11:14	0:52	1:39	0:09	0:00	0:06	1:40	2:07
	40代	69	6:17	10:22	1:08	1:26	0:19	0:03	0:02	1:47	2:37
	50代	82	6:38	9:32	1:01	1:29	0:24	0:02	0:07	1:43	3:04
	60代	75	7:14	5:22	1:32	3:00	1:01	0:10	0:31	0:50	4:21
	70歳以上	15	7:48	3:24	0:28	3:20	1:32	0:12	1:12	0:16	5:48
女	全体	454	6:38	4:03	5:45	2:00	0:31	0:12	0:14	0:41	3:55
	20代	60	6:27	5:18	3:41	3:14	0:15	0:01	0:00	1:28	3:37
	30代	93	6:38	4:10	7:49	1:31	0:12	0:09	0:05	0:42	2:44
	40代	93	6:23	4:44	6:12	1:23	0:22	0:08	0:18	0:39	3:51
	50代	114	6:33	4:05	5:05	1:58	0:40	0:23	0:13	0:37	4:25
	60代	65	6:59	2:39	5:48	2:22	0:48	0:18	0:23	0:24	4:19
	70歳以上	26	7:28	1:48	4:51	2:18	1:16	0:02	0:30	0:02	5:44

次ページの図は上記表を%表示したものである。



(土日等の性別・年代別平均生活時間)

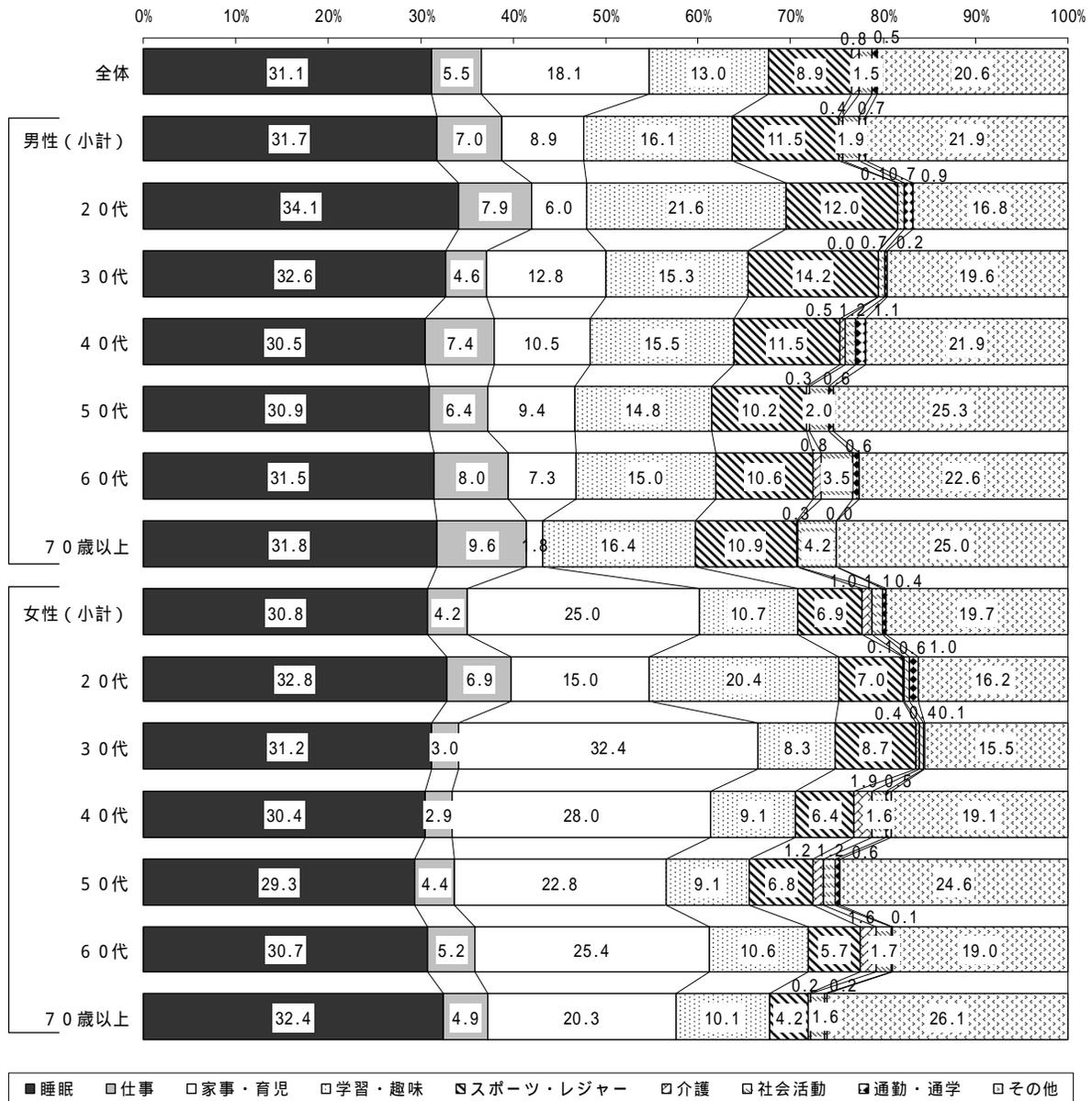
全体では、睡眠 7 時間 28 分、仕事 1 時間 19 分、家事・育児 4 時間 20 分、学習・趣味 3 時間 7 分、スポーツ・レジャー 2 時間 9 分、介護 11 分、社会活動 21 分、通勤通学 8 分、その他 4 時間 57 分となっている。

性別・年代別では、仕事は男性の 60 歳代以上で 2 時間前後と高くなっているのが目立つ。また、学習・趣味は男性及び女性の 20 代で 5 時間前後と高いのが特徴となっている。家事・育児は男性が平日に比べ 1 時間以上増加しているものの、女性の家事・育児は平日と変わらないが、少し増加している。

単位:時間

全体		人数	睡眠	仕事	家事・育児	学習・趣味	スポーツ・レジャー	介護	社会活動	通勤・通学	その他
		797	7:28	1:19	4:20	3:07	2:09	0:11	0:21	0:08	4:57
男	全体	332	7:37	1:41	2:08	3:52	2:45	0:05	0:27	0:10	5:15
	20代	46	8:10	1:53	1:26	5:12	2:52	0:01	0:10	0:13	4:01
	30代	53	7:50	1:06	3:05	3:41	3:24	0:00	0:10	0:03	4:42
	40代	71	7:19	1:46	2:31	3:43	2:46	0:07	0:17	0:16	5:15
	50代	74	7:25	1:32	2:16	3:33	2:28	0:04	0:29	0:09	6:04
	60代	72	7:33	1:56	1:45	3:37	2:33	0:12	0:50	0:09	5:25
	70歳以上	16	7:38	2:19	0:26	3:56	2:38	0:04	1:00	0:00	6:00
女	全体	439	7:23	1:01	6:01	2:35	1:40	0:15	0:16	0:06	4:43
	20代	60	7:52	1:40	3:37	4:54	1:41	0:01	0:08	0:15	3:53
	30代	94	7:29	0:43	7:46	2:00	2:06	0:06	0:06	0:01	3:43
	40代	95	7:18	0:42	6:43	2:11	1:32	0:28	0:23	0:07	4:35
	50代	104	7:02	1:03	5:28	2:10	1:38	0:17	0:17	0:09	5:55
	60代	60	7:23	1:15	6:06	2:33	1:23	0:23	0:25	0:02	4:33
	70歳以上	23	7:47	1:10	4:52	2:26	1:00	0:03	0:23	0:03	6:16

次ページの図は上記表を%表示したものである。



(5) 希望する(理想的)生活時間の配分(問31)

あなたが現在希望する(理想と思う。)生活時間のおおよその配分をお知らせください。

(理想とする平日の性別・年代別平均生活時間)

全体では、睡眠7時間17分、仕事5時間51分、家事・育児3時間12分、学習・趣味2時間36分、スポーツ・レジャー1時間13分、介護10分、社会活動25分、通勤通学49分、その他2時間27分となっている。

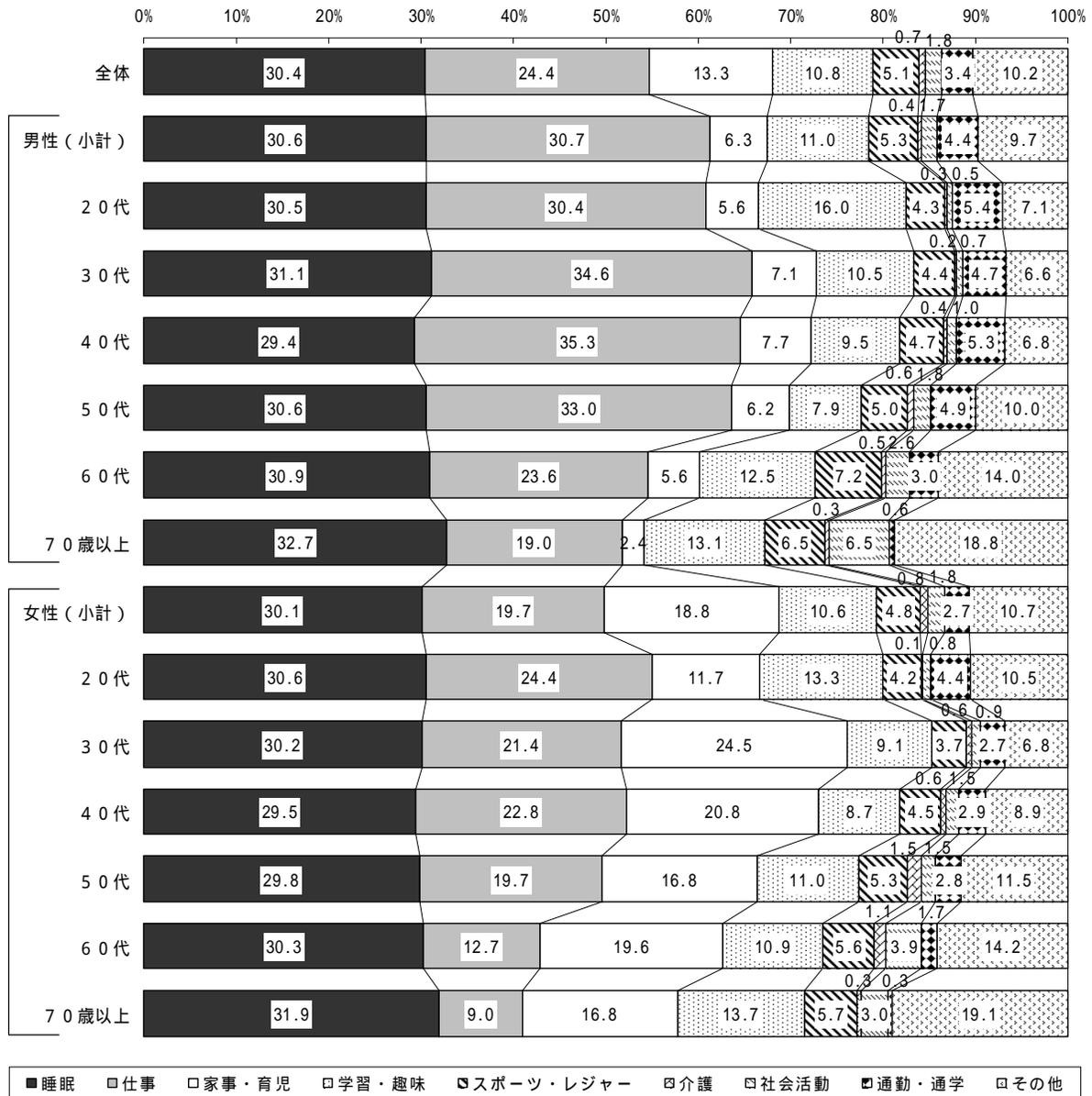
性別では、睡眠は男女間に差異はない。仕事は男性が女性より2時間38分多く、家事・育児は女性が男性より3時間1分多い。学習・趣味は男女間に大きな差異はない。スポーツ・レジャーは男性が女性より8分多い。介護は女性が男性より6分多く、社会活動は男女間に大きな差異はない。通勤・通学は男性が女性より24分多く、その他は女性が男性より14分多くなっている。

性別・年代別では、仕事は男性の20～40代で7時間以上と多くなっている。特に40代は8時間28分で最も多い。家事・育児は女性の30～70代以上で4時間以上と多くなっている。特に30代は5時間53分で特に多い。

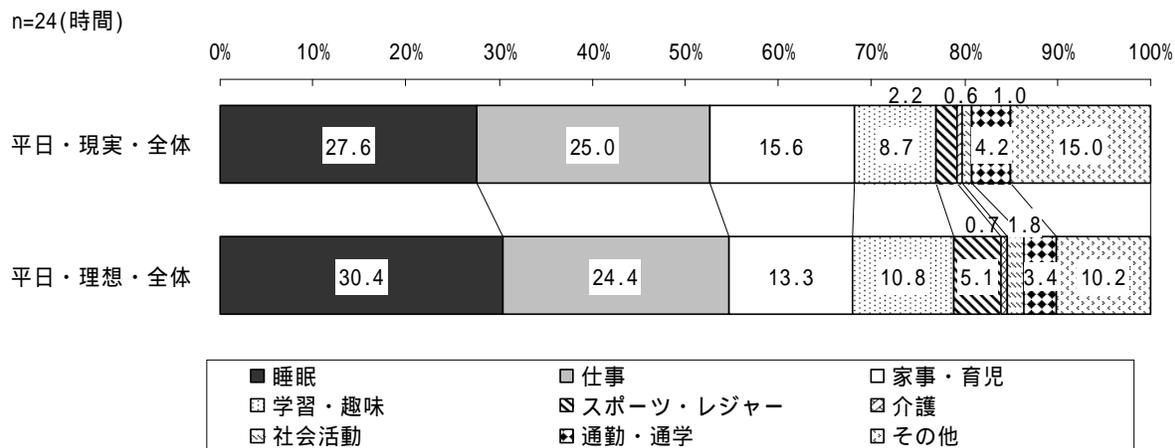
単位:時間

全体		人数	睡眠	仕事	家事・育児	学習・趣味	スポーツ・レジャー	介護	社会活動	通勤・通学	その他
		777	7:17	5:51	3:12	2:36	1:13	0:10	0:25	0:49	2:27
男	全体	328	7:20	7:22	1:30	2:38	1:16	0:06	0:24	1:03	2:20
	20代	44	7:19	7:18	1:20	3:50	1:01	0:04	0:07	1:18	1:43
	30代	51	7:28	8:19	1:42	2:32	1:03	0:02	0:11	1:08	1:35
	40代	68	7:03	8:28	1:50	2:17	1:08	0:06	0:14	1:16	1:38
	50代	76	7:21	7:55	1:30	1:53	1:12	0:09	0:26	1:11	2:24
	60代	74	7:25	5:40	1:21	3:00	1:43	0:07	0:38	0:43	3:22
	70歳以上	14	7:51	4:34	0:34	3:09	1:34	0:04	1:34	0:09	4:30
女	全体	426	7:14	4:44	4:31	2:33	1:08	0:12	0:25	0:39	2:34
	20代	59	7:21	5:51	2:48	3:11	1:01	0:02	0:12	1:04	2:31
	30代	88	7:15	5:09	5:53	2:12	0:54	0:09	0:13	0:38	1:38
	40代	88	7:05	5:28	4:59	2:06	1:04	0:08	0:21	0:42	2:08
	50代	105	7:09	4:44	4:02	2:38	1:16	0:22	0:22	0:41	2:46
	60代	59	7:16	3:03	4:43	2:37	1:21	0:16	0:56	0:24	3:24
	70歳以上	24	7:40	2:10	4:03	3:18	1:23	0:05	0:43	0:05	4:35

次ページの図は上記表を%表示したものである。



下図は平日の現実の生活時間の配分と理想のそれを比率で表したものである。



(理想とする土日等の性別・年代別平均生活時間)

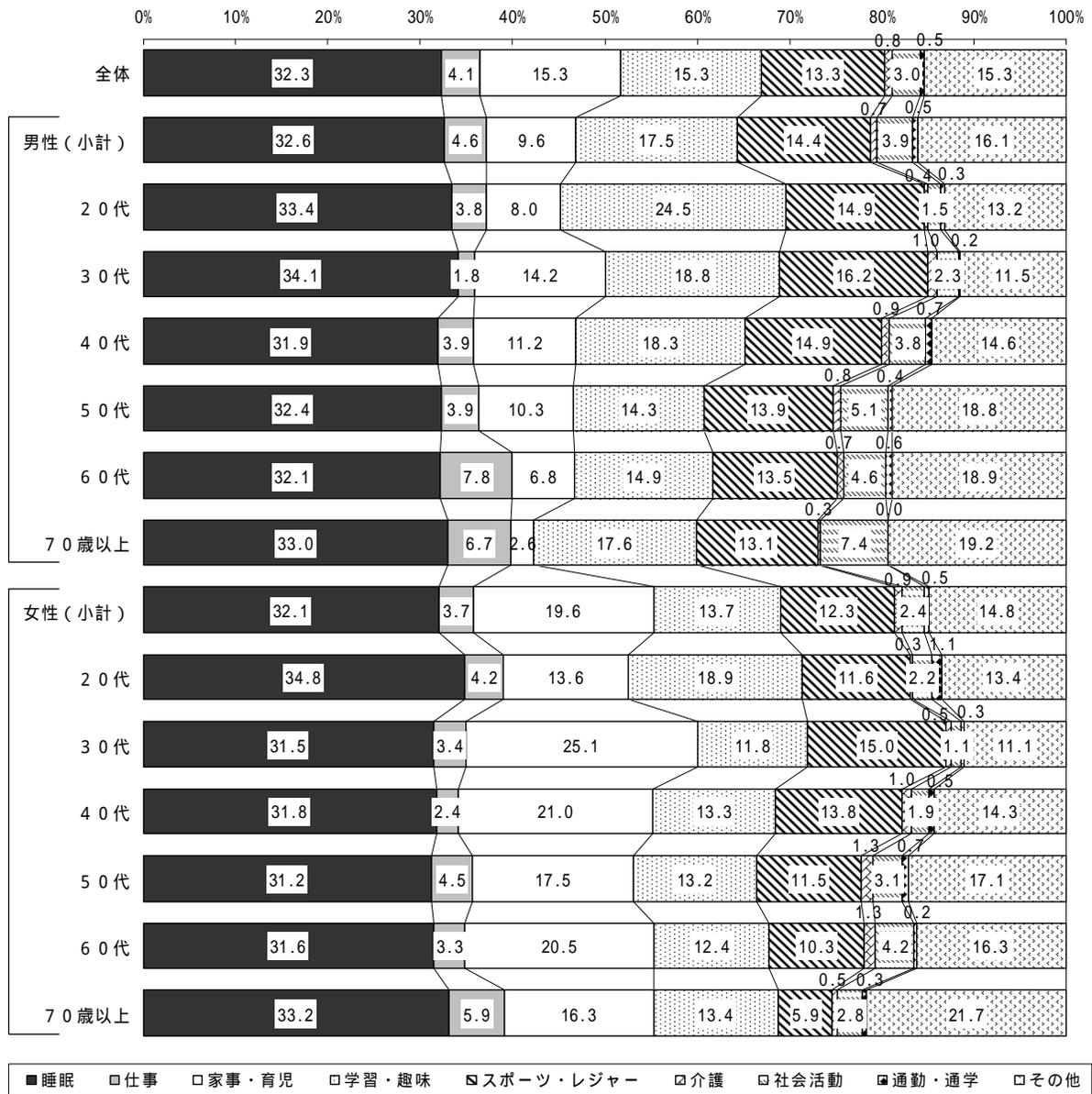
全体では、睡眠7時間46分、仕事59分、家事・育児3時間40分、学習・趣味3時間40分、スポーツ・レジャー3時間11分、介護12分、社会活動44分、通勤通学7分、その他3時間41分となっている。

性別・年代別では、男女とも学習・趣味、スポーツ・レジャーが平日より多くなっているのが目立つ。その中でも、男女の20代で高くなっているのが特徴である。家事・育児は男性は平日に比べ時間が増加しているが、女性は平日とあまり差異はない。

単位:時間

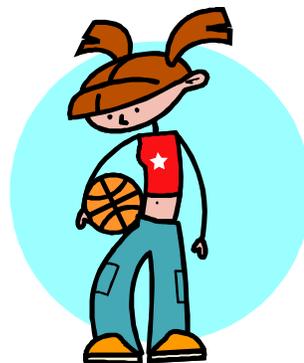
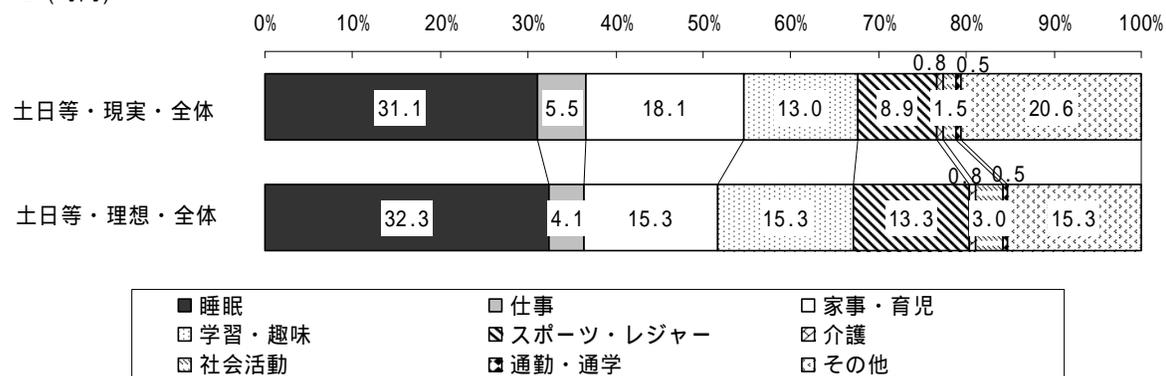
全体		人数	睡眠	仕事	家事・育児	学習・趣味	スポーツ・レジャー	介護	社会活動	通勤・通学	その他
		757	7:46	0:59	3:40	3:40	3:11	0:12	0:44	0:07	3:41
男	全体	312	7:50	1:06	2:19	4:12	3:28	0:11	0:56	0:07	3:52
	20代	42	8:01	0:54	1:56	5:52	3:34	0:06	0:21	0:05	3:10
	30代	47	8:11	0:26	3:24	4:31	3:53	0:14	0:33	0:03	2:45
	40代	68	7:39	0:56	2:41	4:23	3:34	0:12	0:55	0:10	3:30
	50代	69	7:46	0:57	2:28	3:25	3:21	0:12	1:14	0:06	4:31
	60代	72	7:43	1:53	1:38	3:35	3:15	0:10	1:06	0:09	4:33
	70歳以上	13	7:55	1:37	0:37	4:14	3:09	0:05	1:46	0:00	4:37
女	全体	421	7:42	0:53	4:42	3:18	2:57	0:13	0:35	0:08	3:34
	20代	58	8:21	1:01	3:16	4:32	2:47	0:04	0:31	0:16	3:13
	30代	92	7:34	0:50	6:02	2:50	3:36	0:08	0:16	0:04	2:40
	40代	88	7:38	0:34	5:02	3:12	3:18	0:14	0:28	0:07	3:27
	50代	101	7:30	1:04	4:11	3:11	2:45	0:18	0:45	0:10	4:06
	60代	55	7:34	0:47	4:56	2:59	2:28	0:19	1:00	0:03	3:54
	70歳以上	24	7:58	1:25	3:55	3:13	1:25	0:08	0:40	0:05	5:13

次ページの図は上記表を%表示したものである。



下図は土日等の現実の生活時間の配分と理想のそれを比率で表したものである。

n=24(時間)



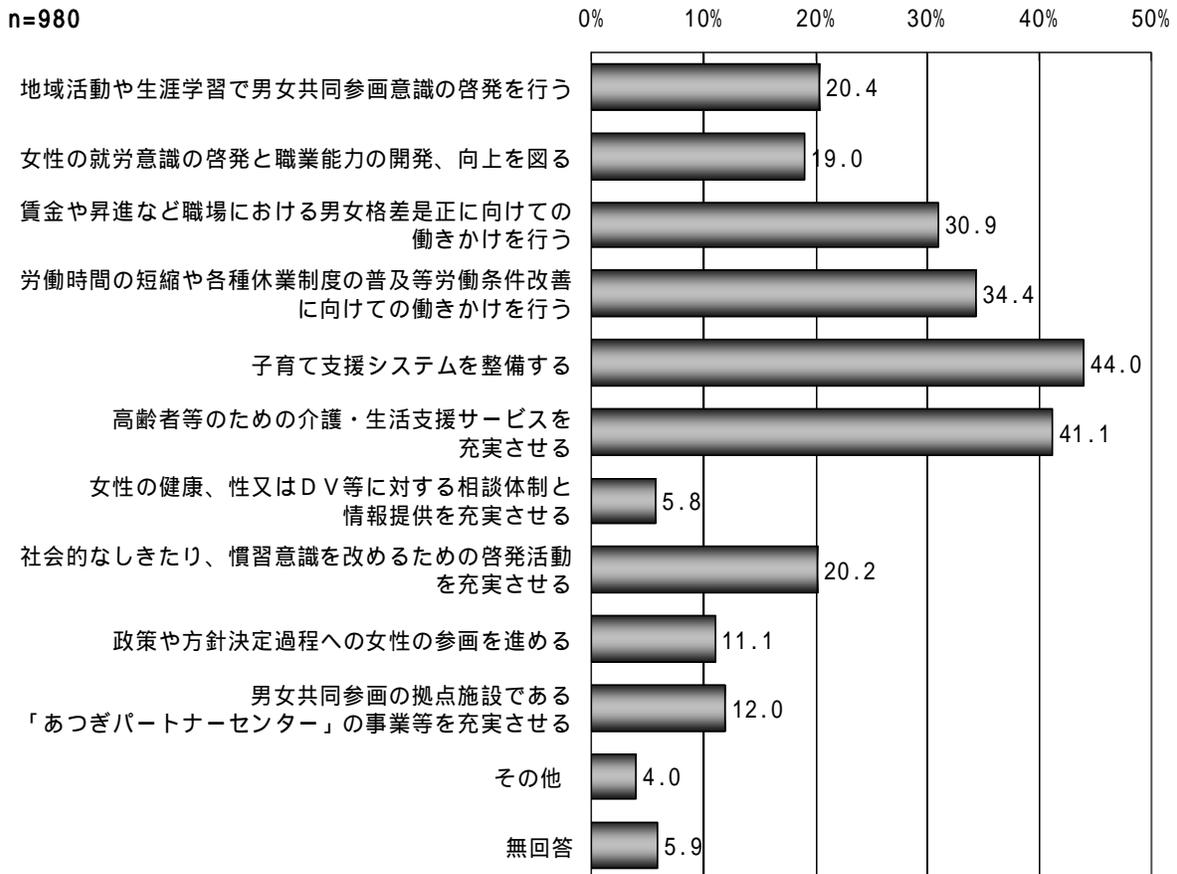
8 男女共同参画社会に関する施策について

男女共同参画社会に関する施策についてうかがいます。

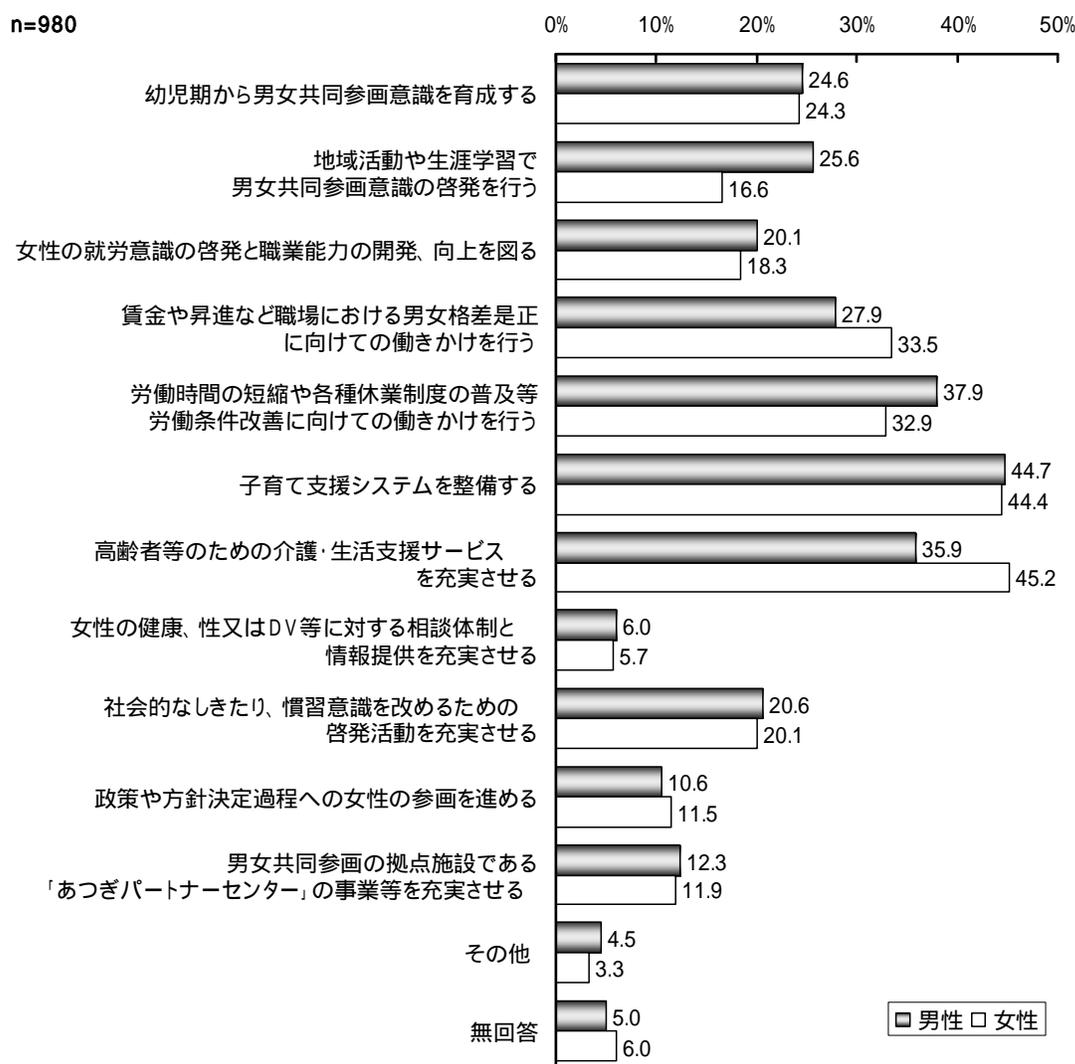
(1) 行政での取り組みが必要なもの(問32)

男性も女性も性別にかかわらず、自分の個性や能力を生かして活躍できる社会を実現するために、行政でどのような取り組みが必要だと思われますか。

「子育て支援システムを整備する」が44.0%と最も比率が高くなっている。次いで「高齢者のための介護・支援サービスを充実させる」41.1%、「労働時間の短縮や各種休業制度の普及等労働条件改善に向けての働きかけを行う」34.4%、「賃金や昇進など職場における男女格差是正に向けての働きかけを行う」30.9%とつづく。

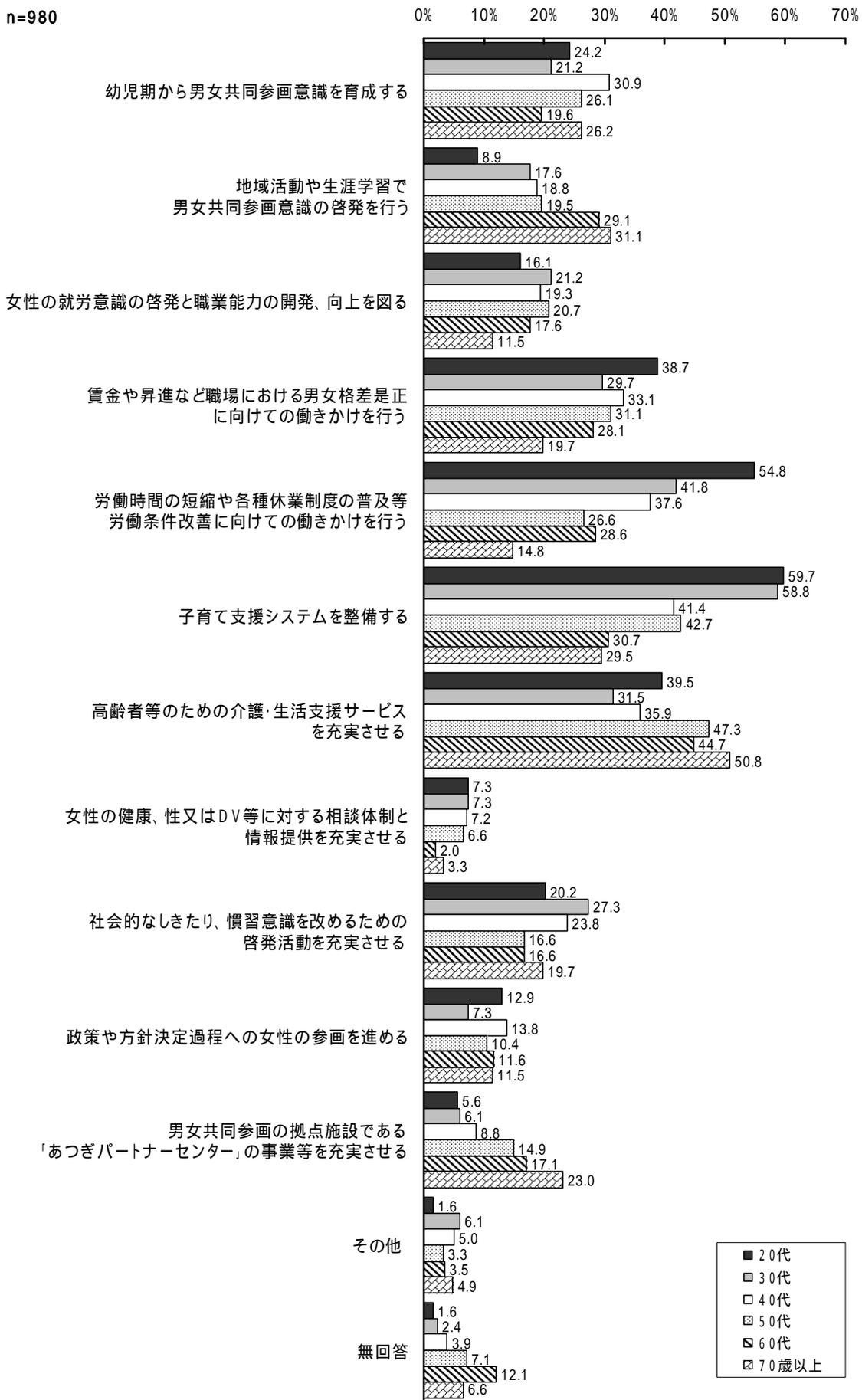


性別では、「地域活動や生涯学習で男女共同参画意識の啓発を行う」は男性が女性より 9.0 ポイント比率が高く、反対に、「高齢者のための介護・支援サービスを充実させる」は女性が男性より 9.3 ポイント比率が高い。その他は男性、女性間に大きな差異はみられない。



年代別では、「高齢者のための介護・支援サービスを充実させる」、「地域活動や生涯学習で男女共同参画意識の啓発を行う」や「男女共同参画の拠点施設であるあつぎパートナーセンターの事業等を充実させる」は加齢に伴い比率が増加する傾向がみられる。反対に、「労働時間の短縮や各種休業制度の普及等労働条件改善に向けての働きかけを行う」、「子育て支援システムを整備する」は若い人ほど比率が高くなる傾向がみられる。

n=980



IV 調査票

平成 19 年度

厚木市男女共同参画市民意識調査

この調査は、市民の方々に様々な場面における男女平等の実態や考え方をお伺いし、男女共同参画に関する施策を有効に進めるうえでの重要な資料とさせていただくために実施するもので、厚木市にお住まいの20歳以上の2,000人を無作為に選ばせていただきました。

回答していただいた結果は、「 と回答した人は何パーセント」というように整理いたしますので、ご回答いただいた方にご迷惑をおかけすることは絶対にありません。

お手数とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 19 年 8 月 27 日

厚木市長 小林 常 良

<記入上のお願い>

- 1 回答は、宛名のご本人がお答えください。
- 2 回答は、あてはまる番号を で囲んでください。なお、「その他」を で囲んだ場合は、具体的な内容を()内にお書きください。
- 3 設問では、「女性の方だけ」や「3つまで」などと指定されていますので、指定のとおりお答えください。
- 4 ご記入いただいた回答用紙は、同封の返信用封筒に入れ、9月14日(金)までに投函してくださるようお願いいたします。
- 5 目の不自由な方で点字の調査用紙が必要な場合は、下記までご連絡ください。
- 6 この調査についてご不明な点などがありましたら、下記にお問い合わせください。

担当 厚木市中町1丁目4番3号(あつぎパートナーセンター内)
市民協働部男女共同参画課 TEL 225 - 2500

「男女共同参画社会」てなに？

これまでの古い慣習や文化が作りあげてきたジェンダー（社会的・文化的な性による差別）から自由になる社会

「男は仕事、女は家庭」

「男だから、女だから」

は、見直していこうということです。

自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、多様な生き方が選択できる社会

家庭

仕事

学校

地域社会

政治

国では男女共同参画社会基本法が制定され、男性と女性が対等なパートナーとして、利益を享受し、共に責任を担う社会をめざしています。

このような社会をつくるために

市民の皆様のご意見をお伺いし、今後の施策展開に役立てていきたいと考えております。

あなたの生活をもう一度振り返って、率直な考えをお聴かせください。

問9 あなたは「男は仕事」「女は家庭」というように性別で役割を区別する考え方についてどう思われますか。あてはまる番号を1つ選んで をつけてください。

1 もっともだと思う 2 そうは思わない 3 どちらともいえない

家庭生活についてうかがいます。

問10 結婚している方(事実婚も含む)だけにうかがいます。あなたの家庭では、次にあげること
を主に誰が分担していますか。あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで をつけてください。

	夫と妻で半々	主に妻	主に夫	その他の人
A 食事のしたく	1	2	3	4
B 食事の後片付け	1	2	3	4
C 掃除	1	2	3	4
D 洗濯	1	2	3	4
E 買物	1	2	3	4
F 子育て	1	2	3	4
G 介護	1	2	3	4
H 地域活動(自治会など)	1	2	3	4

問11 あなたは日常生活のなかで、次にあげるとは誰が行うことが望ましいと考えますか。あ
てはまる番号をそれぞれ1つ選んで をつけてください。

	夫と妻で半々	主に妻	主に夫	その他の人
A 食事のしたく	1	2	3	4
B 食事の後片付け	1	2	3	4
C 掃除	1	2	3	4
D 洗濯	1	2	3	4
E 買物	1	2	3	4
F 子育て	1	2	3	4
G 介護	1	2	3	4
H 地域活動(自治会など)	1	2	3	4

出産・育児についてうかがいます。

問12 近年、出生率が低下し少子化が進んでいますが、その理由はどのようなことにあると思いますか。あてはまる番号を3つまで選んで をつけてください。

- | | |
|----|-----------------------------|
| 1 | 経済的なゆとりがないから |
| 2 | 子どもより仕事を優先と考えている人が多いから |
| 3 | 結婚しない人が増えたから |
| 4 | 地域や職場での子育て支援制度が充実していないから |
| 5 | 結婚年齢が高くなったから |
| 6 | 子どもより夫婦を中心に考える人が増えたから |
| 7 | 出産や育児は精神的・肉体的負担が大きいから |
| 8 | 育児に対する男性の理解、協力が足りないから |
| 9 | 子どもは少なくして、手厚く育てたいという人が増えたから |
| 10 | その他() |

問13 出産・育児に関する次のような考え方をあなたはどのように思いますか。あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで をつけてください。

A 子どもを生む、生まない、いつ生む、何人生むかについては、お互いの意思を尊重すべきだ	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない
B 3歳までは母親の手で育てるべきだ	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない
C 子どもを外に預けてまで仕事をすべきではない	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない
D 家庭での子どもの教育やしつけは母親の責任である	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない
E 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない

社会生活（仕事、地域活動）についてうかがいます。

問14 女性にとって望ましい働き方はどれだと思いますか。あてはまる番号を1つ選んでつけてください。

1	結婚せず、ずっと就業する
2	結婚・出産してもずっと就業する
3	結婚するまでは職業を持つが、その後は持たない
4	出産するまでは職業を持つが、その後は持たない
5	職業は持ち続けるが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る
6	職業は持たず主婦業に専念する
7	その他（ ）

問15 現在、お勤めの方だけにうかがいます。あなたは職場の中で、女性について次のように感じるがありますか。あてはまる番号をそれぞれ1つ選んでつけてください。

A	責任ある仕事を任せない傾向がある	1 ある 2 ない
B	教育訓練の機会が少ない、その内容が異なる	1 ある 2 ない
C	能力を生かせる機会や配置転換が少ない	1 ある 2 ない
D	男性にくらべ昇進・昇格が遅い	1 ある 2 ない
E	結婚・出産を機に退職する習慣や圧力がある	1 ある 2 ない
F	女性上司の下で仕事をするには、正直抵抗感がある	1 ある 2 ない
G	女性に対し身構えたり、甘やかしたりする上司や同僚がいる	1 ある 2 ない

問16 現在、お勤めの方だけにうかがいます。あなたの職場には次のような制度はありますか。あてはまる番号をそれぞれ1つ選んでつけてください。

A	産前産後休暇制度 (産前産後の休暇が充分に取れる制度)	1 ある 2 ない
B	育児休業制度 (子どもが生まれてから希望に応じある程度の期間休める制度)	1 ある 2 ない
C	フレックスタイム制度 (出社・退社の時刻を自由に決められる制度)	1 ある 2 ない
D	短時間勤務制度 (育児・介護のため就業時間を縮めることができる制度)	1 ある 2 ない
E	介護・看護休業制度 (子どもや親の介護・看護のため必要な期間休業できる制度)	1 ある 2 ない
F	再雇用制度 (出産・育児・介護などのため退職した女性を元の職場で再雇用する制度)	1 ある 2 ない
G	企業内保育制度 (企業内の保育所が利用できる制度)	1 ある 2 ない
H	在宅勤務制度 (自宅で仕事をすることができる制度)	1 ある 2 ない

問17 男女が共に働きやすい職場環境を作るため、あなたはどのような制度が必要だと思いますか。次の中からあてはまる番号に をつけてください。(いくつでも)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1 産前産後休暇制度 | 6 再雇用制度 |
| 2 育児休業制度 | 7 企業内保育制度 |
| 3 フレックスタイム制度 | 8 在宅勤務制度 |
| 4 短時間勤務制度 | 9 育児休業中の経済支援制度 |
| 5 介護・看護休業制度 | |

問18 女性の方だけにうかがいます。あなたの働き方は次のどれにあたりますか。あてはまる番号を1つ選んで をつけてください。

- | |
|------------------------------|
| 1 子どもを生き育て、ずっと就業している |
| 2 結婚までは働き、結婚を機に退職 |
| 3 結婚して子どもができるまで働き、妊娠・出産を機に退職 |
| 4 子育ての時期に一時仕事をやめ、その後再就職 |
| 5 子どもを持たず、就業している |
| 6 ずっと職業を持たず、家事に専念 |
| 7 働いていたが、結婚・出産以外の理由で退職 |
| 8 その他 () |

問19 あなたは現在、仕事以外で次のような社会活動に参加されていますか。あてはまる番号に をつけてください。(いくつでも)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 自治会、町内会等の地域活動 | 4 趣味やスポーツ等のグループ活動 |
| 2 PTA、子ども会等の活動 | 5 その他(具体的に:) |
| 3 ボランティア活動 | 6 特になし |

問20 今後、地域活動への参加を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号を1つ選んで をつけてください。

- | |
|--------------------------------|
| 1 地域活動への参加に関する情報が手軽に入手できるようにする |
| 2 地域活動に参加しやすくなるような学習機会を増やす |
| 3 企業等が労働時間を短縮し、余暇を増やせる体制づくりをする |
| 4 男女を対象にした仕事との両立を支援する体制を整備する |
| 5 その他 () |

セクシュアル・ハラスメントやDV（ドメスティック・バイオレンス）についてうかがいます。

問2 1 あなたは、次のような行為について、セクシュアル・ハラスメントだと感じた経験はありますか。あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで をつけてください。

A 異性との交際関係や結婚についてしつこく聞かれた	1 ある 2 ない
B 年齢や容姿のことで不愉快な意見や冗談を言われた	1 ある 2 ない
C 交際を拒否して仕事で不当に扱われたり、いやがらせを受けた	1 ある 2 ない
D 性的なうわさを流された	1 ある 2 ない
E 不必要に体に触られた	1 ある 2 ない
F 交際や性的関係をせまられた	1 ある 2 ない
G 宴会でお酌やデュエットを強要された	1 ある 2 ない

(注)「セクシュアル・ハラスメント」とは、相手の意思に反した性的いやがらせを行い、それに対する対応によって仕事をするうえで一定の不利益を与えたり、それを繰り返すことによって仕事への環境を著しく悪化させることをいいます。

問2 2 セクシュアル・ハラスメントをなくすためにはどのような対策が必要と考えますか。あてはまる番号に をつけてください。(いくつでも)

- | |
|-----------------------------|
| 1 公的な相談窓口の充実 |
| 2 罰則規定等法律面での強化 |
| 3 企業等でのセクハラ防止教育の充実や相談窓口の設置 |
| 4 セクハラは人権侵害という意識づくり、啓発活動の充実 |
| 5 詳細な実態把握のための調査・研究 |
| 6 その他() |

問2 3 あなたは、DV(ドメスティック・バイオレンス)について見聞きしたことはありますか。あてはまる番号を1つ選んで をつけてください。

- | |
|-----------------------------|
| 1 自分が直接経験したことがある |
| 2 身近な人から相談を受けたことがある |
| 3 身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある |
| 4 TVや新聞などで問題になっていることは知っている |
| 5 見聞きしたことはない |
| 6 その他() |

(注)「DV(ドメスティック・バイオレンス)」とは、夫・恋人など親しい関係の人からの暴力のことをいいます。

問24 問23で1と答えた方にお尋ねします。だれかに、又はどこかに相談しましたか。あてはまる番号を1つ選んで をつけてください。

- 1 相談した
- 2 相談したかったが、相談しなかった
- 3 相談しようとは思わなかった
- 4 その他()

問25 問24で1と答えた方にお尋ねします。どこに相談にいきましたか。あてはまる番号にをつけてください。(いくつでも)

- 1 親、兄弟姉妹、親戚
- 2 友人、知人
- 3 同じような経験をした女性
- 4 地域の役員、近所の人
- 5 市の相談窓口
- 6 警察・弁護士・家庭裁判所
- 7 民間の相談窓口
- 8 その他()

問26 あなたは、次にあげる行為はDV（ドメスティック・バイオレンス）に当たると思いますが、あてはまる番号をそれぞれ1つ選んでをつけてください。

A 身体を傷つける可能性のある物でおどす	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない
B 足でけったり、平手で打つ	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない
C 殴るふりをして脅す	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない
D 嫌がっているのに性的な行為を強要する	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない
E 見たくもないのに、ポルノビデオや雑誌を見せる	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない
F 何を言っても長時間無視し続ける	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない
G 交友関係や電話を細かく監視する	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない
H 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かい性なし」と言う	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない
I 大声でどなる	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない
J 生活費を渡さない	1 そう思う 2 そう思わない 3 どちらともいえない

ワーク・ライフ・バランスと生活時間の配分についてうかがいます。

問27 ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。あてはまる番号を1つ選んでをつけてください。

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1 言葉も内容も知っている | 2 言葉は聞いた事があるが内容は知らない |
| 3 言葉も内容も知らない | |

(注)「ワーク・ライフ・バランス」とは、働く者の『仕事と生活の調和』という意味です。そのためには企業制度の根幹である就業形態の多様化(短時間就業等)、残業時間縮減などの働く環境条件を整備していく必要があります。その恩恵を受けるのは、女性だけでなく、男性にとっても、子育てに参画したり、介護を行う必要が生じた場合、休業制度などが活用できることは大きなメリットになります。

問28 ワーク・ライフ・バランスを進めることで、どのような効果があると思いますか。あてはまる番号を3つ選んでをつけてください。

- | |
|-----------------------------|
| 1 企業の生産性を上げることができる |
| 2 企業の生産性の低下につながる |
| 3 企業の生産性に影響はない |
| 4 従業員が高い労働意欲をもって仕事をすることができる |
| 5 従業員の仕事に対する労働意欲が下がることにつながる |
| 6 従業員の仕事に影響はない |
| 7 時間的にゆとりを持った豊かな生活ができる |
| 8 生活の質が低下する |
| 9 生活にとって影響はない |
| 10 その他(具体的に) |
| 11 わからない |

問29 企業が育児制度を充実させることについてどう思いますか。あてはまる番号を1つ選んでをつけてください。

- | |
|---|
| 1 自分の生活も充実し、仕事にも集中でき自分にも企業にもプラスになる |
| 2 自分の生活は充実するが、企業にとってはコスト増でマイナスになる |
| 3 企業にとってはコスト増だが、少子高齢化の中、社会全体でそのコスト増を負担しなければならない |
| 4 その他(具体的に) |
| 5 わからない |

問30 あなたの現在の生活時間のおおよその配分をお知らせください。

平日と土・日・祝日別に記入例に示すように時間単位でご記入ください。(合計が24時間になるようにお願いします。)

	1 睡眠	2 仕事	3 家事 育児	4 学習 趣味	5 スポーツ レジャー	6 介護	7 社会活動	8 通勤 通学	9 その他	合計
記入例	6	8	4	2	0	1	0	2	1	24
平日										24
土・日等										24

問31 それではあなたが現在希望する(理想と思う。)生活時間のおおよその配分をお知らせください。平日と土・日・祝日別に記入例に示すように時間単位でご記入ください。(合計が24時間になるようにお願いします。)

	1 睡眠	2 仕事	3 家事 育児	4 学習 趣味	5 スポーツ レジャー	6 介護	7 社会活動	8 通勤 通学	9 その他	合計
記入例	6	8	4	2	0	1	0	2	1	24
平日										24
土・日等										24

男女共同参画社会に関する施策についてうかがいます。

問3 2 男性も女性も性別にかかわらず、自分の個性や能力を生かして活躍できる社会を実現するために、行政でどのような取り組みが必要だと思われますか。次の中からあてはまる番号を3つまで選んで をつけてください。

- | |
|---|
| 1 幼児期から男女共同参画意識を育成する |
| 2 地域活動や生涯学習で男女共同参画意識の啓発を行う |
| 3 女性の就労意識の啓発と職業能力の開発、向上を図る |
| 4 賃金や昇進など職場における男女格差是正に向けての働きかけを行う |
| 5 労働時間の短縮や各種休業制度の普及等労働条件改善に向けての働きかけを行う |
| 6 子育て支援システムを整備する |
| 7 高齢者等のための介護・生活支援サービスを充実させる |
| 8 女性の健康、性又はDV等に対する相談体制と情報提供を充実させる |
| 9 社会的なしきたり、慣習意識を改めるための啓発活動を充実させる |
| 10 政策や方針決定過程への女性の参画を進める |
| 11 男女共同参画の拠点施設である「あつぎパートナーセンター」の事業等を充実させる |
| 12 その他() |

ご協力ありがとうございました。お手数ですが9月14日までに同封の封筒に切手をはらずご投函ください。

厚木市男女共同参画市民意識調査 のご協力について

過日、お願いいたしました「厚木市男女共同参画市民意識調査」へのご記入はもうお済みでしょうか。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力くださいますようお願い申し上げます。同封の返信用封筒にて、9月14日(金)までにご投函ください。

なお、本調査は、無記名で行っていますので、調査をお願いしたすべての方に、この通知をお送りしています。既にお答えいただいている方、あるいは本状と行き違いにご回答された方にはご容赦くださいますようお願いいたします。

平成19年9月

(お問い合わせ先)

厚木市 市民協働部 男女共同参画課

〒243 - 0018 厚木市中町1丁目4番3号

046 - 225 - 2500

厚木市男女共同参画市民意識調査

報告書

平成20年1月

厚 木 市

発行 厚木市 市民協働部 男女共同参画課

〒234-0018 厚木市中町1丁目4番3号

TEL 046-225-2500 (直通)

FAX 046-223-8432

E-MAIL 1150@city.atsugi.kanagawa.jp